

昭 島 市
障 害 福 祉 計 画 策 定 の
た め の 基 礎 調 査 報 告 書

平成29年 3 月

昭 島 市

目 次

第 1 章 調査の概要	1
1 調査の目的と方法	1
2 調査結果の分析	2
第 2 章 18歳以上の方の調査結果	9
1 調査票の回答者	9
2 ご本人について	9
3 障害の状況について	15
4 医療や介助の状況について	19
5 相談や福祉情報について	29
6 日中活動や仕事について	45
7 スポーツ・運動について	66
8 住まいについて	72
9 外出について	78
10 福祉サービスの利用について	81
11 権利擁護・障害理解について	90
12 災害対策について	97
13 昭島市の障害者施策について	104
第 3 章 18歳未満の方の調査結果	113
1 調査票の回答者	113
2 ご本人について	113
3 障害の状況について	116
4 医療や介助の状況について	119
5 相談や福祉情報について	124
6 日中活動や仕事について	134
7 スポーツ・運動について	141
8 保育・教育・療育について	144
9 住まいについて	148
10 外出について	152
11 福祉サービスの利用について	154
12 権利擁護・障害理解について	161
13 災害対策について	166
14 昭島市の障害者施策について	169
資料（調査票）	175

第 1 章

調 査 の 概 要

1 調査の目的と方法

(1) 調査目的

本調査は、平成29年度に予定されている「第5期昭島市障害福祉計画」の策定にあたって、障害のある人の生活状況やニーズ等を把握し、今後の障害者施策の推進に役立てるために実施しました。

(2) 調査方法

- ・調査対象者：身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持しており、市内で在宅生活を送っている方2,000人（18歳以上の方については無作為抽出、18歳未満の方については全数）
- ・調査方法：郵送配布、郵送回収
- ・調査期間：平成28年11月8日～11月22日

(3) 回収結果

対象者数（発送数） （A）	有効回収数 （B）	有効回収率 （B / A）
2,000	1,041	52.1%

(4) 集計値や図表の表記について

- ・集計した数値（％）は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しています。そのため、質問に対する回答の選択肢が一つだけの場合、選択肢の数値（％）をすべて合計しても、四捨五入の関係で100.0%にならないことがあります。
- ・回答者数を分母として割合（％）を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100.0%を超えます。
- ・表中、図中に「－」と表示してあるのは、回答者がいなかった場合です。
- ・表中で網掛けになっている部分は、クロス集計表の結果の中で特徴のあった部分として説明文で取り上げている数値を示しています。
- ・回答者数が極端に少ないものについては、分析対象から外している場合があります。ただし、調査結果には参考値として記載しています。
- ・調査票の選択肢の文章が長い場合、要約して短く表現している場合があります。
- ・18歳未満の精神障害の方の回答は少数（3人）のため、結果については18歳未満の全体の集計に含まれています。

2 調査結果の分析

(1) 医療受診の支援

～ 医療費助成制度の周知、障害の状況に応じたコミュニケーションの工夫、相談しやすい環境の整備 ～

18歳以上の全体と18歳未満の全体では、通院していたり、訪問診療を受けている人が80%前後を占めており、障害のある人にとって医療との関わりは切り離すことができません。

医療を受ける際に困ることとしては、18歳以上の全体では「治療により症状が改善されない」や「医療費の負担が大きい」が多くなっているほか、知的障害や精神障害では「症状が正確に伝わらなかったり、治療に関する説明を十分理解できない」が多くなっています。

経済的な負担の軽減を図るため、自立支援医療、心身障害者医療費助成、難病医療費等助成等の医療費助成制度について、周知を一層強化していくことが求められているほか、医療機関に対して、障害のある人が医師や看護師等と円滑に意思疎通が図れるよう、障害の状況に応じてコミュニケーションを工夫するように働きかけていくことも重要です。

また、18歳未満の全体では「医療や健康に関して気軽に相談できない」が最も多くなっており、障害のある人やその家族が相談しやすい環境を整備していくことも必要です。

●医療を受ける際に困ること（問10）

		回答者数（人）	治療により症状が改善されない	軽いけがや病気の際に受診できる医療機関が身近にない	専門的な治療を受けられる医療機関がない	休日や夜間に対応してくれる医療機関がない	通院のための介助者を確保しにくい	訪問診療を気軽に頼める医師がいない	受診手続きや案内など障害のある人への配慮が不十分	医療や健康に関して気軽に相談できない	症状が正確に伝わらなかったり、治療に関する説明を十分理解できない	医療費の負担が大きい	障害を理由に診療拒否を受けたことがある	その他	特にない	無回答	%
18歳以上の全体		912	25.3	5.4	7.9	7.9	5.2	4.9	7.3	11.0	12.0	17.7	2.6	4.9	34.9	10.3	
障害種別	身体障害	628	24.7	4.3	7.8	7.2	5.9	5.6	6.5	8.9	8.4	16.4	1.6	4.0	36.0	12.1	
	知的障害	113	13.3	13.3	8.0	8.8	7.1	3.5	10.6	11.5	21.2	20.4	4.4	7.1	30.1	10.6	
	精神障害	187	36.4	5.3	8.6	12.3	4.3	4.8	8.0	17.6	19.3	21.4	5.9	8.6	30.5	3.2	
18歳未満の全体		99	7.1	13.1	9.1	8.1	12.1	2.0	12.1	16.2	13.1	12.1	8.1	7.1	39.4	6.1	
障害種別	身体障害	24	12.5	29.2	12.5	12.5	20.8	4.2	29.2	37.5	29.2	12.5	20.8	12.5	12.5	8.3	
	知的障害	88	8.0	13.6	9.1	9.1	11.4	2.3	12.5	14.8	13.6	13.6	8.0	6.8	39.8	5.7	

(2) 相談支援体制の充実

～ 相談窓口の周知及びワンストップ化、相談方法の多様化 ～

困った時の相談先としては、「家族や親族」が18歳以上の全体では60%台、18歳未満の全体ではほぼ80%と多くなっているのに対し、「市の障害福祉課」や「相談支援事業所」は25%未満にとどまっています。

日常生活からサービス利用等に関する総合的な相談業務を行っている3か所の相談支援事業所の認知状況についても、「知らない」と答えた人が概ね半数以上を占めており、相談窓口の周知を一層強化していくことが求められます。

市役所等の相談窓口に気軽に相談するために必要なこととしては、18歳以上の全体では「電話・FAX・電子メールで相談できる」や「どんな内容でも1つの窓口で相談できる」が多くなっているほか、精神障害では「プライバシーが守られる環境になっている」が多くなっており、電話やインターネットを活用した相談支援や相談窓口のワンストップ化等に取り組むとともに、障害のある人のプライバシーが守られ、安心して相談できる環境を整備していく必要があると考えられます。

また、18歳未満の全体では「専門性の高い内容でも対応できる」が最も多くなっており、医療機関や保健所等の関係機関と連携の強化や、相談員の質の向上に向けた取組も重要です。

●気軽に相談できるために必要な取組（問16）

															%
		回答者数（人）	電話・FAX・電子メールで相談できる	身近な地域で相談できる	相談員が自宅を訪問して相談できる	休日や夜間に相談できる	専門性の高い内容でも対応できる	どんな内容でも1つの窓口で相談できる	相談員から定期的に困り事がないが連絡をもらえる	障害のある人やその家族など同じ立場の人に相談できる	プライバシーが守られる環境になっている	相談窓口に関する情報提供体制が充実している	その他	特にない	無回答
18歳以上の全体		912	28.4	15.8	15.9	12.1	13.6	26.4	11.2	9.6	17.3	12.5	2.2	13.9	12.4
障害種別	身体障害	628	28.2	13.9	16.9	10.4	12.9	28.0	10.4	7.0	14.8	10.7	2.1	15.4	12.9
	知的障害	113	15.0	25.7	14.2	12.4	10.6	31.9	15.9	19.5	17.7	18.6	2.7	11.5	11.5
	精神障害	187	35.8	15.0	13.9	18.7	17.1	18.2	12.3	15.0	27.8	17.1	2.1	10.2	10.2
18歳未満の全体		99	28.3	19.2	15.2	15.2	31.3	25.3	20.2	15.2	16.2	28.3	5.1	3.0	12.1
障害種別	身体障害	24	20.8	20.8	12.5	8.3	45.8	20.8	12.5	20.8	8.3	29.2	4.2	4.2	20.8
	知的障害	88	28.4	18.2	15.9	17.0	29.5	25.0	19.3	13.6	18.2	29.5	5.7	2.3	12.5

第1章 調査の概要

(3) 情報提供体制の充実

～ 情報提供手段の多様化 ～

障害のある人が地域で安心して日常生活を営むためには、福祉サービスをはじめとした様々な情報が不可欠です。福祉サービスに関する情報源は多岐にわたり、「広報あきしま」「身体障害者手帳・愛の手帳福祉ガイド・精神障害者に関するガイドブック等のしおり」「市の障害福祉課」「医療機関」「家族や友人」が多く、障害の状況に応じたきめ細かな情報提供体制を構築していくことが求められます。

また、18歳以上の精神障害や18歳未満では、「インターネット」を情報源として挙げる人が多く、情報提供手段の多様化を進めていく必要もあると考えられます。

●福祉に関する情報の入手方法（問17）

		回答者数（人）	広報あきしま	ガイドブック等のしおり	市のホームページ	市の障害福祉課	保健福祉センター	テレビ・ラジオ	インターネット	新聞・書籍	障害者の会や家族の会	医療機関	家族や友人	その他	特にない	無回答
18歳以上の全体		912	43.6	18.3	6.6	19.6	10.3	13.0	14.4	12.9	5.8	21.9	19.3	3.3	14.6	4.1
障害種別	身体障害	628	47.9	20.4	7.3	18.3	9.2	13.7	12.3	13.5	5.4	19.1	15.8	1.8	13.9	4.1
	知的障害	113	40.7	15.9	4.4	30.1	16.8	8.8	15.0	15.9	4.4	16.8	35.4	4.4	15.9	3.5
	精神障害	187	30.5	13.4	4.8	20.9	11.2	15.0	24.1	10.2	9.6	38.5	23.0	7.5	14.4	4.3
18歳未満の全体		99	28.3	26.3	7.1	24.2	19.2	8.1	28.3	7.1	9.1	38.4	46.5	10.1	13.1	1.0
障害種別	身体障害	24	37.5	37.5	8.3	29.2	16.7	8.3	29.2	-	12.5	58.3	37.5	12.5	8.3	4.2
	知的障害	88	28.4	27.3	5.7	26.1	20.5	8.0	27.3	8.0	6.8	36.4	52.3	11.4	10.2	1.1

(4) 就労支援の充実

～ 収入面の改善、仕事探しから職場定着までの総合的な支援 ～

65歳未満の人の働き方については、身体障害では「正規の職員・従業員として働いている」が、知的障害と精神障害では「パート・アルバイト等で働いている」と「福祉的就労をしている（就労移行・就労継続支援事業所等）」が多くなっています。

仕事をする上で困っていることとしては、いずれの障害も「収入が少ない」が40%を超えており、特に精神障害では60%以上と多く、収入面の改善が課題となっています。

また、障害のある人が働くために必要な支援としては、「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」と「障害の特性にあった職業・雇用の拡大」が多く、職業準備支援、求職活動支援、職場定着支援など多様な支援を実施するとともに、障害の状況に応じて多様な働き方を選択できるよう、企業に働きかけていくことも重要です。

●日中の過ごし方（問18）

		回答者数（人）	正規の職員・従業員	パート・アルバイト等	自宅で働いている	福祉的就労をしている	現在は働いていない	働いたことは無い	無回答
18歳以上の全体		912	9.8	10.2	3.2	7.5	46.5	8.9	14.0
身体障害	全体	628	9.4	6.8	3.5	2.4	51.1	9.6	17.2
	40歳未満	27	22.2	14.8	—	25.9	7.4	25.9	3.7
	40～64歳	156	26.9	10.3	3.2	3.8	42.9	7.1	5.8
	65歳以上	445	2.5	5.2	3.8	0.4	56.6	9.4	22.0
知的障害	全体	113	14.2	17.7	1.8	25.7	13.3	18.6	8.8
	40歳未満	70	12.9	21.4	2.9	28.6	7.1	22.9	4.3
	40～64歳	35	20.0	14.3	—	20.0	20.0	8.6	17.1
	65歳以上	8	—	—	—	25.0	37.5	25.0	12.5
精神障害	全体	187	7.5	16.6	2.7	17.1	46.0	5.3	4.8
	40歳未満	57	10.5	28.1	5.3	12.3	33.3	10.5	—
	40～64歳	111	7.2	13.5	1.8	20.7	46.8	2.7	7.2
	65歳以上	19	—	—	—	10.5	78.9	5.3	5.3

（5）外出支援の充実

～ バリアフリー化の推進、周囲からの手助けや理解の促進 ～

外出する際に困っていることとしては、18歳以上の全体では「疲れたときの休憩場所がない」と「歩道が狭く自動車・自転車に危険を感じる」が多くなっているほか、身体障害では「歩道の段差や建物の階段が困る」が多くなっており、道路や施設等のバリアフリー化を引き続き推進していくことが求められます。

また、18歳以上の知的障害や精神障害や18歳未満の全体では「困った時にどうすればよいかわからない」と「障害に対する理解が不足している」も多く、障害のある人にとってわかりやすい道案内など、ユニバーサルデザインのまちづくりを一層推進していくとともに、障害理解の促進や困った時に周囲から手助けが受けられるように、ヘルプカードやヘルプマークの周知に努めることも重要です。

●外出する際に困っていること（問37）

		回答者数（人）	歩道の段差や建物の階段が困る	歩道が狭く自動車・自転車に危険を感じる	公共交通機関が少ない	電車やバスの乗り降りや駅構内の移動が大変	切符や飲料等の販売機が利用しにくい	トイレ等の設備が不便	標識・表示がわかりにくい	疲れたときの休憩場所がない	障害に対する理解が不足している	お金がかかる	介助者が確保できない	困った時にどうすればよいかわからない	その他	特になし	無回答
18歳以上の全体		912	25.4	28.9	11.4	14.6	3.1	12.9	4.2	33.9	19.4	20.6	6.7	14.6	4.7	22.9	7.8
障害種別	身体障害	628	33.4	31.8	11.9	17.7	3.8	15.9	4.3	35.8	17.2	15.9	6.5	10.4	4.6	21.5	8.1
	知的障害	113	9.7	26.5	6.2	8.8	3.5	10.6	6.2	23.0	24.8	21.2	14.2	30.1	2.7	23.0	12.4
	精神障害	187	9.6	20.9	12.3	8.0	1.1	6.4	2.7	33.7	24.6	37.4	4.3	23.0	5.9	25.1	4.8
18歳未満の全体		99	12.1	27.3	4.0	9.1	3.0	10.1	7.1	13.1	30.3	17.2	18.2	32.3	1.0	25.3	5.1
障害種別	身体障害	24	37.5	54.2	8.3	20.8	8.3	29.2	20.8	33.3	45.8	12.5	20.8	50.0	—	8.3	—
	知的障害	88	11.4	28.4	4.5	8.0	3.4	9.1	8.0	13.6	30.7	17.0	19.3	31.8	1.1	26.1	5.7

第1章 調査の概要

(6) 障害理解の促進

～ 企業、学校、地域などあらゆる場での啓発活動の実施 ～

これまでに障害があることにより、差別を受けたり、嫌な思いをしたことがあると回答した人は、18歳以上の全体と身体障害を除いて60%を超えており、障害理解に関する啓発の必要性はいまだ高いものと考えられます。

障害理解を推進するために必要な取組としては、「障害のある人の一般企業等への就労を促進する」が多くなっているほか、18歳以上の全体では「障害の内容や障害のある人の生活を伝えるパンフレットを発行する」、18歳未満の全体では「学校や生涯学習で障害に関する授業や講座を行う」と「インクルーシブ教育を推進する」も多く、企業、学校、地域などのさまざまな場所で障害理解を深める啓発活動を行うことが重要です。

●障害を理由に差別を受けていると感じた場面（問42）

		回答者数（人）	家族や親戚づきあい	学校	職場	住まいを探すとき	仕事を探すとき	医療機関	交通機関	飲食店や商業施設	趣味やスポーツ等の余暇活動	住んでいる地域や地域活動	その他	特にない	無回答	%
18歳以上の全体		912	9.5	5.3	11.1	3.6	12.7	9.1	12.2	7.6	4.4	6.4	3.8	44.6	13.6	
障害種別	身体障害	628	4.0	2.1	6.1	2.4	7.6	6.5	13.4	7.0	3.7	4.0	2.5	52.5	15.4	
	知的障害	113	14.2	15.9	20.4	7.1	17.7	10.6	10.6	15.9	7.1	9.7	4.4	27.4	10.6	
	精神障害	187	27.3	9.1	23.5	5.9	28.3	16.6	9.1	7.0	5.9	13.9	8.0	25.1	7.0	
18歳未満の全体		99	14.1	21.2	2.0	1.0	3.0	15.2	25.3	21.2	16.2	17.2	7.1	29.3	4.0	
障害種別	身体障害	24	25.0	20.8	—	4.2	4.2	41.7	41.7	25.0	29.2	25.0	8.3	8.3	—	
	知的障害	88	14.8	20.5	2.3	1.1	2.3	14.8	25.0	22.7	18.2	15.9	4.5	30.7	4.5	

(7) 権利擁護の推進

～ 成年後見制度の周知 ～

●成年後見制度の認知状況（問40）

成年後見制度は、認知症、知的障害、精神障害等により、判断能力が十分ではない人の権利を守る大切な制度です。制度の利用が想定される知的障害や精神障害のある人でも、成年後見制度について「名前も内容も知っている」と回答した人は30%台にとどまっており、制度の一層の周知を図っていく必要があります。

		回答者数（人）	名前も内容も知っている	名前は知っているが、内容はわからない	名前も内容も知らない	無回答	%
18歳以上の全体		912	34.8	22.8	26.1	16.3	
障害種別	身体障害	628	36.0	21.0	23.6	19.4	
	知的障害	113	30.1	25.7	36.3	8.0	
	精神障害	187	32.1	29.9	30.5	7.5	
18歳未満の全体		99	37.4	30.3	31.3	1.0	
障害種別	身体障害	24	41.7	41.7	16.7	—	
	知的障害	88	37.5	31.8	29.5	1.1	

(8) 災害発生時の支援体制の充実

～ 薬や医療の確保、障害特性に配慮された避難所の整備及び避難誘導の実施 ～

災害時に不安なこととしては、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」「避難所で必要な支援が受けられるか不安」「避難所の設備が障害に対応しているか不安」「避難所のトイレを利用できるか不安」が多く、医療に関する不安や避難所での生活を心配する内容が挙げられています。また、18歳以上の知的障害と18歳未満では「一人では避難できない」も多くなっています。

避難所で適切な支援を受けられる体制を整備するとともに、災害発生時に的確かつ迅速に避難誘導を行うため、災害時要援護者名簿への登録に加えて、個別の避難支援プランを作成することが重要です。

このほか、18歳以上の知的障害や精神障害と18歳未満では「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」も多くなっており、福祉避難室や福祉避難所などの確保も重要であると考えられます。

●災害時に不安なこと（問45）

		回答者数（人）	災害の発生等の情報を 知る方法がない	助けを求め る方法が ない	近くに 助けて くれる 人 が い な い	一人 では 避難 でき ない	避難 所が どこ にあ るか わ か ら な い	避難 所 の 設 備 が 障 害 に 対 応 し て い る か 不 安	避難 所 の ト イ レ を 利 用 で き る か 不 安	避難 所 で 必 要 な 支 援 が 受 け ら れ る か 不 安	避難 所 で 他 の 人 と 一 緒 に 過 ご す の が 難 し い	薬 や 医 療 的 ケ ア を 確 保 で き る か ど う か 不 安	その他	特 に な い	無 回 答
18歳以上の全体		912	10.3	12.7	13.3	25.8	14.3	30.9	30.4	33.0	27.1	50.7	4.2	11.7	10.7
障害 種 別	身体障害	628	9.9	11.0	12.3	28.0	11.5	31.5	33.3	32.6	19.4	48.4	3.7	11.5	12.4
	知的障害	113	15.9	19.5	12.4	39.8	25.7	37.2	31.0	45.1	43.4	41.6	4.4	14.2	9.7
	精神障害	187	9.6	15.5	17.1	13.4	18.7	28.9	20.9	33.2	46.5	66.8	6.4	10.2	4.8
18歳未満の全体		99	24.2	26.3	6.1	57.6	28.3	45.5	28.3	57.6	52.5	27.3	2.0	10.1	3.0
障害 種 別	身体障害	24	25.0	25.0	4.2	75.0	16.7	62.5	41.7	75.0	66.7	54.2	—	—	4.2
	知的障害	88	23.9	28.4	6.8	60.2	30.7	45.5	29.5	60.2	55.7	25.0	2.3	10.2	2.3

(9) 保護者への支援及び療育・教育体制の充実

～ 相談やカウンセリングの充実、緊急一時預かり等の実施、
進路指導・進路相談及び進路の確保 ～

子どもの発達や成長、社会性を伸ばすためには、障害を早期に発見し、早い段階で療育を受けることに加え、子どもに日々接している保護者への心身のサポートも大切です。

子育てにおける保護者の困りごととしては、「子どもの成長や発達に不安がある」「緊急時に子どもを預けられる場所がない」「子どもの進路や将来について相談できる場所がわからない」が多くなっています。

保護者の不安解消に向けて、相談やカウンセリング体制の充実を図るとともに、緊急時の一時預かり等を実施していく必要があると考えられます。

また、福祉分野と教育分野が連携し、個々の子どもに応じた適切な教育を提供できる体制の整備や、将来の就労を見据えた進路指導・進路相談や進路の確保が求められています。

●子育てについて困っていること（問31）

		回答者数（人）	子どもの成長や発達に不安がある	子どもへの接し方が分からない	家族や親戚の理解が得られない	近隣住民等の周囲の理解が得られない	子育てに関する悩みや不安を気軽に相談できる場所がわからない	子どもの進路や将来について相談できる場所がわからない	障害のある子どもを育てる保護者と交流をする機会がない	緊急時に子どもを預けられる場所がない	その他	特にない	無回答
			%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
18歳未満の全体		99	54.5	12.1	14.1	12.1	23.2	37.4	16.2	51.5	8.1	10.1	6.1
障害種別	身体障害	24	58.3	12.5	20.8	8.3	16.7	37.5	20.8	70.8	8.3	-	4.2
	知的障害	88	56.8	12.5	14.8	13.6	23.9	37.5	14.8	54.5	5.7	10.2	6.8

第 2 章

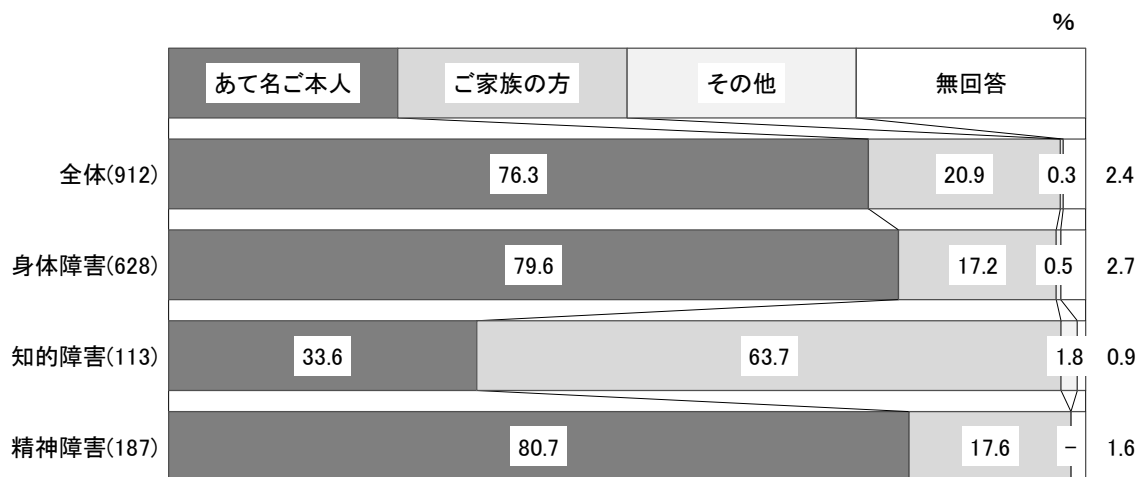
18歳以上の方の調査結果

1 調査票の回答者

(1) 調査票の回答者

問1 この調査票を回答していただく方は誰ですか。(〇は1つ)

全体では、「あて名ご本人」が76.3%、「ご家族の方」が20.9%となっています。
障害別に見ると、知的障害では「ご家族の方」が63.7%と他の障害に比べて多くなっています。

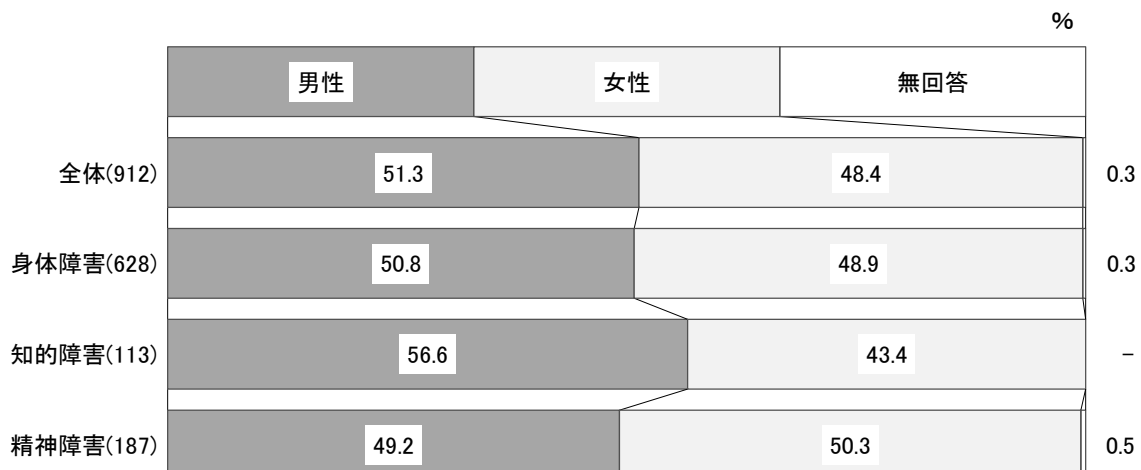


2 ご本人について

(1) 性別

問2 あなたの性別をお聞きます。(〇は1つ)

全体では、「男性」が51.3%、「女性」が48.4%となっています。
障害別に見ると、精神障害では「女性」が50.3%と「男性」(49.2%)を上回っています。



(2) 年齢

問3 あなたの年齢をお聞きします。平成28年11月1日現在の年齢をお書きください。

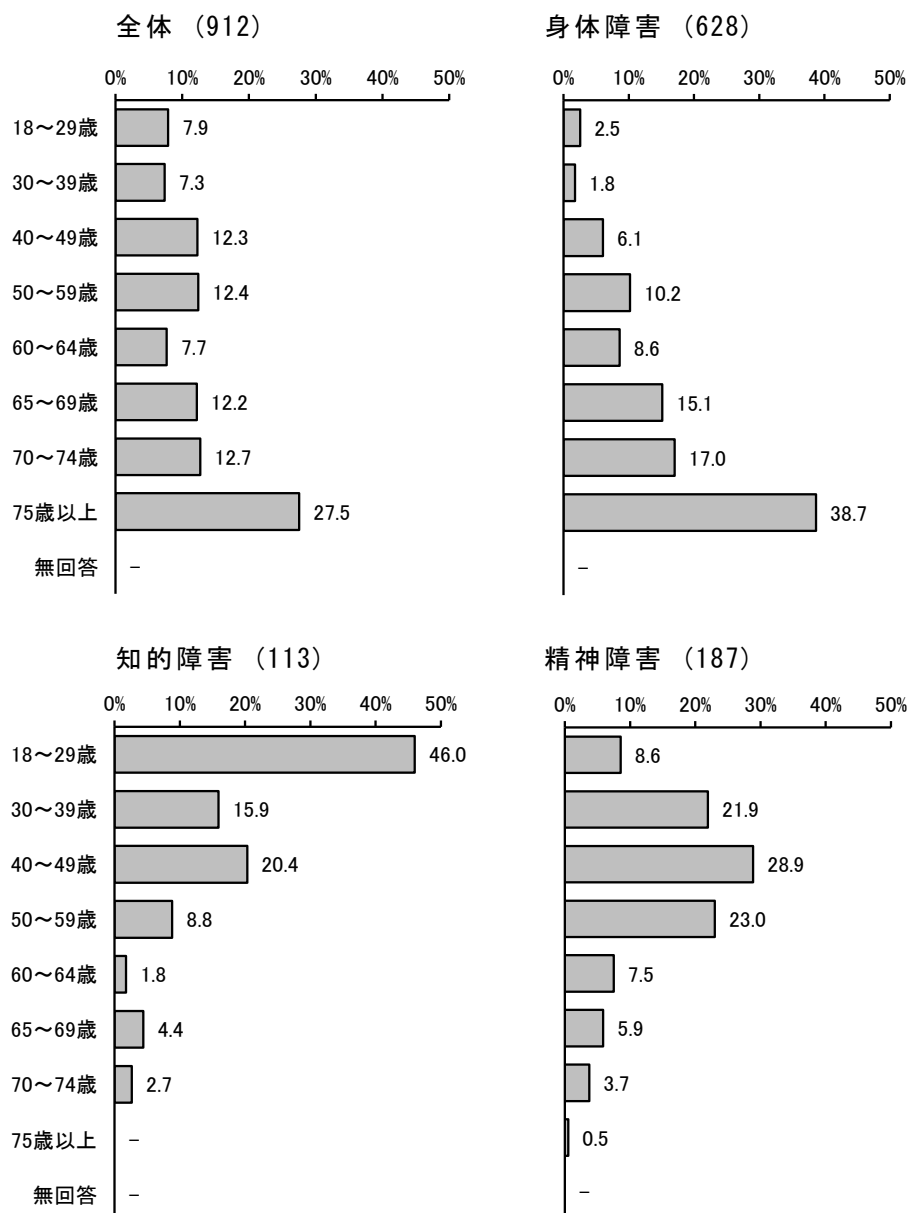
全体では、「75歳以上」が27.5%と最も多く、次いで「70～74歳」が12.7%、「50～59歳」が12.4%、「40～49歳」が12.3%と続いています。

障害別に見ると、知的障害では「18～29歳」が46.0%で最も多く、精神障害では「40～49歳」が28.9%で最も多くなっています。

なお、身体障害では65歳以上※¹が70%以上、知的障害では50歳未満※²が80%以上を占めています。また、精神障害では30歳代、40歳代、50歳代がそれぞれ20%を超えています。

※1・・・「65～69歳」「70～74歳」「75歳以上」の合計

※2・・・「18～29歳」「30～39歳」「40～49歳」の合計



(3) 同居者

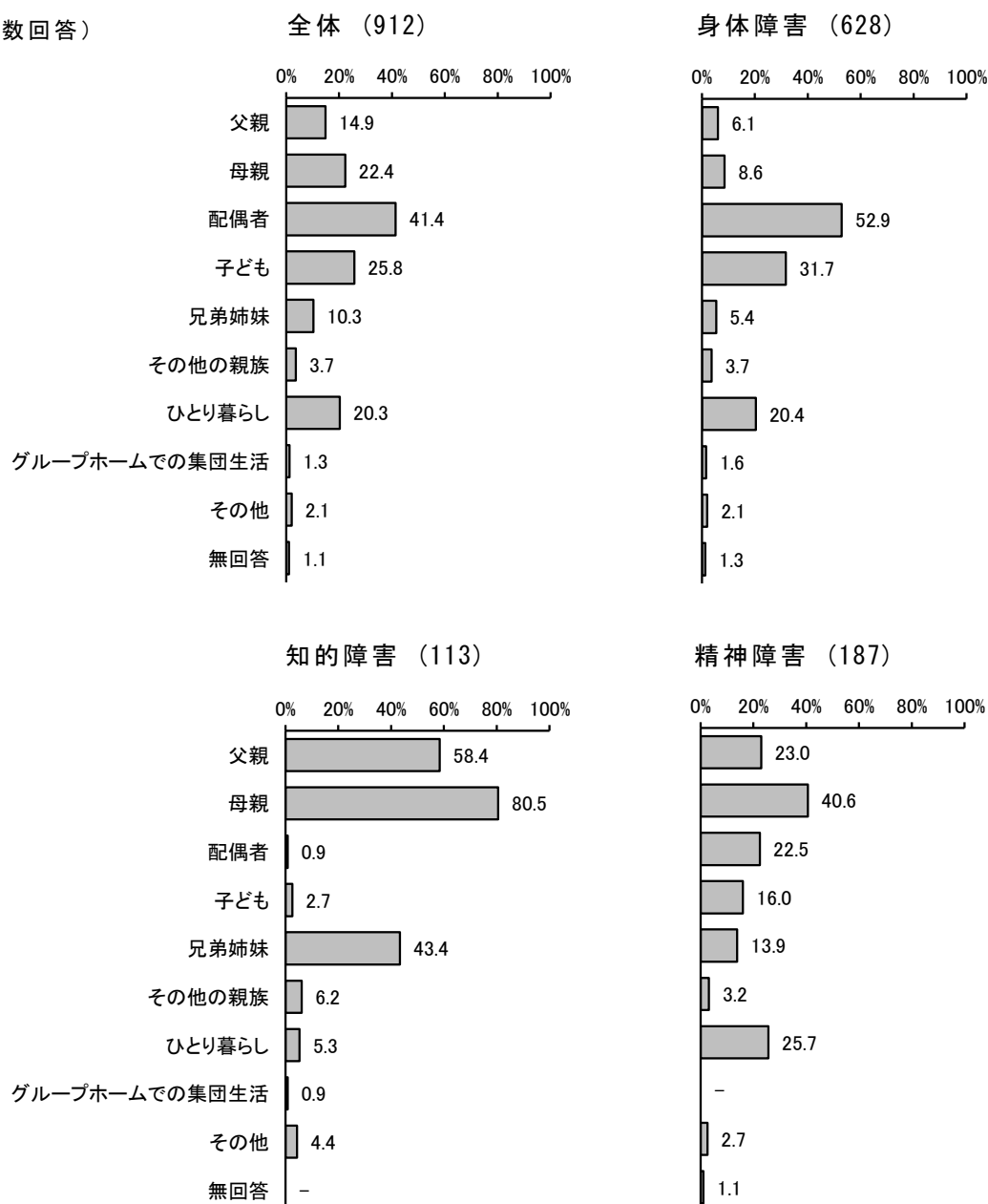
問4 あなたと一緒に暮らしている方は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「配偶者」が41.4%と最も多く、次いで「子ども」が25.8%、「母親」が22.4%、「ひとり暮らし」が20.3%と続いています。

障害別に見ると、知的障害と精神障害では「母親」が最も多くなっているほか、知的障害では「父親」(58.4%)と「兄弟姉妹」(43.4%)が他の障害に比べて多くなっています。

また、身体障害では「配偶者」(52.9%)と「子ども」(31.7%)が他の障害に比べて多くなっています。

(複数回答)



第2章 18歳以上の方の調査結果

障害種別ごとに年齢による違いを見ると、いずれの障害も40歳未満では「父親」「母親」「兄弟姉妹」が他の年齢に比べて多くなっています。

また、身体障害の40～64歳と65歳以上、精神障害の40～64歳では「配偶者」と「子ども」が他の年齢に比べて多くなっています。

●同居者（年齢別）

		回答者数（人）	父親	母親	配偶者	子ども	兄弟姉妹	その他の親族	ひとり暮らし	グループホームでの集団生活	その他	無回答
全体		912	14.9	22.4	41.4	25.8	10.3	3.7	20.3	1.3	2.1	1.1
身体障害	全体	628	6.1	8.6	52.9	31.7	5.4	3.7	20.4	1.6	2.1	1.3
	40歳未満	27	63.0	85.2	3.7	7.4	48.1	11.1	11.1	—	—	—
	40～64歳	156	12.8	18.6	53.8	33.3	9.0	5.8	15.4	—	3.8	0.6
	65歳以上	445	0.2	0.4	55.5	32.6	1.6	2.5	22.7	2.2	1.6	1.6
知的障害	全体	113	58.4	80.5	0.9	2.7	43.4	6.2	5.3	0.9	4.4	—
	40歳未満	70	68.6	92.9	—	1.4	45.7	8.6	1.4	—	4.3	—
	40～64歳	35	51.4	71.4	2.9	2.9	37.1	2.9	8.6	—	5.7	—
	65歳以上	8	—	12.5	—	12.5	50.0	—	25.0	12.5	—	—
精神障害	全体	187	23.0	40.6	22.5	16.0	13.9	3.2	25.7	—	2.7	1.1
	40歳未満	57	49.1	68.4	8.8	8.8	26.3	5.3	14.0	—	5.3	—
	40～64歳	111	13.5	31.5	26.1	20.7	7.2	—	29.7	—	1.8	1.8
	65歳以上	19	—	10.5	42.1	10.5	15.8	15.8	36.8	—	—	—

※知的障害の“65歳以上”、精神障害の“65歳以上”は回答者数が少ないため、参考値となります。

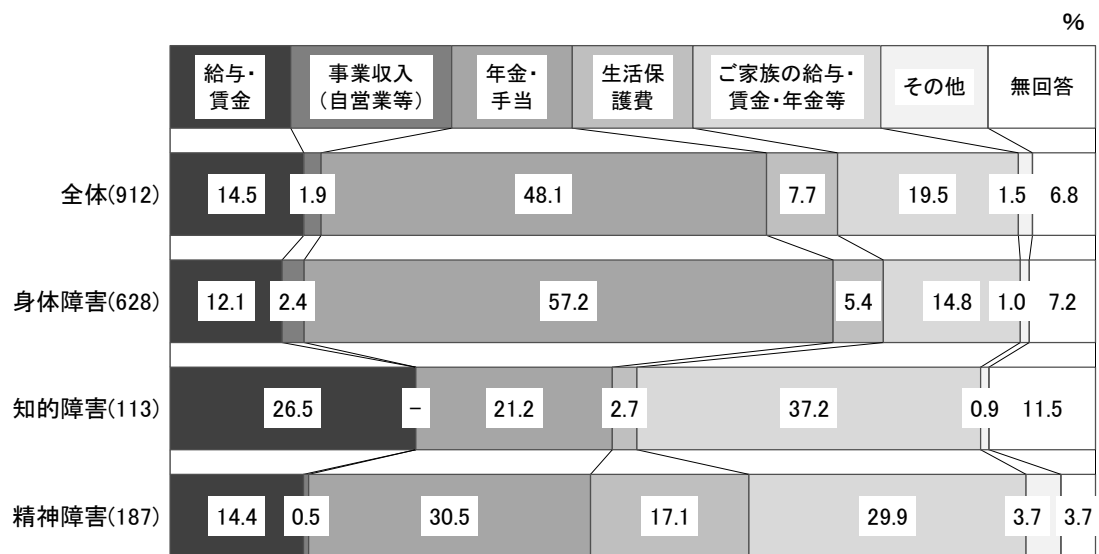
(4) 主な収入

問5 あなたの生活を支える主な収入は何ですか。(○は1つ)

全体では、「年金・手当」が48.1%と最も多く、次いで「ご家族の給与・賃金・年金等」が19.5%、「給与・賃金」が14.5%、「生活保護費」が7.7%と続いています。

障害別に見ると、知的障害では「ご家族の給与・賃金・年金等」が37.2%で最も多くなっているほか、「給与・賃金」が26.5%と他の障害に比べて多くなっています。

また、身体障害では「年金・手当」(57.2%)が、精神障害では「生活保護費」(17.1%)が他の障害に比べて多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果

障害種別ごとに年齢による違いを見ると、身体障害の40歳未満では「給与・賃金」が「ご家族の給与・賃金・年金等」とともに33.3%で最も多く、40～64歳でも「給与・賃金」が33.3%で最も多くなっています。

知的障害の40～64歳では「給与・賃金」と「年金・手当」がそれぞれ31.4%で最も多くなっています。

精神障害の40歳未満では「ご家族の給与・賃金・年金等」が36.8%で最も多くなっています。

●主な収入（年齢別）

		%							
		回答者数（人）	給与・賃金	（自営業収入）	年金・手当	生活保護費	ご家族の給与・賃金・年金等	その他	無回答
全体		912	14.5	1.9	48.1	7.7	19.5	1.5	6.8
身体障害	全体	628	12.1	2.4	57.2	5.4	14.8	1.0	7.2
	40歳未満	27	33.3	—	14.8	7.4	33.3	—	11.1
	40～64歳	156	33.3	1.9	19.9	7.7	27.6	—	9.6
	65歳以上	445	3.4	2.7	72.8	4.5	9.2	1.3	6.1
知的障害	全体	113	26.5	—	21.2	2.7	37.2	0.9	11.5
	40歳未満	70	27.1	—	12.9	4.3	42.9	1.4	11.4
	40～64歳	35	31.4	—	31.4	—	28.6	—	8.6
	65歳以上	8	—	—	50.0	—	25.0	—	25.0
精神障害	全体	187	14.4	0.5	30.5	17.1	29.9	3.7	3.7
	40歳未満	57	24.6	—	24.6	8.8	36.8	—	5.3
	40～64歳	111	11.7	0.9	29.7	19.8	28.8	6.3	2.7
	65歳以上	19	—	—	52.6	26.3	15.8	—	5.3

※知的障害の“65歳以上”、精神障害の“65歳以上”は回答者数が少ないため、参考値となります。

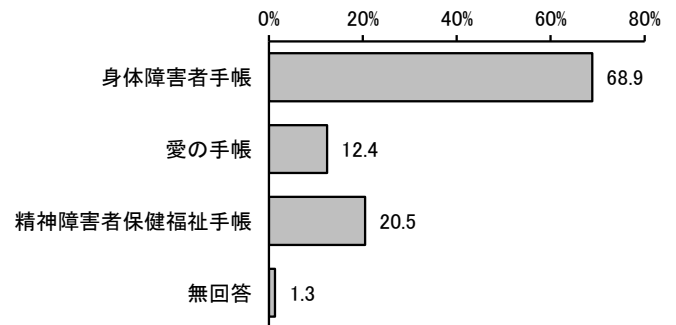
3 障害の状況について

(1) 障害者手帳の種類

問6 あなたが持っている障害者手帳の種類をお聞きます。等級・程度にも○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

「身体障害者手帳」が68.9%、「愛の手帳」が12.4%、「精神障害者保健福祉手帳」が20.5%となっています。

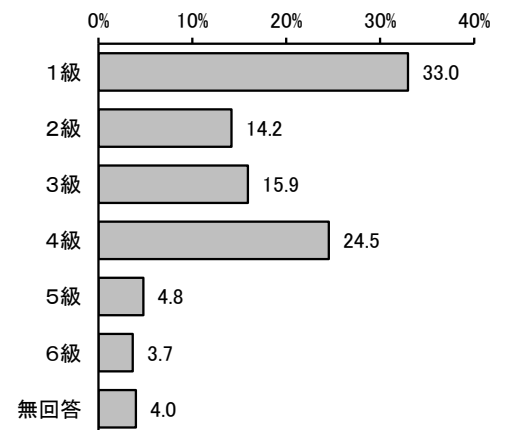
総数=912(複数回答)



① 身体障害者手帳の等級

「1級」が33.0%と最も多く、次いで「4級」が24.5%、「3級」が15.9%、「2級」が14.2%と続いています。

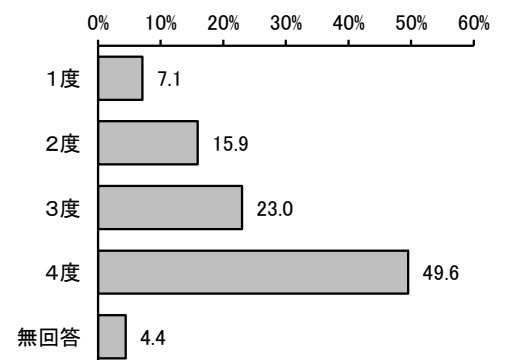
総数=628



② 愛の手帳の程度

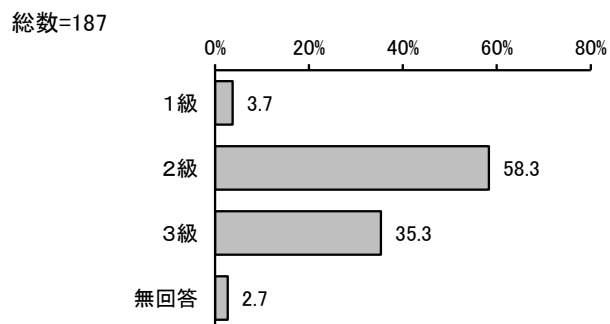
「4度」が49.6%と最も多く、次いで「3度」が23.0%、「2度」が15.9%、「1度」が7.1%と続いています。

総数=113



③精神障害者保健福祉手帳の等級

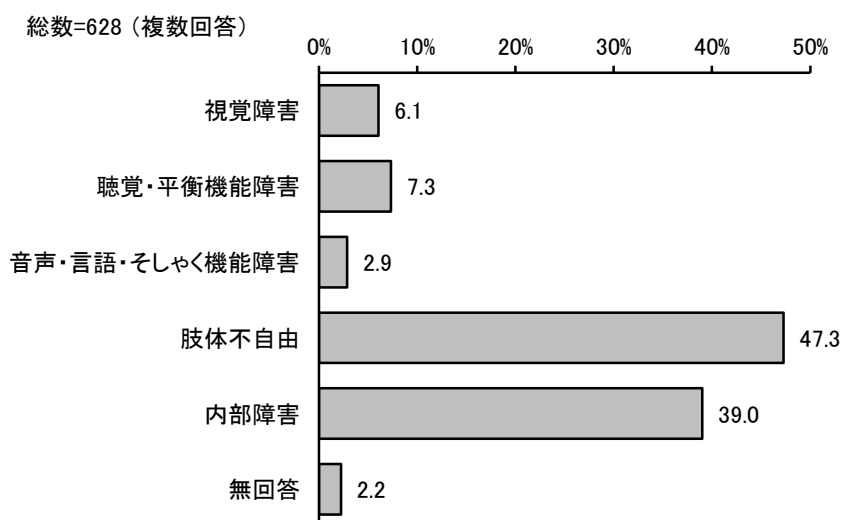
「2級」が58.3%と最も多く、次いで「3級」が35.3%、「1級」が3.7%と続いています。



(2) 身体障害の部位

問7 身体障害者手帳を所持している方にお聞きします。障害の種類は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「肢体不自由（上肢・下肢・体幹等）」が47.3%と最も多く、次いで「内部障害（心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう、直腸、小腸、免疫機能、肝臓）」が39.0%、「聴覚・平衡機能障害」が7.3%、「視覚障害」が6.1%と続いています。



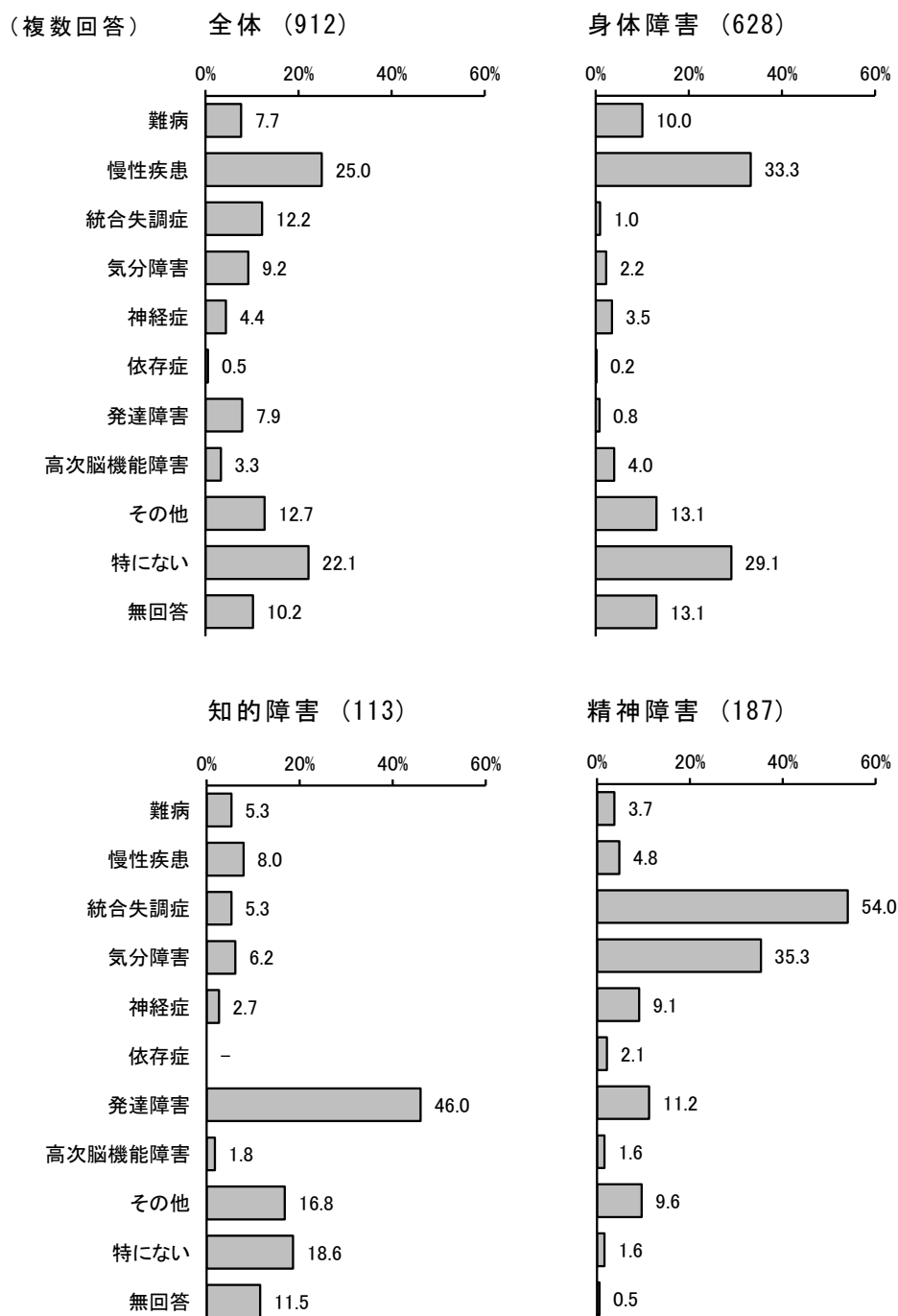
(3) 疾患や障害の有無

問8 あなたは、次の疾患や障害がありますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「慢性疾患（糖尿病・心臓疾患・脳血管疾患等）」が25.0%と最も多く、次いで「統合失調症」が12.2%、「気分障害（うつ病・躁うつ病）」が9.2%、「発達障害」が7.9%と続いています。なお、「特にない」が22.1%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「発達障害」が46.0%で最も多くなっています。精神障害では「統合失調症」が54.0%で最も多くなっているほか、「気分障害（うつ病・躁うつ病）」が35.3%と他の障害に比べて多くなっています。

また、身体障害では「慢性疾患（糖尿病・心臓疾患・脳血管疾患等）」が33.3%と他の障害に比べて多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果

障害種別ごとに年齢による違いを見ると、いずれの障害も40歳未満では「発達障害」が他の年齢に比べて多くなっており、知的障害（54.3%）では50%を超えています。

また、身体障害では「難病」が年齢が上がるにつれて減少しているのに対し、「慢性疾患（糖尿病・心臓疾患・脳血管疾患等）」は年齢が上がるにつれて増加しています。

● 疾患や障害の有無（年齢別）

%													
		回答者数 （人）	難病	慢性疾患	統合失調症	気分障害	神経症	依存症	発達障害	高次脳機能障害	その他	特 に ない	無 回 答
全体		912	7.7	25.0	12.2	9.2	4.4	0.5	7.9	3.3	12.7	22.1	10.2
身体障害	全体	628	10.0	33.3	1.0	2.2	3.5	0.2	0.8	4.0	13.1	29.1	13.1
	40歳未満	27	22.2	14.8	—	11.1	—	—	14.8	7.4	11.1	37.0	14.8
	40～64歳	156	15.4	28.2	3.8	4.5	3.2	0.6	—	3.8	10.3	30.1	12.2
	65歳以上	445	7.4	36.2	—	0.9	3.8	—	0.2	3.8	14.2	28.3	13.3
	全体	113	5.3	8.0	5.3	6.2	2.7	—	46.0	1.8	16.8	18.6	11.5
知的障害	40歳未満	70	5.7	7.1	4.3	8.6	2.9	—	54.3	1.4	21.4	18.6	8.6
	40～64歳	35	2.9	5.7	8.6	2.9	2.9	—	37.1	2.9	11.4	17.1	14.3
	65歳以上	8	12.5	25.0	—	—	—	—	12.5	—	—	25.0	25.0
	全体	187	3.7	4.8	54.0	35.3	9.1	2.1	11.2	1.6	9.6	1.6	0.5
精神障害	40歳未満	57	1.8	1.8	47.4	33.3	7.0	3.5	26.3	—	15.8	1.8	1.8
	40～64歳	111	4.5	6.3	59.5	36.0	9.9	1.8	5.4	1.8	6.3	—	—
	65歳以上	19	5.3	5.3	42.1	36.8	10.5	—	—	5.3	10.5	10.5	—
	全体	187	3.7	4.8	54.0	35.3	9.1	2.1	11.2	1.6	9.6	1.6	0.5

※知的障害の“65歳以上”、精神障害の“65歳以上”は回答者数が少ないため、参考値となります。

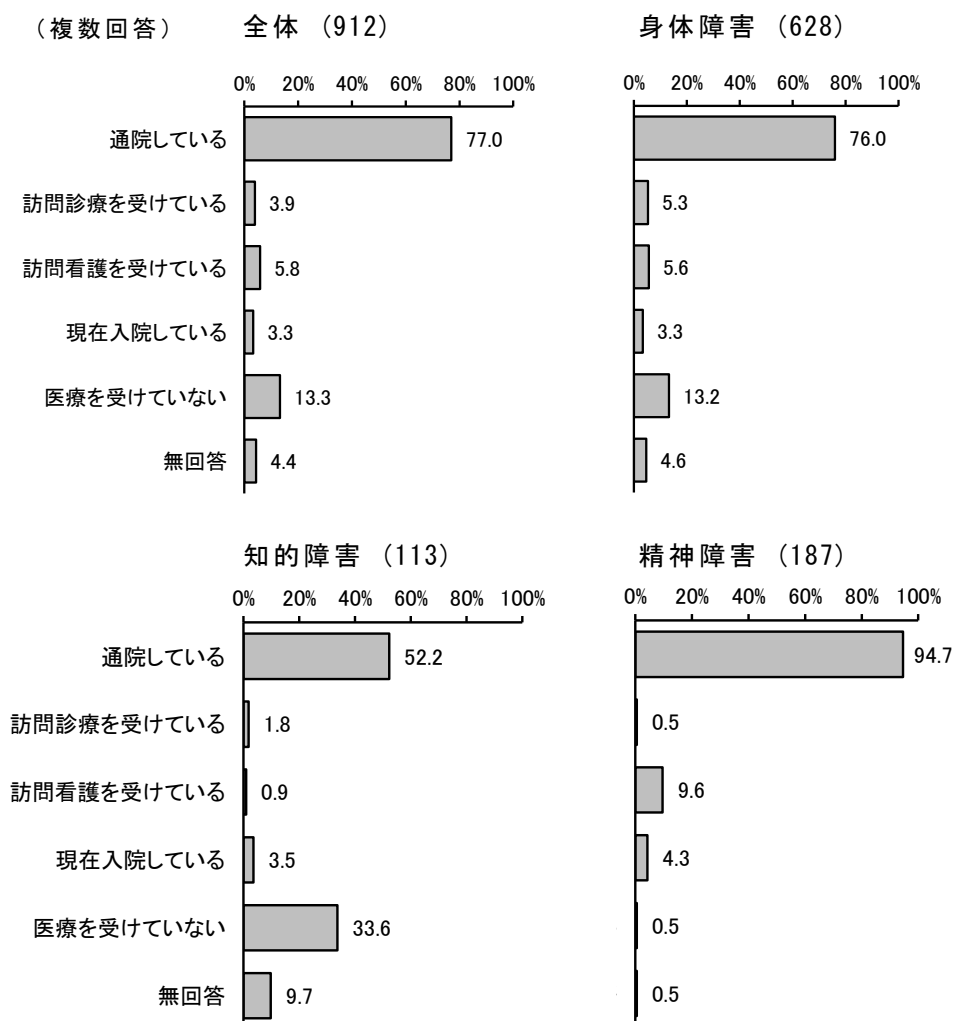
4 医療や介助の状況について

(1) 医療機関の受診状況

問9 現在、あなたはご自身の疾患や障害のために医療（リハビリを含む）を受けていますか。（あてはまるものすべてに○）

全体では、「通院している」が77.0%と最も多く、次いで「医療を受けていない」が13.3%、「訪問看護を受けている」が5.8%、「訪問診療を受けている」が3.9%と続いています。

障害別に見ると、精神障害では「通院している」（94.7%）が90%台に達して多くなっています。また、知的障害では「医療を受けていない」（33.6%）が他の障害に比べて多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果

身体障害の部位による違いを見ると、聴覚・平衡機能障害では「医療を受けていない」が「通院している」とともに41.3%で最も多くなっています。また、内部障害では「通院している」（88.2%）が90%近くに達して多くなっています。

●医療機関の受診状況（身体障害の部位別）

								%
		回答者数（人）	通院している	訪問診療を受けている	訪問看護を受けている	現在入院している	医療を受けていない	無回答
全体		628	76.0	5.3	5.6	3.3	13.2	4.6
身体障害の部位	視覚障害	38	73.7	10.5	5.3	—	15.8	5.3
	聴覚・平衡機能障害	46	41.3	4.3	2.2	—	41.3	13.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	18	72.2	5.6	5.6	5.6	16.7	5.6
	肢体不自由	297	72.4	7.7	8.1	4.4	14.1	4.0
	内部障害	245	88.2	2.9	2.9	2.9	6.1	2.4

※音声・言語・そしゃく機能障害は回答者数が少ないため、参考値となります。

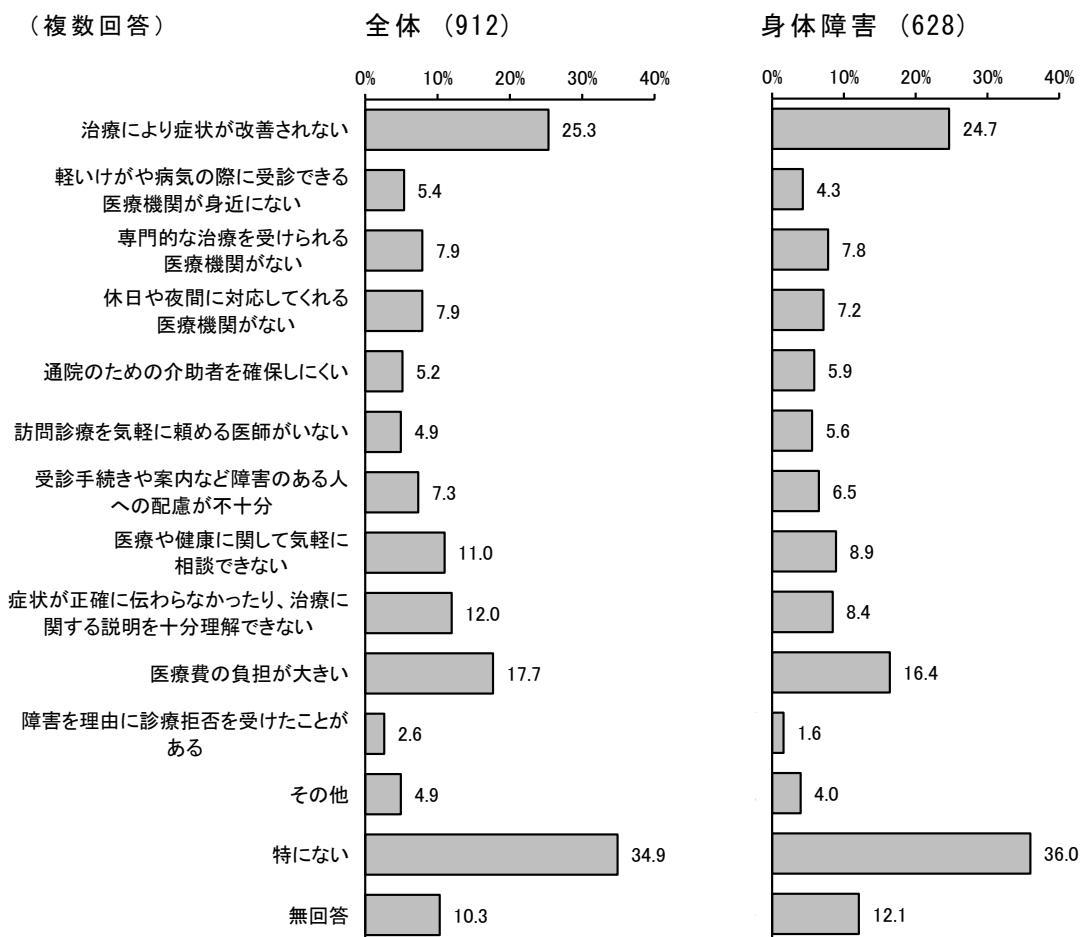
(2) 医療を受ける際に困ること

問 10 あなたが、医療を受ける際に困ることは何ですか。

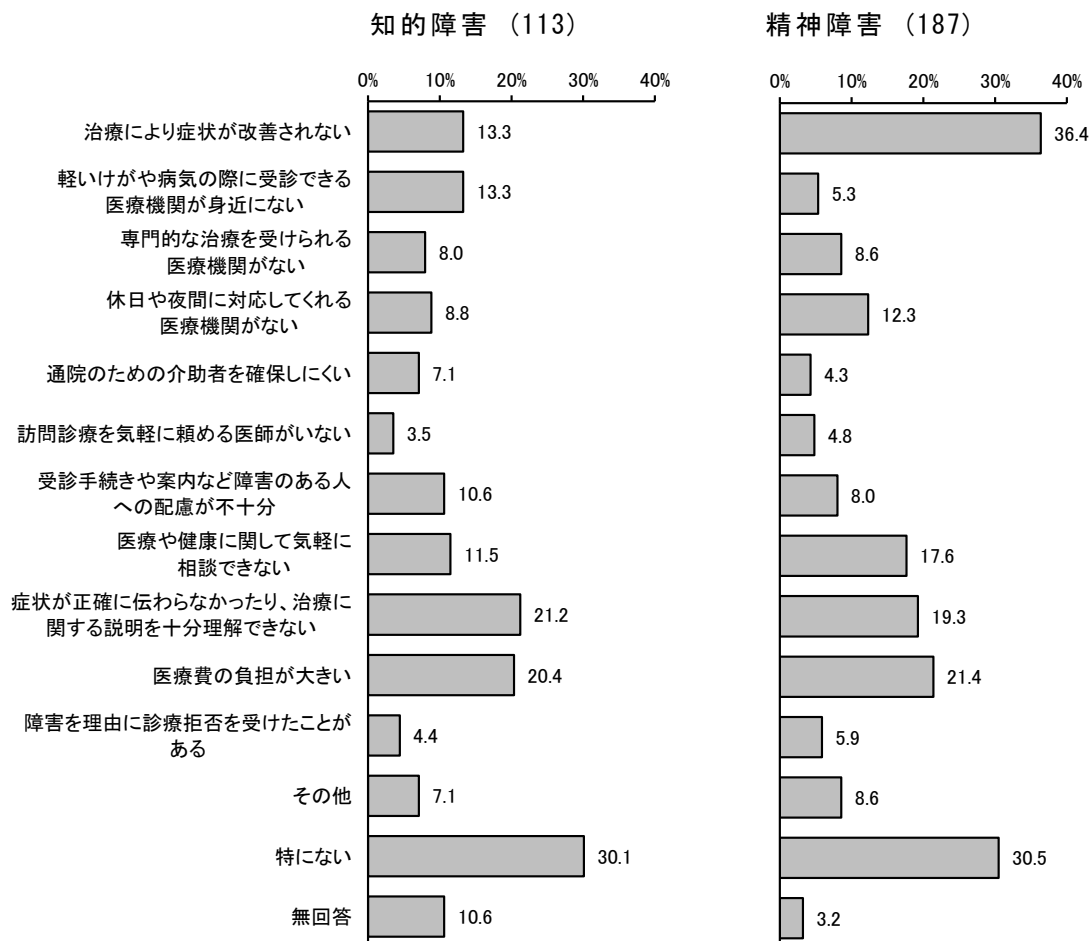
(あてはまるものすべてに○)

全体では、「治療により症状が改善されない」が25.3%と多く、次いで「医療費の負担が大きい」が17.7%、「症状が正確に伝わらなかったり、治療に関する説明を十分理解できない」が12.0%、「医療や健康に関して気軽に相談できない」が11.0%と続いています。なお、「特にない」が34.9%で最も多くなっています。

障害別に見ると、精神障害では「治療により症状が改善されない」が36.4%と最も多くなっています。また、知的障害と精神障害では「症状が正確に伝わらなかったり、治療に関する説明を十分理解できない」が身体障害に比べて多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果



身体障害の部位による違いを見ると、視覚障害では「治療により症状が改善されない」が最も多くなっているほか、「通院のための介助者を確保しにくい」（23.7％）と「医療費の負担が大きい」（26.3％）が他の障害に比べて多くなっています。

肢体不自由では「治療により症状が改善されない」が「特になし」とともに30.0％で最も多くなっています。また、聴覚・平衡機能障害では「症状が正確に伝わらなかったり、治療に関する説明を十分理解できない」が26.1％で最も多くなっています。

●医療を受ける際に困ること（身体障害の部位別）

		回答者数（人）	治療により症状が改善されない	軽いけがや病気の際に受診できる医療機関が身近にない	専門的な治療を受けられる医療機関がない	休日や夜間に対応してくれる医療機関がない	通院のための介助者を確保しにくい	訪問診療を気軽に頼める医師がいない	受診手続きや案内など障害のある人への配慮が不十分	医療や健康に関して気軽に相談できない	症状が正確に伝わらなかったり、治療に関する説明を十分理解できない	医療費の負担が大きい	障害を理由に診療拒否を受けたことがある	その他	特になし	無回答	%
全体		628	24.7	4.3	7.8	7.2	5.9	5.6	6.5	8.9	8.4	16.4	1.6	4.0	36.0	12.1	
身体障害の部位	視覚障害	38	42.1	2.6	10.5	10.5	23.7	5.3	18.4	5.3	13.2	26.3	5.3	7.9	18.4	10.5	
	聴覚・平衡機能障害	46	17.4	4.3	4.3	6.5	—	8.7	10.9	17.4	26.1	6.5	—	13.0	21.7	23.9	
	音声・言語・そしゃく機能障害	18	27.8	5.6	—	5.6	11.1	11.1	—	11.1	22.2	16.7	—	5.6	33.3	11.1	
	肢体不自由	297	30.0	6.1	10.8	7.1	6.1	7.4	7.4	10.1	6.7	18.9	1.7	5.4	30.0	12.5	
	内部障害	245	18.8	2.9	5.7	6.5	4.5	2.4	4.1	7.3	6.9	13.5	1.6	1.2	47.3	9.4	

※音声・言語・そしゃく機能障害は回答者数が少ないため、参考値となります。

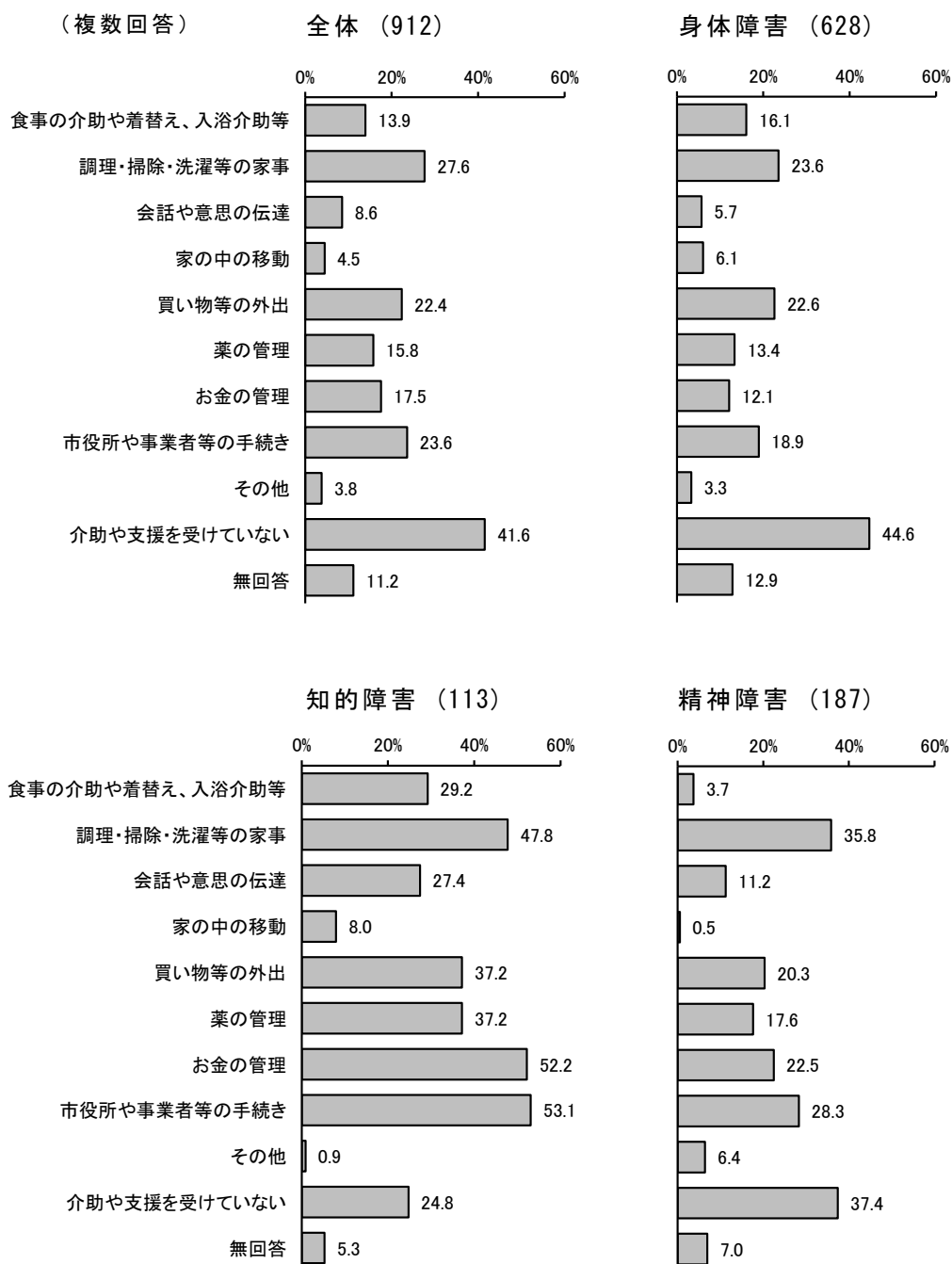
(3) 介助や支援が必要なこと

問 11 あなたは日常生活でどのような介助や支援を受けていますか。

(あてはまるものすべてに○)

全体では、「調理・掃除・洗濯等の家事」が27.6%と多く、次いで「市役所や事業者等の手続き」が23.6%、「買い物等の外出」が22.4%、「お金の管理」が17.5%と続いています。なお、「介助や支援を受けていない」が41.6%で最も多くなっています。

障害別に見ると、知的障害では介助や支援が必要なこととして挙げたすべての項目で、回答割合が他の障害に比べて多くなっており、特に「お金の管理」(52.2%)と「市役所や事業者等の手続き」(53.1%)は50%を超えています。



第2章 18歳以上の方の調査結果

身体障害の部位による違いを見ると、視覚障害では「買い物等の外出」が42.1%で最も多くなっています。

また、視覚障害と肢体不自由では「食事の介助や着替え、入浴介助等の身の回りのこと」「薬の管理」「お金の管理」が他の障害に比べて多くなっているほか、視覚障害では「市役所や事業者等の手続き」(31.6%)、肢体不自由では「調理・掃除・洗濯等の家事」(33.3%)も他の障害に比べて多くなっています。

また、聴覚・平衡機能障害では「会話や意思の伝達」が21.7%と他の障害に比べて多くなっています。

● 介助や支援が必要なこと（身体障害の部位別）

													%
		回答者数（人）	食事の介助や着替え、入浴 介助等の身の回りのこと	調理・掃除・洗濯等の家事	会話や意思の伝達	家の中の移動	買い物等の外出	薬の管理	お金の管理	市役所や事業者等の手続き	その他	介助や支援を受けていない	無回答
全体		628	16.1	23.6	5.7	6.1	22.6	13.4	12.1	18.9	3.3	44.6	12.9
身体障害の部位	視覚障害	38	21.1	23.7	7.9	10.5	42.1	21.1	18.4	31.6	－	23.7	15.8
	聴覚・平衡機能障害	46	8.7	15.2	21.7	4.3	15.2	8.7	6.5	13.0	2.2	43.5	17.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	18	16.7	50.0	44.4	16.7	38.9	27.8	44.4	38.9	－	22.2	5.6
	肢体不自由	297	24.2	33.3	7.4	9.8	31.0	17.2	16.5	23.9	3.4	37.7	10.8
	内部障害	245	8.2	14.3	0.8	1.6	12.7	8.2	7.3	13.5	4.1	57.1	12.2

※音声・言語・そしゃく機能障害は回答者数が少ないため、参考値となります。

(4) 主な介助者

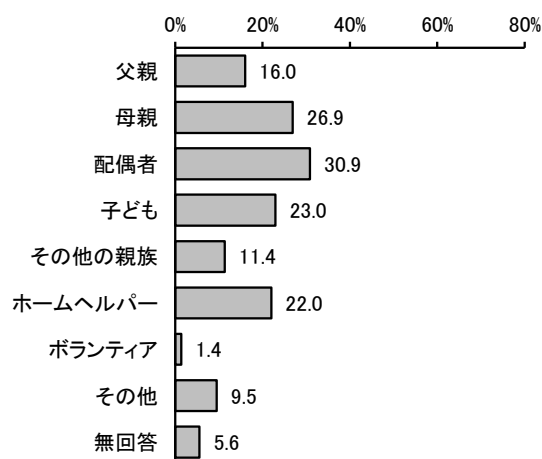
問 12 介助や支援を受けている方にお聞きします。あなたを介助や支援している人は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「配偶者」が30.9%と最も多く、次いで「母親」が26.9%、「子ども」が23.0%、「ホームヘルパー」が22.0%と続いています。

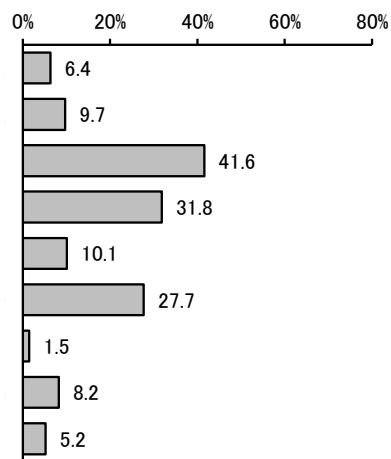
障害別に見ると、知的障害と精神障害では「母親」が最も多くなっているほか、知的障害では「父親」(50.6%)、「その他の親族」(24.1%)が他の障害に比べて多くなっています。

また、身体障害では「配偶者」(41.6%)、「子ども」(31.8%)、「ホームヘルパー」(27.7%)が他の障害に比べて多くなっているほか、「ホームヘルパー」は知的障害(21.5%)でも多くなっています。

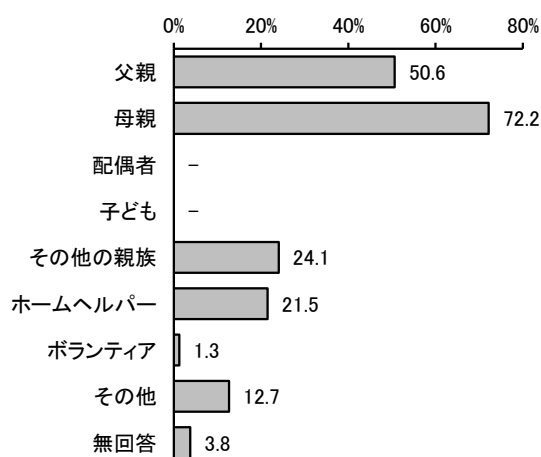
(複数回答) 全体 (431)



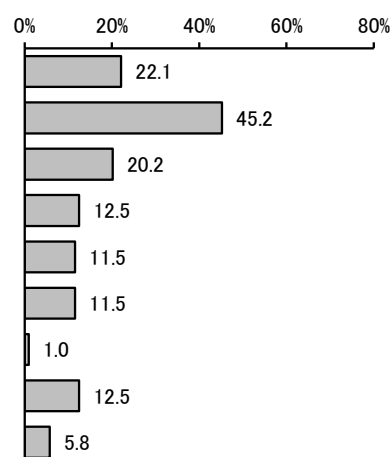
身体障害 (267)



知的障害 (79)



精神障害 (104)



第2章 18歳以上の方の調査結果

障害種別ごとに世帯構成による違いを見ると、身体障害と精神障害の“ひとり暮らし”では「ホームヘルパー」が最も多くなっています。

●主な介助者（世帯構成別）

		回答者数 (人)	父親	母親	配偶者	子ども	その他の親族	ホームヘルパー	ボランティア	その他	無回答
全体		431	16.0	26.9	30.9	23.0	11.4	22.0	1.4	9.5	5.6
身体障害	全体	267	6.4	9.7	41.6	31.8	10.1	27.7	1.5	8.2	5.2
	家族と同居している	199	8.0	12.6	53.8	34.7	10.6	17.6	2.0	6.0	3.5
	ひとり暮らし	50	2.0	2.0	2.0	20.0	10.0	72.0	—	—	10.0
	グループホームでの集団生活	8	—	—	12.5	37.5	—	25.0	—	62.5	—
知的障害	全体	79	50.6	72.2	—	—	24.1	21.5	1.3	12.7	3.8
	家族と同居している	69	56.5	79.7	—	—	23.2	20.3	1.4	11.6	2.9
	ひとり暮らし	6	—	16.7	—	—	33.3	33.3	—	16.7	16.7
	グループホームでの集団生活	1	—	—	—	—	100.0	100.0	—	—	—
精神障害	全体	104	22.1	45.2	20.2	12.5	11.5	11.5	1.0	12.5	5.8
	家族と同居している	80	25.0	56.3	26.3	16.3	13.8	2.5	—	10.0	1.3
	ひとり暮らし	20	5.0	—	—	—	5.0	50.0	5.0	25.0	20.0
	グループホームでの集団生活	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*

※身体障害の“グループホームでの集団生活”、知的障害の“ひとり暮らし”“グループホームでの集団生活”は回答者数が少ないため、参考値となります。

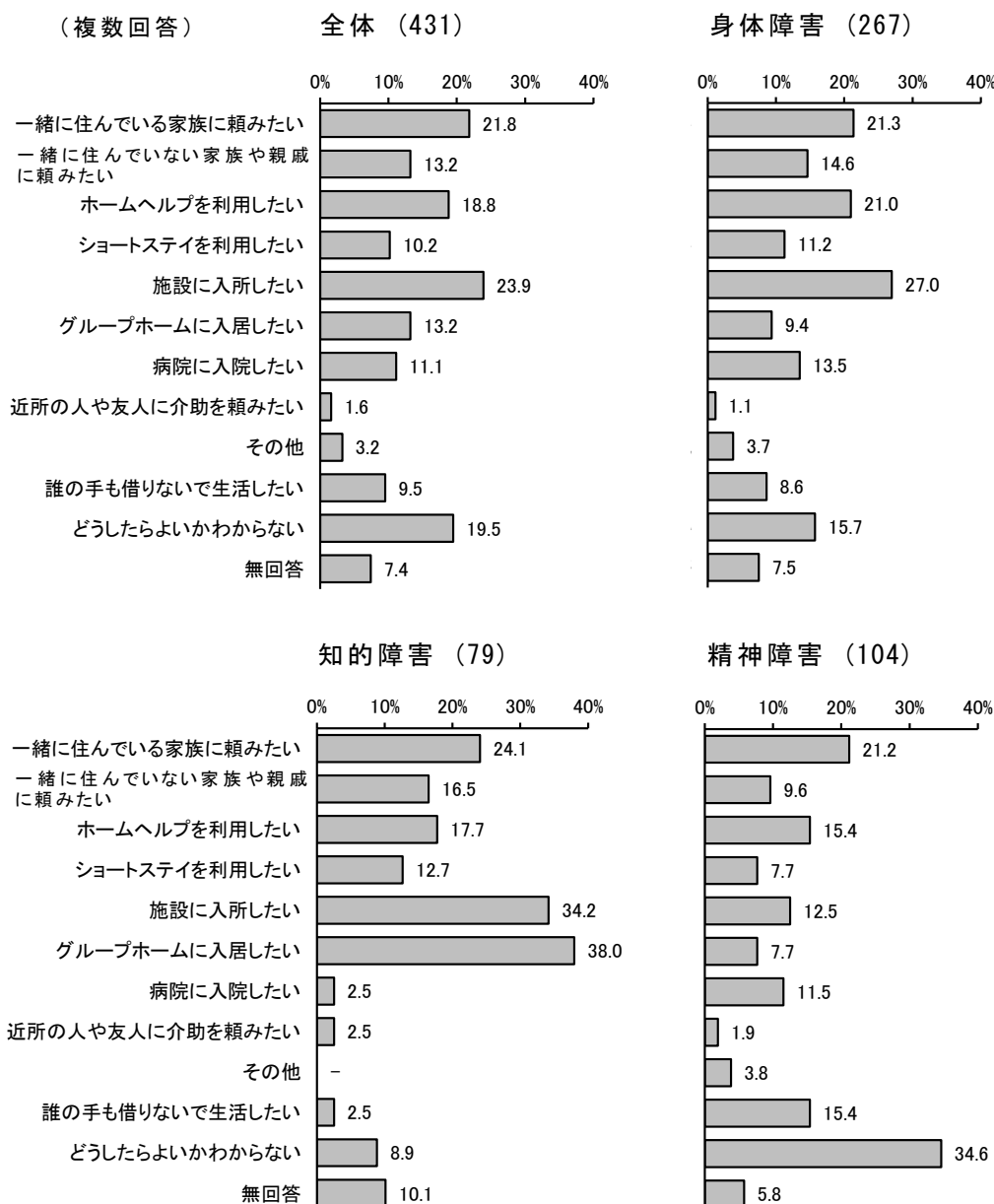
(5) 主な介助者が介助できなくなった場合の希望

問 13 介助や支援を受けている方にお聞きします。介助者があなたを介助や支援できなくなった場合は、あなたはどうしたいですか。
(あてはまるものすべてに○)

全体では、「施設に入所したい」が23.9%と最も多く、次いで「一緒に住んでいる家族に頼みたい」が21.8%、「ホームヘルプを利用したい」が18.8%、「一緒に住んでいない家族や親戚に頼みたい」と「グループホームに入居したい」がそれぞれ13.2%と続いています。なお、「どうしたらよいかわからない」が19.5%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「グループホームに入居したい」が38.0%で最も多くなっているほか、「施設に入所したい」が34.2%と他の障害に比べて多くなっています。

また、精神障害では「どうしたらよいかわからない」が34.6%で最も多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果

障害種別ごとに世帯構成による違いを見ると、身体障害の“家族と同居している”では「一緒に住んでいる家族に頼みたい」が「施設に入所したい」とともに28.1%で最も多く、“ひとり暮らし”では「どうしたらよいかわからない」が22.0%で最も多くなっています。

●主な介助者が介助できなくなった場合の希望（世帯構成別）

		回答者数（人）	一緒に住んでいる家族に頼みたい	一緒に住んでいる家族や親戚に頼みたくない	ホームヘルプを利用したい	ショートステイを利用したい	施設に入所したい	グループホームに入居したい	病院に入院したい	近所の人や友人に介助を頼みたい	その他	誰の手も借りないで生活したい	どうしたらよいかわからない	無回答
全体		431	21.8	13.2	18.8	10.2	23.9	13.2	11.1	1.6	3.2	9.5	19.5	7.4
身体障害	全体	267	21.3	14.6	21.0	11.2	27.0	9.4	13.5	1.1	3.7	8.6	15.7	7.5
	家族と同居している	199	28.1	15.1	22.6	12.6	28.1	9.5	13.6	1.0	3.0	8.5	14.6	6.5
	ひとり暮らし	50	-	16.0	20.0	10.0	16.0	6.0	16.0	2.0	4.0	12.0	22.0	6.0
	グループホームでの集団生活	8	-	-	-	-	75.0	25.0	12.5	-	12.5	-	-	-
知的障害	全体	79	24.1	16.5	17.7	12.7	34.2	38.0	2.5	2.5	-	2.5	8.9	10.1
	家族と同居している	69	26.1	17.4	17.4	14.5	33.3	40.6	2.9	1.4	-	1.4	8.7	10.1
	ひとり暮らし	6	16.7	16.7	33.3	-	33.3	16.7	-	16.7	-	16.7	-	-
	グループホームでの集団生活	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
精神障害	全体	104	21.2	9.6	15.4	7.7	12.5	7.7	11.5	1.9	3.8	15.4	34.6	5.8
	家族と同居している	80	27.5	12.5	12.5	10.0	13.8	7.5	12.5	2.5	2.5	17.5	32.5	2.5
	ひとり暮らし	20	-	-	30.0	-	5.0	5.0	10.0	-	10.0	10.0	40.0	15.0
	グループホームでの集団生活	-	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*

※身体障害の“グループホームでの集団生活”、知的障害の“ひとり暮らし”“グループホームでの集団生活”は回答者数が少ないため、参考値となります。

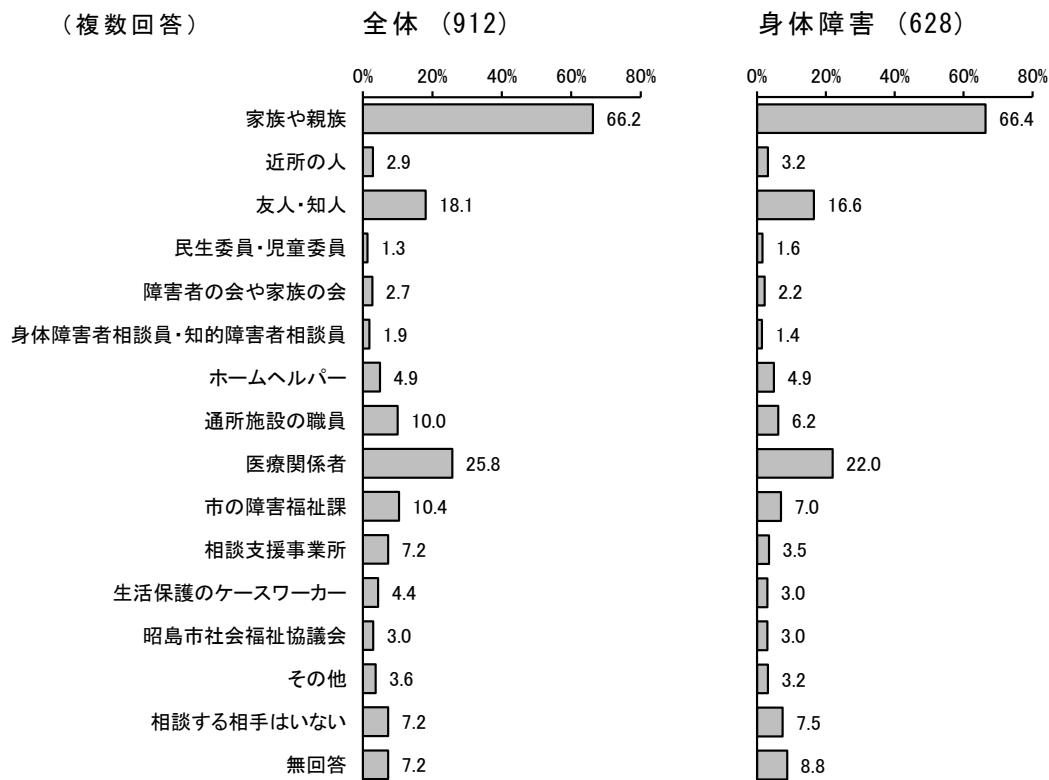
5 相談や福祉情報について

(1) 困ったときに相談できる人や場所

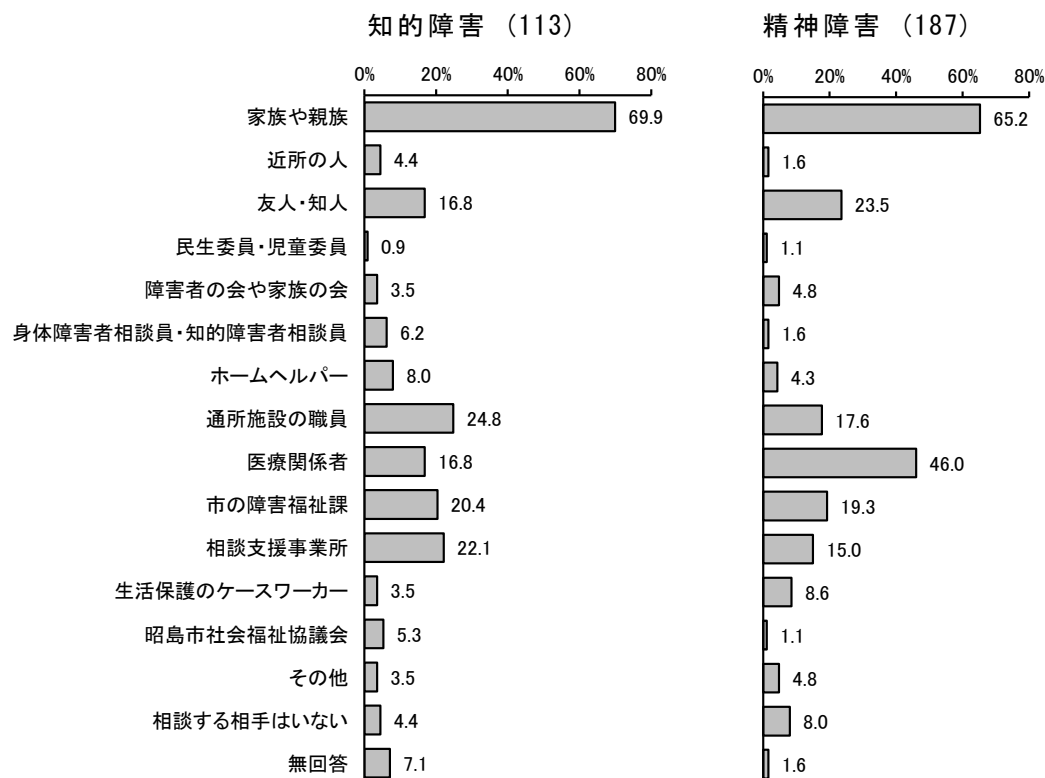
問 14 あなたは、日常生活で困ったことや悩み事について相談している人や場所はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「家族や親族」が66.2%と最も多く、次いで「医療関係者（医師・看護師・ソーシャルワーカー）」が25.8%、「友人・知人」が18.1%、「市の障害福祉課」が10.4%と続いています。

障害別に見ると、知的障害と精神障害では「市の障害福祉課」が身体障害に比べて多くなっているほか、精神障害では「医療関係者（医師・看護師・ソーシャルワーカー）」（46.0%）が他の障害に比べて多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果



障害種別ごとに性別による違いを見ると、いずれの障害も「友人・知人」は女性が男性に比べて多くなっています。

また、身体障害の男性では「医療関係者」(25.4%)が女性に比べて多くなっています。知的障害の男性では「市の障害福祉課」(25.0%)が女性に比べて多くなっています。

精神障害の男性では「生活保護のケースワーカー」(13.0%)が女性に比べて多くなっているのに対し、女性では「医療関係者(医師・看護師・ソーシャルワーカー)」(52.1%)が男性に比べて多くなっています。

●困ったときに相談できる人や場所（性別）

		%																
		回答者数(人)	家族や親族	近所の人	友人・知人	民生委員・児童委員	障害者の会や家族の会	身体障害者相談員・知的障害者相談員	ホームヘルパー	通所施設の職員	医療関係者	市の障害福祉課	相談支援事業所	生活保護のケースワーカー	昭島市社会福祉協議会	その他	相談する相手はいない	無回答
全体		912	66.2	2.9	18.1	1.3	2.7	1.9	4.9	10.0	25.8	10.4	7.2	4.4	3.0	3.6	7.2	7.2
身体障害	全体	628	66.4	3.2	16.6	1.6	2.2	1.4	4.9	6.2	22.0	7.0	3.5	3.0	3.0	3.2	7.5	8.8
	男性	319	64.9	2.2	10.7	1.9	1.9	1.9	3.1	5.3	25.4	6.6	2.8	3.1	3.4	3.8	8.5	9.7
	女性	307	68.4	4.2	22.5	1.3	2.6	1.0	6.8	7.2	18.2	7.5	4.2	2.9	2.6	2.6	6.2	7.8
知的障害	全体	113	69.9	4.4	16.8	0.9	3.5	6.2	8.0	24.8	16.8	20.4	22.1	3.5	5.3	3.5	4.4	7.1
	男性	64	71.9	4.7	12.5	-	3.1	6.3	6.3	25.0	15.6	25.0	23.4	1.6	6.3	4.7	1.6	9.4
	女性	49	67.3	4.1	22.4	2.0	4.1	6.1	10.2	24.5	18.4	14.3	20.4	6.1	4.1	2.0	8.2	4.1
精神障害	全体	187	65.2	1.6	23.5	1.1	4.8	1.6	4.3	17.6	46.0	19.3	15.0	8.6	1.1	4.8	8.0	1.6
	男性	92	65.2	1.1	17.4	1.1	6.5	1.1	5.4	17.4	39.1	22.8	13.0	13.0	2.2	6.5	7.6	3.3
	女性	94	64.9	2.1	29.8	1.1	3.2	2.1	3.2	17.0	52.1	16.0	17.0	4.3	-	3.2	8.5	-

障害種別ごとに年齢による違いを見ると、いずれの障害も40歳未満では「家族や親族」が他の年齢に比べて多くなっており、身体障害（88.9%）では90%近くに達しています。

身体障害の40歳未満では「通所施設の職員」（22.2%）と「相談支援事業所」（22.2%）が他の年齢に比べて多くなっています。また、「友人・知人」は40歳未満（40.7%）で40%を超えていますが、年齢が上がるにつれて減少し、65歳以上では13.0%にとどまっています。

知的障害の40歳未満では「友人・知人」（22.9%）と「相談支援事業所」（31.4%）が他の年齢に比べて多くなっています。

● 困ったときに相談できる人や場所（年齢別）

%																		
		回答者数（人）	家族や親族	近所の人	友人・知人	民生委員・児童委員	障害者の会や家族の会	身体障害者相談員・知的障害者相談員	ホームヘルパー	通所施設の職員	医療関係者	市の障害福祉課	相談支援事業所	生活保護のケースワーカー	昭島市社会福祉協議会	その他	相談する相手は いない	無回答
全体		912	66.2	2.9	18.1	1.3	2.7	1.9	4.9	10.0	25.8	10.4	7.2	4.4	3.0	3.6	7.2	7.2
身体障害	全体	628	66.4	3.2	16.6	1.6	2.2	1.4	4.9	6.2	22.0	7.0	3.5	3.0	3.0	3.2	7.5	8.8
	40歳未満	27	88.9	7.4	40.7	－	3.7	－	7.4	22.2	29.6	18.5	22.2	3.7	－	－	7.4	3.7
	40～64歳	156	62.2	2.6	22.4	1.9	4.5	3.2	4.5	7.7	26.3	9.0	4.5	3.2	2.6	2.6	10.9	3.2
	65歳以上	445	66.5	3.1	13.0	1.6	1.3	0.9	4.9	4.7	20.0	5.6	2.0	2.9	3.4	3.6	6.3	11.0
	全体	113	69.9	4.4	16.8	0.9	3.5	6.2	8.0	24.8	16.8	20.4	22.1	3.5	5.3	3.5	4.4	7.1
知的障害	40歳未満	70	75.7	5.7	22.9	－	4.3	7.1	7.1	25.7	20.0	21.4	31.4	2.9	4.3	2.9	5.7	5.7
	40～64歳	35	62.9	2.9	8.6	2.9	2.9	5.7	5.7	25.7	11.4	22.9	8.6	2.9	8.6	5.7	2.9	8.6
	65歳以上	8	50.0	－	－	－	－	－	25.0	12.5	12.5	－	－	12.5	－	－	－	12.5
	全体	187	65.2	1.6	23.5	1.1	4.8	1.6	4.3	17.6	46.0	19.3	15.0	8.6	1.1	4.8	8.0	1.6
精神障害	40歳未満	57	78.9	1.8	24.6	－	5.3	1.8	1.8	15.8	42.1	17.5	19.3	5.3	－	5.3	8.8	－
	40～64歳	111	56.8	1.8	23.4	0.9	4.5	1.8	3.6	18.9	47.7	20.7	12.6	8.1	0.9	4.5	8.1	2.7
	65歳以上	19	73.7	－	21.1	5.3	5.3	－	15.8	15.8	47.4	15.8	15.8	21.1	5.3	5.3	5.3	－
	全体																	

※知的障害の“65歳以上”、精神障害の“65歳以上”は回答者数が少ないため、参考値となります。

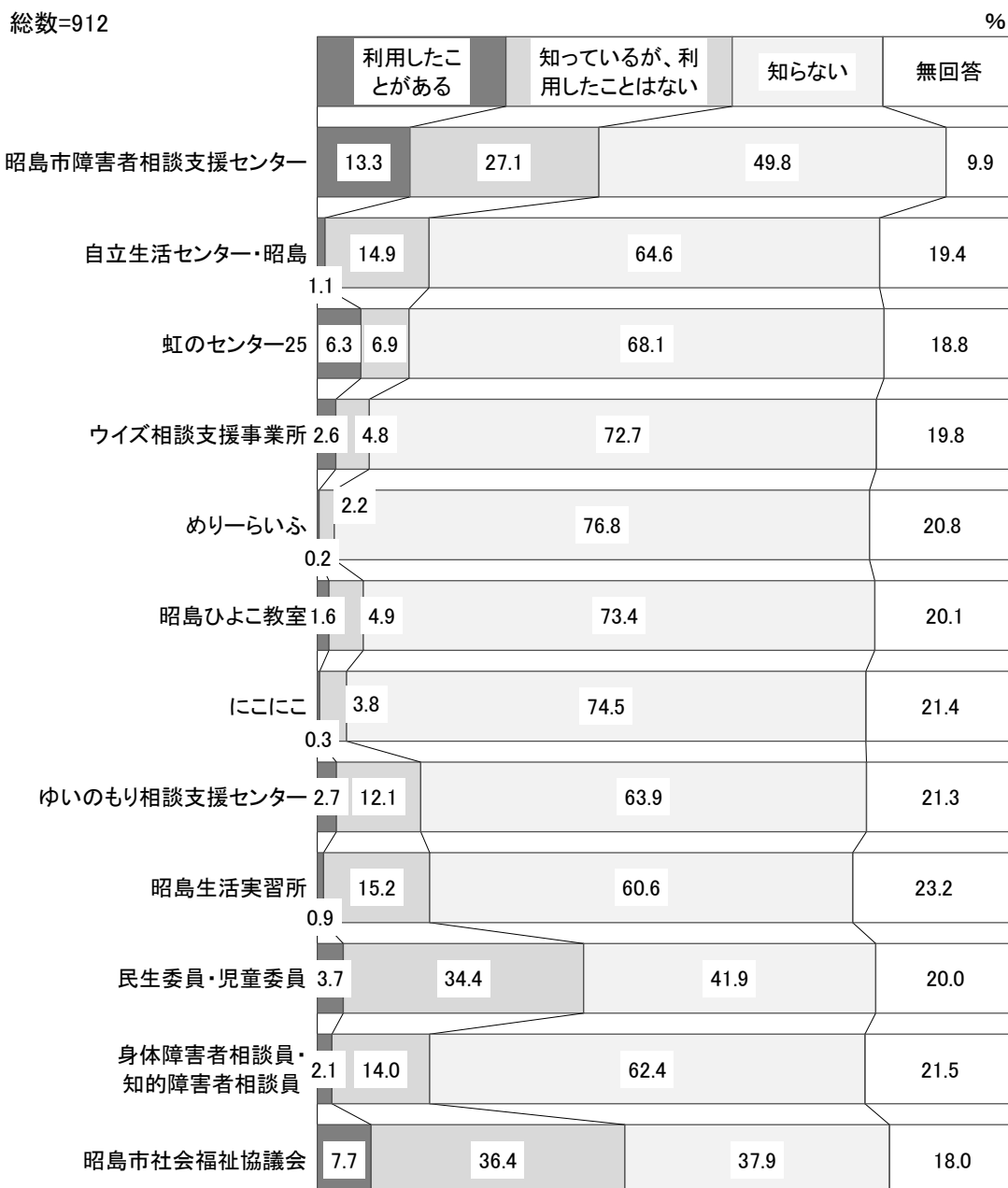
(2) 相談場所の認知状況

問 15 あなたは、次の相談場所等を知っていますか。
(それぞれあてはまるもの1つに○)

ここでは、「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合わせた割合を『知っている』として計上しています。

市内の相談支援機関等のうち、9つの機関等で「知らない」が60%以上を占めています。
一方、『知っている』は“昭島市障害者相談支援センター”（40.4%）、“民生委員・児童委員”（38.1%）、“昭島市社会福祉協議会”（44.1%）が40%前後で多くなっています。

なお、「利用したことがある」は“昭島市障害者相談支援センター”（13.3%）が10%を超えて多くなっています。

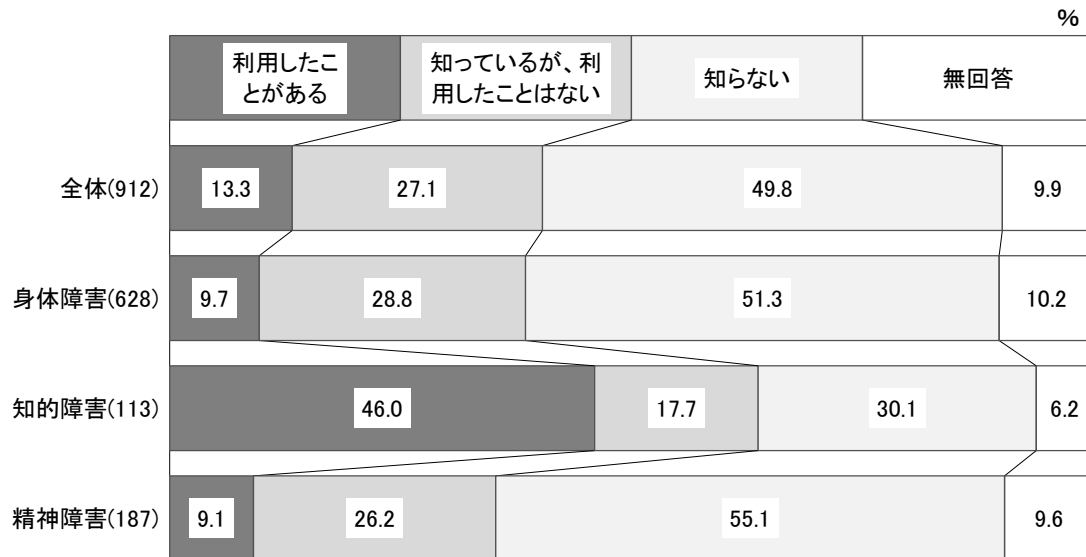


①昭島市障害者相談支援センター

（対象者：主に身体・知的・精神障害のある人及びその家族）

全体では、「知らない」が49.8%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が27.1%、「利用したことがある」が13.3%と続いています。

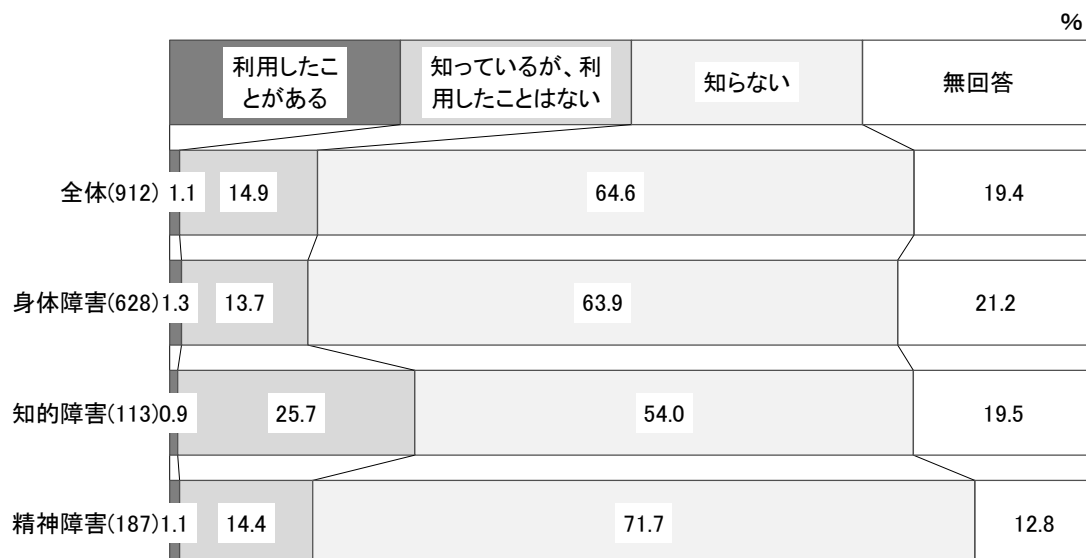
障害別に見ると、知的障害では「利用したことがある」が46.0%で最も多くなっています。



②自立生活センター・昭島

（対象者：主に身体障害のある人及びその家族）

全体では、「知らない」が64.6%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が14.9%、「利用したことがある」が1.1%と続いています。



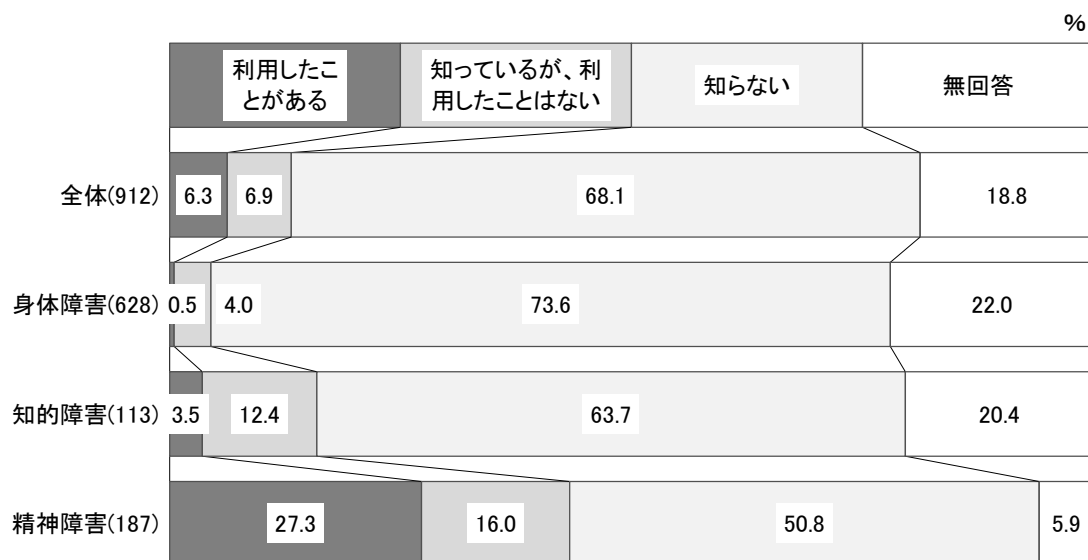
第2章 18歳以上の方の調査結果

③虹のセンター25

（対象者：主に精神障害のある人）

全体では、「知らない」が68.1%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が6.9%、「利用したことがある」が6.3%と続いています。

障害別に見ると、精神障害では「利用したことがある」（27.3%）が20%以上を占めて多くなっています。

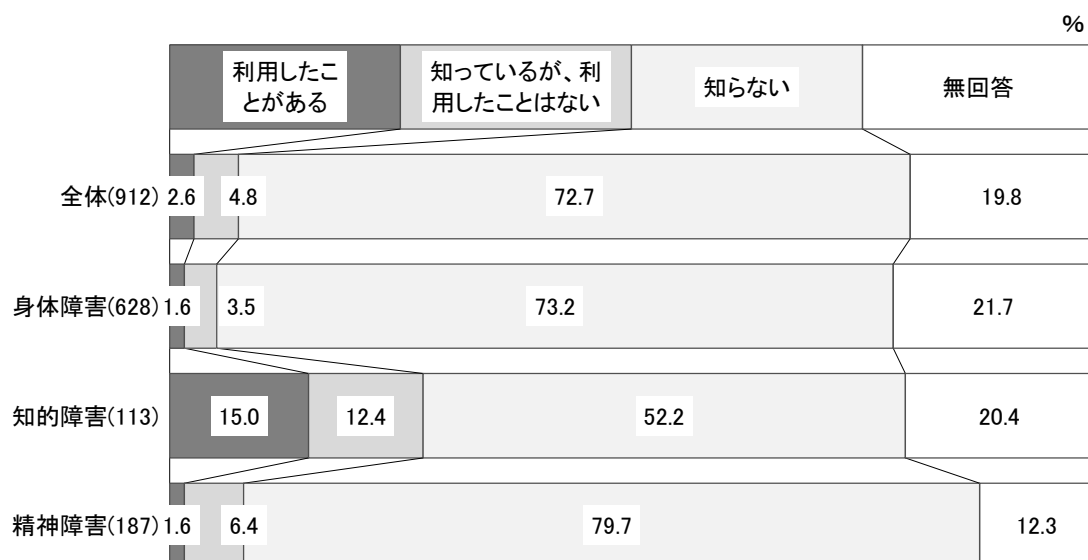


④ウイズ相談支援事業所

（対象者：主に知的障害のある人及びその家族）

全体では、「知らない」が72.7%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が4.8%、「利用したことがある」が2.6%と続いています。

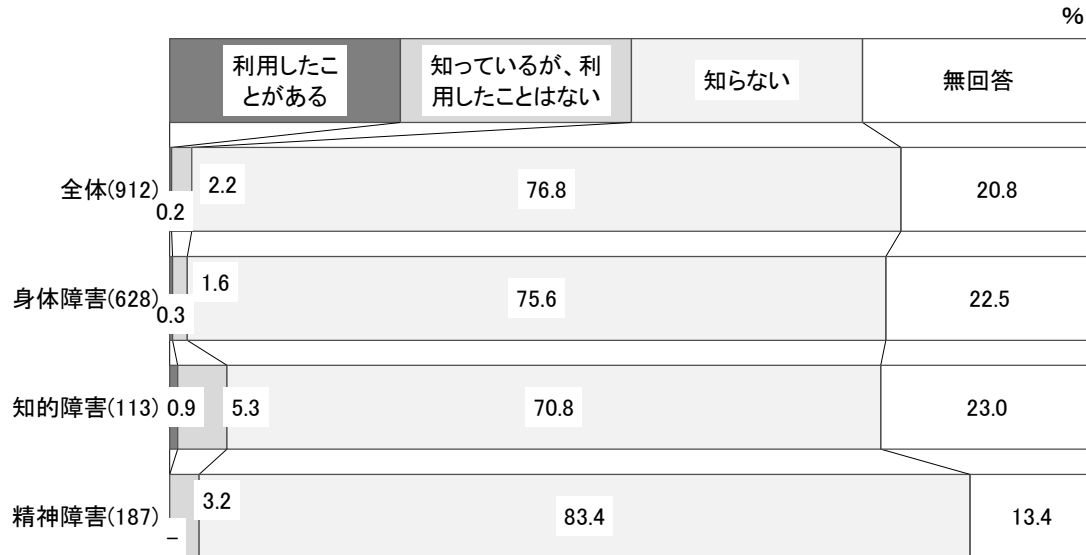
障害別に見ると、知的障害では「利用したことがある」（15.0%）が10%以上を占めて多くなっています。



⑤ めりーらいふ

（対象者：主に身体・知的・精神障害のある人及びその家族）

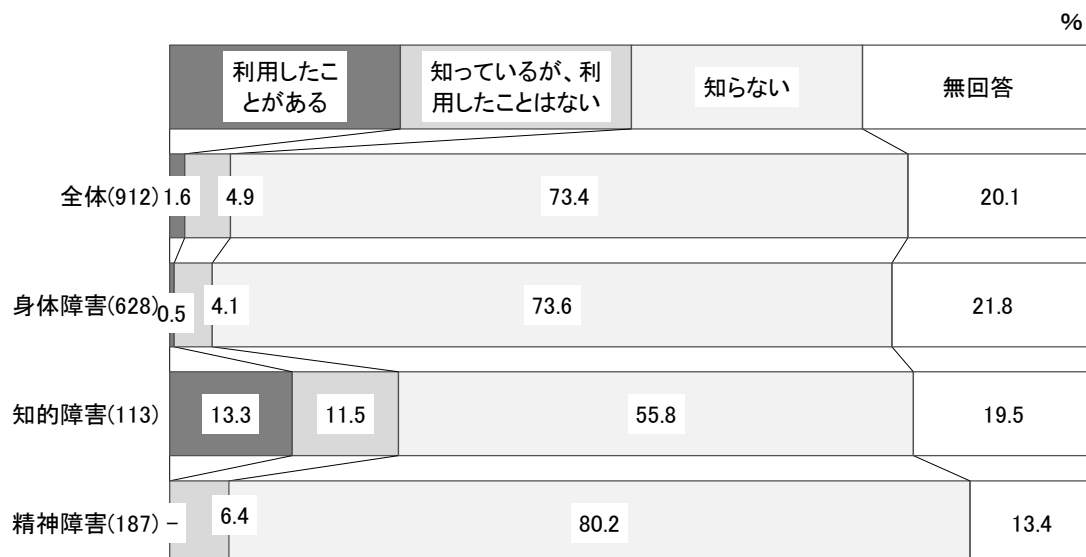
全体では、「知らない」が76.8%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が2.2%、「利用したことがある」が0.2%と続いています。



⑥ 昭島ひよこ教室

（対象者：主に児童発達支援のサービスを利用する児童及びその家族）

全体では、「知らない」が73.4%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が4.9%、「利用したことがある」が1.6%と続いています。

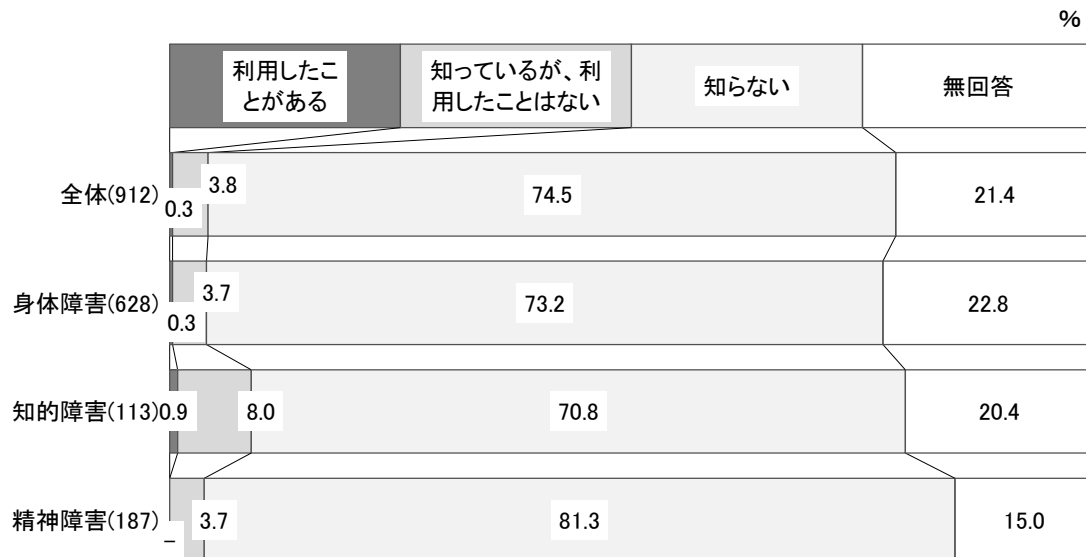


第2章 18歳以上の方の調査結果

⑦にこにこ

（対象者：主に放課後等デイサービスを利用する児童及びその家族）

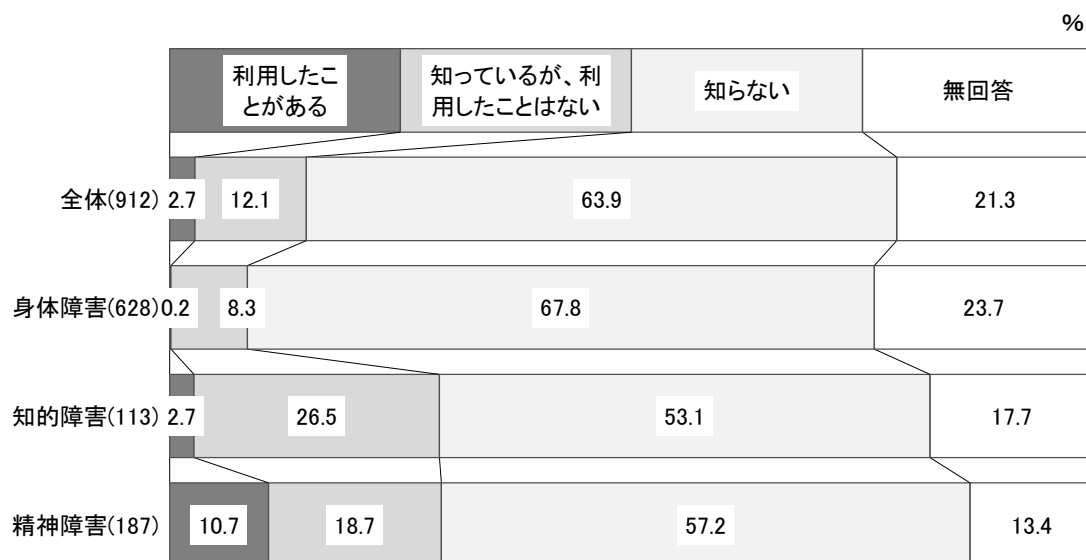
全体では、「知らない」が74.5%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が3.8%、「利用したことがある」が0.3%と続いています。



⑧ゆいのもり相談支援センター

（対象者：主に精神障害のある人及びその家族）

全体では、「知らない」が63.9%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が12.1%、「利用したことがある」が2.7%と続いています。

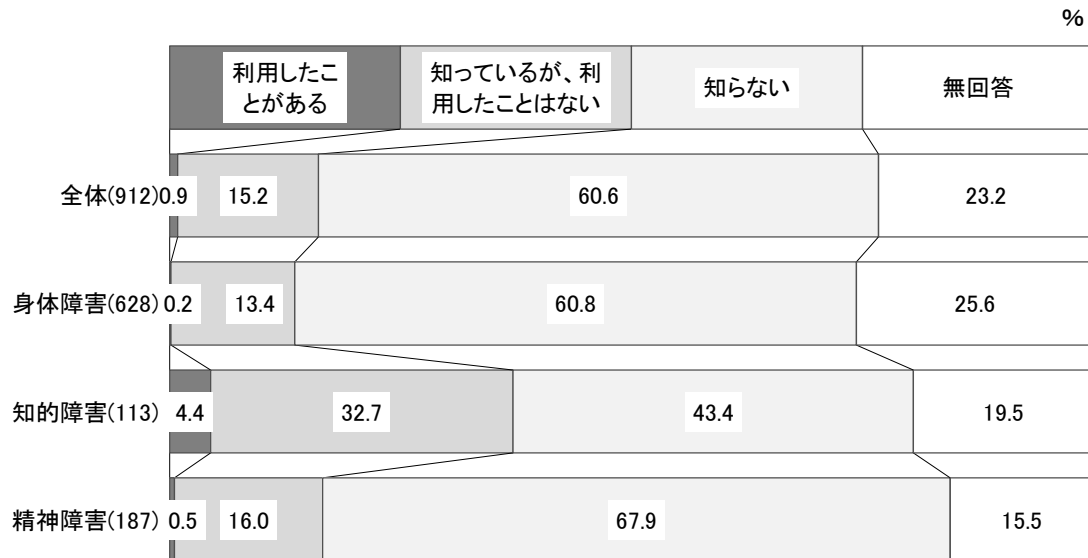


⑨ 昭島生活実習所

（対象者：主に身体・知的・精神障害のある人及びその家族）

全体では、「知らない」が60.6%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が15.2%、「利用したことがある」が0.9%と続いています。

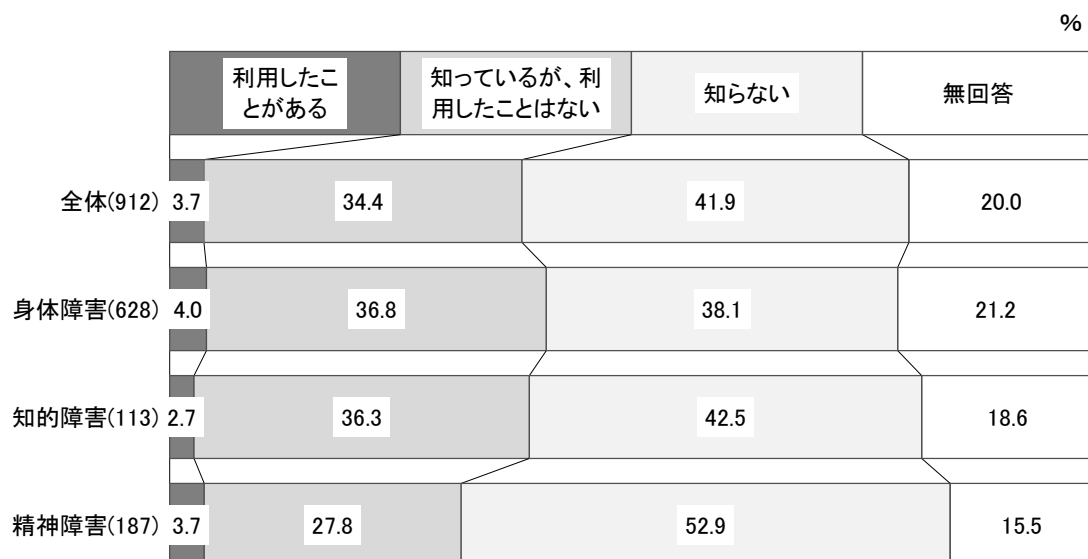
障害別に見ると、知的障害では「知っているが、利用したことはない」が32.7%と他の障害に比べて多くなっています。



⑩ 民生委員・児童委員

全体では、「知らない」が41.9%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が34.4%、「利用したことがある」が3.7%と続いています。

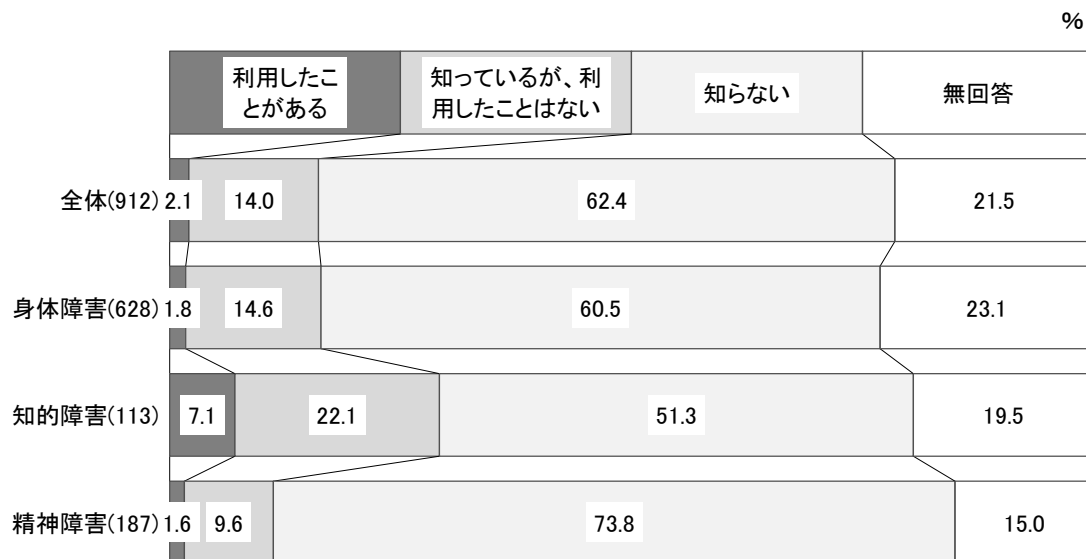
障害別に見ると、精神障害では「知らない」が52.9%と他の障害に比べて多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果

⑪身体障害者相談員・知的障害者相談員

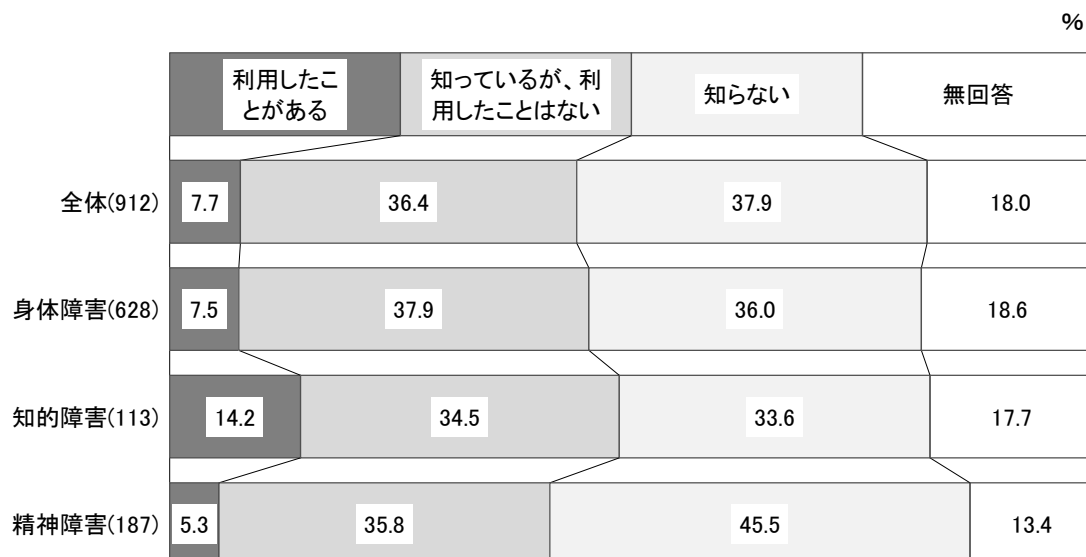
全体では、「知らない」が62.4%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が14.0%、「利用したことがある」が2.1%と続いています。



⑫昭島市社会福祉協議会

全体では、「知らない」が37.9%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が36.4%、「利用したことがある」が7.7%と続いています。

障害別に見ると、身体障害と知的障害では「知っているが、利用したことはない」が最も多くなっています。



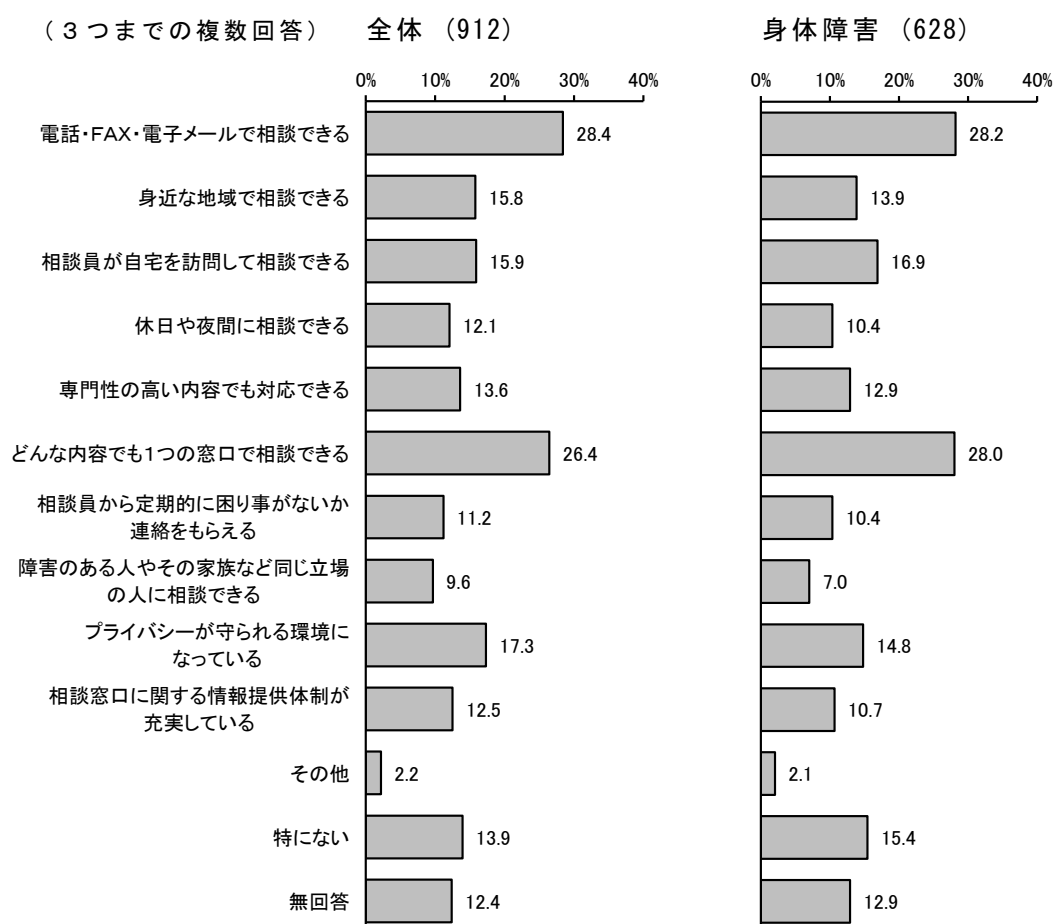
(3) 気軽に相談できるために必要な取組

問 16 あなたは、市役所等の公的な相談窓口に気軽に相談するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

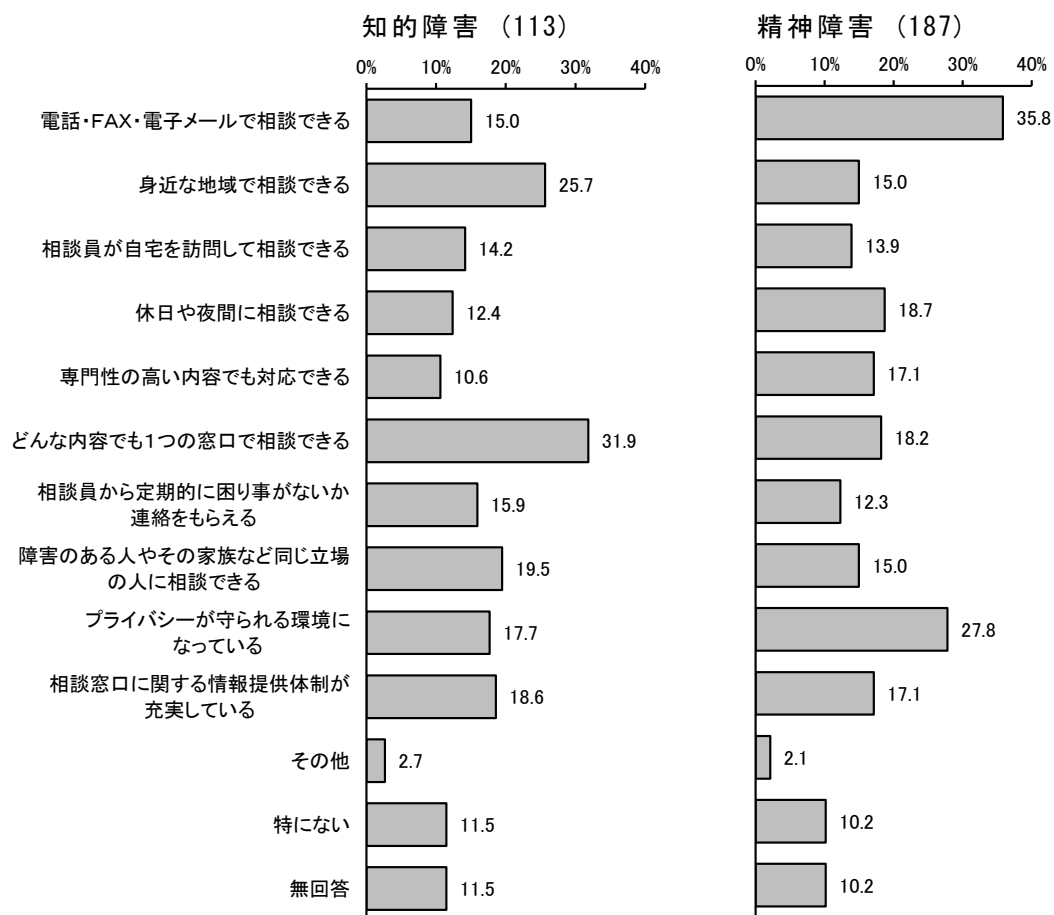
全体では、「電話・FAX・電子メールで相談できる」が28.4%と最も多く、次いで「どんな内容でも1つの窓口で相談できる」が26.4%、「プライバシーが守られる環境になっている」が17.3%、「相談員が自宅を訪問して相談できる」が15.9%と続いています。

障害別に見ると、知的障害では「どんな内容でも1つの窓口で相談できる」が31.9%で最も多くなっているほか、「身近な地域で相談できる」が25.7%と他の障害に比べて多くなっています。

また、精神障害では「プライバシーが守られる環境になっている」が27.8%と他の障害に比べて多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果



障害種別ごとに年齢による違いを見ると、身体障害の40歳未満では「プライバシーが守られる環境になっている」が37.0%で最も多くなっているほか、「休日や夜間に相談できる」(25.9%)、「専門性の高い内容でも対応できる」(25.9%)、「相談員から定期的に困り事がないか連絡をもらえる」(18.5%)、「障害のある人やその家族など同じ立場の人に相談できる」(25.9%)、「相談窓口に関する情報提供体制が充実している」(33.3%)が他の年齢に比べて多くなっています。

知的障害の40～64歳では「身近な地域で相談できる」が34.3%と最も多くなっているほか、「相談員が自宅を訪問して相談できる」(20.0%)が他の年齢に比べて多くなっています。また、40歳未満では「障害のある人やその家族など同じ立場の人に相談できる」(25.7%)と「相談窓口に関する情報提供体制が充実している」(27.1%)が他の年齢に比べて多くなっています。

精神障害の40歳未満では「プライバシーが守られる環境になっている」が35.1%で最も多くなっています。

●気軽に相談できるために必要な取組（年齢別）

		回答者数（人）	電話・FAX・電子メールで相談できる	身近な地域で相談できる	相談員が自宅を訪問して相談できる	休日や夜間に相談できる	専門性の高い内容でも対応できる	どんな内容でも1つの窓口で相談できる	相談員から定期的に困り事がないか連絡をもらえる	障害のある人やその家族など同じ立場の人に相談できる	プライバシーが守られる環境になっている	相談窓口に関する情報提供体制が充実している	その他	特にない	無回答
全体		912	28.4	15.8	15.9	12.1	13.6	26.4	11.2	9.6	17.3	12.5	2.2	13.9	12.4
身体障害	全体	628	28.2	13.9	16.9	10.4	12.9	28.0	10.4	7.0	14.8	10.7	2.1	15.4	12.9
	40歳未満	27	33.3	14.8	11.1	25.9	25.9	25.9	18.5	25.9	37.0	33.3	-	3.7	3.7
	40～64歳	156	29.5	10.9	14.1	14.7	13.5	29.5	7.1	10.3	20.5	11.5	1.9	16.0	9.0
	65歳以上	445	27.4	14.8	18.2	7.9	11.9	27.6	11.0	4.7	11.5	9.0	2.2	16.0	14.8
知的障害	全体	113	15.0	25.7	14.2	12.4	10.6	31.9	15.9	19.5	17.7	18.6	2.7	11.5	11.5
	40歳未満	70	15.7	21.4	10.0	15.7	14.3	32.9	18.6	25.7	20.0	27.1	4.3	8.6	8.6
	40～64歳	35	14.3	34.3	20.0	8.6	5.7	31.4	11.4	11.4	14.3	5.7	-	14.3	14.3
	65歳以上	8	12.5	25.0	25.0	-	-	25.0	12.5	-	12.5	-	-	25.0	25.0
精神障害	全体	187	35.8	15.0	13.9	18.7	17.1	18.2	12.3	15.0	27.8	17.1	2.1	10.2	10.2
	40歳未満	57	31.6	10.5	12.3	21.1	21.1	14.0	17.5	21.1	35.1	21.1	3.5	5.3	8.8
	40～64歳	111	37.8	15.3	11.7	19.8	17.1	20.7	8.1	12.6	25.2	15.3	1.8	12.6	10.8
	65歳以上	19	36.8	26.3	31.6	5.3	5.3	15.8	21.1	10.5	21.1	15.8	-	10.5	10.5

※知的障害の“65歳以上”、精神障害の“65歳以上”は回答者数が少ないため、参考値となります。

第2章 18歳以上の方の調査結果

身体障害の部位による違いを見ると、視覚障害では「相談員が自宅を訪問して相談できる」が31.6%で最も多くなっているほか、「身近な地域で相談できる」が28.9%と他の障害に比べて多くなっています。

また、肢体不自由では「どんな内容でも1つの窓口で相談できる」が29.3%で最も多くなっています。

●気軽に相談できるために必要な取組（身体障害の部位別）

															%
		回答者数（人）	電話・FAX・電子メールで相談できる	身近な地域で相談できる	相談員が自宅を訪問して相談できる	休日や夜間に相談できる	専門性の高い内容でも対応できる	どんな内容でも1つの窓口で相談できる	相談員から定期的に困り事がないか連絡をもらえる	障害のある人やその家族など同じ立場の人に相談できる	プライバシーが守られる環境になっている	相談窓口に関する情報提供体制が充実している	その他	特にない	無回答
全体		628	28.2	13.9	16.9	10.4	12.9	28.0	10.4	7.0	14.8	10.7	2.1	15.4	12.9
身体障害の部位	視覚障害	38	21.1	28.9	31.6	7.9	7.9	23.7	13.2	7.9	5.3	5.3	2.6	10.5	13.2
	聴覚・平衡機能障害	46	37.0	15.2	13.0	8.7	8.7	34.8	6.5	15.2	17.4	19.6	－	4.3	13.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	18	44.4	16.7	16.7	11.1	5.6	33.3	16.7	16.7	22.2	5.6	－	－	5.6
	肢体不自由	297	27.9	12.1	19.9	11.1	12.8	29.3	13.1	7.1	17.2	10.4	2.7	14.1	13.1
	内部障害	245	27.8	14.3	12.7	8.2	14.3	26.1	9.0	5.7	13.1	11.0	1.6	20.0	11.4

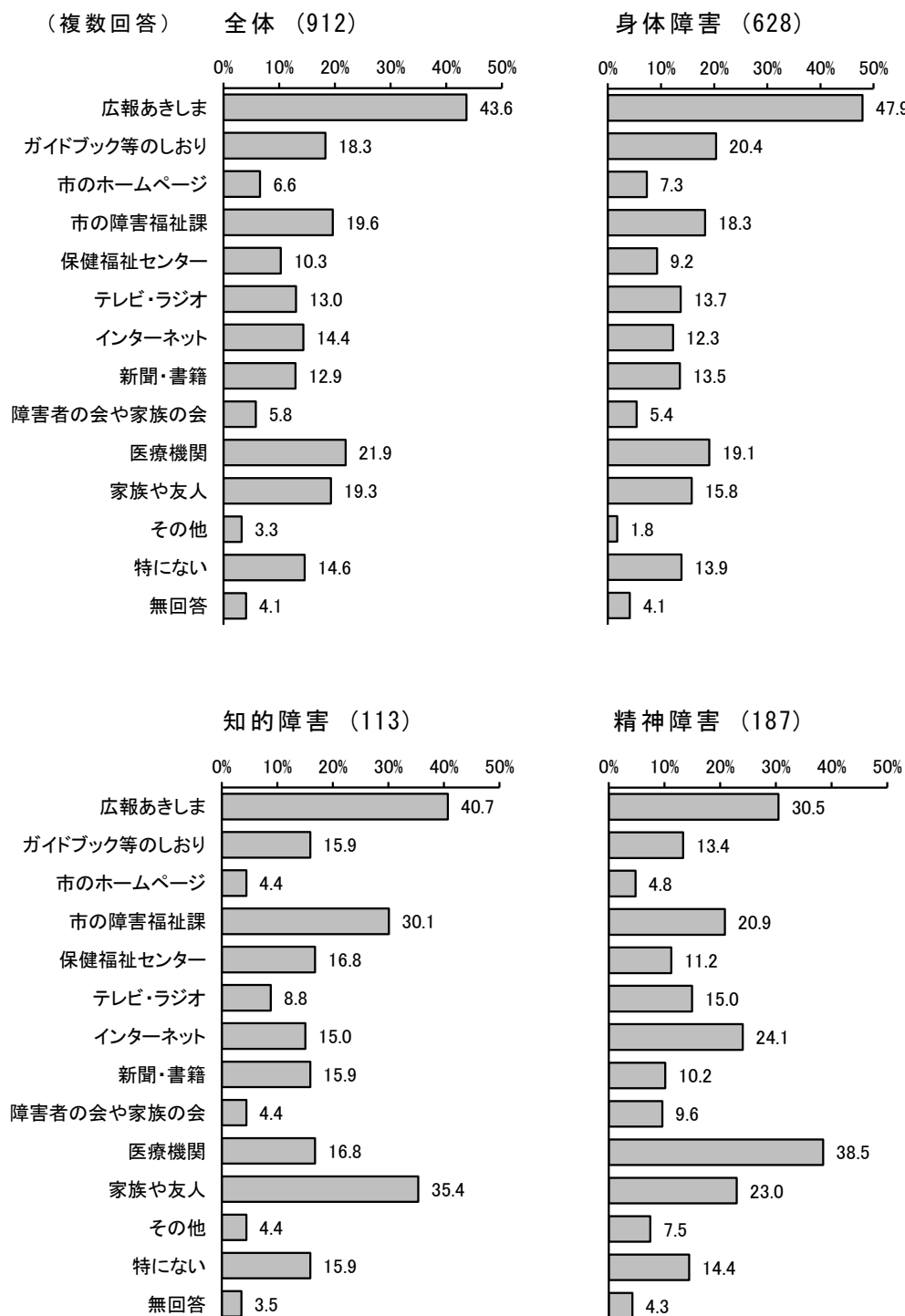
※音声・言語・そしゃく機能障害は回答者数が少ないため、参考値となります。

(4) 福祉に関する情報の入手方法

問 17 あなたは、障害のある人のための福祉に関する情報をどこから得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「広報あきしま」が43.6%と最も多く、次いで「医療機関」が21.9%、「市の障害福祉課」が19.6%、「家族や友人」が19.3%と続いています。

障害別に見ると、精神障害では「医療機関」が38.5%で最も多くなっています。また、知的障害では「市の障害福祉課」(30.1%)と「家族や友人」(35.4%)が他の障害に比べて多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果

障害種別ごとに年齢による違いを見ると、身体障害の40歳未満では「インターネット」が51.9%で最も多くなっているほか、「市のホームページ」(18.5%)と「家族や友人」(44.4%)が他の年齢に比べて多くなっています。

知的障害の40歳未満では「家族や友人」が40.0%で最も多く、40～64歳では「市の障害福祉課」が40.0%で最も多くなっています。

精神障害の40歳未満では「インターネット」(40.4%)、「医療機関」(49.1%)、「家族や友人」(33.3%)が他の年齢に比べて多くなっています。

●福祉に関する情報の入手方法（年齢別）

%

		回答者数 (人)	広報あきしま	ガイドブック等のしおり	市のホームページ	市の障害福祉課	保健福祉センター	テレビ・ラジオ	インターネット	新聞・書籍	障害者の会や家族の会	医療機関	家族や友人	その他	特にない	無回答
全体		912	43.6	18.3	6.6	19.6	10.3	13.0	14.4	12.9	5.8	21.9	19.3	3.3	14.6	4.1
身体障害	全体	628	47.9	20.4	7.3	18.3	9.2	13.7	12.3	13.5	5.4	19.1	15.8	1.8	13.9	4.1
	40歳未満	27	44.4	14.8	18.5	25.9	14.8	11.1	51.9	14.8	11.1	29.6	44.4	3.7	3.7	-
	40～64歳	156	40.4	19.2	8.3	21.2	7.1	9.0	25.6	9.6	7.1	20.5	12.2	1.9	13.5	2.6
	65歳以上	445	50.8	21.1	6.3	16.9	9.7	15.5	5.2	14.8	4.5	18.0	15.3	1.6	14.6	4.9
知的障害	全体	113	40.7	15.9	4.4	30.1	16.8	8.8	15.0	15.9	4.4	16.8	35.4	4.4	15.9	3.5
	40歳未満	70	38.6	14.3	5.7	24.3	17.1	10.0	18.6	14.3	5.7	18.6	40.0	5.7	17.1	1.4
	40～64歳	35	40.0	22.9	2.9	40.0	20.0	8.6	11.4	20.0	2.9	17.1	31.4	2.9	14.3	8.6
	65歳以上	8	62.5	-	-	37.5	-	-	-	12.5	-	-	12.5	-	12.5	-
精神障害	全体	187	30.5	13.4	4.8	20.9	11.2	15.0	24.1	10.2	9.6	38.5	23.0	7.5	14.4	4.3
	40歳未満	57	24.6	15.8	7.0	21.1	15.8	14.0	40.4	10.5	10.5	49.1	33.3	7.0	12.3	-
	40～64歳	111	29.7	11.7	2.7	22.5	9.0	14.4	18.0	7.2	9.0	35.1	15.3	7.2	15.3	6.3
	65歳以上	19	52.6	15.8	10.5	10.5	10.5	21.1	10.5	26.3	10.5	26.3	36.8	10.5	15.8	5.3

※知的障害の“65歳以上”、精神障害の“65歳以上”は回答者数が少ないため、参考値となります。

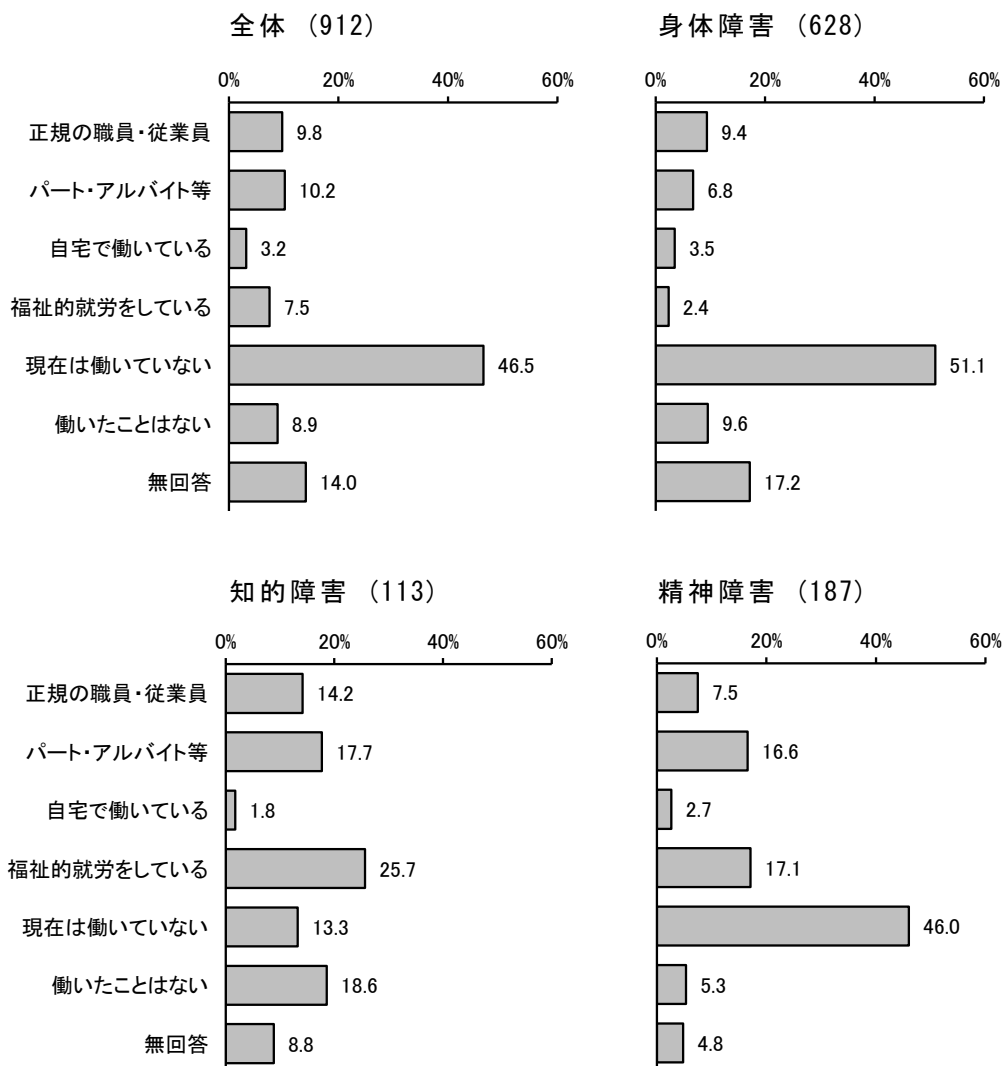
6 日中活動や仕事について

(1) 日中の過ごし方

問 18 あなたは現在、仕事をしていますか。仕事をしている方は働き方についてもお答えください。(○は1つ)

全体では、「以前働いていたが、現在は働いていない」が46.5%と最も多く、次いで「パート・アルバイト等で働いている」が10.2%、「正規の職員・従業員として働いている」が9.8%、「働いたことはない(在学中を含む)」が8.9%と続いています。

障害別に見ると、知的障害では「福祉的就労をしている(就労移行・就労継続支援事業所等)」が25.7%で最も多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果

障害種別ごとに年齢による違いを見ると、身体障害の40歳未満では「福祉的就労をしている（就労移行・就労継続支援事業所等）」と「働いたことはない（在学中を含む）」がそれぞれ25.9%で最も多くなっています。また、40歳未満と40～64歳では「正規の職員・従業員として働いている」が20%を超えて多くなっています。

知的障害の40～64歳では「正規の職員・従業員として働いている」と「以前働いていたが、現在は働いていない」が「福祉的就労をしている（就労移行・就労継続支援事業所等）」とともに20.0%で最も多くなっています。

精神障害の40歳未満では「パート・アルバイト等で働いている」（28.1%）が、40～64歳では「以前働いていたが、現在は働いていない」（46.8%）が他の年齢に比べて多くなっています。

●日中の過ごし方（年齢別）

		%							
		回答者数（人）	正規の職員・従業員	パート・アルバイト等	自宅で働いている	福祉的就労をしている	現在は働いていない	働いたことはない	無回答
全体		912	9.8	10.2	3.2	7.5	46.5	8.9	14.0
身体障害	全体	628	9.4	6.8	3.5	2.4	51.1	9.6	17.2
	40歳未満	27	22.2	14.8	—	25.9	7.4	25.9	3.7
	40～64歳	156	26.9	10.3	3.2	3.8	42.9	7.1	5.8
	65歳以上	445	2.5	5.2	3.8	0.4	56.6	9.4	22.0
知的障害	全体	113	14.2	17.7	1.8	25.7	13.3	18.6	8.8
	40歳未満	70	12.9	21.4	2.9	28.6	7.1	22.9	4.3
	40～64歳	35	20.0	14.3	—	20.0	20.0	8.6	17.1
	65歳以上	8	—	—	—	25.0	37.5	25.0	12.5
精神障害	全体	187	7.5	16.6	2.7	17.1	46.0	5.3	4.8
	40歳未満	57	10.5	28.1	5.3	12.3	33.3	10.5	—
	40～64歳	111	7.2	13.5	1.8	20.7	46.8	2.7	7.2
	65歳以上	19	—	—	—	10.5	78.9	5.3	5.3

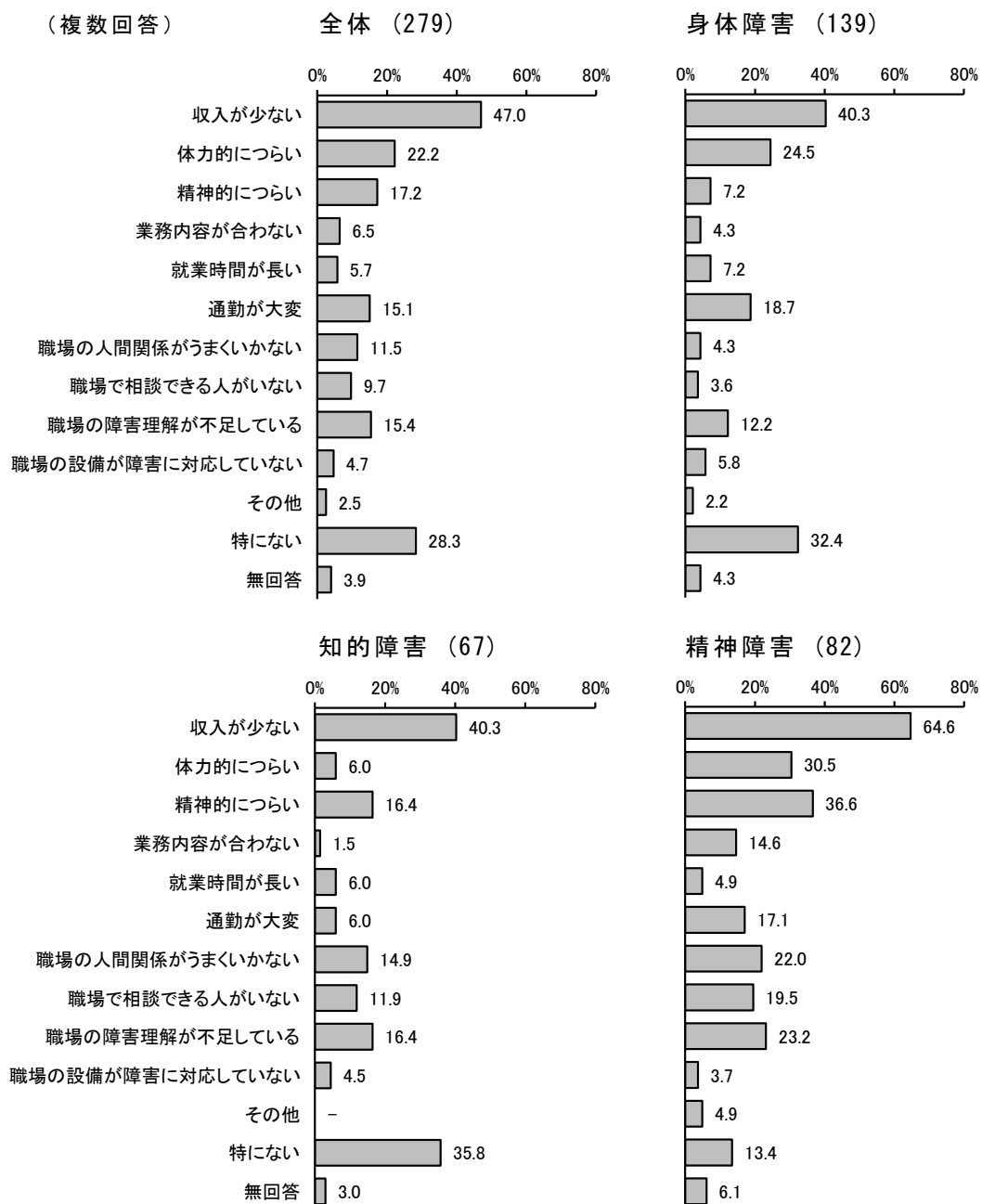
※知的障害の“65歳以上”、精神障害の“65歳以上”は回答者数が少ないため、参考値となります。

(2) 仕事をする上で困っていること

問 19 働いている方にお聞きします。あなたが仕事をする上で困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「収入が少ない」が47.0%と最も多く、次いで「体力的につらい」が22.2%、「精神的につらい」が17.2%、「職場の障害理解が不足している」が15.4%と続いています。なお、「特にない」が28.3%となっています。

障害別に見ると、身体障害と精神障害では「通勤が大変」が知的障害に比べて多くなっています。また、精神障害では「収入が少ない」(64.6%)、「精神的につらい」(36.6%)、「業務内容が合わない」(14.6%)が他の障害に比べて多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果

障害種別ごとに性別による違いを見ると、知的障害の男性では「収入が少ない」（47.6％）と「精神的につらい」（21.4％）が女性に比べて多くなっています。

精神障害の男性では「職場で相談できる人がいない」（26.9％）が女性に比べて多くなっているのに対し、女性では「体力的につらい」（36.7％）と「精神的につらい」（43.3％）が男性に比べて多くなっています。

● 仕事をする上で困っていること（性別）

			回答者数（人）	収入が少ない	体力的につらい	精神的につらい	業務内容が合わない	就業時間が長い	通勤が大変	職場の人間関係がうまくいかない	職場で相談できる人がいない	職場の障害理解が不足している	職場の設備が障害に対応していない	その他	特にない	無回答	%
		全体	279	47.0	22.2	17.2	6.5	5.7	15.1	11.5	9.7	15.4	4.7	2.5	28.3	3.9	
身体障害	全体	139	40.3	24.5	7.2	4.3	7.2	18.7	4.3	3.6	12.2	5.8	2.2	32.4	4.3		
	男性	92	42.4	23.9	7.6	5.4	7.6	20.7	5.4	5.4	13.0	4.3	2.2	31.5	2.2		
	女性	47	36.2	25.5	6.4	2.1	6.4	14.9	2.1	—	10.6	8.5	2.1	34.0	8.5		
知的障害	全体	67	40.3	6.0	16.4	1.5	6.0	6.0	14.9	11.9	16.4	4.5	—	35.8	3.0		
	男性	42	47.6	7.1	21.4	2.4	7.1	7.1	14.3	11.9	19.0	4.8	—	28.6	2.4		
	女性	25	28.0	4.0	8.0	—	4.0	4.0	16.0	12.0	12.0	4.0	—	48.0	4.0		
精神障害	全体	82	64.6	30.5	36.6	14.6	4.9	17.1	22.0	19.5	23.2	3.7	4.9	13.4	6.1		
	男性	52	65.4	26.9	32.7	15.4	7.7	17.3	23.1	26.9	25.0	3.8	5.8	15.4	5.8		
	女性	30	63.3	36.7	43.3	13.3	—	16.7	20.0	6.7	20.0	3.3	3.3	10.0	6.7		

(3) 仕事を探す際に相談した人や場所

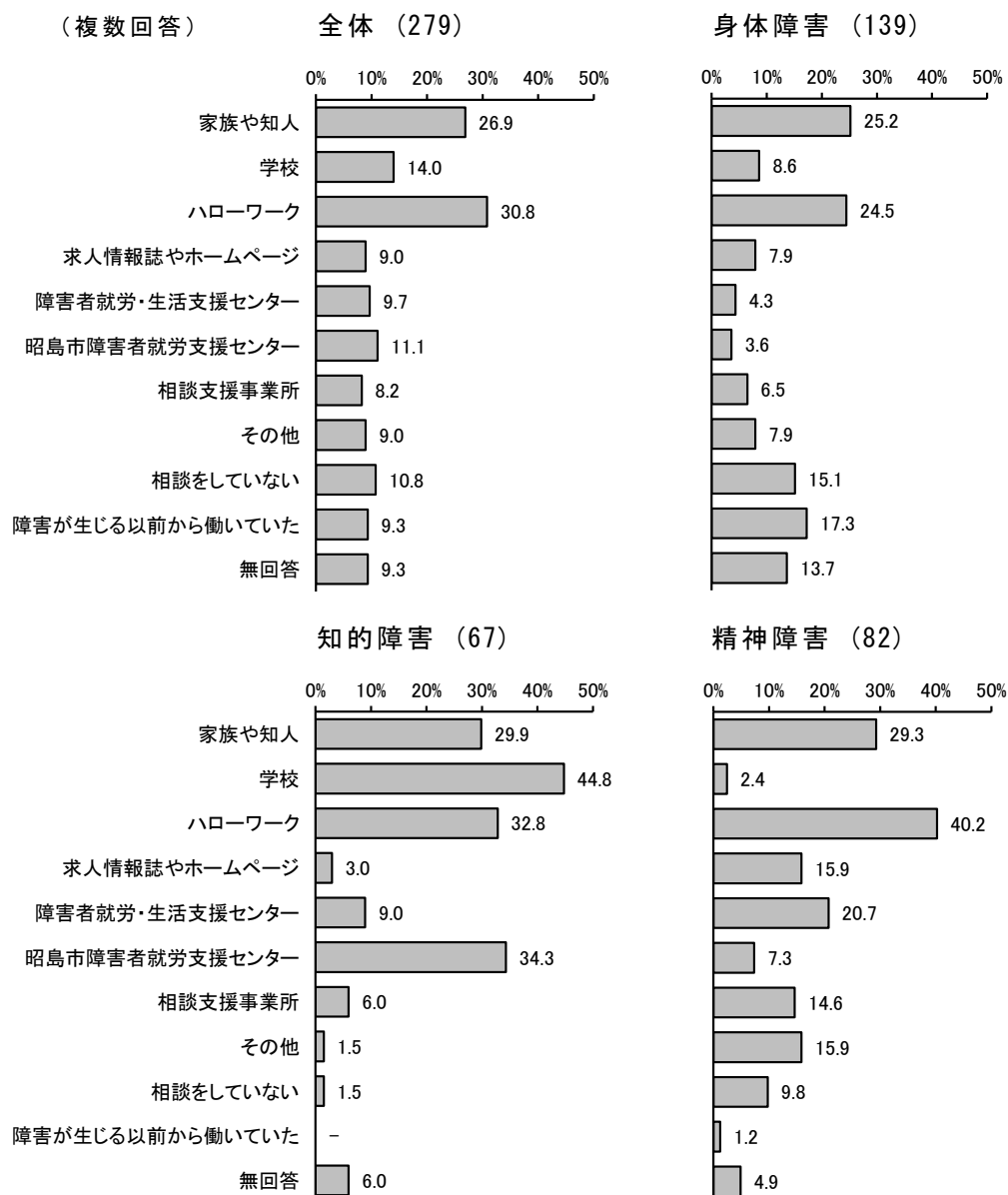
問 20 働いていると回答した方にお聞きします。あなたが仕事を探す際、どのような人や場所に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「ハローワーク」が30.8%と最も多く、次いで「家族や知人」が26.9%、「学校」が14.0%、「昭島市障害者就労支援センター（チャレンジステーションクジラ）」が11.1%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「家族や知人」が25.2%で最も多くなっているほか、「障害が生じる以前から働いていた」が17.3%と他の障害に比べて多くなっています。

知的障害では「学校」が44.8%で最も多くなっているほか、「昭島市障害者就労支援センター（チャレンジステーションクジラ）」が34.3%と他の障害に比べて多くなっています。

精神障害では「障害者就労・生活支援センター」が20.7%と他の障害に比べて多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果

障害種別ごとに性別による違いを見ると、身体障害の男性では「ハローワーク」が26.1%で最も多くなっています。

知的障害の女性では「昭島市障害者就労支援センター（チャレンジステーションクジラ）」が「学校」とともに40.0%で最も多くなっています。

精神障害の女性では「家族や知人」が36.7%で最も多くなっています。また、男性では「ハローワーク」（46.2%）が女性に比べて多くなっています。

●仕事を探す際に相談した人や場所（性別）

		回答者数（人）	家族や知人	学校	ハローワーク	求人情報誌やホームページ	障害者就労・生活支援センター	昭島市障害者就労支援センター	相談支援事業所	その他	相談をしていない	障害が生じる以前から働いていた	%
全体		279	26.9	14.0	30.8	9.0	9.7	11.1	8.2	9.0	10.8	9.3	9.3
身体障害	全体	139	25.2	8.6	24.5	7.9	4.3	3.6	6.5	7.9	15.1	17.3	13.7
	男性	92	23.9	6.5	26.1	8.7	5.4	4.3	4.3	9.8	15.2	18.5	10.9
	女性	47	27.7	12.8	21.3	6.4	2.1	2.1	10.6	4.3	14.9	14.9	19.1
	女性	47	27.7	12.8	21.3	6.4	2.1	2.1	10.6	4.3	14.9	14.9	19.1
知的障害	全体	67	29.9	44.8	32.8	3.0	9.0	34.3	6.0	1.5	1.5	—	6.0
	男性	42	28.6	47.6	33.3	2.4	11.9	31.0	7.1	2.4	—	—	7.1
	女性	25	32.0	40.0	32.0	4.0	4.0	40.0	4.0	—	4.0	—	4.0
精神障害	全体	82	29.3	2.4	40.2	15.9	20.7	7.3	14.6	15.9	9.8	1.2	4.9
	男性	52	25.0	3.8	46.2	17.3	23.1	9.6	13.5	17.3	11.5	—	3.8
	女性	30	36.7	—	30.0	13.3	16.7	3.3	16.7	13.3	6.7	3.3	6.7

日中の過ごし方による違いを見ると、“正規の職員・従業員として働いている”と“パート・アルバイト等で働いている”では「ハローワーク」が最も多く、“自宅で働いている”では「相談をしていない」が27.6%で最も多く、“福祉的就労をしている”では「家族や知人」と「相談支援事業所」がそれぞれ25.0%で最も多くなっています。

●仕事を探す際に相談した人や場所（日中の過ごし方別）

		回答者数（人）	家族や知人	学校	ハローワーク	求人情報誌やホームページ	障害者就労・生活支援センター	昭島市障害者就労支援センター	相談支援事業所	その他	相談をしていない	障害が生じる以前から働いていた	%
全体		279	26.9	14.0	30.8	9.0	9.7	11.1	8.2	9.0	10.8	9.3	9.3
日中の過ごし方	正規の職員・従業員	89	29.2	18.0	39.3	4.5	4.5	11.2	3.4	6.7	12.4	16.9	6.7
	パート・アルバイト	93	31.2	10.8	38.7	15.1	11.8	11.8	3.2	8.6	8.6	4.3	6.5
	自宅で働いている	29	10.3	—	6.9	6.9	10.3	—	—	10.3	27.6	20.7	24.1
	福祉的就労	68	25.0	19.1	19.1	7.4	13.2	14.7	25.0	11.8	4.4	1.5	10.3

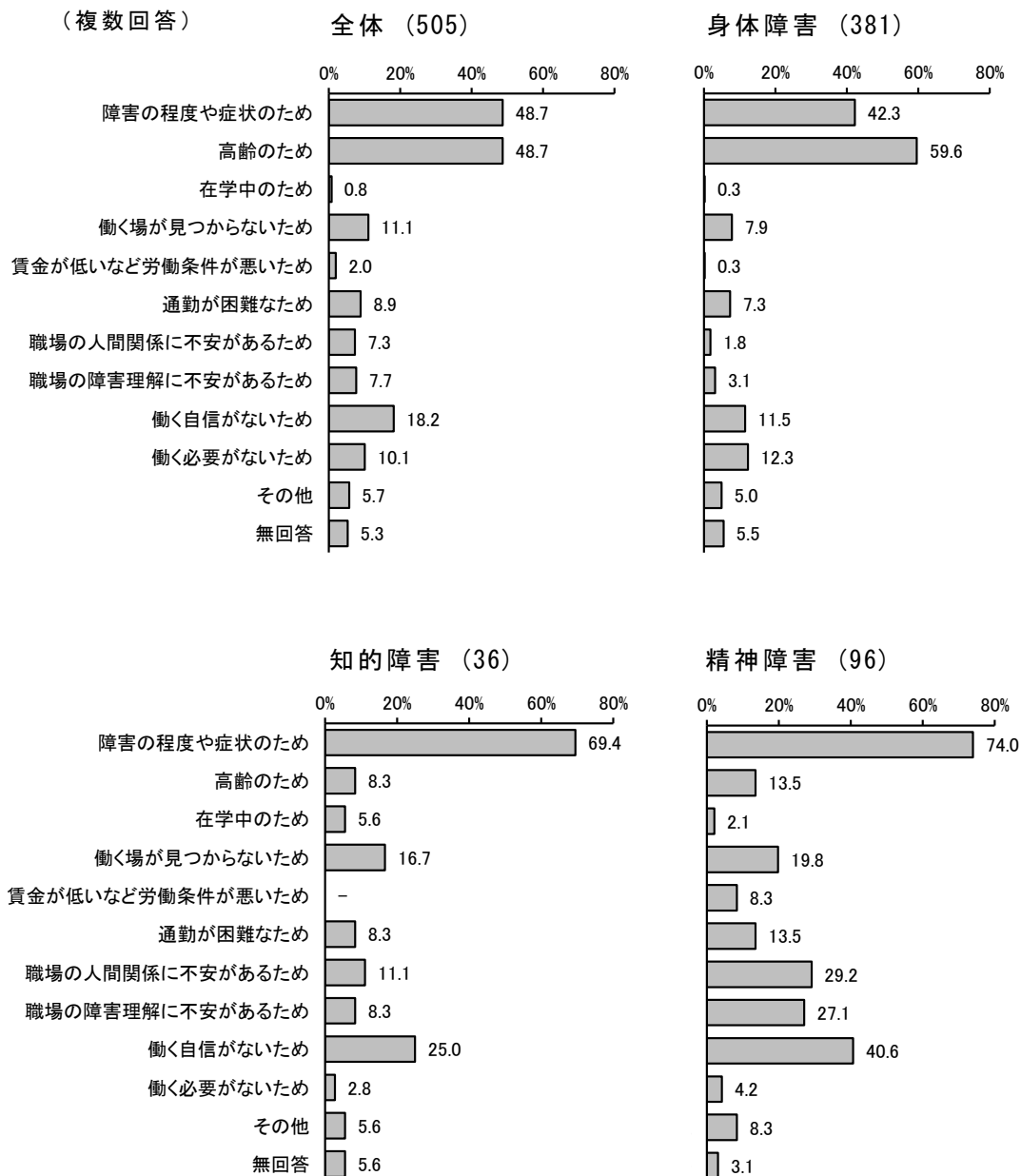
(4) 働いていない理由

問 21 働いていない方にお聞きします。あなたが働いていない理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

全体では、「障害の程度や症状のため」と「高齢のため」がそれぞれ48.7%と最も多く、次いで「働く自信がないため」が18.2%、「働く場が見つからないため」が11.1%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「高齢のため」が59.6%で最も多く、知的障害と精神障害では「障害の程度や症状のため」が最も多くなっています。

また、精神障害では「職場の人間関係に不安があるため」(29.2%)、「職場の障害理解に不安があるため」(27.1%)、「働く自信がないため」(40.6%)が他の障害に比べて多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果

障害種別ごとに年齢による違いを見ると、身体障害の40～64歳では「障害の程度や症状のため」が66.7%で最も多くなっているほか、65歳以上では「高齢のため」が72.1%と他の年齢に比べて多くなっています。

精神障害の40歳未満では「働く場が見つからないため」(32.0%)と「通勤が困難なため」(28.0%)が他の年齢に比べて多くなっています。また、40～64歳では「障害の程度や症状のため」(81.8%)が80%台に達して多くなっています。

●働いていない理由（年齢別）

		回答者数（人）	障害の程度や症状のため	高齢のため	在学中のため	働く場が見つからないため	賃金が低いなど労働条件が悪いため	通勤が困難なため	職場の人間関係に不安があるため	職場の障害理解に不安があるため	働く自信がないため	働く必要がないため	その他	無回答	%
全体		505	48.7	48.7	0.8	11.1	2.0	8.9	7.3	7.7	18.2	10.1	5.7	5.3	
身体障害	全体	381	42.3	59.6	0.3	7.9	0.3	7.3	1.8	3.1	11.5	12.3	5.0	5.5	
	40歳未満	9	77.8	-	11.1	-	-	11.1	-	-	22.2	11.1	11.1	-	
	40～64歳	78	66.7	19.2	-	19.2	-	14.1	9.0	14.1	26.9	10.3	6.4	-	
	65歳以上	294	34.7	72.1	-	5.1	0.3	5.4	-	0.3	7.1	12.9	4.4	7.1	
	全体	36	69.4	8.3	5.6	16.7	-	8.3	11.1	8.3	25.0	2.8	5.6	5.6	
知的障害	40歳未満	21	76.2	-	9.5	14.3	-	9.5	9.5	9.5	28.6	4.8	9.5	4.8	
	40～64歳	10	60.0	-	-	20.0	-	-	20.0	10.0	20.0	-	-	10.0	
	65歳以上	5	60.0	60.0	-	20.0	-	20.0	-	-	20.0	-	-	-	
	全体	96	74.0	13.5	2.1	19.8	8.3	13.5	29.2	27.1	40.6	4.2	8.3	3.1	
精神障害	40歳未満	25	68.0	-	8.0	32.0	8.0	28.0	36.0	36.0	52.0	-	16.0	4.0	
	40～64歳	55	81.8	7.3	-	18.2	9.1	10.9	32.7	27.3	45.5	1.8	7.3	3.6	
	65歳以上	16	56.3	56.3	-	6.3	6.3	-	6.3	12.5	6.3	18.8	-	-	
	全体	96	74.0	13.5	2.1	19.8	8.3	13.5	29.2	27.1	40.6	4.2	8.3	3.1	

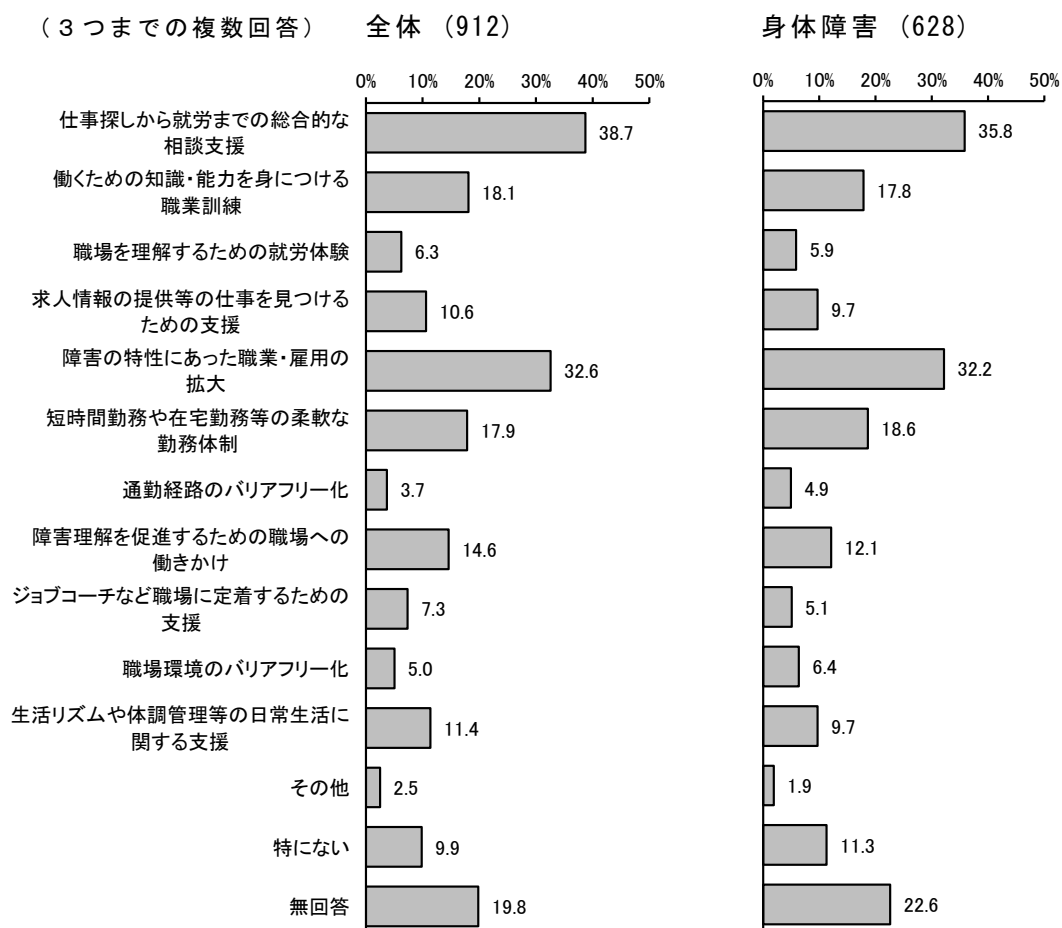
※身体障害の“40歳未満”、知的障害の“40～64歳”“65歳以上”、精神障害の“65歳以上”は回答者数が少ないため、参考値となります。

(5) 働くために必要な支援

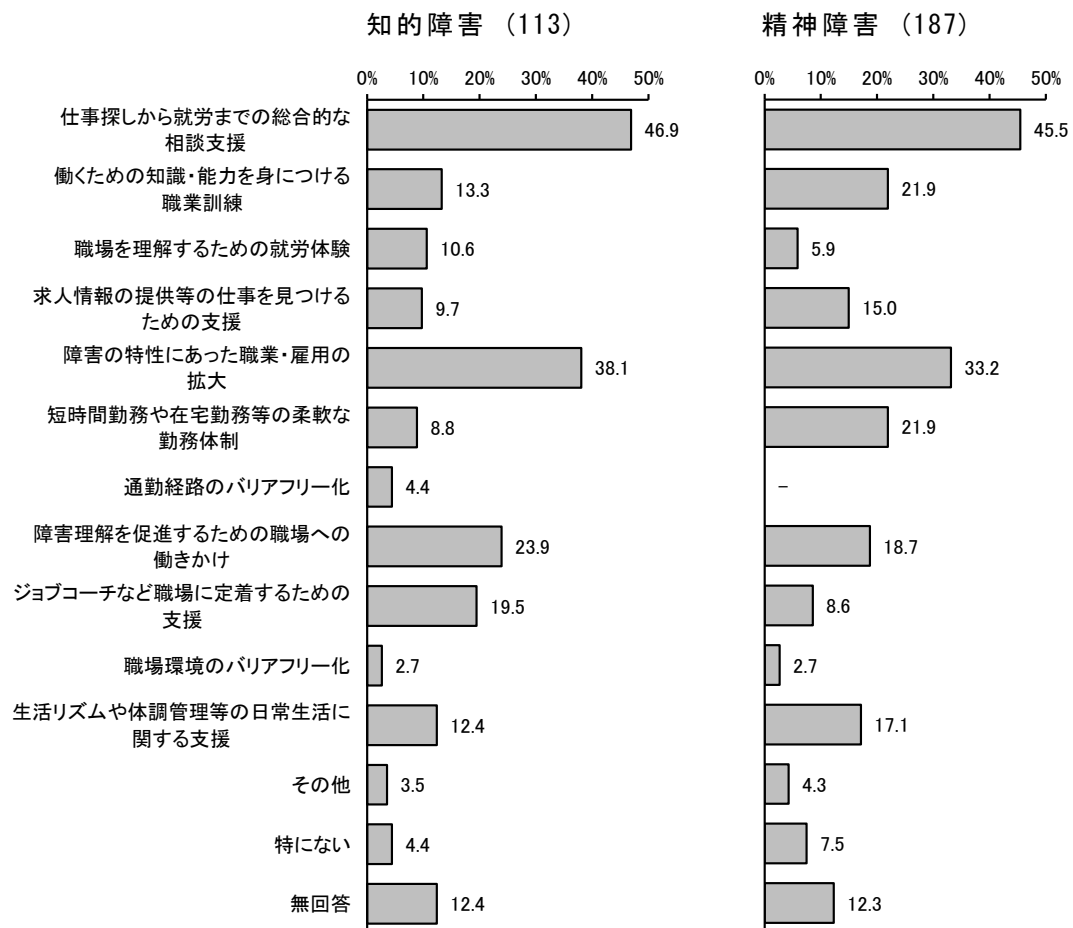
問 22 あなたは、障害のある人が働くためにはどのような支援が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

全体では、「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」が38.7%と最も多く、次いで「障害の特性にあった職業・雇用の拡大」が32.6%、「働くための知識・能力を身につける職業訓練」が18.1%、「短時間勤務や在宅勤務等の柔軟な勤務体制」が17.9%と続いています。

障害別に見ると、知的障害と精神障害では「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」が身体障害に比べて多くなっています。また、知的障害では「ジョブコーチなど職場に定着するための支援」が19.5%と他の障害に比べて多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果



障害種別ごとに年齢による違いを見ると、身体障害の40歳未満では「障害の特性にあった職業・雇用の拡大」が51.9%で最も多くなっています。

また、40歳未満と40～64歳では「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」が他の年齢に比べて多くなっているほか、40歳未満では「働くための知識・能力を身につける職業訓練」(25.9%)、「通勤経路のバリアフリー化」(22.2%)と「障害理解を促進するための職場への働きかけ」(33.3%)、「ジョブコーチなど職場に定着するための支援」(14.8%)が、40～64歳では「短時間勤務や在宅勤務等の柔軟な勤務体制」(27.6%)が他の年齢に比べて多くなっています。

知的障害の40歳未満では「ジョブコーチなど職場に定着するための支援」(28.6%)が、40～64歳では「障害の特性にあった職業・雇用の拡大」(45.7%)が他の年齢に比べて多くなっています。

精神障害の40歳未満では「働くための知識・能力を身につける職業訓練」(31.6%)が他の年齢に比べて多くなっています。

●働くために必要な支援（年齢別）

%

		回答者数（人）	仕事探しから就労までの総合的な相談支援	働くための知識・能力を身につける職業訓練	職場を理解するための就労体験	求人情報の提供等の仕事を見つけるための支援	障害の特性にあった職業・雇用の拡大	短時間勤務や在宅勤務等の柔軟な勤務体制	通勤経路のバリアフリー化	障害理解を促進するための職場への働きかけ	ジョブコーチなど職場に定着するための支援	職場環境のバリアフリー化	生活リズムや体調管理等の日常生活に関する支援	その他	特にない	無回答
	全体	912	38.7	18.1	6.3	10.6	32.6	17.9	3.7	14.6	7.3	5.0	11.4	2.5	9.9	19.8
身体障害	全体	628	35.8	17.8	5.9	9.7	32.2	18.6	4.9	12.1	5.1	6.4	9.7	1.9	11.3	22.6
	40歳未満	27	48.1	25.9	11.1	14.8	51.9	14.8	22.2	33.3	14.8	14.8	3.7	3.7	-	7.4
	40～64歳	156	48.1	16.7	8.3	16.0	35.9	27.6	7.1	12.8	5.1	8.3	12.8	2.6	5.8	11.5
	65歳以上	445	30.8	17.8	4.7	7.2	29.7	15.7	3.1	10.6	4.5	5.2	9.0	1.6	13.9	27.4
知的障害	全体	113	46.9	13.3	10.6	9.7	38.1	8.8	4.4	23.9	19.5	2.7	12.4	3.5	4.4	12.4
	40歳未満	70	47.1	12.9	12.9	10.0	34.3	10.0	5.7	27.1	28.6	1.4	11.4	4.3	5.7	10.0
	40～64歳	35	48.6	14.3	8.6	11.4	45.7	8.6	2.9	20.0	5.7	2.9	14.3	2.9	-	14.3
	65歳以上	8	37.5	12.5	-	-	37.5	-	-	12.5	-	12.5	12.5	-	12.5	25.0
精神障害	全体	187	45.5	21.9	5.9	15.0	33.2	21.9	-	18.7	8.6	2.7	17.1	4.3	7.5	12.3
	40歳未満	57	50.9	31.6	3.5	19.3	36.8	21.1	-	22.8	14.0	-	12.3	1.8	1.8	10.5
	40～64歳	111	44.1	16.2	8.1	13.5	31.5	22.5	-	18.0	7.2	4.5	19.8	2.7	9.9	14.4
	65歳以上	19	36.8	26.3	-	10.5	31.6	21.1	-	10.5	-	-	15.8	21.1	10.5	5.3

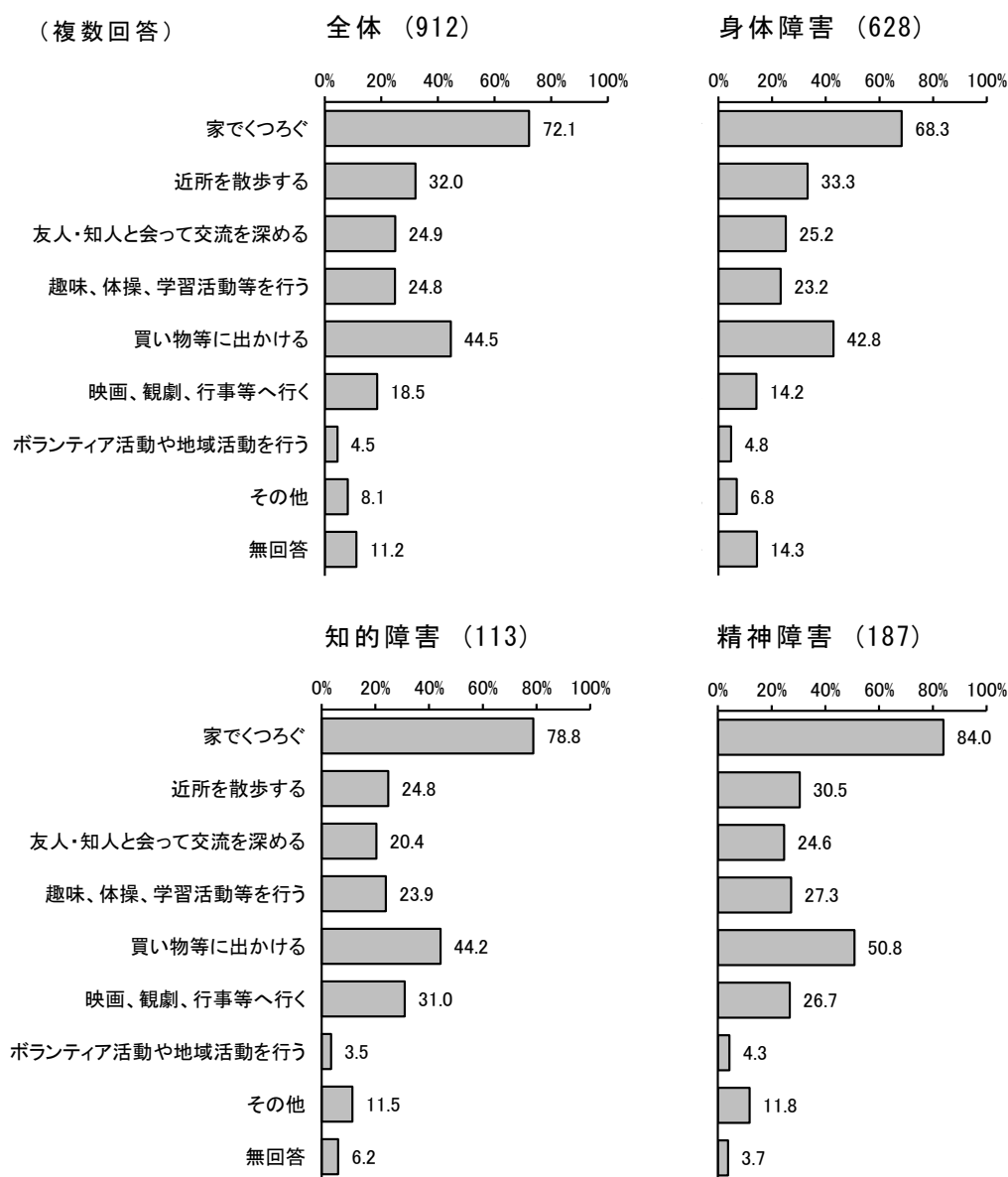
※知的障害の“65歳以上”、精神障害の“65歳以上”は回答者数が少ないため、参考値となります。

(6) 余暇の過ごし方

問 23 あなたは仕事や学校以外の自由な時間をどのように過ごしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

全体では、「家でくつろぐ」が72.1%と最も多く、次いで「買い物等に出かける」が44.5%、「近所を散歩する」が32.0%、「友人・知人と会って交流を深める」が24.9%と続いています。

障害別に見ると、知的障害と精神障害では「映画、観劇、行事等へ行く」が身体障害に比べて多くなっているほか、精神障害では「家でくつろぐ」(84.0%)が80%台に達して多くなっています。



障害種別ごとに性別による違いをみると、身体障害の男性では「近所を散歩する」（38.2％）が女性に比べて多くなっているのに対し、女性では「友人・知人と会って交流を深める」（33.2％）と「買い物等に出かける」（46.6％）が男性に比べて多くなっています。

知的障害の男性では「家でくつろぐ」（85.9％）、「近所を散歩する」（29.7％）、「趣味、体操、学習活動等を行う」（29.7％）、「映画、観劇、行事等へ行く」（34.4％）が女性に比べて多くなっているのに対し、女性では「買い物等に出かける」（53.1％）が男性に比べて多くなっています。

精神障害の男性では「家でくつろぐ」（88.0％）が女性に比べて多くなっています。

●余暇の過ごし方（性別）

											%	
		回答者数（人）	家でくつろぐ	近所を散歩する	友人・知人と会って 交流を深める	趣味、体操、学習 活動等を行う	買い物等に出かける	映画、観劇、行事等 へ行く	ボランティア活動や 地域活動を行う	その他	無回答	
		全体	912	72.1	32.0	24.9	24.8	44.5	18.5	4.5	8.1	11.2
身体障害		全体	628	68.3	33.3	25.2	23.2	42.8	14.2	4.8	6.8	14.3
		男性	319	67.7	38.2	17.6	23.8	39.5	14.4	4.7	5.0	15.7
		女性	307	69.1	28.3	33.2	22.8	46.6	14.0	4.9	8.8	12.7
知的障害		全体	113	78.8	24.8	20.4	23.9	44.2	31.0	3.5	11.5	6.2
		男性	64	85.9	29.7	20.3	29.7	37.5	34.4	3.1	10.9	3.1
		女性	49	69.4	18.4	20.4	16.3	53.1	26.5	4.1	12.2	10.2
精神障害		全体	187	84.0	30.5	24.6	27.3	50.8	26.7	4.3	11.8	3.7
		男性	92	88.0	32.6	26.1	27.2	52.2	26.1	5.4	8.7	2.2
		女性	94	79.8	27.7	22.3	27.7	48.9	26.6	3.2	14.9	5.3

第2章 18歳以上の方の調査結果

障害種別ごとに年齢による違いを見ると、いずれの障害も40歳未満では「映画、観劇、行事等へ行く」が他の年齢に比べて多くなっているほか、知的障害の40歳未満では「家でくつろぐ」（88.6％）が、精神障害の40歳未満では「趣味、体操、学習活動等を行う」（40.4％）が他の年齢に比べて多くなっています。

また、身体障害では「家でくつろぐ」と「友人・知人と会って交流を深める」は年齢が上がるにつれて減少するのに対し、「近所を散歩する」は年齢が上がるにつれて増加しています。

●余暇の過ごし方（年齢別）

%											
		回答者数（人）	家でくつろぐ	近所を散歩する	友人・知人と会って交流を深める	趣味、体操、学習活動等を行う	買い物等に出かける	映画、観劇、行事等へ行く	ボランティア活動や地域活動を行う	その他	無回答
全体		912	72.1	32.0	24.9	24.8	44.5	18.5	4.5	8.1	11.2
身体障害	全体	628	68.3	33.3	25.2	23.2	42.8	14.2	4.8	6.8	14.3
	40歳未満	27	92.6	18.5	40.7	25.9	51.9	44.4	7.4	7.4	7.4
	40～64歳	156	75.0	23.7	28.8	23.7	51.9	17.3	3.2	8.3	7.1
	65歳以上	445	64.5	37.5	22.9	22.9	39.1	11.2	5.2	6.3	17.3
知的障害	全体	113	78.8	24.8	20.4	23.9	44.2	31.0	3.5	11.5	6.2
	40歳未満	70	88.6	22.9	22.9	27.1	44.3	37.1	4.3	11.4	1.4
	40～64歳	35	68.6	25.7	20.0	20.0	48.6	25.7	－	14.3	8.6
	65歳以上	8	37.5	37.5	－	12.5	25.0	－	12.5	－	37.5
精神障害	全体	187	84.0	30.5	24.6	27.3	50.8	26.7	4.3	11.8	3.7
	40歳未満	57	84.2	29.8	24.6	40.4	57.9	33.3	5.3	17.5	1.8
	40～64歳	111	83.8	27.0	24.3	20.7	49.5	24.3	4.5	9.0	4.5
	65歳以上	19	84.2	52.6	26.3	26.3	36.8	21.1	－	10.5	5.3

※知的障害の“65歳以上”、精神障害の“65歳以上”は回答者数が少ないため、参考値となります。

(7) 生活満足度

問 24 あなたは、次の日常生活のそれぞれの項目について、どの程度満足していますか。（それぞれあてはまるもの1つに○）

ここでは、「満足」と「どちらかと言えば満足」を合わせた割合を『満足』、「不満」と「どちらかと言えば不満」を合わせた割合を『不満』として計上しています。

総合評価（生活全般について）は『満足』が53.0%、『不満』が20.0%となっています。

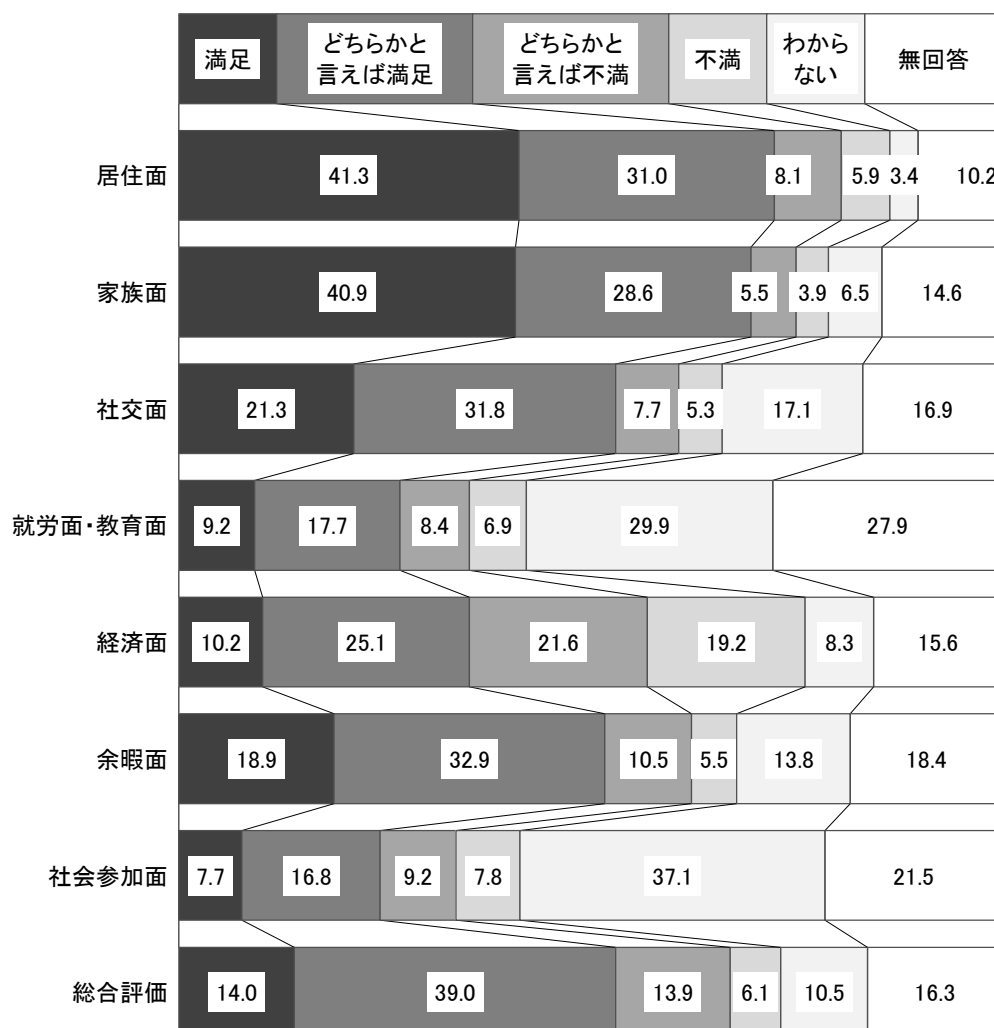
経済面（収入や生計に関すること）を除いたすべての項目で『満足』が『不満』を上回っており、特に居住面（住んでいる家や自室について）と家族面（家族との関係について）では『満足』が70%前後を占めています。

一方、経済面（収入や生計について）は『不満』が40.8%と『満足』（35.3%）を上回っています。

なお、就労面・教育面（仕事や学校生活について）と社会参加面（社会活動への参加について）では「わからない」が最も多くなっています。

総数=912

%

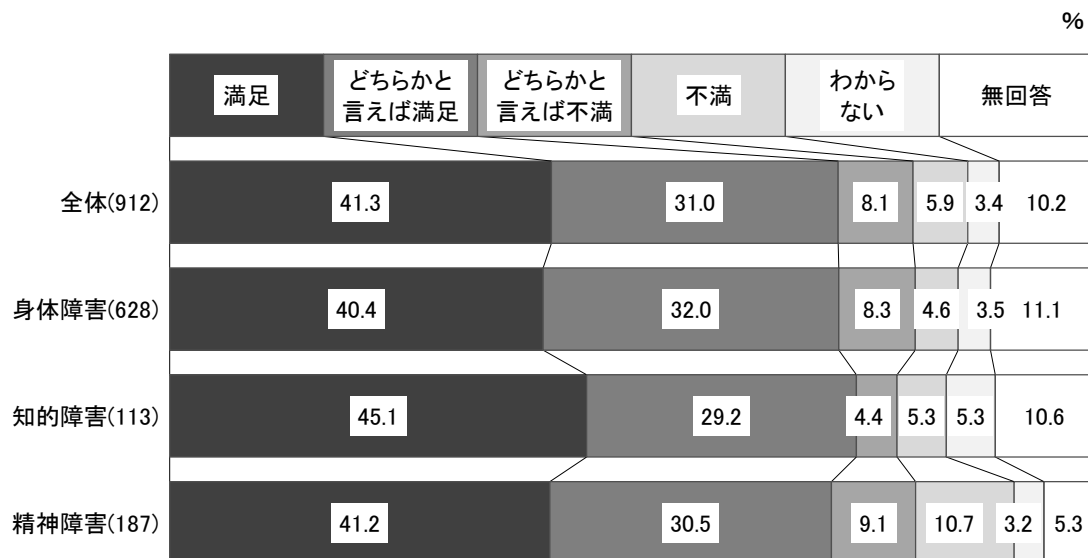


第2章 18歳以上の方の調査結果

①居住面（住んでいる家や自室について）

全体では、『満足』が72.3%、『不満』が14.0%、「わからない」が3.4%となっています。

障害別の結果に大きな変化はありませんでした。



住まいの形態別に見ると、“民間賃貸住宅（一戸建て）”と“民間賃貸住宅（集合住宅）”では『不満』が30%を超えて多くなっています。

●居住面（住まいの形態別）

%

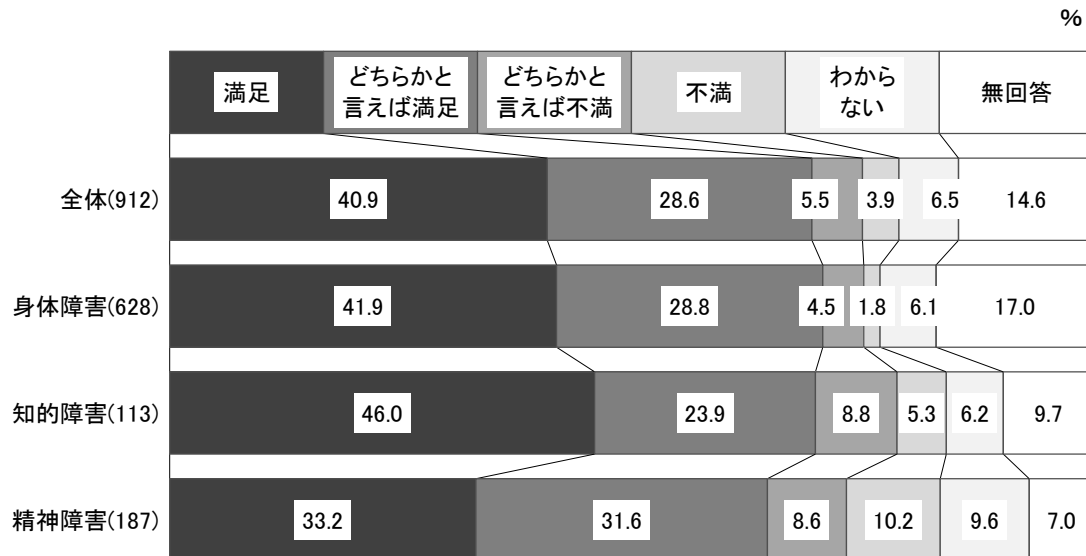
		回答者数 (人)	満足	どちらか 言えば満 足	どちらか 言えば不 満	不満	わ か ら な い	無 回 答
全体		912	41.3	31.0	8.1	5.9	3.4	10.2
住 ま い の 形 態	持家（一戸建て）	378	54.0	29.1	6.1	1.9	2.1	6.9
	持家（集合住宅）	125	44.0	37.6	7.2	—	4.0	7.2
	民間賃貸住宅（一戸建て）	24	20.8	25.0	20.8	16.7	4.2	12.5
	民間賃貸住宅（集合住宅）	117	24.8	31.6	12.8	20.5	6.0	4.3
	公営住宅（都営・市営）	141	33.3	36.9	7.1	5.7	2.8	14.2
	公社・公団賃貸住宅	49	30.6	32.7	10.2	14.3	2.0	10.2
	グループホーム	8	25.0	62.5	—	12.5	—	—
	その他	25	24.0	24.0	16.0	8.0	12.0	16.0

※グループホームは回答者数が少ないため、参考値となります。

②家族面（家族との関係について）

全体では、『満足』が69.5%、『不満』が9.4%、「わからない」が6.5%となっています。

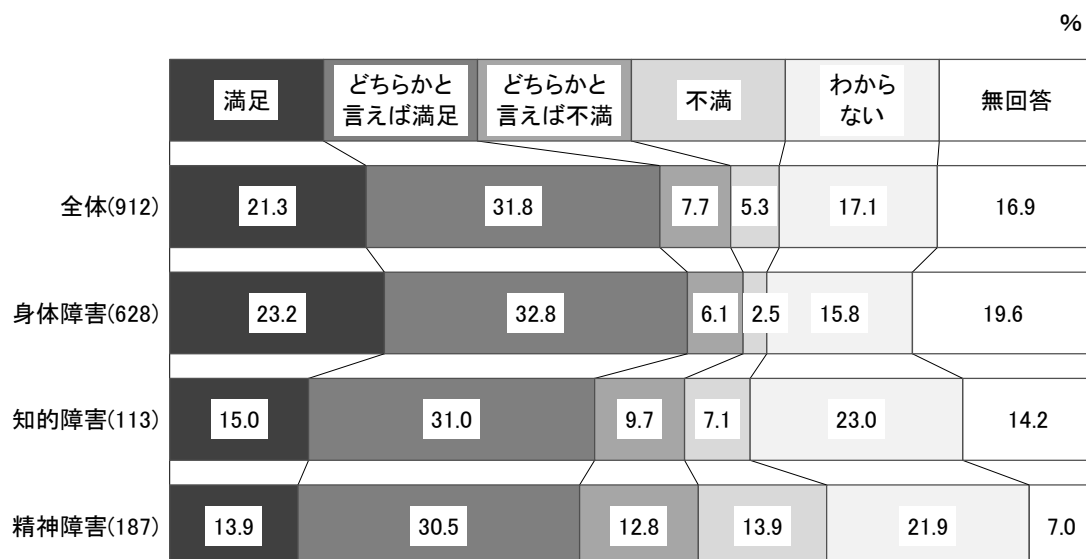
障害別に見ると、精神障害では「満足」が33.2%と他の障害に比べて少なくなっています。



③社交面（友人等との関係について）

全体では、『満足』が53.1%、『不満』が13.0%、「わからない」が17.1%となっています。

障害別に見ると、精神障害では『不満』が26.7%と他の障害に比べて多くなっています。

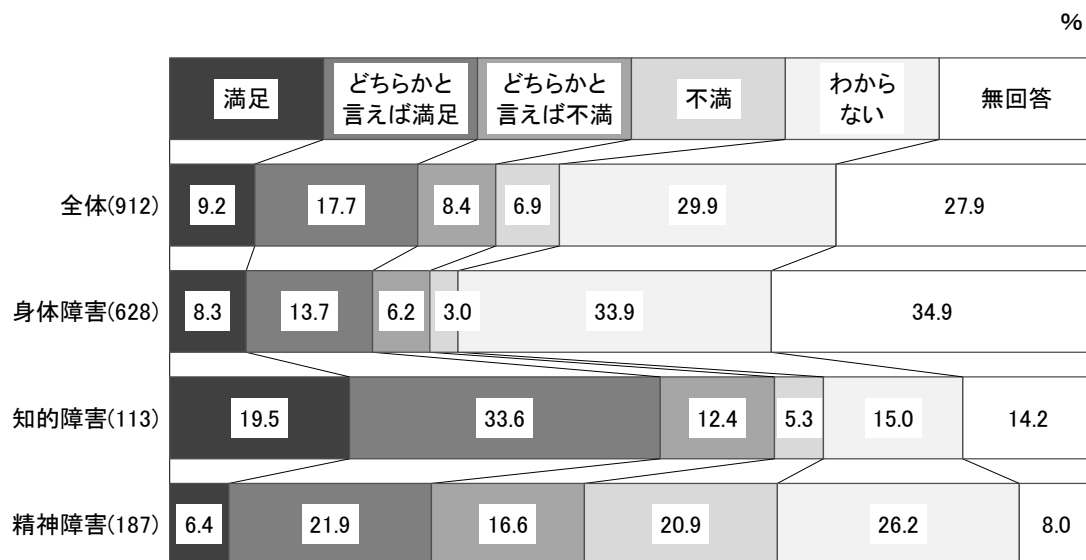


第2章 18歳以上の方の調査結果

④就労面・教育面（仕事や学校生活について）

全体では、『満足』が26.9%、『不満』が15.3%、「わからない」が29.9%となっています。

障害別に見ると、知的障害では『満足』が53.1%と他の障害に比べて多くなっています。一方、精神障害では『不満』が37.5%と『満足』（28.3%）を上回っています。



日中の過ごし方による違いを見ると、“正規の職員・従業員として働いている”“パート・アルバイト等で働いている”“福祉的就労をしている”では『満足』が60%を超えて多くなっています。

●就労面・教育面（日中の過ごし方別）

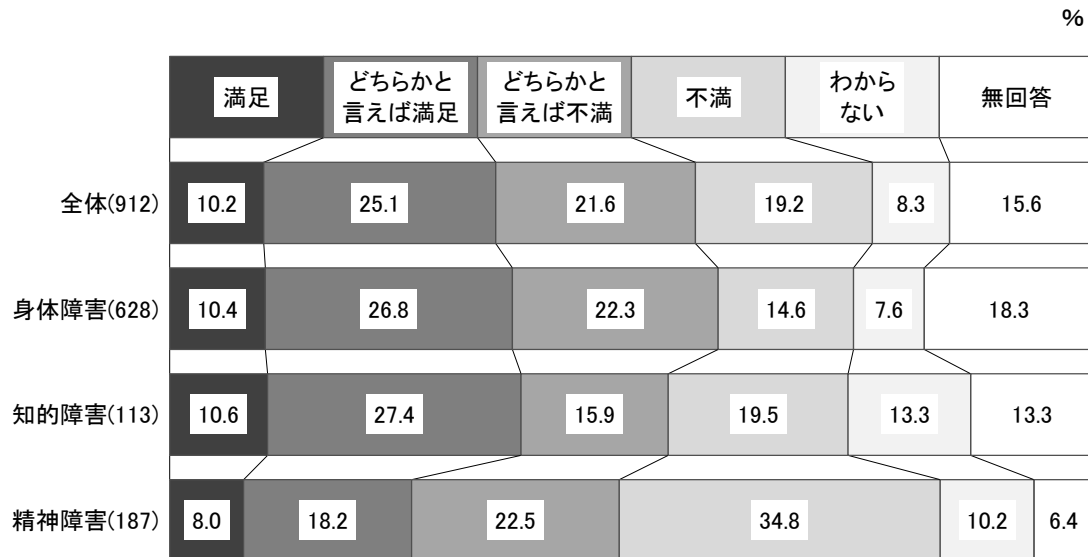
%

		回答者数 (人)	満足	どちらか 言えば満足	どちらか 言えば不満	不満	わからない	無回答
全体		912	9.2	17.7	8.4	6.9	29.9	27.9
日中の 過ごし方	正規の職員・従業員	89	31.5	32.6	13.5	4.5	10.1	7.9
	パート・アルバイト	93	17.2	44.1	21.5	9.7	5.4	2.2
	自宅で働いている	29	24.1	31.0	6.9	10.3	13.8	13.8
	福祉的就労	68	19.1	47.1	14.7	8.8	4.4	5.9
	現在は働いていない	424	3.1	7.1	6.4	7.8	47.9	27.8
	働いたことはない	81	6.2	11.1	4.9	4.9	45.7	27.2

⑤経済面（収入や生計について）

全体では、『満足』が35.3%、『不満』が40.8%、「わからない」が8.3%となっています。

障害別に見ると、身体障害と知的障害では『満足』が『不満』を上回っています。一方、精神障害では『不満』が57.3%と他の障害に比べて多くなっています。



主な収入による違いを見ると、“給与・賃金”では『満足』が48.5%と『不満』(40.9%)を上回っています。

●経済面（主な収入別）

%

		回答者数 (人)	満足	どちらか 言えば満足	どちらか 言えば不満	不満	わからない	無回答
全体		912	10.2	25.1	21.6	19.2	8.3	15.6
主な収入	給与・賃金	132	15.2	33.3	24.2	16.7	4.5	6.1
	事業収入（自営業等）	17	5.9	47.1	11.8	5.9	11.8	17.6
	年金・手当	439	8.9	23.7	19.8	17.5	8.4	21.6
	生活保護費	70	5.7	20.0	22.9	18.6	11.4	21.4
	ご家族の給与・賃金・年金等	178	11.2	24.2	22.5	23.6	10.7	7.9
	その他	14	7.1	7.1	35.7	35.7	7.1	7.1

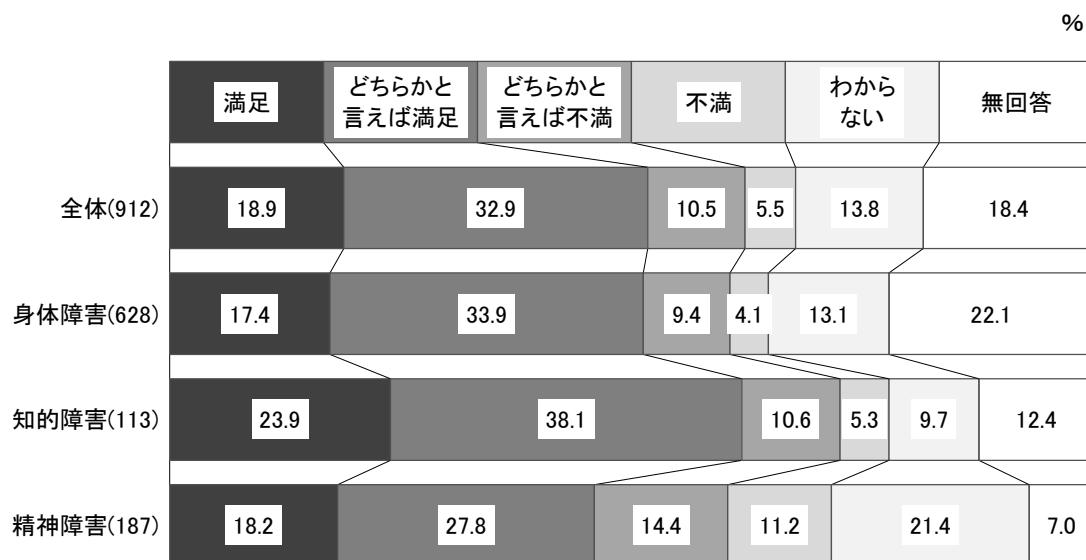
※事業収入（自営業等）、その他は回答者数が少ないため、参考値となります。

第2章 18歳以上の方の調査結果

⑥余暇面（余暇や趣味について）

全体では、『満足』が51.8%、『不満』が16.0%、「わからない」が13.8%となっています。

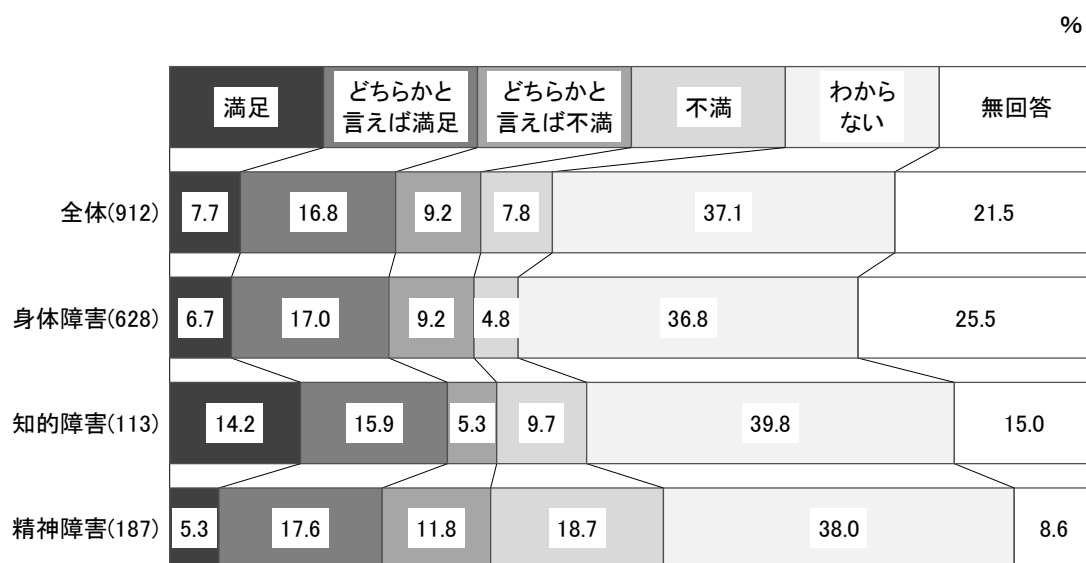
障害別に見ると、知的障害では『満足』が62.0%と他の障害に比べて多くなっています。一方、精神障害では『不満』が25.6%と他の障害に比べて多くなっています。



⑦社会参加面（社会活動への参加について）

全体では、『満足』が24.5%、『不満』が17.0%、「わからない」が37.1%となっています。

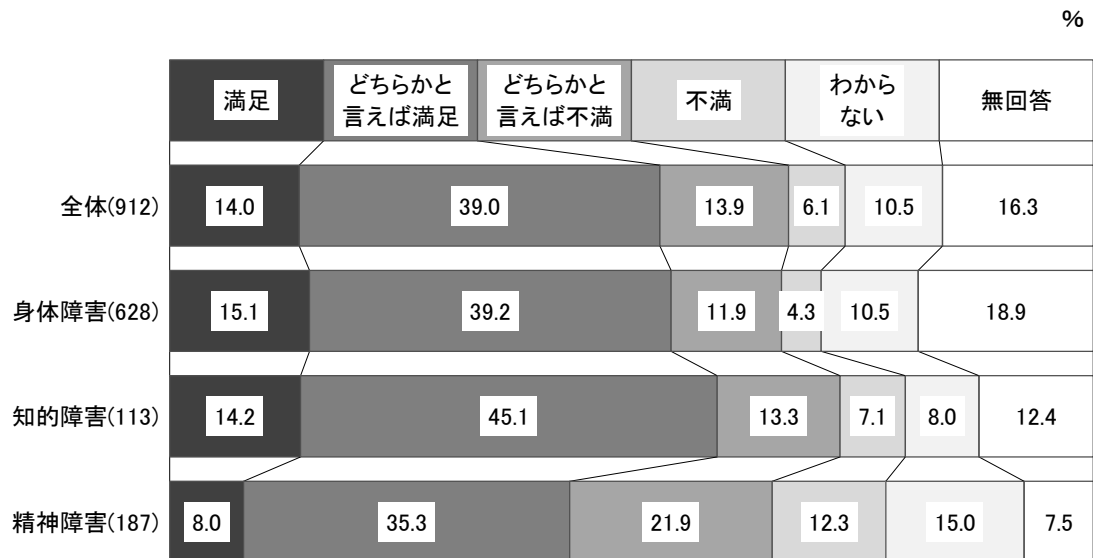
障害別に見ると、精神障害では『不満』が30.5%と『満足』（22.9%）を上回っています。



⑧総合評価（生活全般について）

全体では、『満足』が53.0%、『不満』が20.0%、「わからない」が10.5%となっています。

障害別に見ると、精神障害では『不満』が34.2%と他の障害に比べて多くなっています。



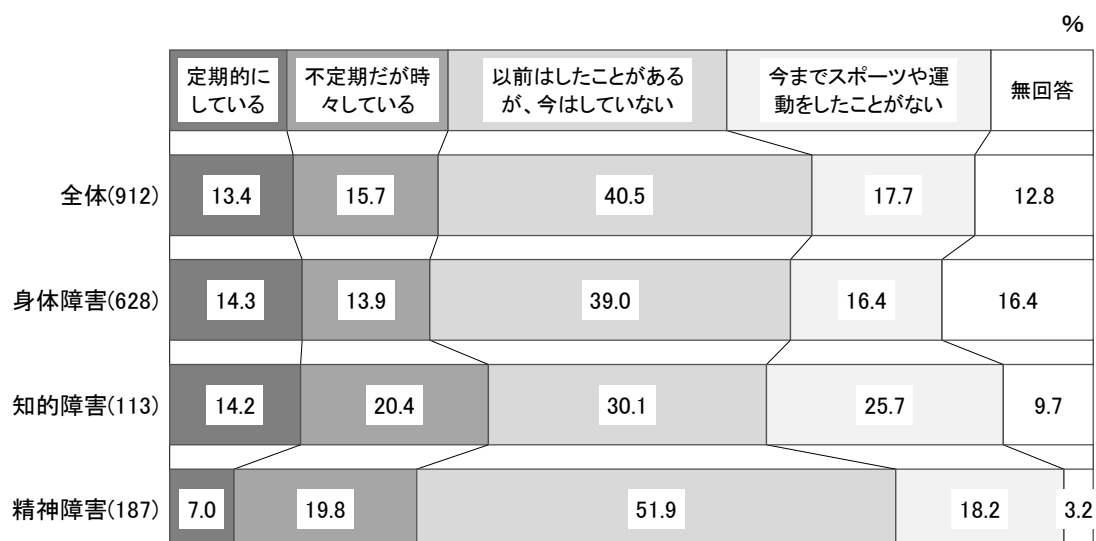
7 スポーツ・運動について

(1) スポーツや運動を行っているか

問 25 あなたは日頃、(学校等での授業を除き) スポーツや運動を行っていますか。
(○は1つ)

全体では、「以前はしたことがあるが、今はしていない」が40.5%と最も多く、次いで「今までスポーツや運動をしたことがない」が17.7%、「不定期だが時々している」が15.7%、「定期的にしている」が13.4%と続いています。

障害別に見ると、精神障害では「以前はしたことがあるが、今はしていない」が51.9%と他の障害に比べて多くなっています。



障害種別ごとに年齢による違いを見ると、知的障害の40～64歳では「不定期だが時々している」が「以前はしたことがあるが、今はしていない」とともに25.7%で最も多くなっています。

また、身体障害と精神障害の40歳未満では「不定期だが時々している」が他の年齢に比べて多くなっています。

●スポーツや運動を行っているか（年齢別）

							%
		回答者数（人）	定期的 にしている	不定期 だが時々 している	以前は したことが あるが、 今はして いない	今まで スポーツや 運動を しな かった	無 回 答
全体		912	13.4	15.7	40.5	17.7	12.8
身体 障害	全体	628	14.3	13.9	39.0	16.4	16.4
	40歳未満	27	—	29.6	40.7	18.5	11.1
	40～64歳	156	13.5	16.0	44.2	20.5	5.8
	65歳以上	445	15.5	12.1	37.1	14.8	20.4
知的 障害	全体	113	14.2	20.4	30.1	25.7	9.7
	40歳未満	70	15.7	20.0	32.9	27.1	4.3
	40～64歳	35	8.6	25.7	25.7	22.9	17.1
	65歳以上	8	25.0	—	25.0	25.0	25.0
精神 障害	全体	187	7.0	19.8	51.9	18.2	3.2
	40歳未満	57	8.8	24.6	50.9	15.8	—
	40～64歳	111	6.3	15.3	55.0	18.0	5.4
	65歳以上	19	5.3	31.6	36.8	26.3	—

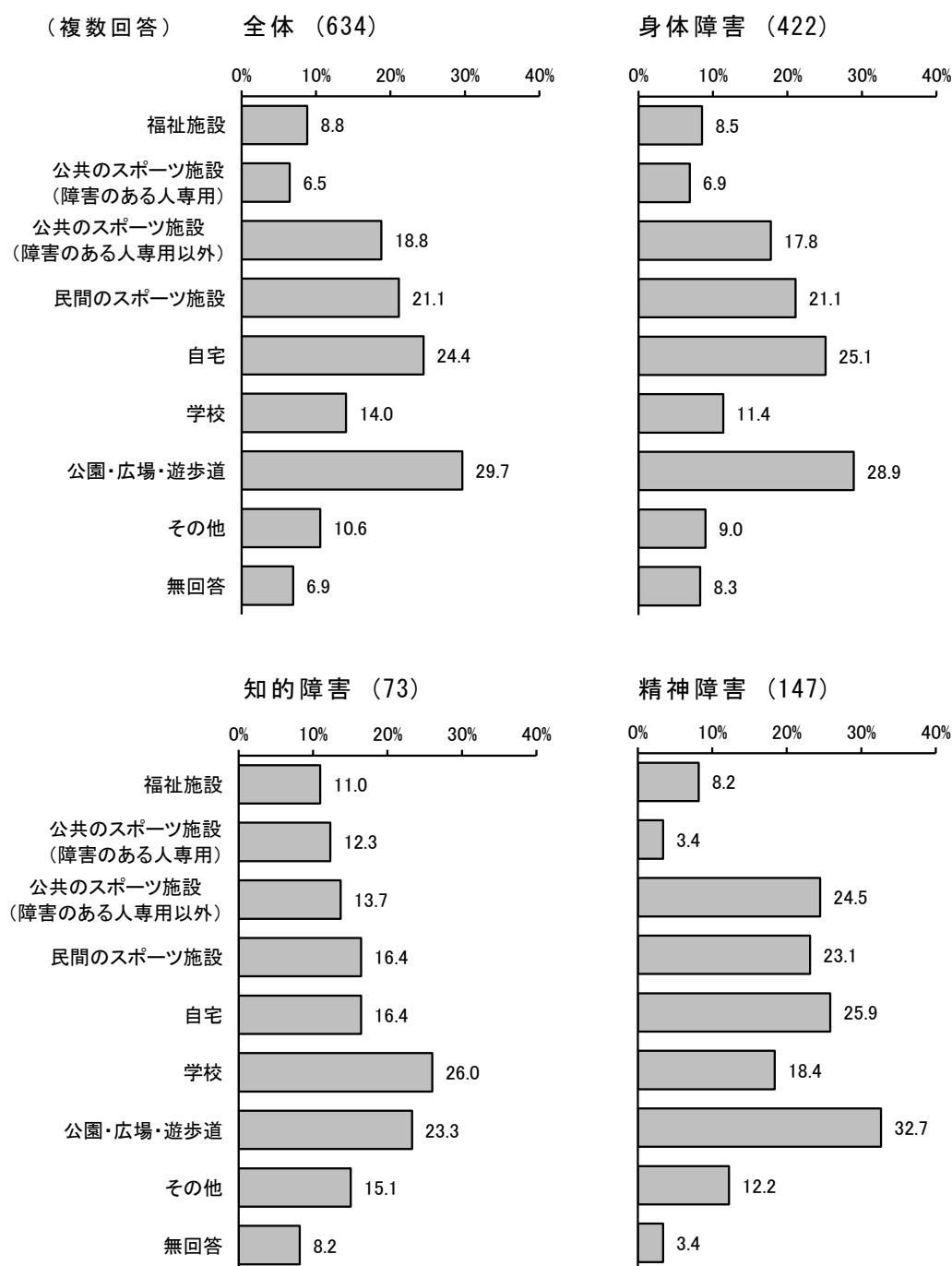
※知的障害の“65歳以上”、精神障害の“65歳以上”は回答者数が少ないため、参考値となります。

(2) スポーツや運動を行っている場所

問 26 スポーツや運動をしている方、または、したことがある方にお聞きします。
 あなたが、スポーツや運動を行った場所はどこですか。
 (あてはまるものすべてに○)

全体では、「公園・広場・遊歩道」が29.7%と最も多く、次いで「自宅」が24.4%、「民間のスポーツ施設」が21.1%、「公共のスポーツ施設（障害のある人専用以外）」が18.8%と続いています。

障害別に見ると、知的障害では「学校」が26.0%で最も多くなっています。



障害種別ごとに年齢による違いを見ると、身体障害の40～64歳では「公共のスポーツ施設(障害のある人専用以外)」が26.1%で最も多くなっているほか、「学校」(16.5%)が他の年齢に比べて多くなっています。また、65歳以上では「公園・広場・遊歩道」(31.3%)が他の年齢に比べて多くなっています。

知的障害の40歳未満では「自宅」(22.9%)と「学校」(31.3%)が他の年齢に比べて多くなっています。

精神障害の40～64歳では「民間のスポーツ施設」が28.2%と他の年齢に比べて多くなっています。

●スポーツや運動を行っている場所（年齢別）

%											
		回答者数（人）	福祉施設	公共のスポーツ施設 （障害のある人専用）	公共のスポーツ施設 （障害のある人専用以外）	民間のスポーツ施設	自宅	学校	公園・広場・遊歩道	その他	無回答
全体		634	8.8	6.5	18.8	21.1	24.4	14.0	29.7	10.6	6.9
身体障害	全体	422	8.5	6.9	17.8	21.1	25.1	11.4	28.9	9.0	8.3
	40歳未満	19	5.3	15.8	21.1	21.1	26.3	47.4	31.6	－	10.5
	40～64歳	115	7.0	7.0	26.1	21.7	22.6	16.5	22.6	9.6	8.7
	65歳以上	288	9.4	6.3	14.2	20.8	26.0	6.9	31.3	9.4	8.0
	全体	73	11.0	12.3	13.7	16.4	16.4	26.0	23.3	15.1	8.2
知的障害	40歳未満	48	6.3	14.6	12.5	18.8	22.9	31.3	25.0	12.5	6.3
	40～64歳	21	14.3	4.8	19.0	14.3	4.8	19.0	19.0	23.8	14.3
	65歳以上	4	50.0	25.0	－	－	－	－	25.0	－	－
	全体	147	8.2	3.4	24.5	23.1	25.9	18.4	32.7	12.2	3.4
精神障害	40歳未満	48	6.3	6.3	29.2	18.8	29.2	22.9	37.5	10.4	4.2
	40～64歳	85	5.9	2.4	22.4	28.2	22.4	18.8	30.6	11.8	3.5
	65歳以上	14	28.6	－	21.4	7.1	35.7	－	28.6	21.4	－

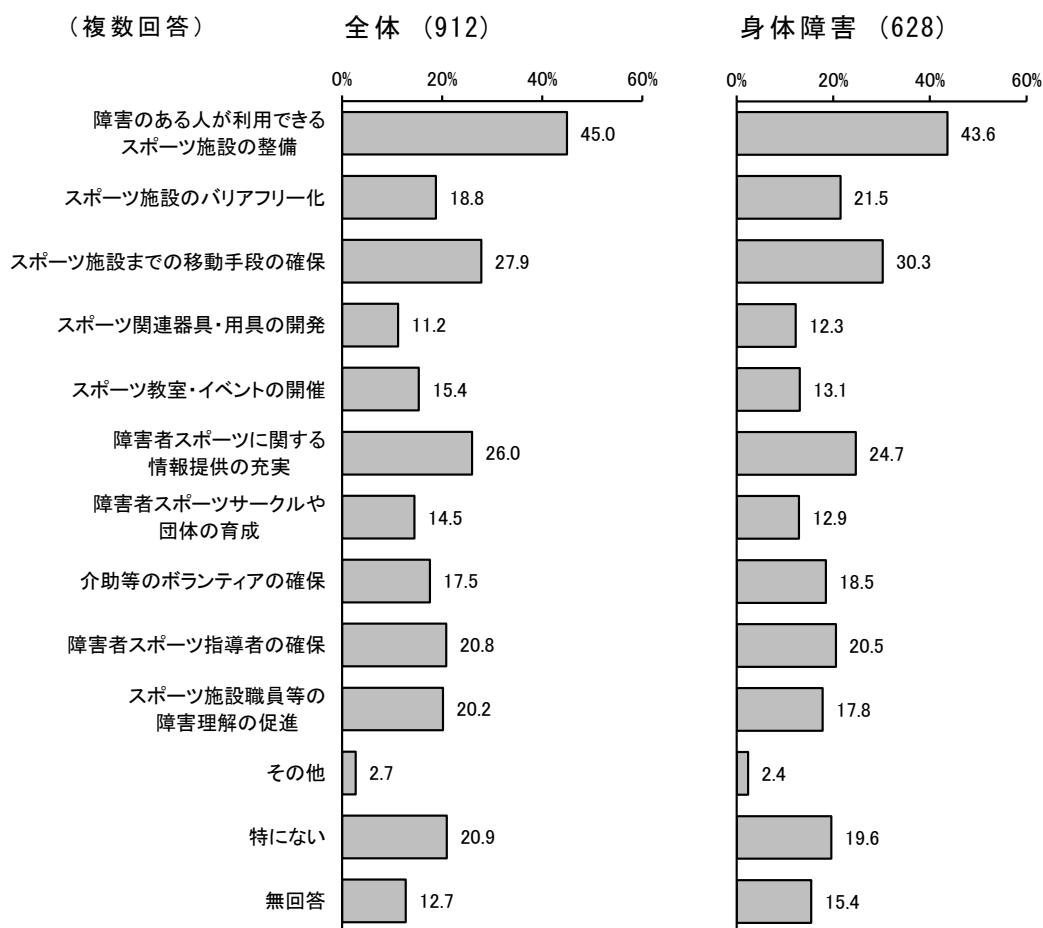
※身体障害の“40歳未満”、知的障害の“65歳以上”、精神障害の“65歳以上”は回答者数が少ないため、参考値となります。

(3) スポーツや運動を行う上で必要なこと

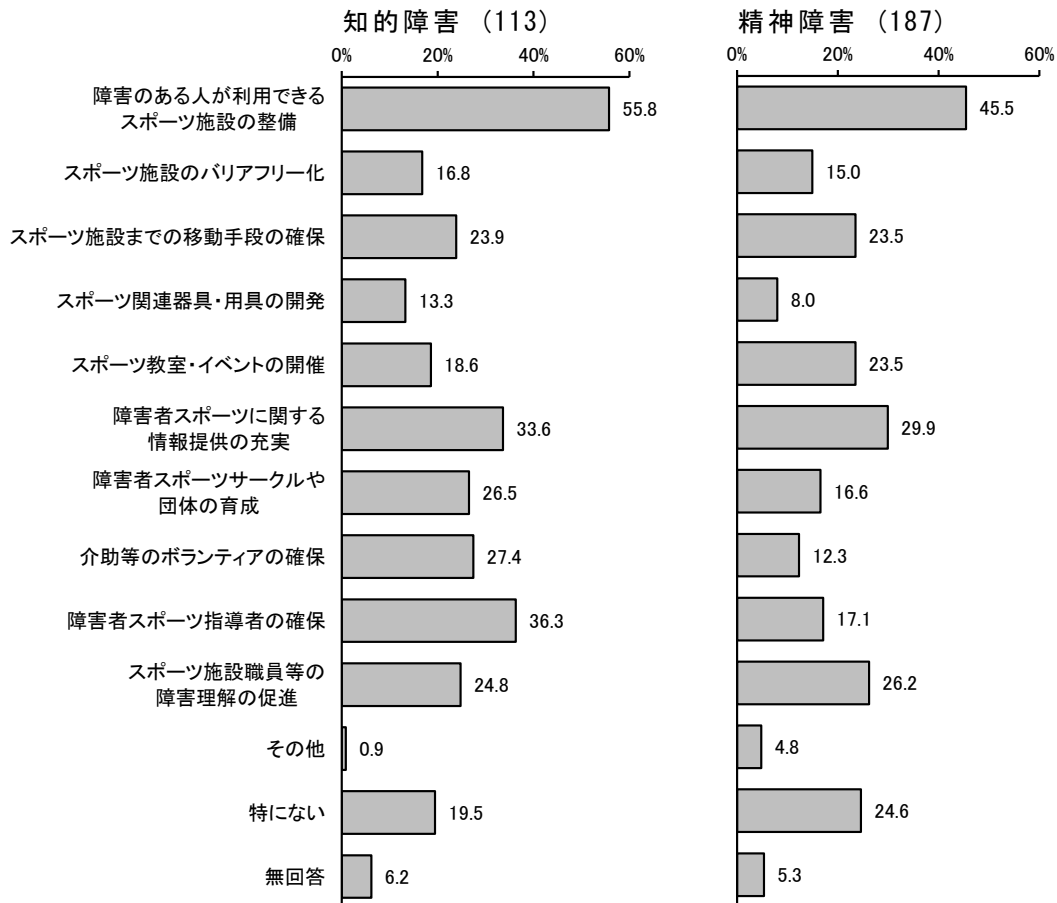
問 27 あなたは、障害のある人がスポーツや運動を行う上でどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「障害のある人が利用できるスポーツ施設の整備」が45.0%と最も多く、次いで「スポーツ施設までの移動手段の確保」が27.9%、「障害者スポーツに関する情報提供の充実」が26.0%、「障害者スポーツ指導者の確保」が20.8%と続いています。なお、「特にない」が20.9%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「障害のある人が利用できるスポーツ施設の整備」(55.8%)、「障害者スポーツサークルや団体の育成」(26.5%)、「障害者スポーツ指導者の確保」(36.3%)が他の障害に比べて多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果



障害種別ごとに年齢による違いを見ると、スポーツや運動を行う上で必要なこととして挙げた10項目のうち、身体障害の40歳未満ではすべての項目で、知的障害の40歳未満では7項目で回答割合が他の年齢に比べて多くなっています。

●スポーツや運動を行う上で必要なこと（年齢別）

															%
		回答者数（人）	障害のある人が利用できる スポーツ施設の整備	スポーツ施設の バリアフリー化	スポーツ施設までの 移動手段の確保	スポーツ関連器具・用具の 開発	スポーツ教室・イベントの 開催	障害者スポーツに関する 情報提供の充実	障害者スポーツサークルや 団体の育成	介助等のボランティアの 確保	障害者スポーツ指導者の 確保	スポーツ施設職員等の 障害理解の促進	その他	特にない	無回答
身体 障害	全体	912	45.0	18.8	27.9	11.2	15.4	26.0	14.5	17.5	20.8	20.2	2.7	20.9	12.7
	全体	628	43.6	21.5	30.3	12.3	13.1	24.7	12.9	18.5	20.5	17.8	2.4	19.6	15.4
	40歳未満	27	74.1	29.6	37.0	37.0	37.0	55.6	51.9	37.0	40.7	44.4	-	-	3.7
	40～64歳	156	41.0	28.8	30.8	12.2	15.4	29.5	16.0	23.1	26.9	17.3	1.9	21.8	6.4
	65歳以上	445	42.7	18.4	29.7	10.8	10.8	21.1	9.4	15.7	17.1	16.4	2.7	20.0	19.3
知的 障害	全体	113	55.8	16.8	23.9	13.3	18.6	33.6	26.5	27.4	36.3	24.8	0.9	19.5	6.2
	40歳未満	70	58.6	15.7	25.7	17.1	24.3	42.9	31.4	31.4	41.4	25.7	1.4	17.1	2.9
	40～64歳	35	54.3	17.1	25.7	5.7	11.4	22.9	20.0	22.9	31.4	25.7	-	25.7	5.7
	65歳以上	8	37.5	25.0	-	12.5	-	-	12.5	12.5	12.5	12.5	-	12.5	37.5
精神 障害	全体	187	45.5	15.0	23.5	8.0	23.5	29.9	16.6	12.3	17.1	26.2	4.8	24.6	5.3
	40歳未満	57	47.4	12.3	22.8	10.5	21.1	38.6	21.1	8.8	17.5	36.8	5.3	24.6	3.5
	40～64歳	111	43.2	16.2	23.4	6.3	25.2	27.0	15.3	11.7	16.2	24.3	1.8	27.0	5.4
	65歳以上	19	52.6	15.8	26.3	10.5	21.1	21.1	10.5	26.3	21.1	5.3	21.1	10.5	10.5

※知的障害の“65歳以上”、精神障害の“65歳以上”は回答者数が少ないため、参考値となります。

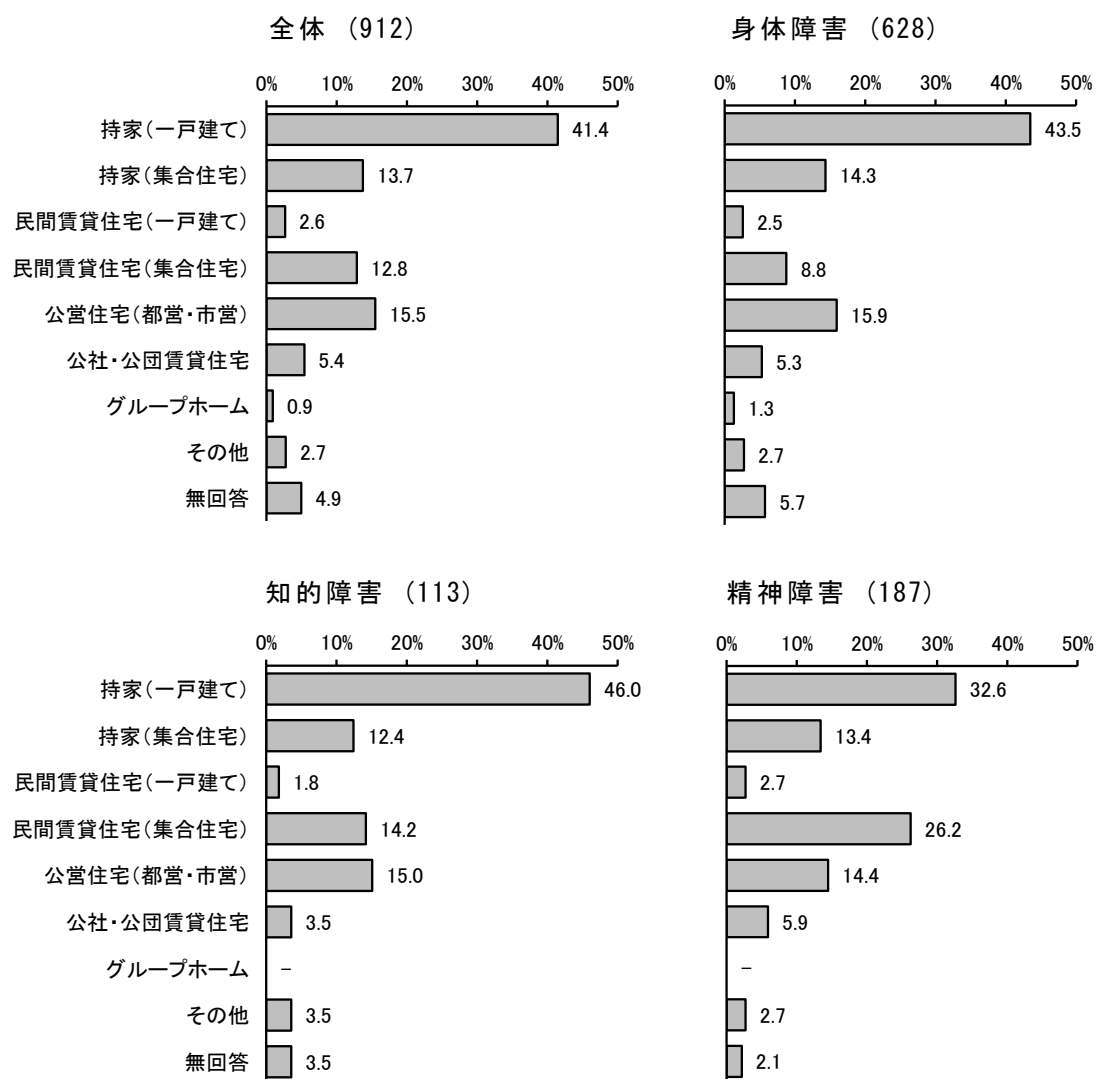
8 住まいについて

(1) 住まいの形態

問 32 現在、あなたはどのようなところにお住まいですか。(〇は1つ)

全体では、「持家（一戸建て）」が41.4%と最も多く、次いで「公営住宅（都営・市営）」が15.5%、「持家（集合住宅）」が13.7%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が12.8%と続いています。

障害別に見ると、精神障害では「持家（一戸建て）」が32.6%と他の障害に比べて少なくなっている一方で、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が26.2%と他の障害に比べて多くなっています。



障害種別ごとに世帯構成による違いを見ると、身体障害の“ひとり暮らし”では「公営住宅（都営・市営）」が33.6%で最も多くなっています。

また、身体障害と精神障害の“ひとり暮らし”では「民間賃貸住宅（集合住宅）」が、「家族と同居している」では「持家（一戸建て）」と「持家（集合住宅）」が他の世帯等に比べて多くなっています。

●住まいの形態（世帯構成別）

		%									
		回答者数（人）	（一戸建て） 持家	（集合住宅） 持家	民間賃貸住宅 （一戸建て）	民間賃貸住宅 （集合住宅）	（都営・市営） 公営住宅	公社・公団 賃貸住宅	グループホーム	その他	無回答
全体		912	41.4	13.7	2.6	12.8	15.5	5.4	0.9	2.7	4.9
身体障害	全体	628	43.5	14.3	2.5	8.8	15.9	5.3	1.3	2.7	5.7
	家族と同居している	471	51.6	16.8	2.5	5.9	11.9	4.7	0.2	1.9	4.5
	ひとり暮らし	128	21.1	7.8	2.3	17.2	33.6	7.0	-	1.6	9.4
	グループホームでの集団生活	10	-	-	-	10.0	-	-	70.0	20.0	-
知的障害	全体	113	46.0	12.4	1.8	14.2	15.0	3.5	-	3.5	3.5
	家族と同居している	101	50.5	12.9	2.0	12.9	13.9	4.0	-	1.0	3.0
	ひとり暮らし	6	16.7	-	-	33.3	50.0	-	-	-	-
	グループホームでの集団生活	1	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
精神障害	全体	187	32.6	13.4	2.7	26.2	14.4	5.9	-	2.7	2.1
	家族と同居している	133	41.4	17.3	2.3	13.5	15.8	6.0	-	1.5	2.3
	ひとり暮らし	48	10.4	4.2	4.2	58.3	12.5	6.3	-	2.1	2.1
	グループホームでの集団生活	-	*	*	*	*	*	*	*	*	*

※身体障害の“グループホームでの集団生活”、知的障害の“ひとり暮らし”“グループホームでの集団生活”は回答者数が少ないため、参考値となります。

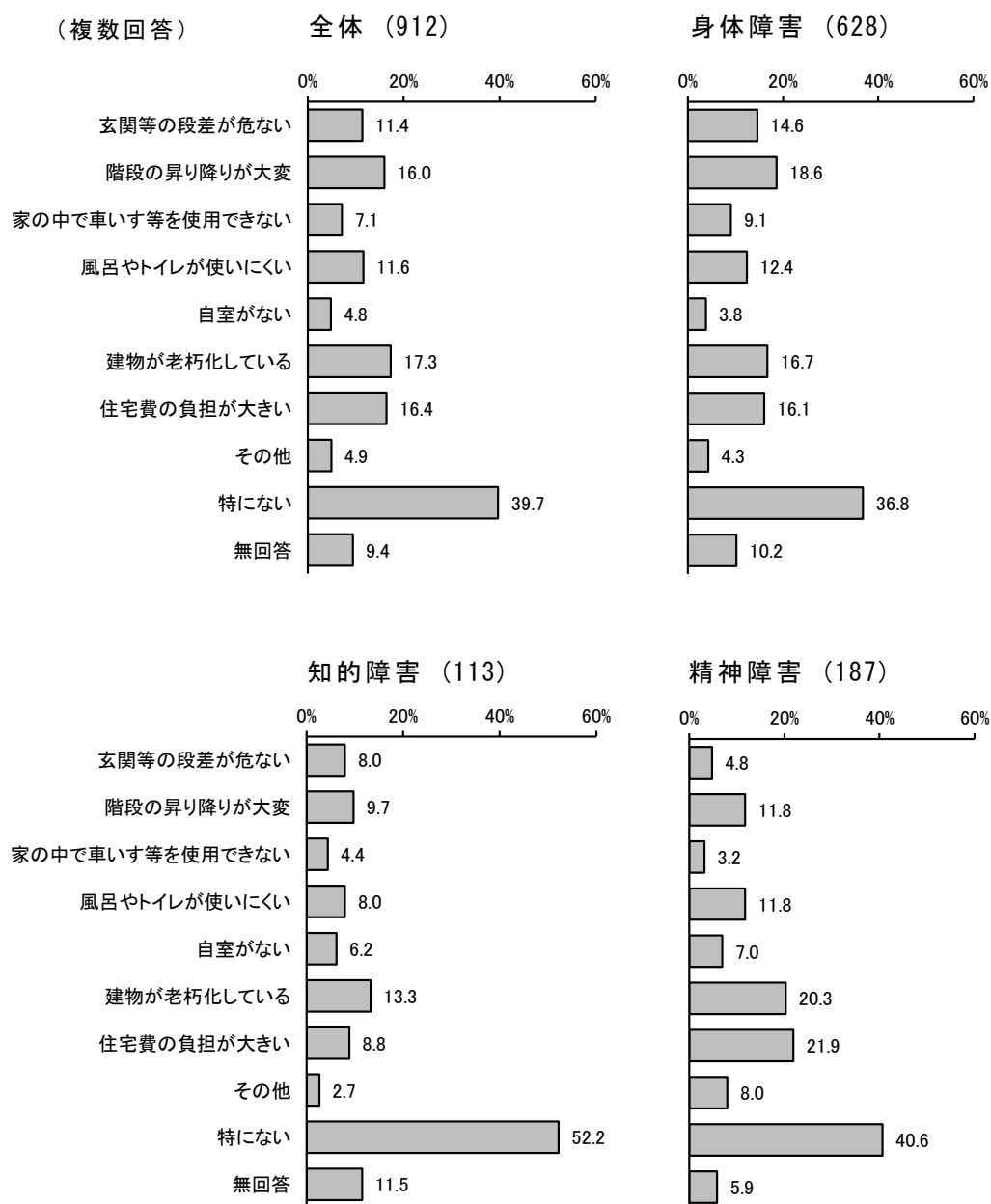
(2) 住まいについて困っていること

問 33 あなたが現在の住まいで困っていることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

全体では、「建物が老朽化している」が17.3%と多く、次いで「住宅費の負担が大きい」が16.4%、「階段の昇り降りが大変」が16.0%、「風呂やトイレが使いにくい」が11.6%と続いています。なお、「特にない」が39.7%と最も多くなっています。

障害別の結果に大きな変化はありませんでした。



住まいの形態による違いを見ると、“民間賃貸住宅（一戸建て）”“民間賃貸住宅（集合住宅）”“公社・公団賃貸住宅”では「住宅費の負担が大きい」が最も多くなっています。

また、“民間賃貸住宅（一戸建て）”では「自室がない」（16.7%）と「建物が老朽化している」（37.5%）が他の住まい等に比べて多くなっています。

●住まいについて困っていること（住まいの形態別）

%												
		回答者数（人）	玄関等の段差が危ない	階段の昇り降りが大変	廊下や出入口が狭く、家の中で車いす等を使用できない	風呂やトイレが使いにくい	自室がない	建物が老朽化している	住宅費の負担が大きい	その他	特にない	無回答
全体		912	11.4	16.0	7.1	11.6	4.8	17.3	16.4	4.9	39.7	9.4
住まいの形態	持家（一戸建て）	378	14.8	19.0	8.2	7.7	4.8	18.0	7.9	2.4	47.6	5.8
	持家（集合住宅）	125	4.8	12.0	7.2	8.0	4.0	14.4	12.0	5.6	46.4	7.2
	民間賃貸住宅（一戸建て）	24	16.7	12.5	4.2	20.8	16.7	37.5	50.0	4.2	12.5	8.3
	民間賃貸住宅（集合住宅）	117	12.0	17.9	4.3	17.1	6.8	23.1	41.9	6.0	27.4	3.4
	公営住宅（都営・市営）	141	9.9	14.9	5.0	15.6	3.5	9.9	12.1	9.2	39.7	11.3
	公社・公団賃貸住宅	49	8.2	16.3	12.2	24.5	6.1	24.5	40.8	4.1	26.5	12.2
	グループホーム	8	25.0	－	12.5	25.0	－	－	12.5	－	62.5	－
	その他	25	4.0	8.0	－	8.0	－	16.0	12.0	16.0	44.0	16.0

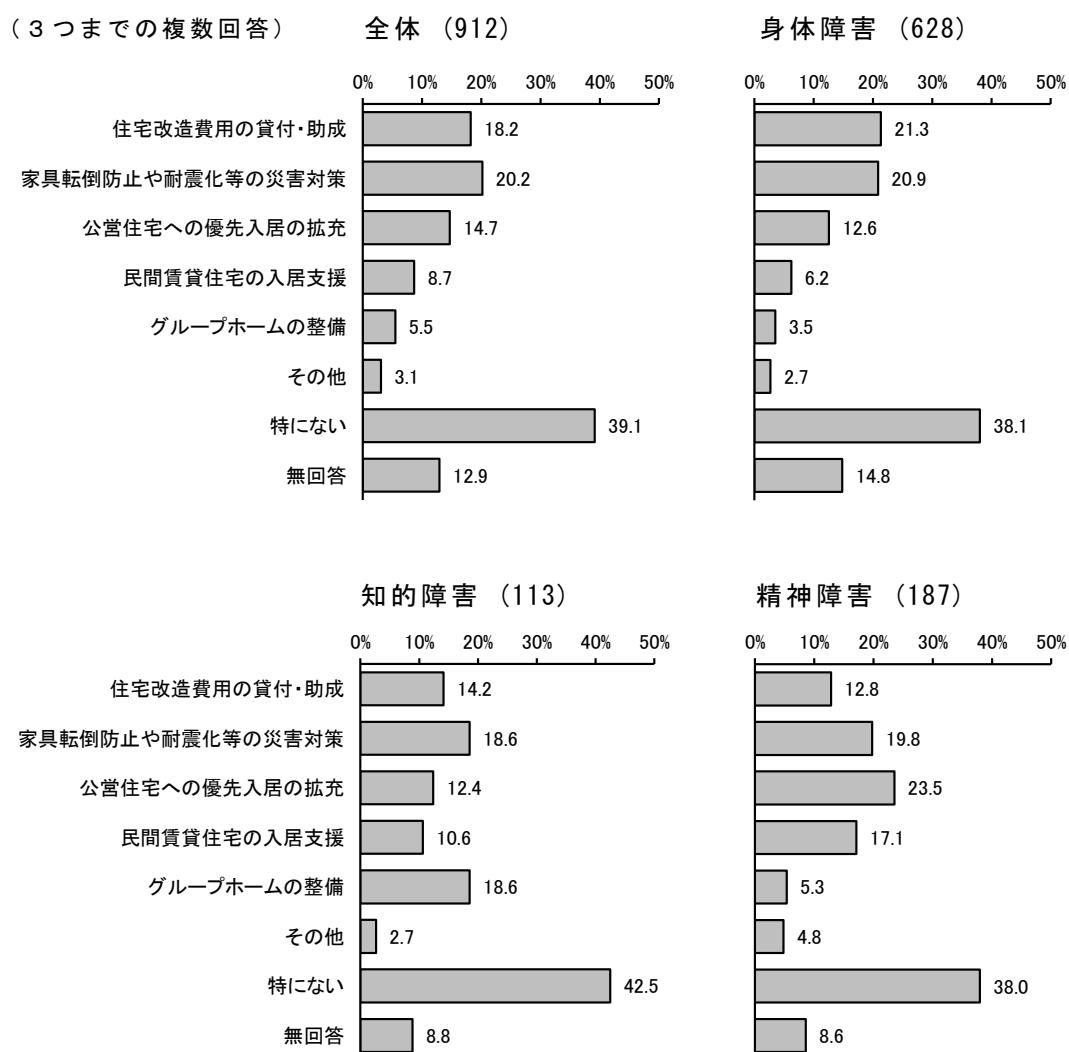
※グループホームは回答者数が少ないため、参考値となります。

(3) 住まいについて必要な支援

問 34 あなたは、住まいについてどのような支援が必要ですか。(〇は3つまで)

全体では、「家具転倒防止や耐震化等の災害対策」が20.2%と多く、次いで「住宅改造費用の貸付・助成」が18.2%、「公営住宅への優先入居の拡充」が14.7%、「民間賃貸住宅の入居支援」が8.7%と続いています。なお、「特にない」が39.1%と最も多くなっています。

障害別に見ると、知的障害では「グループホームの整備」(18.6%)が、精神障害では「公営住宅への優先入居の拡充」(23.5%)が他の障害に比べて多くなっています。

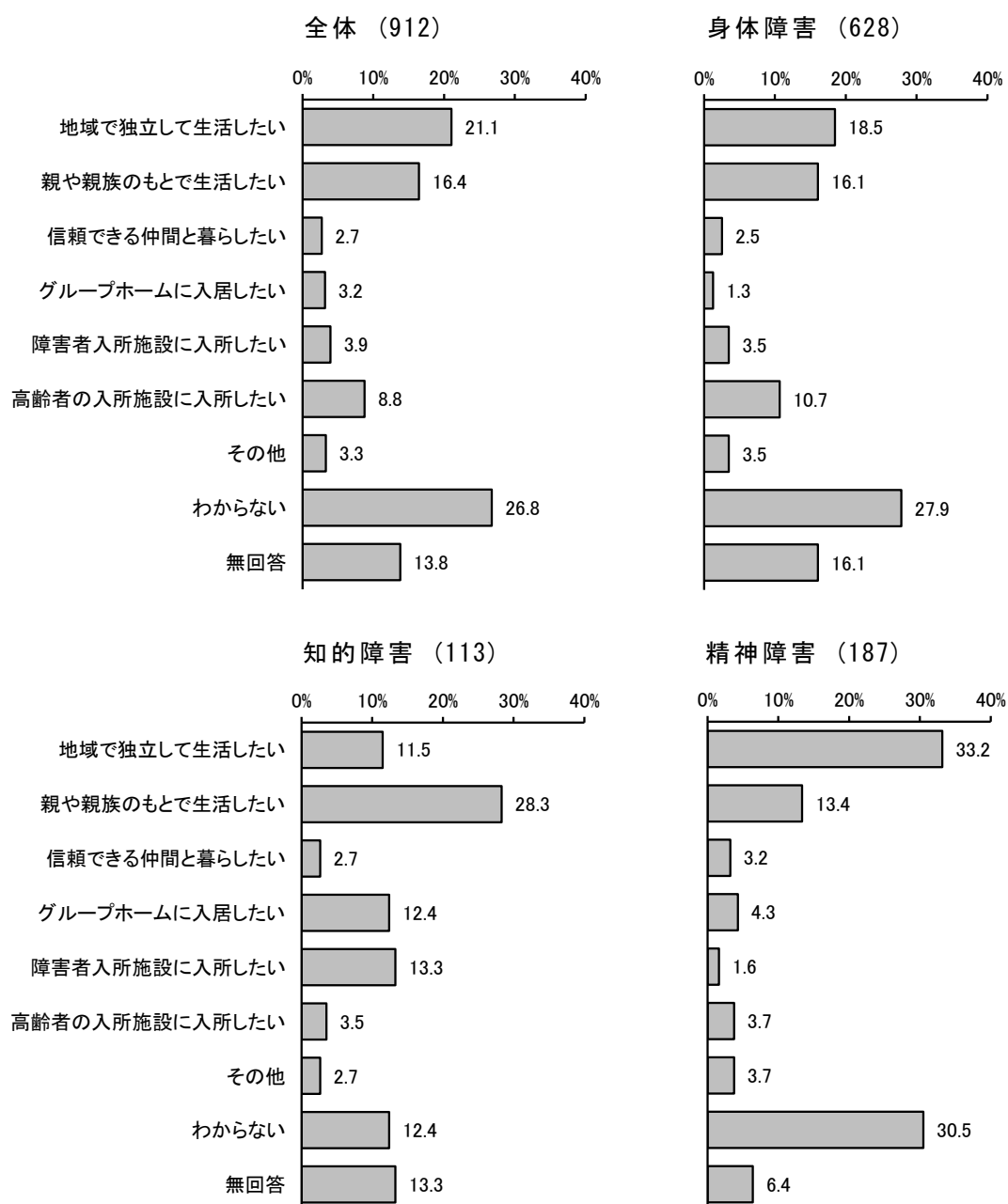


(4) 将来の暮らし方に関する希望

問 35 将来、あなたはどのように暮らしたいですか。(〇は1つ)

全体では、「地域で独立して生活したい」が21.1%と多く、次いで「親や親族のもとで生活したい」が16.4%、「高齢者の入所施設に入所したい」が8.8%、「障害者入所施設に入所したい」が3.9%と続いています。なお、「わからない」が26.8%と最も多くなっています。

障害別に見ると、知的障害では「親や親族のもとで生活したい」が28.3%で最も多くなっているほか、「障害者入所施設に入所したい」が13.3%と他の障害に比べて多くなっています。また、精神障害では「地域で独立して生活したい」が33.2%で最も多くなっています。



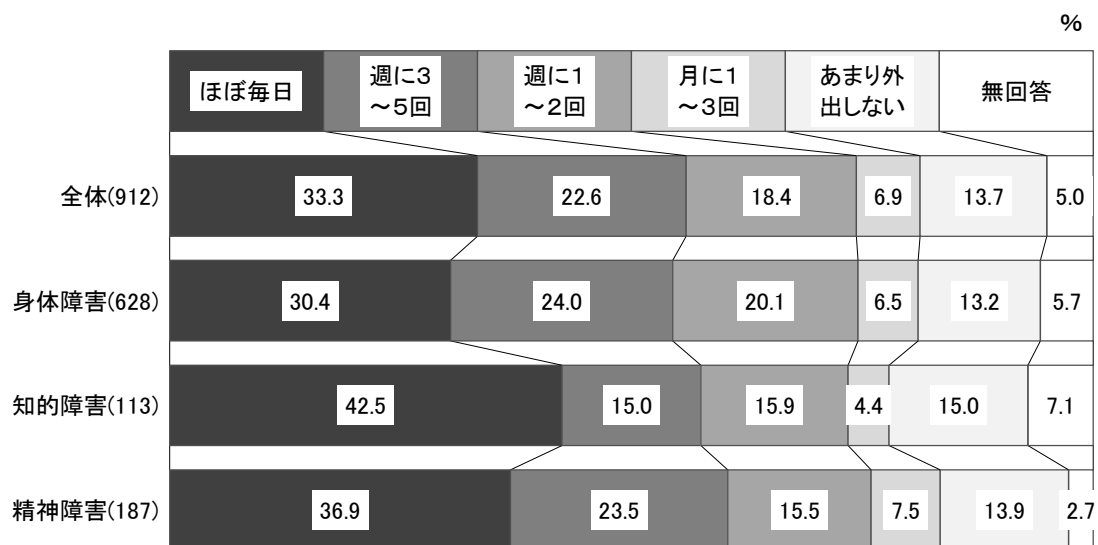
9 外出について

(1) 外出頻度

問 36 普段、あなたはどのくらいの頻度で外出しますか。(○は1つ)

全体では、「ほぼ毎日」が33.3%と最も多く、次いで「週に3～5回」が22.6%、「週に1～2回」が18.4%、「あまり外出しない」が13.7%と続いています。

障害別の結果に大きな変化はありませんでした。



(2) 外出する際に困っていること

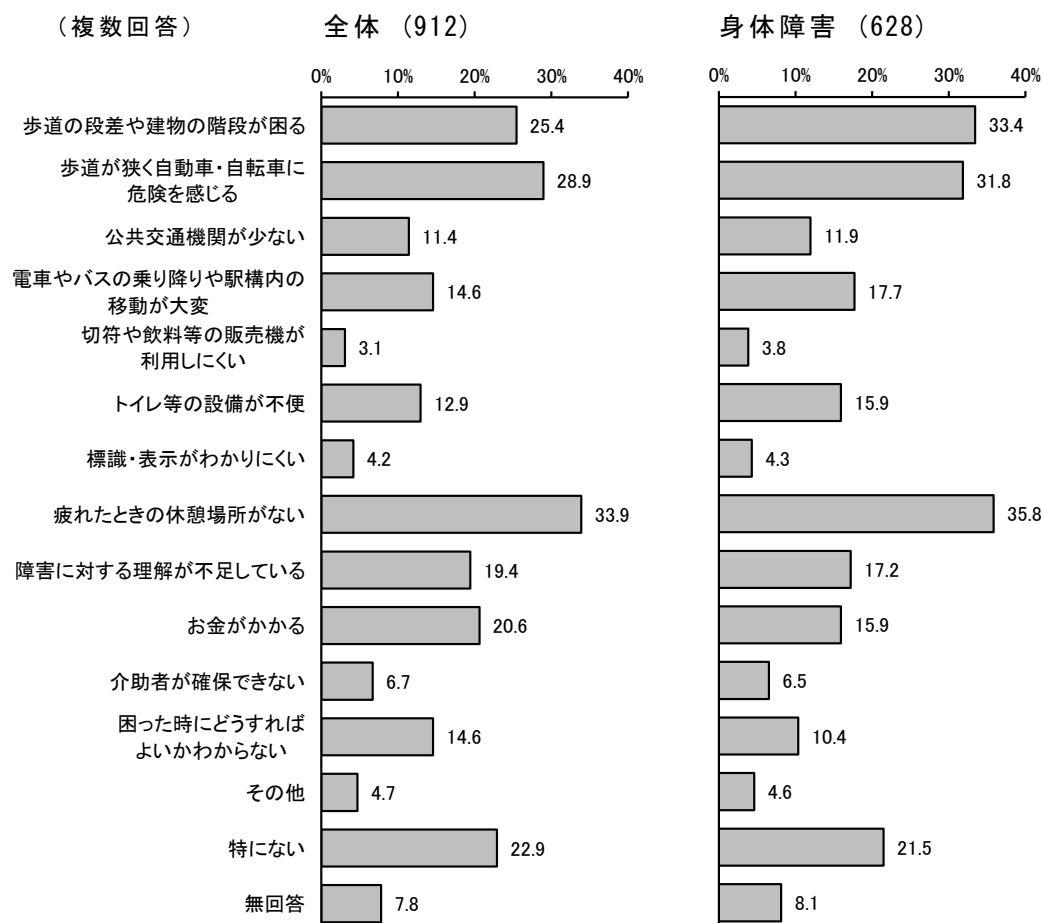
問 37 あなたが外出する際、困ったり不便に思うことは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

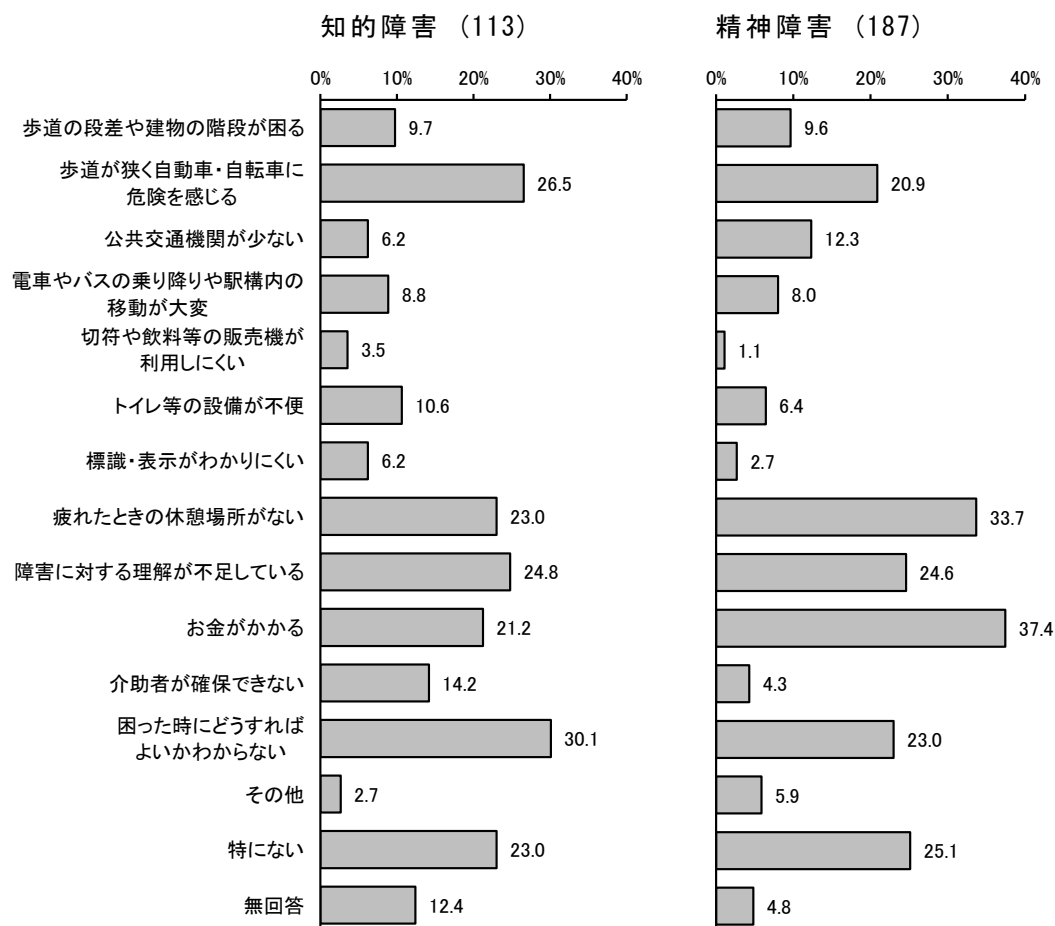
全体では、「疲れたときの休憩場所がない」が33.9%と最も多く、次いで「歩道が狭く自動車・自転車に危険を感じる」が28.9%、「歩道の段差や建物の階段が困る」が25.4%、「お金がかかる」が20.6%と続いています。なお、「特にない」が22.9%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「困った時にどうすればよいかわからない」が30.1%で最も多く、精神障害では「お金がかかる」が37.4%で最も多くなっています。

また、身体障害では「歩道の段差や建物の階段が困る」(33.4%)、「電車やバスの乗り降りや駅構内の移動が大変」(17.7%)が他の障害に比べて多くなっているほか、身体障害と精神障害では「疲れたときの休憩場所がない」が知的障害に比べて多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果



身体障害の部位による違いを見ると、視覚障害では「歩道が狭く自動車・自転車に危険を感じる」が55.3%で最も多くなっています。

また、視覚障害と肢体不自由では「歩道の段差や建物の階段が困る」が他の障害に比べて多くなっているほか、視覚障害では「切符や飲料等の販売機が利用しにくい」(18.4%)と「標識・表示がわかりにくい」(28.9%)が、肢体不自由では「トイレ等の設備が不便」(22.2%)が他の障害に比べて多くなっています。

●外出する際に困っていること（身体障害の部位別）

%																	
		回答者数（人）	歩道の段差や建物の 階段が困る	歩道が狭く自動車・ 自転車に危険を感じる	公共交通機関が少ない	電車やバスの乗り降りや 駅構内の移動が大変	切符や飲料等の販売機 が利用しにくい	トイレ等の設備が不便	標識・表示がわかり にくい	疲れたときの休憩場所 がない	障害に対する理解が 不足している	お金がかかる	介助者が確保できない	困った時にどうすれば よいかわからない	その他	特にな い	無回 答
全体		628	33.4	31.8	11.9	17.7	3.8	15.9	4.3	35.8	17.2	15.9	6.5	10.4	4.6	21.5	8.1
身体障 害の部 位	視覚障害	38	44.7	55.3	18.4	28.9	18.4	7.9	28.9	23.7	28.9	15.8	10.5	18.4	5.3	18.4	10.5
	聴覚・平衡機能障害	46	10.9	23.9	6.5	6.5	—	8.7	—	26.1	19.6	15.2	4.3	13.0	2.2	28.3	13.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	18	44.4	33.3	5.6	33.3	5.6	11.1	5.6	33.3	5.6	11.1	—	16.7	—	16.7	11.1
	肢体不自由	297	45.8	34.7	13.5	23.9	5.1	22.2	3.4	38.7	22.9	18.9	10.1	11.8	6.4	15.5	6.1
	内部障害	245	21.2	24.5	10.2	11.8	2.0	12.2	3.7	35.9	9.8	13.1	2.4	6.5	2.4	29.4	8.2

※音声・言語・そしゃく機能障害は回答者数が少ないため、参考値となります。

10 福祉サービスの利用について

(1) 福祉サービスの利用状況と利用意向

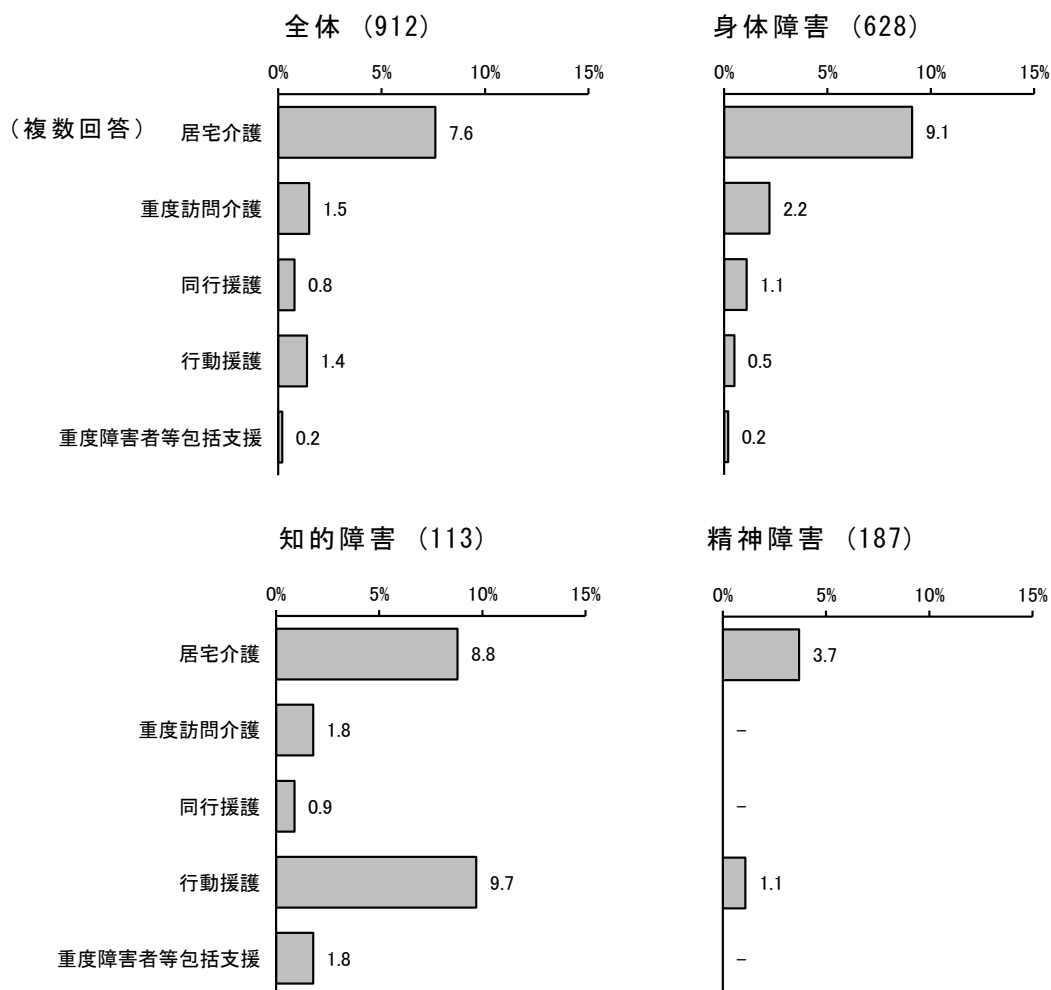
問 38 あなたは、次のサービスを利用していますか。また、今後（2～3年以内に）利用したいと思いますか。既に利用しており、今後も利用したい方は「1」、「2」両方に○をつけてください。
（それぞれあてはまるものすべてに○）

①訪問系サービス

【利用状況】

全体では、「現在利用している」と回答した人は各サービスとも10%未満となっています。

障害別の結果に大きな変化はありませんでした。

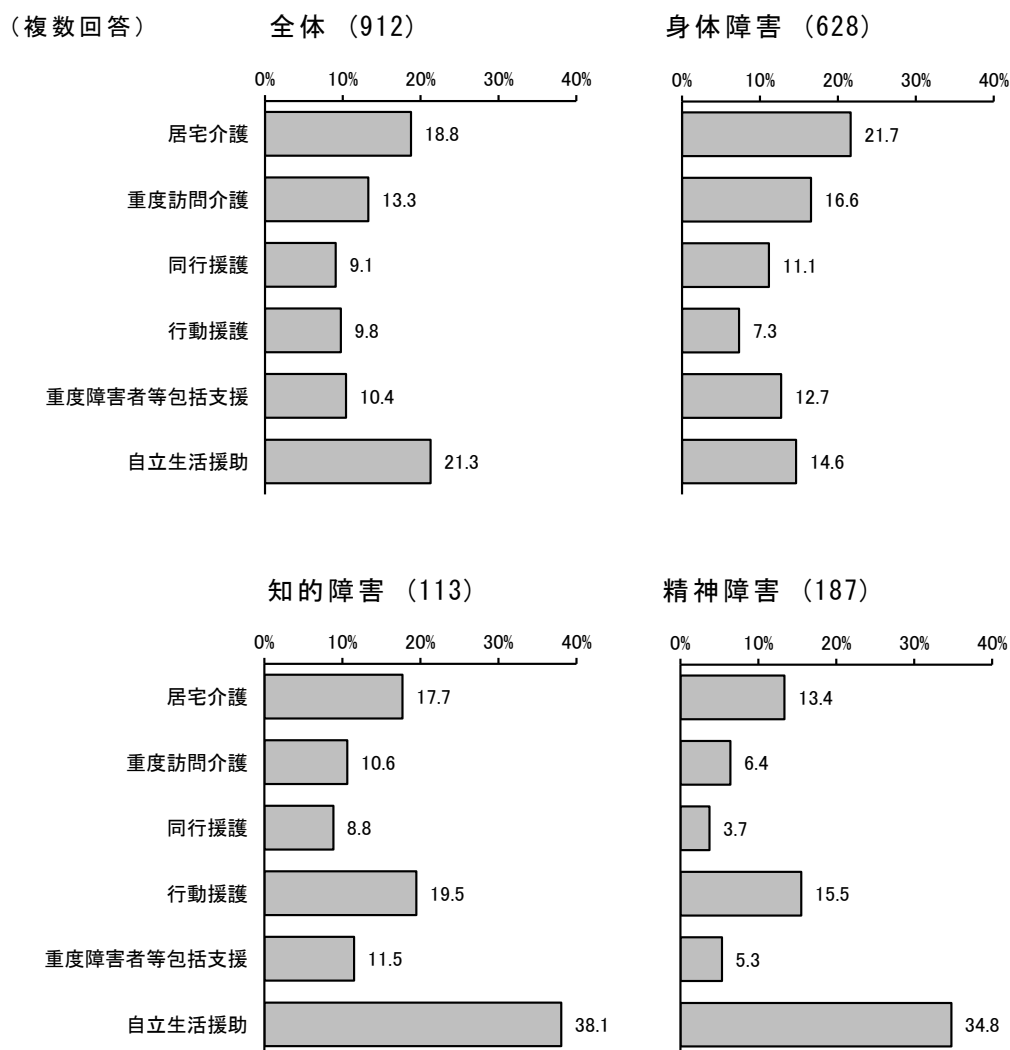


第2章 18歳以上の方の調査結果

【利用意向】

全体では、「自立生活援助」が21.3%と最も多く、次いで「居宅介護（ホームヘルプ）」が18.8%、「重度訪問介護」が13.3%、「重度障害者等包括支援」が10.4%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「居宅介護（ホームヘルプ）」が21.7%で最も多くなっています。また、知的障害と精神障害では「自立生活援助」が30%を超えて多くなっています。

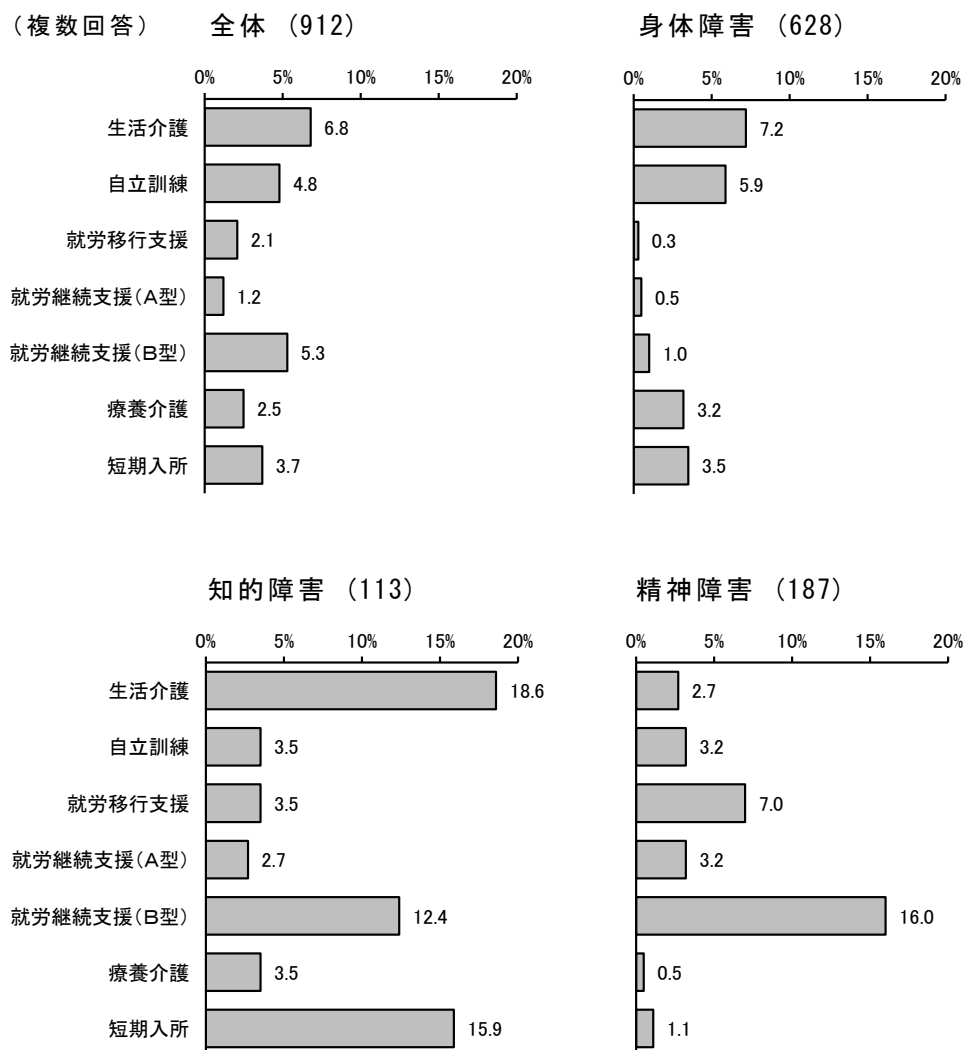


②日中活動系サービス

【利用状況】

全体では、「現在利用している」と回答した人は各サービスとも10%未満となっています。

障害別に見ると、知的障害と精神障害では「就労継続支援（B型・非雇用型）」が身体障害に比べて多くなっているほか、知的障害では「生活介護」（18.6%）と「短期入所（ショートステイ）」（15.9%）が他の障害に比べて多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果

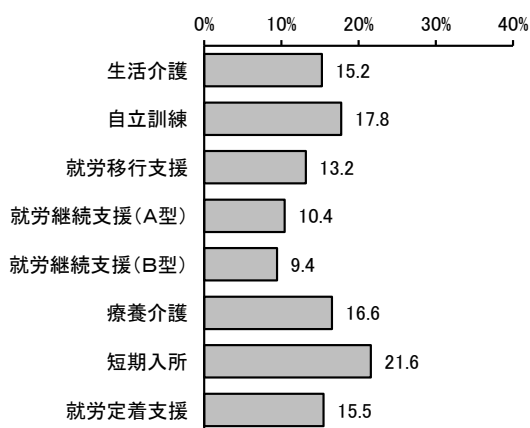
【利用意向】

全体では、「短期入所（ショートステイ）」が21.6%と最も多く、次いで「自立訓練（機能訓練・生活訓練）」が17.8%、「療養介護」が16.6%、「就労定着支援」が15.5%と続いています。

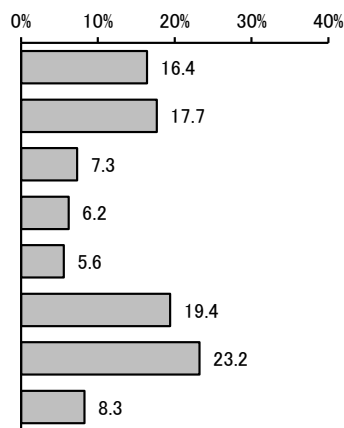
障害別に見ると、精神障害では「就労定着支援」が33.7%で最も多くなっているほか、「就労移行支援」（31.6%）と「就労継続支援（A型・雇用型）」（25.1%）が他の障害に比べて多くなっています。

また、知的障害と精神障害では「就労継続支援（B型・非雇用型）」が身体障害に比べて多くなっています。

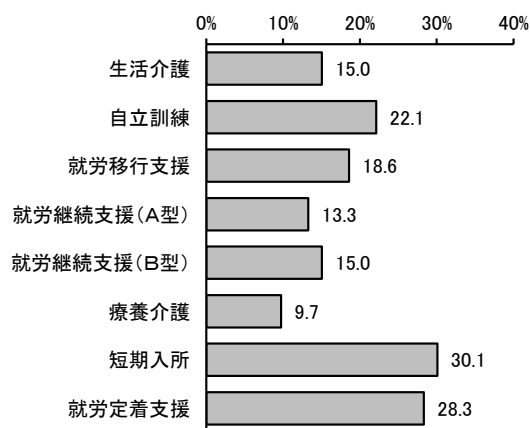
（複数回答） 全体（912）



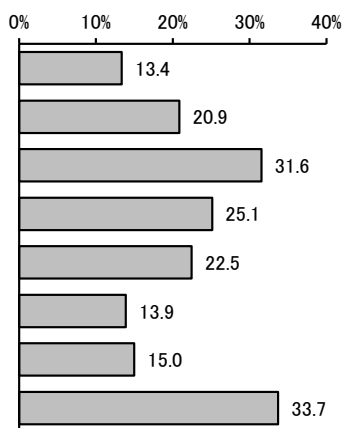
身体障害（628）



知的障害（113）



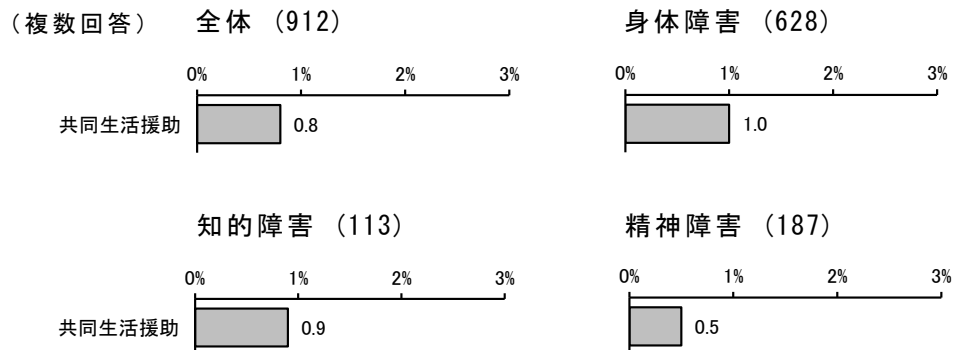
精神障害（187）



③居住系サービス

【利用状況】

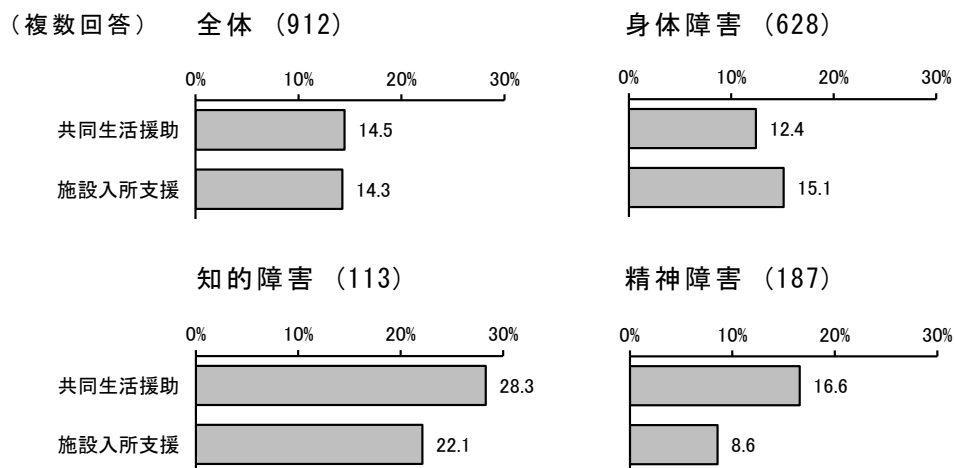
共同生活援助（グループホーム）を「現在利用している」と回答人は、1％程度です。



【利用意向】

全体では、「共同生活援助（グループホーム）」が14.5%、「施設入所支援」が14.3%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「共同生活援助（グループホーム）」が28.3%と他の障害に比べて多くなっています。



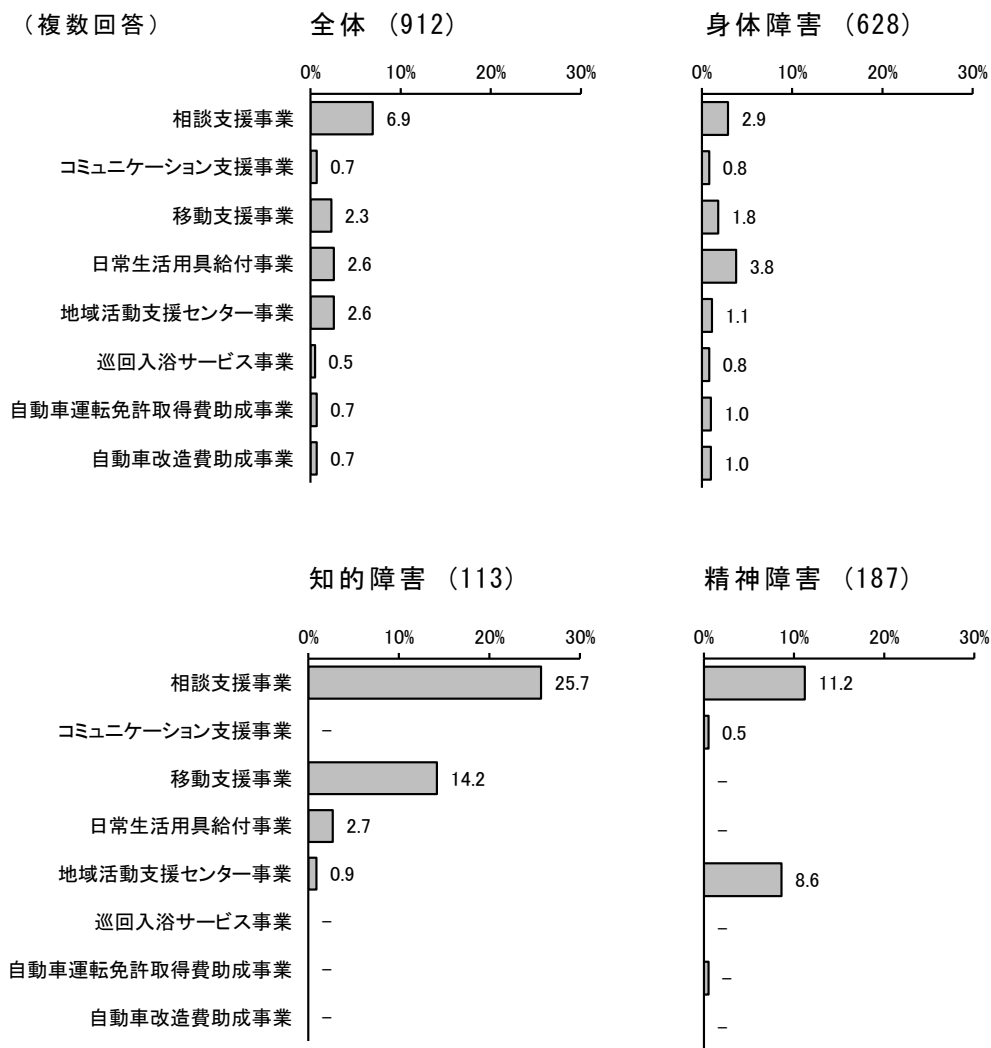
第2章 18歳以上の方の調査結果

④地域生活支援事業

【利用状況】

全体では、「現在利用している」と回答した人は各サービスとも10%未満となっています。

障害別に見ると、知的障害では「相談支援事業」(25.7%)と「移動支援事業」(14.2%)が他の障害に比べて多くなっています。

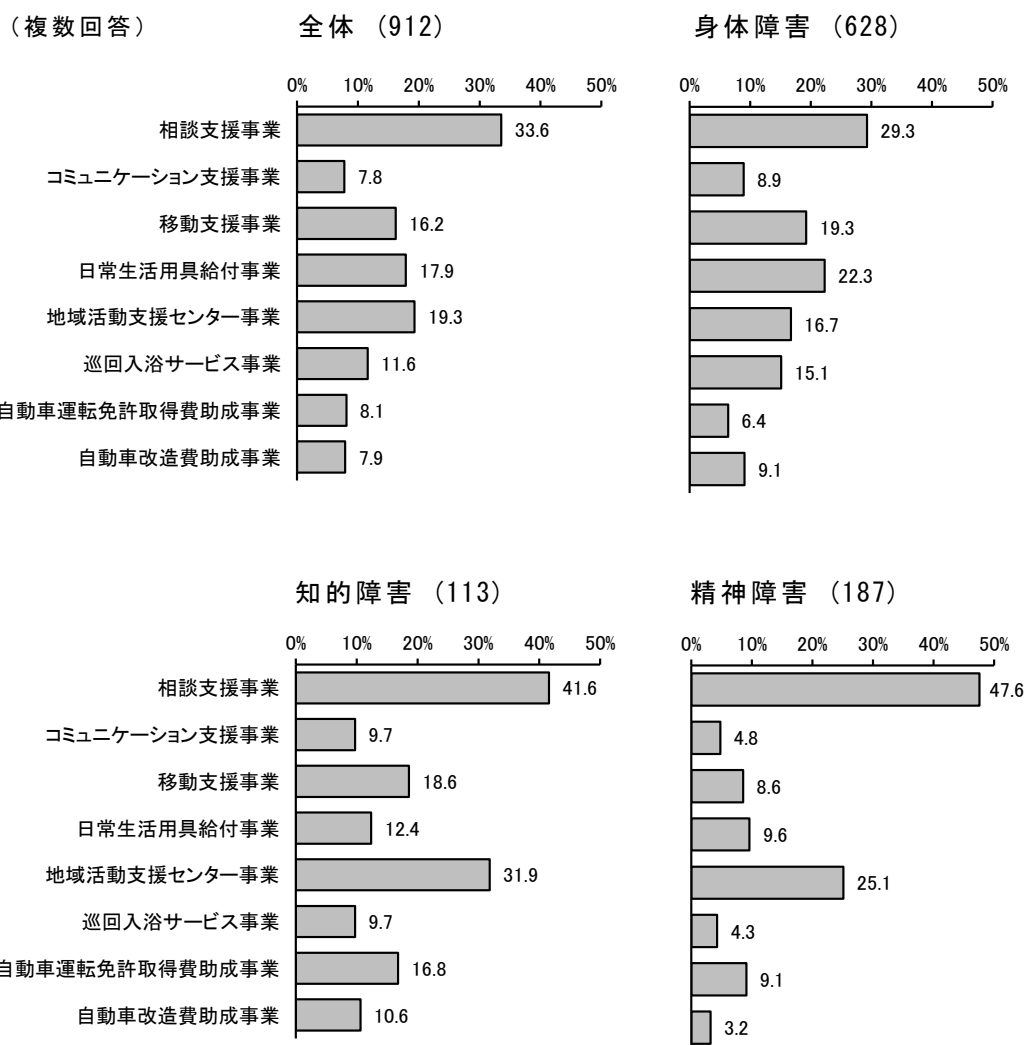


【利用意向】

全体では、「相談支援事業」が33.6%と最も多く、次いで「地域活動支援センター事業」が19.3%、「日常生活用具給付事業」が17.9%、「移動支援事業」が16.2%と続いています。

障害別に見ると、身体障害と知的障害では「移動支援事業」が精神障害に比べて多くなっているほか、身体障害では「日常生活用具給付事業」が、知的障害では「自動車運転免許取得費助成事業」が他の障害に比べて多くなっています。

また、知的障害と精神障害では「相談支援事業」と「地域活動支援センター事業」が身体障害に比べて多くなっています。



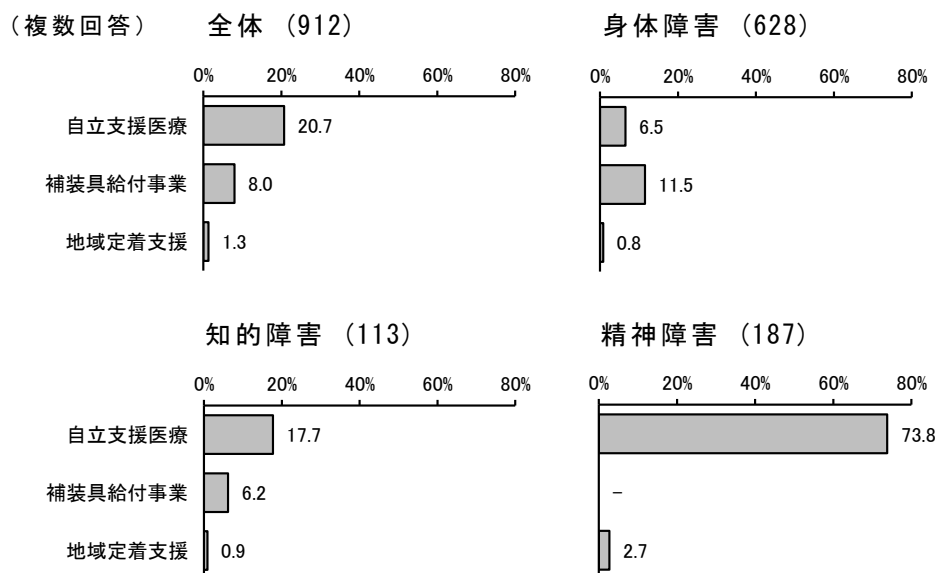
第2章 18歳以上の方の調査結果

⑤ その他のサービス

【利用状況】

全体では、「自立支援医療」が20.7%と最も多く、次いで「補装具給付事業」が8.0%、と「地域定着支援」が1.3%と続いています。

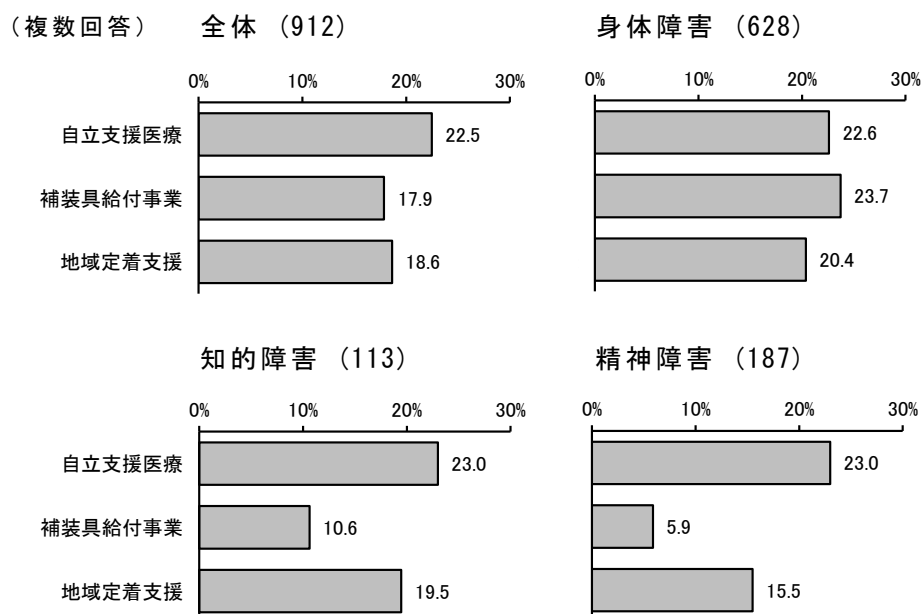
障害別に見ると、身体障害では「補装具給付事業」が11.5%で最も多くなっています。また、精神障害では「自立支援医療」(73.8%)が70%台に達して多くなっています。



【利用意向】

全体では、「自立支援医療」が22.5%と最も多く、次いで「地域定着支援」が18.6%、「補装具給付事業」が17.9%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「補装具給付事業」が23.7%と他の障害に比べて多くなっています。

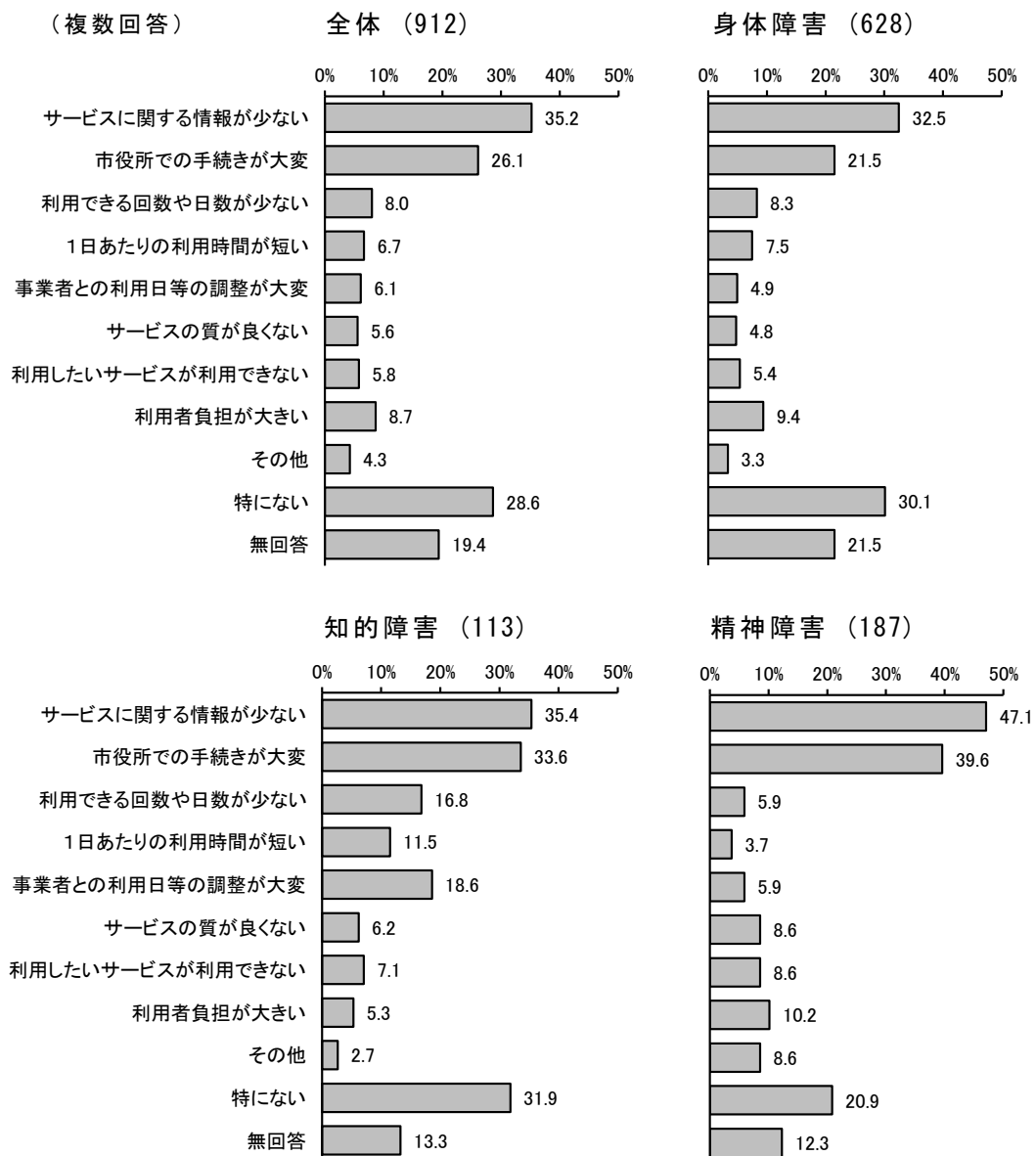


(2) サービスを利用する際に困っていること

問 39 あなたが、サービスを利用するにあたって、困っていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

全体では、「サービスに関する情報が少ない」が35.2%と最も多く、次いで「市役所での手続きが大変」が26.1%、「利用者負担が大きい」が8.7%、「利用できる回数や日数が少ない」が8.0%と続いています。なお、「特にない」が28.6%となっています。

障害別に見ると、知的障害と精神障害では「市役所での手続きが大変」が身体障害に比べて多くなっているほか、知的障害では「事業者との利用日等の調整が大変」(18.6%)が、精神障害では「サービスに関する情報が少ない」(47.1%)が他の障害に比べて多くなっています。



11 権利擁護・障害理解について

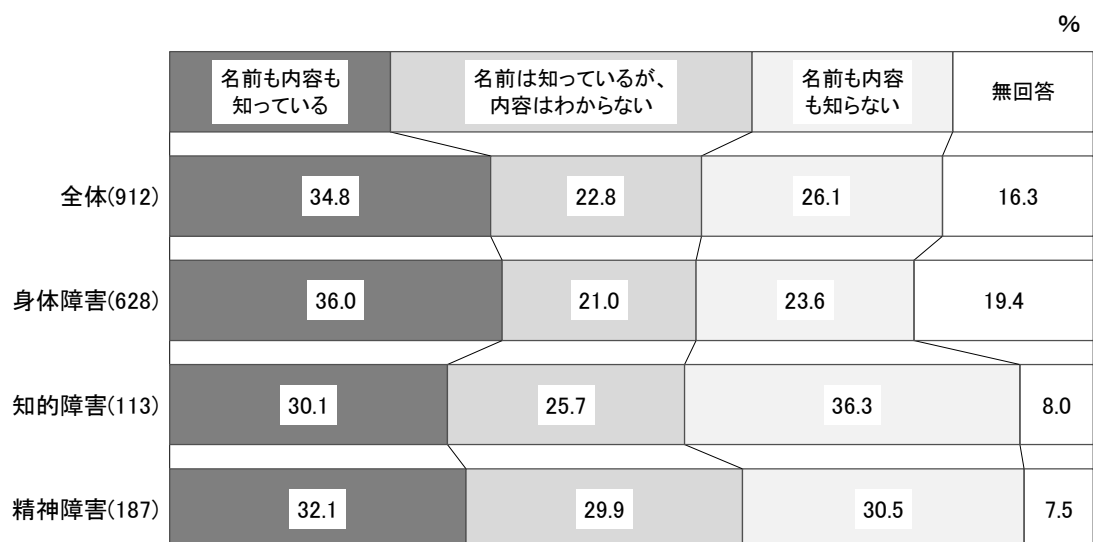
(1) 成年後見制度等の認知状況

問 40 あなたは、次の権利が守られるための取組について知っていますか。
(それぞれあてはまるもの1つに○)

① 成年後見制度

全体では、「名前も内容も知っている」が34.8%と最も多く、次いで「名前も内容も知らない」が26.1%、「名前は知っているが、内容はわからない」が22.8%と続いています。

障害別に見ると、知的障害では「名前も内容も知らない」が36.3%で最も多くなっています。



障害種別ごとに年齢による違いを見ると、身体障害と知的障害の40歳未満、精神障害の40～64歳では「名前も内容も知らない」が最も多くなっています。

●成年後見制度（年齢別）

							%
		回答者数（人）	名前も内容も知っている	名前は知っているが、内容はわからない	名前も内容も知らない	無回答	
全体		912	34.8	22.8	26.1		16.3
身体障害	全体	628	36.0	21.0	23.6		19.4
	40歳未満	27	25.9	29.6	40.7		3.7
	40～64歳	156	41.0	20.5	30.1		8.3
	65歳以上	445	34.8	20.7	20.2		24.3
知的障害	全体	113	30.1	25.7	36.3		8.0
	40歳未満	70	28.6	28.6	41.4		1.4
	40～64歳	35	34.3	20.0	28.6		17.1
	65歳以上	8	25.0	25.0	25.0		25.0
精神障害	全体	187	32.1	29.9	30.5		7.5
	40歳未満	57	33.3	36.8	29.8		—
	40～64歳	111	30.6	25.2	33.3		10.8
	65歳以上	19	36.8	36.8	15.8		10.5

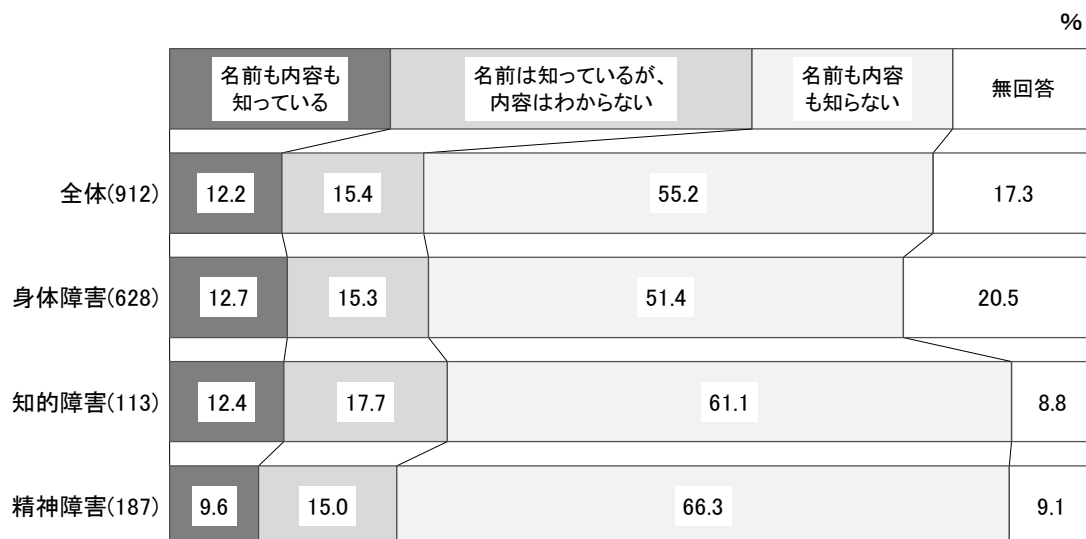
※知的障害の“65歳以上”、精神障害の“65歳以上”は回答者数が少ないため、参考値となります。

第2章 18歳以上の方の調査結果

②昭島市障害者虐待防止センター

全体では、「名前も内容も知らない」が55.2%と最も多く、次いで「名前は知っているが、内容はわからない」が15.4%、「名前も内容も知っている」が12.2%と続いています。

障害別に見ると、知的障害と精神障害では「名前も内容も知らない」が身体障害に比べて多くなっています。

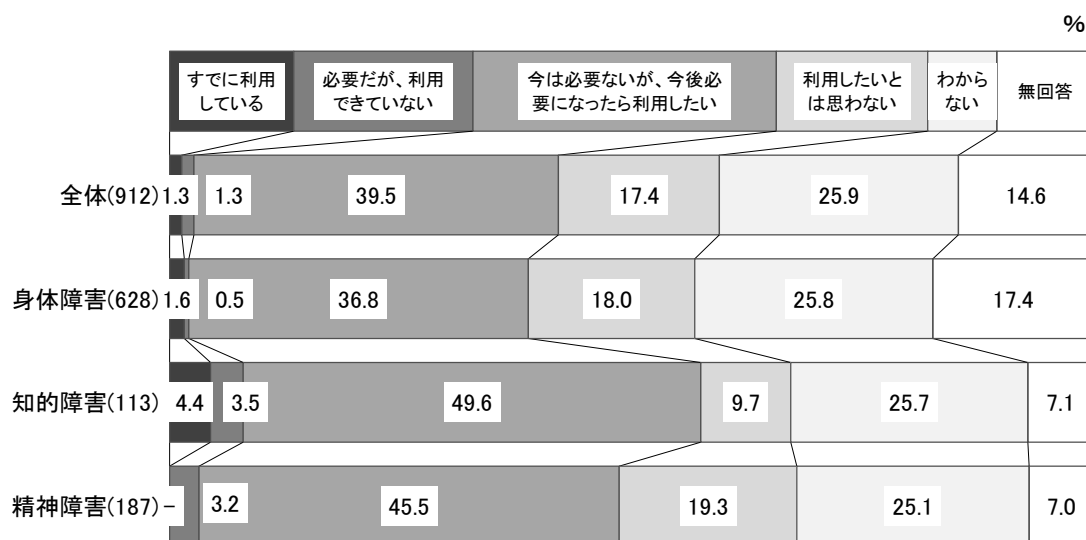


(2) 成年後見制度の利用状況

問 41 あなたは、成年後見制度を利用したいと思いますか。(○は1つ)

全体では、「今は必要ないが、今後必要になったら利用したい」が39.5%と最も多く、次いで「利用したいとは思わない」が17.4%、「すでに利用している」と「必要だが、利用できていない」がそれぞれ1.3%と続いています。なお、「わからない」が25.9%となっています。

障害別に見ると、知的障害と精神障害では「今は必要ないが、今後必要になったら利用したい」が身体障害に比べて多くなっています。

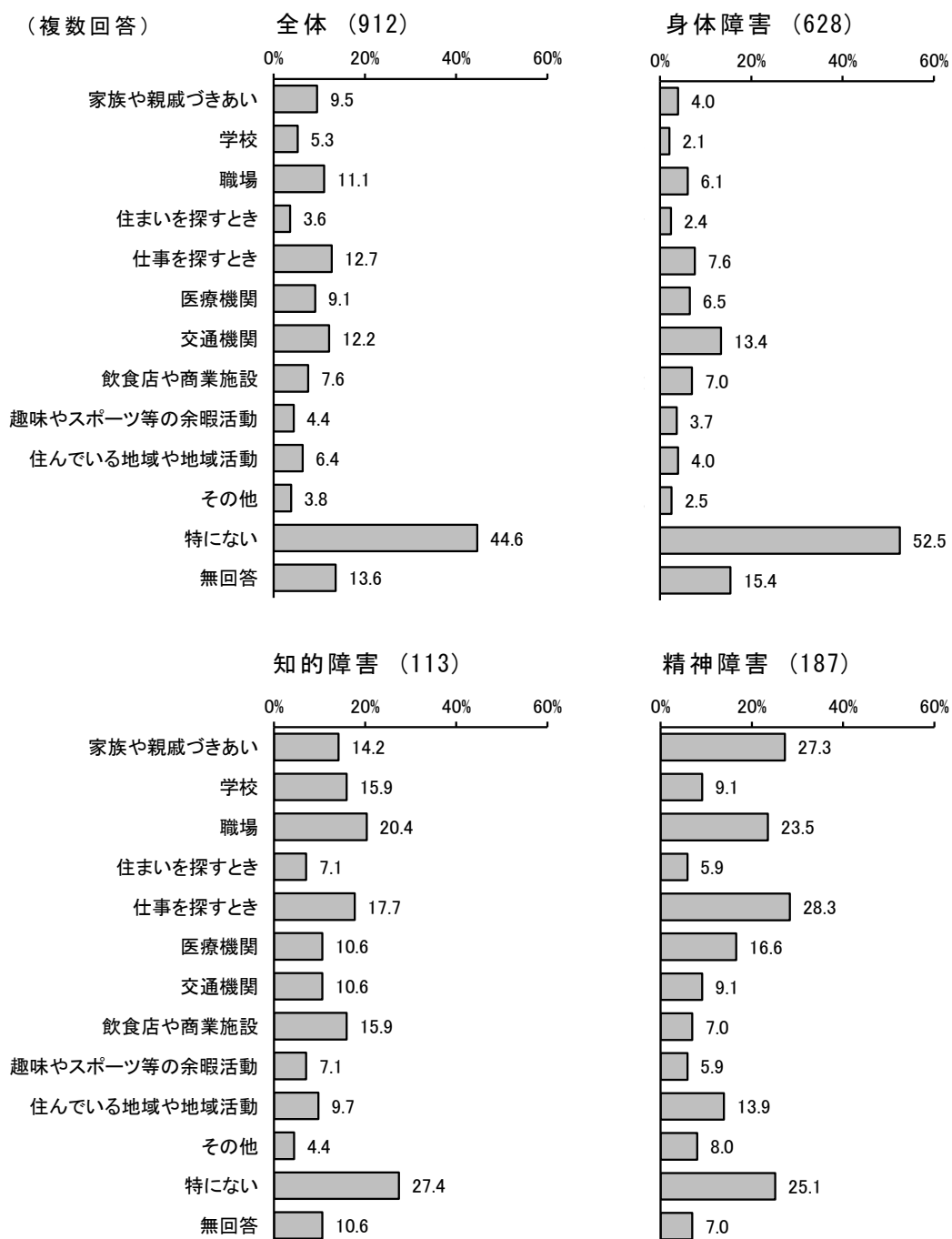


(3) 障害を理由に差別を受けていると感じた場面

問 42 あなたは、障害があることによりどのような場面で差別を受けていると感じたり、嫌な思いをしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「仕事を探すとき」が12.7%と多く、次いで「交通機関」が12.2%、「職場」が11.1%、「家族や親戚づきあい」が9.5%と続いています。なお、「特にない」が44.6%と最も多くなっています。

障害別に見ると、精神障害では「仕事を探すとき」が28.3%で最も多くなっています。また、知的障害と精神障害では「職場」が身体障害に比べて多くなっているほか、精神障害では「家族や親戚づきあい」(27.3%)が他の障害に比べて多くなっています。

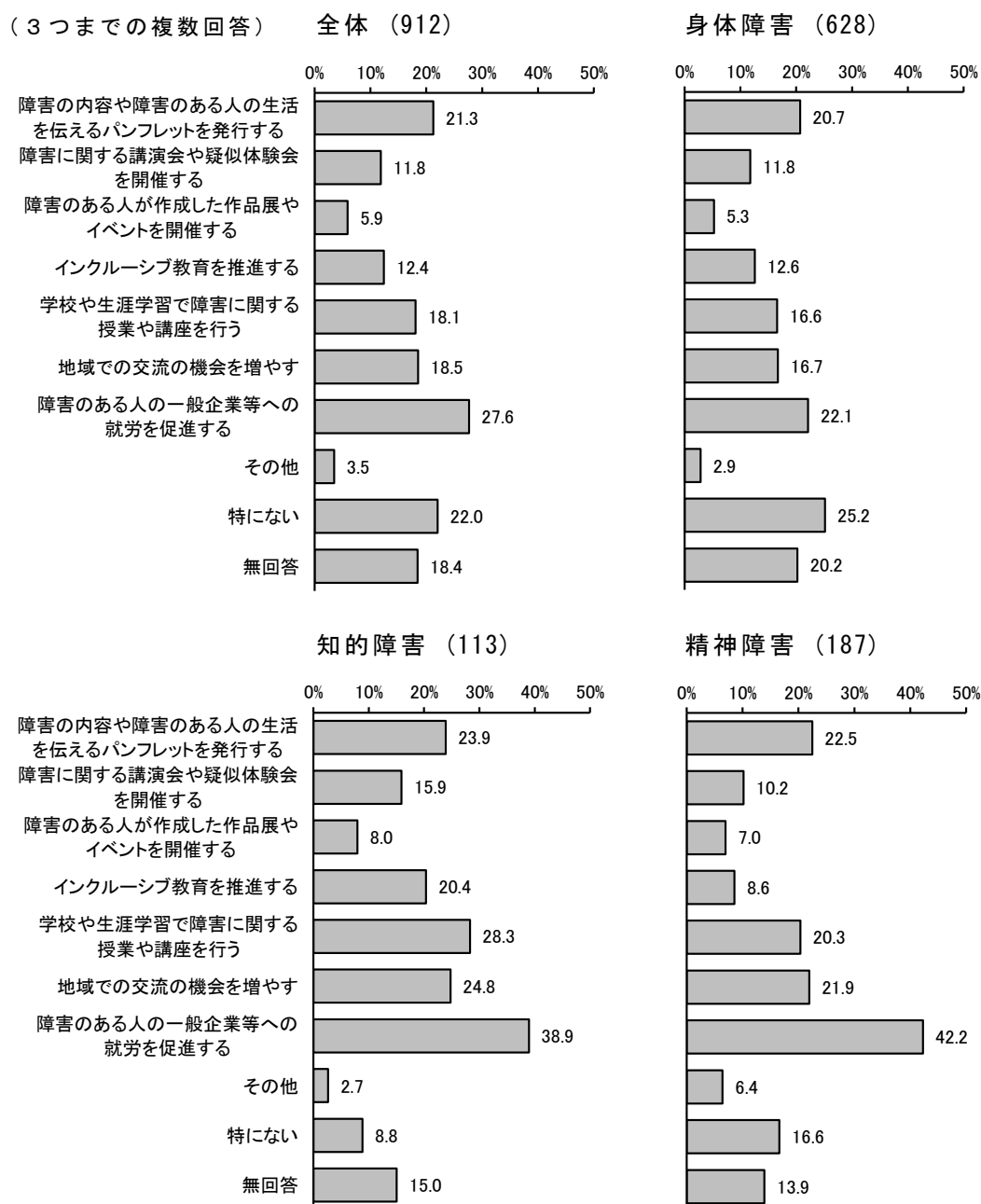


(4) 障害理解を推進するために必要な取組

問 43 あなたは、障害への理解を進めるために昭島市がどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は3つまで)

全体では、「障害のある人の一般企業等への就労を促進する」が27.6%と最も多く、次いで「障害の内容や障害のある人の生活を伝えるパンフレットを発行する」が21.3%、「地域での交流の機会を増やす」が18.5%、「学校や生涯学習で障害に関する授業や講座を行う」が18.1%と続いています。なお、「特にない」が22.0%となっています。

障害別に見ると、知的障害と精神障害では「障害のある人の一般企業等への就労を促進する」が身体障害に比べて多くなっています。



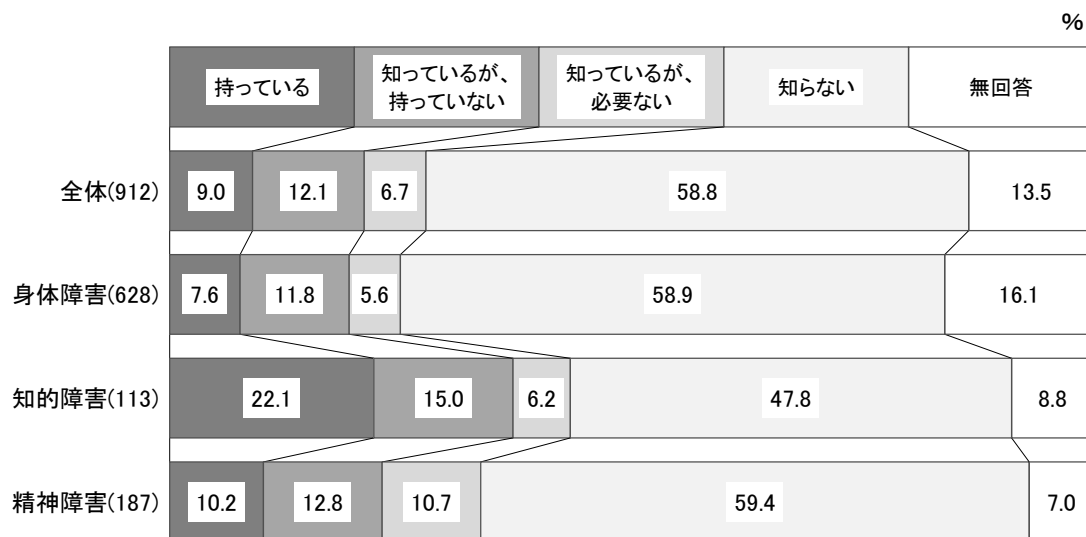
(5) ヘルプカード・ヘルプマークの所持状況

問 44 あなたは、ヘルプカード・ヘルプマークを持っていますか。
(それぞれあてはまるもの1つに○)

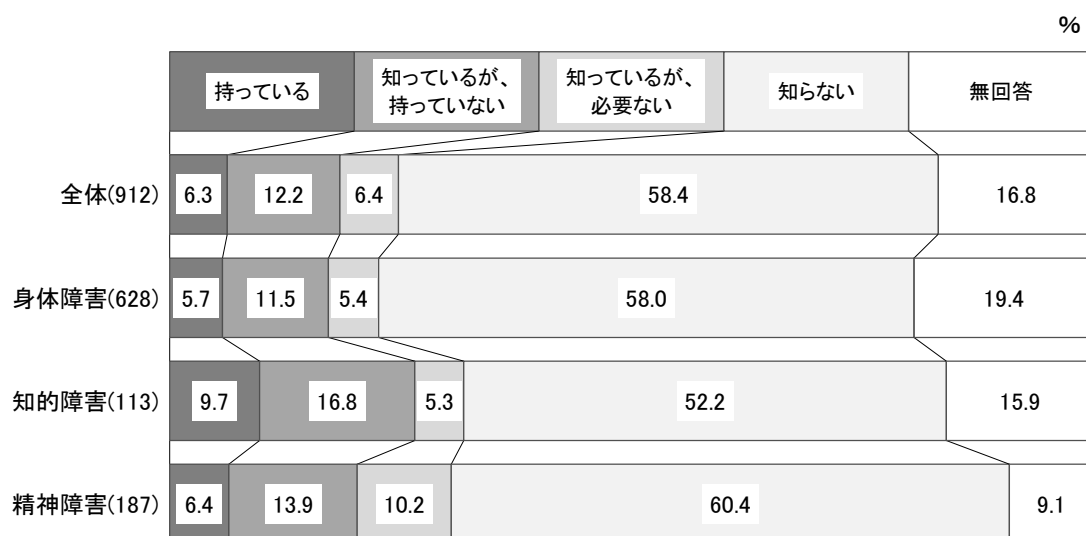
ヘルプカードとヘルプマークの所持状況について、全体では「持っている」はいずれも10%未満となっています。障害別に見ると、知的障害ではヘルプカードを「持っている」(22.1%)が20%を超えて多くなっています。

なお、「知らない」は、ヘルプカードとヘルプマークのいずれも概ね半数以上を占めています。

① ヘルプカード



② ヘルプマーク



第2章 18歳以上の方の調査結果

障害種別ごとに年齢による違いを見ると、身体障害の40歳未満ではヘルプカードを「持っている」が37.0%で最も多くなっているほか、ヘルプマークを「知っているが、持っていない」が40.7%と他の年齢に比べて多くなっています。

●ヘルプカード（年齢別）

		回答者数 (人)	持っている	知っているが、 持っていない	知っているが、 必要ない	知らない	無回答
	全体	912	9.0	12.1	6.7	58.8	13.5
身体障害	全体	628	7.6	11.8	5.6	58.9	16.1
	40歳未満	27	37.0	29.6	3.7	29.6	—
	40～64歳	156	9.6	17.3	8.3	58.3	6.4
	65歳以上	445	5.2	8.8	4.7	60.9	20.4
知的障害	全体	113	22.1	15.0	6.2	47.8	8.8
	40歳未満	70	28.6	17.1	10.0	42.9	1.4
	40～64歳	35	14.3	14.3	—	54.3	17.1
	65歳以上	8	—	—	—	62.5	37.5
精神障害	全体	187	10.2	12.8	10.7	59.4	7.0
	40歳未満	57	10.5	14.0	14.0	61.4	—
	40～64歳	111	8.1	13.5	9.9	58.6	9.9
	65歳以上	19	21.1	5.3	5.3	57.9	10.5

※知的障害の“65歳以上”、精神障害の“65歳以上”は回答者数が少ないため、参考値となります。

●ヘルプマーク（年齢別）

		回答者数 (人)	持っている	知っているが、 持っていない	知っているが、 必要ない	知らない	無回答
	全体	912	6.3	12.2	6.4	58.4	16.8
身体障害	全体	628	5.7	11.5	5.4	58.0	19.4
	40歳未満	27	7.4	40.7	3.7	40.7	7.4
	40～64歳	156	9.6	16.0	7.7	57.1	9.6
	65歳以上	445	4.3	8.1	4.7	59.3	23.6
知的障害	全体	113	9.7	16.8	5.3	52.2	15.9
	40歳未満	70	11.4	20.0	8.6	51.4	8.6
	40～64歳	35	8.6	14.3	—	51.4	25.7
	65歳以上	8	—	—	—	62.5	37.5
精神障害	全体	187	6.4	13.9	10.2	60.4	9.1
	40歳未満	57	10.5	12.3	14.0	63.2	—
	40～64歳	111	4.5	15.3	9.0	57.7	13.5
	65歳以上	19	5.3	10.5	5.3	68.4	10.5

※知的障害の“65歳以上”、精神障害の“65歳以上”は回答者数が少ないため、参考値となります。

12 災害対策について

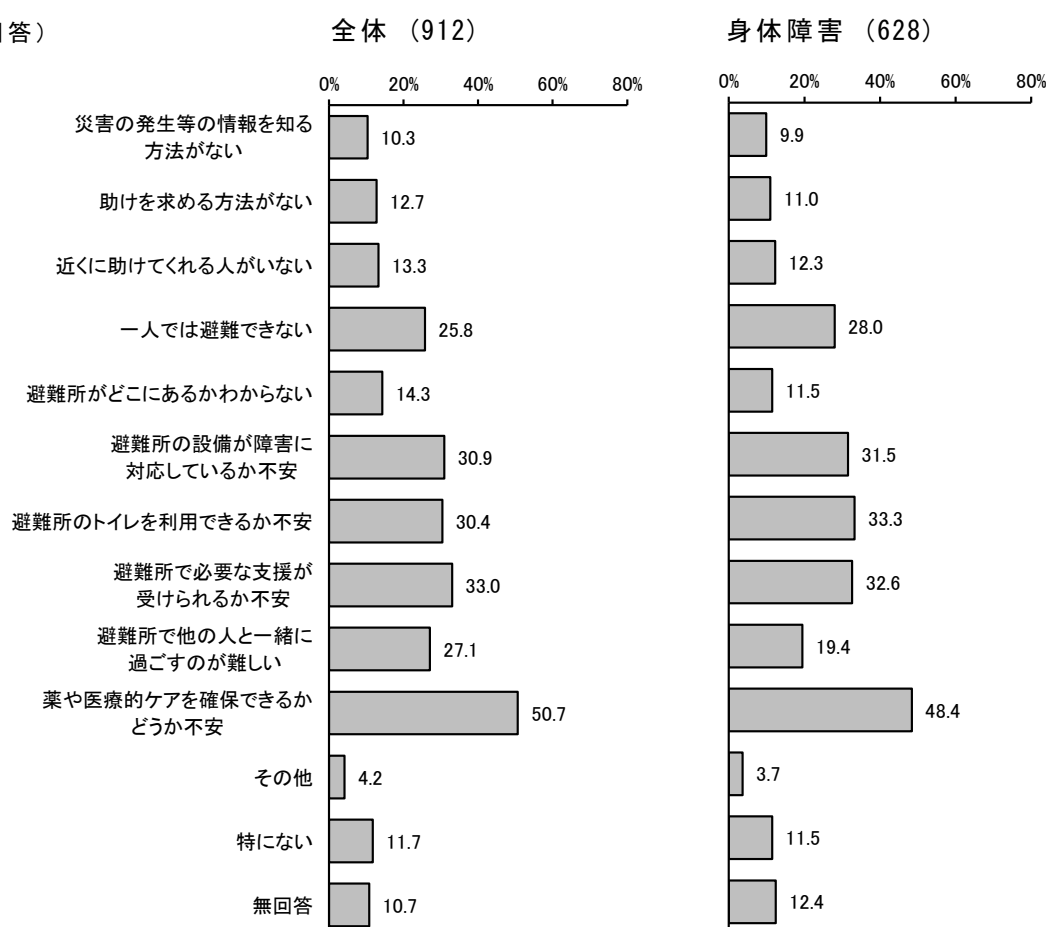
(1) 災害時に不安なこと

問 45 あなたが、地震等の災害が発生した時に困ることや不安なことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

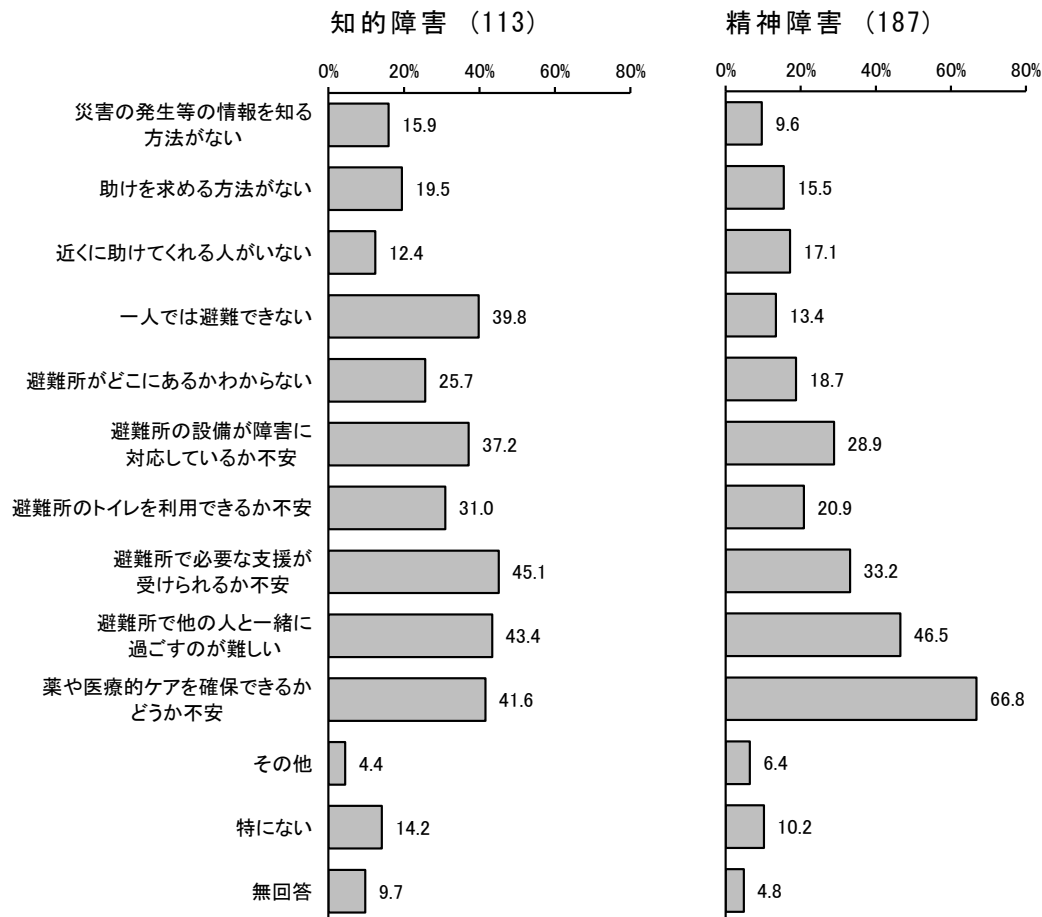
全体では、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が50.7%と最も多く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が33.0%、「避難所の設備が障害に対応しているか不安」が30.9%、「避難所のトイレを利用できるか不安」が30.4%と続いています。

障害別に見ると、知的障害では「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が45.1%で最も多くなっています。また、知的障害と精神障害では「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が身体障害に比べて多くなっているほか、知的障害では「一人では避難できない」(39.8%)が、精神障害では「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」(66.8%)が他の障害に比べて多くなっています。

(複数回答)



第2章 18歳以上の方の調査結果



障害種別ごとに世帯構成による違いを見ると、身体障害と精神障害の“ひとり暮らし”では「近くに助けてくれる人がいない」が他の世帯等に比べて多くなっています。

●災害時に不安なこと（世帯構成別）

		回答者数（人）	災害の発生等の情報を知る方法がない	助けを求める方法がない	近くに助けてくれる人がいない	一人では避難できない	避難所がどこにあるかわからない	避難所の設備が障害に対応しているか不安	避難所のトイレを利用できるか不安	避難所で必要な支援が受けられるか不安	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安	その他	特になし	無回答
全体		912	10.3	12.7	13.3	25.8	14.3	30.9	30.4	33.0	27.1	50.7	4.2	11.7	10.7
身体障害	全体	628	9.9	11.0	12.3	28.0	11.5	31.5	33.3	32.6	19.4	48.4	3.7	11.5	12.4
	家族と同居している	471	10.0	10.0	8.3	29.3	11.0	31.8	34.6	34.2	20.0	49.0	3.8	12.3	10.0
	ひとり暮らし	128	10.2	15.6	28.1	21.9	12.5	29.7	28.9	28.1	17.2	44.5	3.9	9.4	18.8
	グループホームでの集団生活	10	20.0	10.0	10.0	60.0	30.0	30.0	30.0	40.0	30.0	80.0	—	10.0	—
知的障害	全体	113	15.9	19.5	12.4	39.8	25.7	37.2	31.0	45.1	43.4	41.6	4.4	14.2	9.7
	家族と同居している	101	15.8	20.8	11.9	43.6	24.8	36.6	30.7	45.5	42.6	40.6	4.0	12.9	9.9
	ひとり暮らし	6	—	—	16.7	—	33.3	50.0	33.3	33.3	50.0	50.0	—	33.3	16.7
	グループホームでの集団生活	1	100.0	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—	—
精神障害	全体	187	9.6	15.5	17.1	13.4	18.7	28.9	20.9	33.2	46.5	66.8	6.4	10.2	4.8
	家族と同居している	133	6.8	13.5	14.3	15.0	17.3	30.1	20.3	36.1	48.1	69.2	3.8	12.0	3.8
	ひとり暮らし	48	18.8	22.9	25.0	8.3	22.9	25.0	22.9	27.1	39.6	60.4	12.5	6.3	8.3
	グループホームでの集団生活	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*

※身体障害の“グループホームでの集団生活”、知的障害の“ひとり暮らし”“グループホームでの集団生活”は回答者数が少ないため、参考値となります。

身体障害の部位による違いを見ると、視覚障害では「一人では避難できない」と「避難所で必要な支援が受けられるか不安」がそれぞれ42.1%で最も多くなっています。

また、聴覚・平衡機能障害でも「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が39.1%で最も多くなっているほか、「災害の発生等の情報を知る方法がない」(32.6%)と「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」(32.6%)が他の障害に比べて多くなっています。

肢体不自由では「避難所の設備が障害に対応しているか不安」(43.1%)と「避難所のトイレを利用できるか不安」(43.1%)が、内部障害では「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」(59.2%)が他の障害に比べて多くなっています。

●災害時に不安なこと（身体障害の部位別）

															%
		回答者数（人）	災害の発生等の情報を 知る方法がない	助けを求める方法が ない	近くに助けてくれる人 がいない	一人では避難できない	避難所がどこにあるか わからない	避難所の設備が障害に 対応しているか不安	避難所のトイレを 利用できるか不安	避難所で必要な支援が 受けられるか不安	避難所で他の人と一緒 に過ごすのが難しい	薬や医療的ケアを確保 できるかどうか不安	その他	特にな い	無回 答
全体		628	9.9	11.0	12.3	28.0	11.5	31.5	33.3	32.6	19.4	48.4	3.7	11.5	12.4
身体障 害の部 位	視覚障害	38	2.6	5.3	10.5	42.1	13.2	28.9	31.6	42.1	18.4	31.6	2.6	13.2	18.4
	聴覚・平衡機能障害	46	32.6	10.9	10.9	21.7	13.0	26.1	15.2	39.1	32.6	30.4	8.7	8.7	8.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	18	33.3	33.3	22.2	33.3	22.2	22.2	33.3	27.8	22.2	38.9	—	22.2	5.6
	肢体不自由	297	9.8	15.2	16.2	39.7	14.8	43.1	43.1	36.4	22.2	47.1	3.7	10.1	10.4
	内部障害	245	6.9	6.9	8.2	15.5	6.9	22.0	27.8	27.3	14.7	59.2	2.4	11.8	12.2

※音声・言語・そしゃく機能障害は回答者数が少ないため、参考値となります。

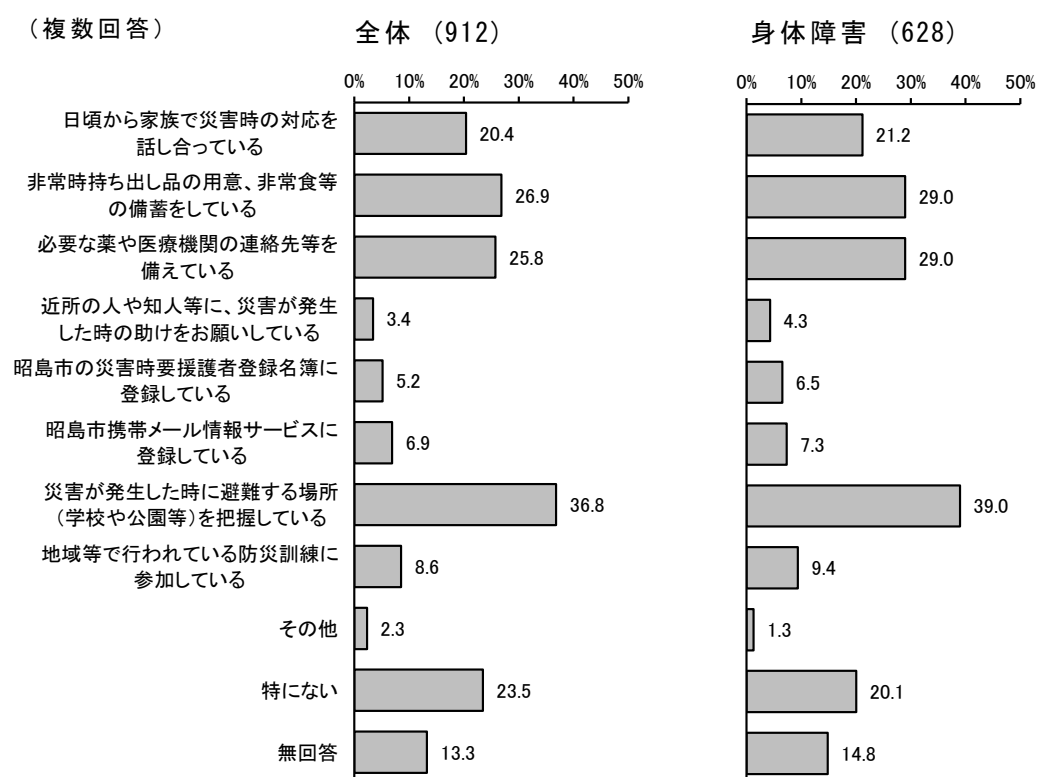
(2) 災害に対して備えていること

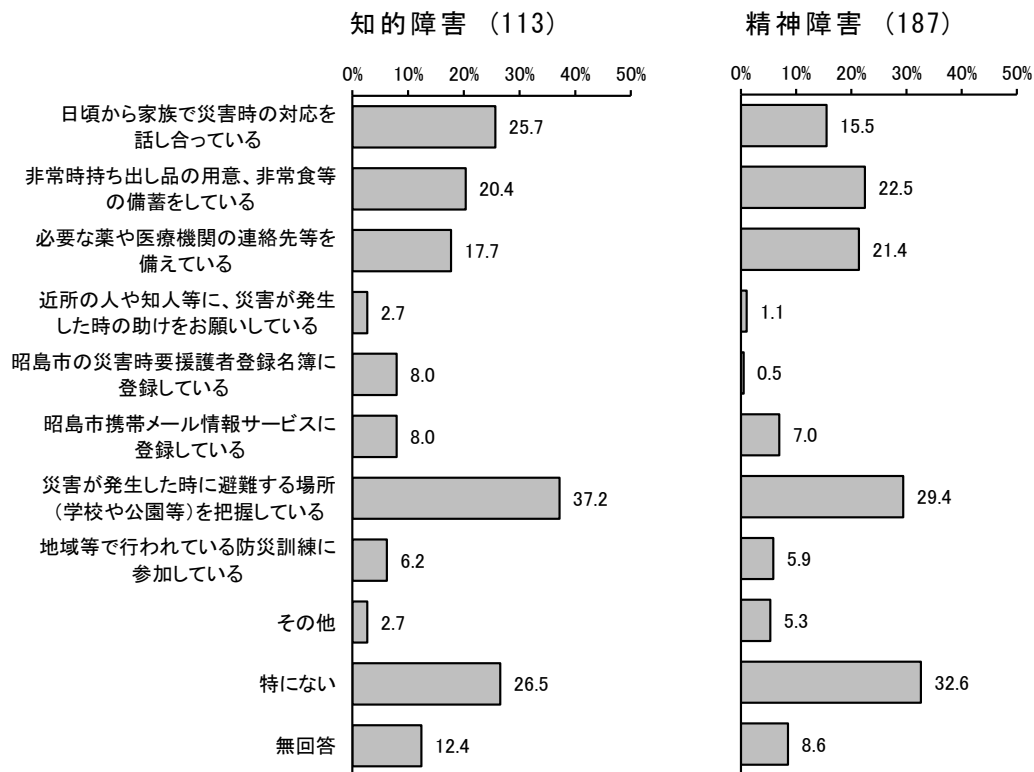
問 46 あなたは、災害に対してどのような備えをしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

全体では、「災害が発生した時に避難する場所（学校や公園等）を把握している」が36.8%と最も多く、次いで「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄をしている」が26.9%、「必要な薬や医療機関の連絡先等を備えている」が25.8%、「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」が20.4%と続いています。なお、「特にない」が23.5%となっています。

障害別に見ると、精神障害では「特にない」が32.6%で最も多くなっています。





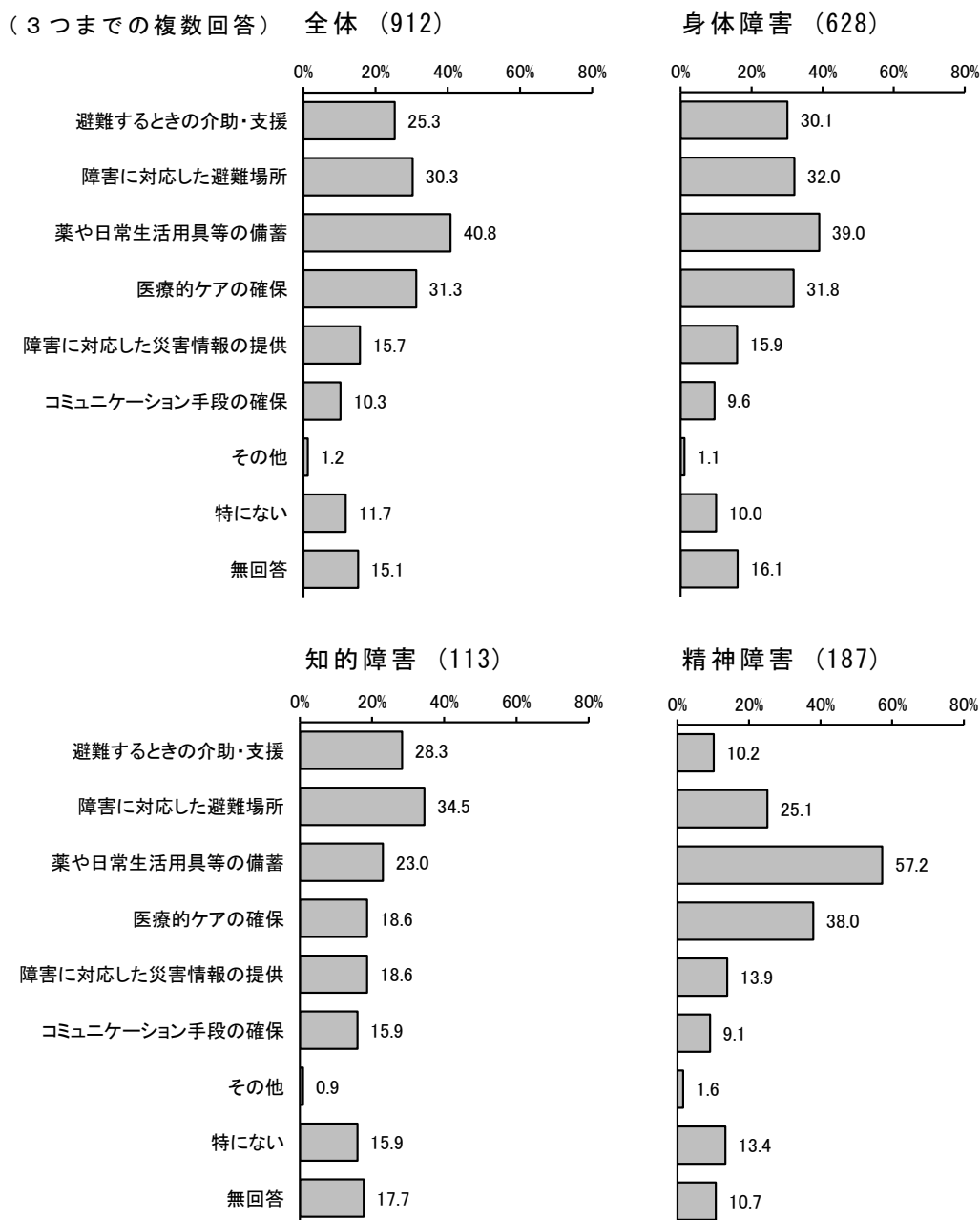
(3) 災害時に必要な支援

問 47 あなたは、災害が発生した時にどのような支援が必要ですか。
(○は3つまで)

全体では、「薬や日常生活用具等の備蓄」が40.8%と最も多く、次いで「医療的ケアの確保」が31.3%、「障害に対応した避難場所」が30.3%、「避難するときの介助・支援」が25.3%と続いています。

障害別に見ると、知的障害では「障害に対応した避難場所」が34.5%で最も多くなっています。

また、身体障害と知的障害では「避難するときの介助・支援」が精神障害に比べて多く、身体障害と精神障害では「医療的ケアの確保」が知的障害に比べて多くなっています。このほか、精神障害では「薬や日常生活用具等の備蓄」が57.2%と他の障害に比べて多くなっています。



身体障害の部位による違いを見ると、視覚障害と肢体不自由では「避難するときの介助・支援」が最も多くなっているほか、「障害に対応した避難場所」が他の障害に比べて多くなっています。

また、聴覚・平衡機能障害では「障害に対応した災害情報の提供」（34.8％）と「コミュニケーション手段の確保」（28.3％）が、内部障害では「薬や日常生活用具等の備蓄」（48.2％）と「医療的ケアの確保」（45.7％）が他の障害に比べて多くなっています。

●災害時に必要な支援（身体障害の部位別）

%											
		回答者数（人）	避難するときの 介助・支援	障害に対応した 避難場所	薬や日常生活用具等 の備蓄	医療的ケアの確保	障害に対応した 災害情報の提供	コミュニケーション 手段の確保	その他	特にない	無回答
全体		628	30.1	32.0	39.0	31.8	15.9	9.6	1.1	10.0	16.1
身体障害の部位	視覚障害	38	44.7	42.1	26.3	26.3	15.8	10.5	－	13.2	18.4
	聴覚・平衡機能障害	46	28.3	28.3	37.0	17.4	34.8	28.3	－	2.2	15.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	18	50.0	27.8	38.9	16.7	11.1	22.2	－	11.1	16.7
	肢体不自由	297	41.8	39.1	32.7	25.6	16.2	9.1	1.7	10.8	15.8
	内部障害	245	15.5	22.9	48.2	45.7	12.2	6.5	0.8	10.2	14.7

※音声・言語・そしゃく機能障害は回答者数が少ないため、参考値となります。

13 昭島市の障害者施策について

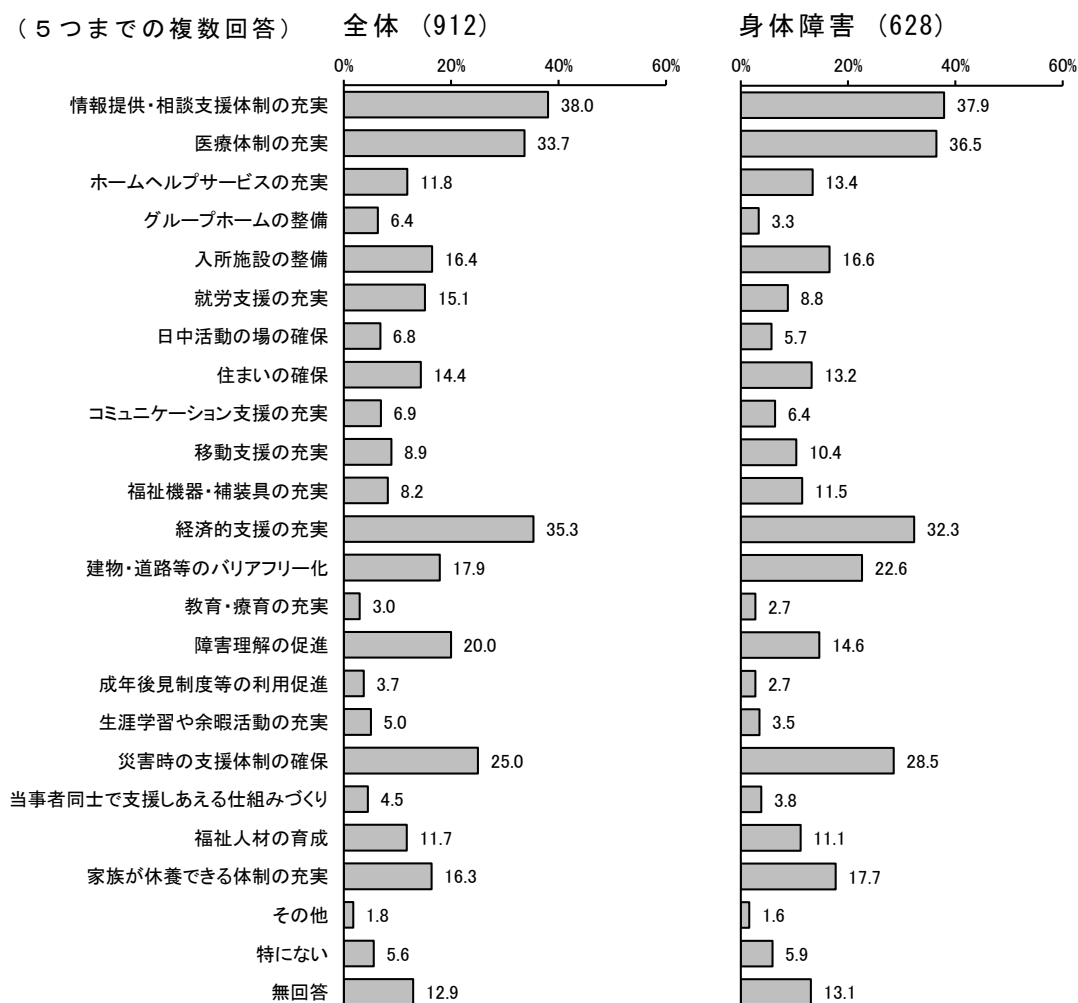
(1) 昭島市が重点的に取り組むべき施策

問 48 あなたは障害のある人が地域で安心して暮らしていくために、昭島市がどのような施策を重点的に行うべきだと思いますか。(〇は5つまで)

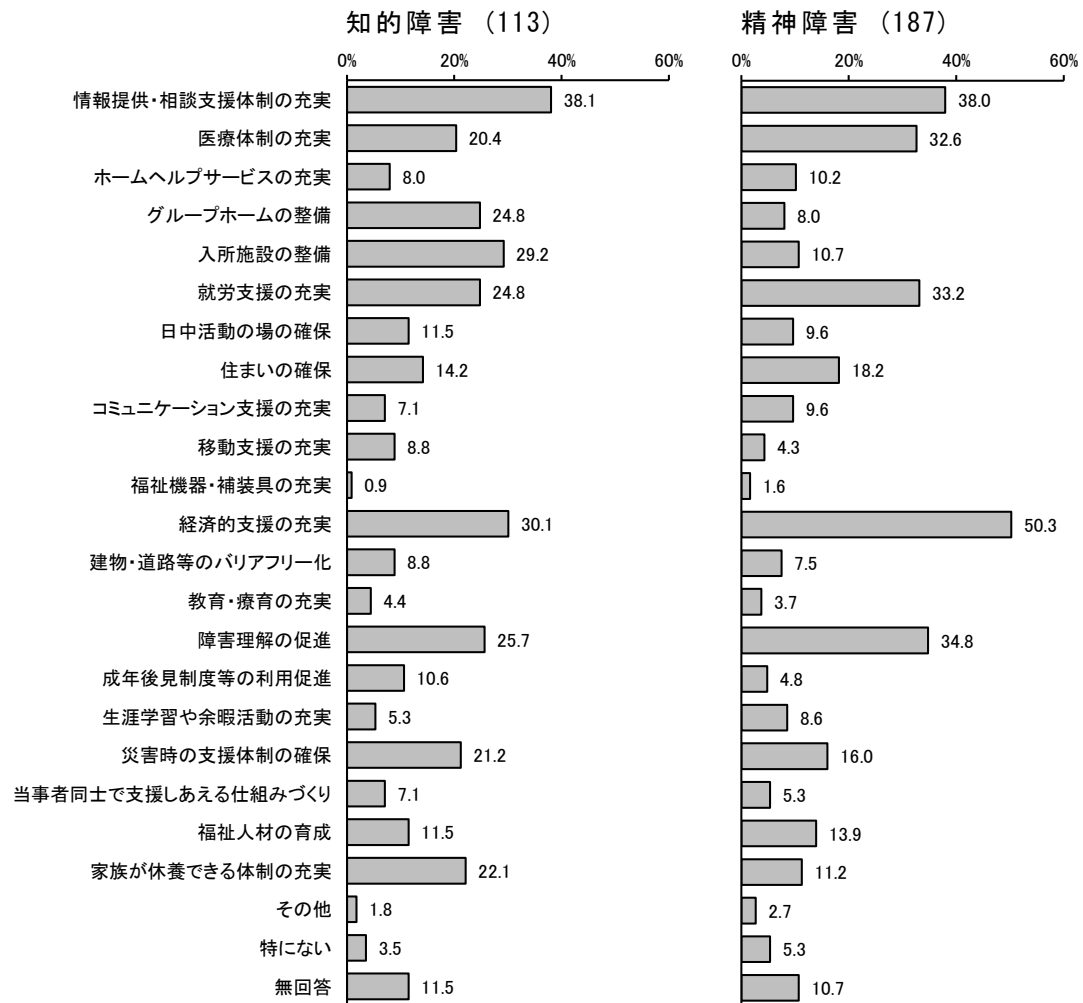
全体では、「情報提供・相談支援体制の充実」が38.0%と最も多く、次いで「経済的支援の充実」が35.3%、「医療体制の充実」が33.7%、「災害時の支援体制の確保」が25.0%と続いています。

障害別に見ると、精神障害では「経済的支援の充実」が50.3%で最も多くなっています。身体障害と精神障害では「医療体制の充実」が知的障害に比べて多くなっているほか、身体障害では「福祉機器・補装具の充実」(11.5%)、「建物・道路等のバリアフリー化」(22.6%)が他の障害に比べて多くなっています。

また、知的障害と精神障害では「就労支援の充実」と「障害理解の促進」が身体障害に比べて多くなっているほか、知的障害では「グループホームの整備」(24.8%)と「入所施設の整備」(29.2%)が他の障害に比べて多くなっています。



第2章 18歳以上の方の調査結果



(2) 昭島市の障害者施策に対する意見・要望等

問 49 昭島市の障害者施策に関して、ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

ここでは、昭島市の障害者施策に対する意見・要望等の件数を示します。複数の分野にまたがる意見については、それぞれの分野で計上しています。

「行政（市）の対応・制度・手続き」が42件と最も多く、次いで「福祉サービス」が35件、「情報・相談」が29件、「住まい・道路・交通手段等の生活環境」が27件と続いています。

回答の内容	件数
行政（市）の対応・制度・手続き	42
福祉サービス	35
情報・相談	29
住まい・道路・交通手段等の生活環境	27
障害理解・交流	20
経済的支援	18
将来の不安	10
雇用・就労	9
災害対策	6
その他	64
回答者数	217

●主な意見

※ここで掲載した回答は、大意を変えずに一部を省略・要約している場合があります。

【行政（市）の対応・制度・手続き】

「市役所業務全般に通じることではありますが、受付時間が日中のみであるため、非常に手続き等はしづらいです。私は一般企業に勤務（障害者雇用枠）していますが、時短勤務で収入に不安があるため、できる限り休暇を取りたくないですし、有給もありますが、体調悪化時のために残しておきたいと感じています。」（女性・31歳・精神障害）

「市役所福祉課の窓口の対応が時間がかかるし、詳しい知識がないと思う。施策どおりにことが進んでいない。障害者が暮らしやすい、思いやりのある街にしてください。」

（女性・34歳・身体障害・知的障害）

「各種手続き、あいぽくでもできると聞いて行った事がありますが、職員の方が不慣れなのか、いちいち市役所へTelしたりして、時間はかかるし不安になって。以後は市役所に出向いています。あんなに手まどるなら下手にできると書いてほしくないです。」

（女性・45歳・精神障害）

「肢体不自由のため、タクシー券等の手続きに市役所（又はあいぽく）に行くためにタクシーを使わなければならないのは無駄なので、郵送で手続きが簡単にできればと思います。」（女性・74歳・身体障害）

「手続きを簡略化して頂けると良いかと思っています（市役所窓口での書類手続きです）。」（男性・37歳・精神障害）

「昭島市は障害者にとってとても住みづらい市です。問題が発生しても市の障害福祉課は、相談の場になりえません。弱者を切りすてる様な対応にがっかりです。市の職員さんの考え方がその様では市民に障害者への理解を求めても何の効果もありません。もっと市の方達の障害者への理解を求めます。もっと真剣に考えてほしいです。」

（女性・23歳・身体障害・知的障害）

【福祉サービス】

「日中はデイサービスに参加出来、そのままショートステイを受けられる様に整備して頂き、親なき後に入所施設を整備して欲しいです。」（男性・29歳・身体障害・知的障害）

「昭島市は他市よりは障害福祉があまり充実していないように思う。小、中、高、施設通所と全て昭島市以外のところに通学、通所してきたので、本当に地域の人達とのコミュニケーション不足を感じています。」（女性・24歳・身体障害・知的障害）

「精神障害で受けられるサービスが身体・知的障害の方から比べると少ない様に思う。市単独では、対応が難しいと思われるが、ご検討お願いします。」

（男性・43歳・精神障害）

「移動支援利用で、外出したい日にヘルパーさんが居なくて、外出出来ない時が時々あるので、ヘルパーさん育成に力を入れて欲しいです。」（男性・26歳・知的障害）

「福祉施設の利用サービスの期限を延長できるようにしてほしい。自分のおかれた外出先の場所が福祉施設くらいしかなく、コミュニケーションの場もそこしかないので。今学生だが、この先就労して安定するまでは施設の利用をして、相談支援を受けたい。」

（女性・26歳・精神障害）

第2章 18歳以上の方の調査結果

「施設従業員の待遇改善により定着化と労働内容の幾分かでも余裕を持たせること。徹底した教育指導を切望します。」（女性・76歳・身体障害）

【情報・相談】

「障害者の受けられる支援・サービス、扶助等の周知徹底。パンフレット、ホームページの充実・配布を希望します。」（男性・49歳・身体障害・知的障害）

「障害者として申請していても、行政からの案内は何もない。色々な支援サービスは、自分で調べ、自分で相談しなければ、何もわからない。」（女性・42歳・身体障害）

「障害を深く知っている人に相談したい。相談しても一般的な答えしか返ってこない。個別にきめ細やかに対応してほしい。」（女性・55歳・精神障害）

「プライバシーを尊重して障害者を世話する家族の悩みを気軽に相談できる場が増える事が望ましい。家族会のような場でお互いの話しをするのは、同じ地域の中では家族間のプライバシーの点で難あり。」（男性・70歳・身体障害）

「私は生まれつきの内部障害であるが、大人になり精神病も患ってしまった。生まれつきの病気の子でも心や体に関する相談場所を作ることを望みます。学生時、通常学級での通学も、良い面もあったが、心身ともに辛いことも多かった。」

（女性・34歳・身体障害）

「障害（特に知的・発達等）はグラデーションで就労、学業等で困難をかかえている人々は、もしかすると、障害者手帳を取得して支援を受けることで、就学・学校での生きにくさを解消できるのかも知れない。私も障害と確定したのは近年で、それまで数々の生きにくさを感じてきた。そういう人のために、まだ障害に気づかない人のための情報提供をしてほしい。」（女性・53歳・精神障害）

【住まい・道路・交通手段等の生活環境】

「住まいの確保について。車椅子の生活になり、段差のある住まいなので困っています。都営住宅は、なかなか住もうとする住宅にめぐり合えずにあります。バリアフリー化した住宅は少ないのか、毎回見ておりますが二人で住むのに遠かったり、今より狭いと思っているうち年取ってしまいました！！」（女性・77歳・身体障害）

「道路に段差解消。私は現在移動手段として電動カートを使って居りますが、電動カートがスムーズに走れる様に歩道の整備をお願いします。」（男性・77歳・身体障害）

「公共の場、例えば市役所等や病院への交通手段が少ないというより無い為、いろいろ大変です。Aバスのルートなどの検討をお願いしたいです。」（女性・51歳・身体障害）

「とにかく住居費が高く、年金が全部それだけでなくなるくらいなので、都営も申し込んでいるが中々当選せず、母もそろそろ年齢的に働けなくなるので、家庭経済の改善対策が欲しい。足も悪いので（障害というほどではないが）さらに住むところも限られてしまい、もう住宅支援は一度使ってしまったし、年金と内職アルバイトでどのみち支援を受けられないので、本当に崖っぷちで、それがストレスで病状が悪化するという悪循環を断ち切りたい。」（女性・44歳・精神障害）

【障害理解・交流】

「障害の種類や実際の生活の様子を市民の方に伝える機会（講演会等）をさらに拡充すると、もっと障害について知ることができて、障害者理解に繋がるのかなと思います。」（男性・20歳・身体障害）

「目に見える障害は理解されやすく、対策もたくさんされていますが、精神的な障害は体調が悪くても無理して過ごさなくてはならない事がたくさんあって、周囲の人たちに理解されることも対策もあまりされてないと思います。」（女性・38歳・精神障害）

「タクシー会社で愛の手帳の割引の制度を知らない会社があるので困る。」（男性・42歳・知的障害）

「心もとない一言できずついたりします。座っていると障害者に見られないので余計嫌な思いをたくさんしてきました。また、なにげない一言で泣きそうなほど、うれしい事もあります。皆の考えや意識が替われば良くなると思います。」（女性・40歳・身体障害）

【経済的支援】

「私は現在に於いて障害（4級）です。ストマ装着が一生必要です。病院へは3ヶ月に1回程度の検査を受診していますが、経済的な面から不都合な為、市役所からのストマ装着の支援金額が少ないため納得出来ず困っています。従って市役所の方で支援金額を大巾に見直して下さい。」（男性・72歳・身体障害）

「親が障害があり、自分1人では何も出来ないため、子供が交代で介護しているが、そのため、子供は仕事を減らし収入が減少、非課税じゃないと、何も支給が出来ないと言われた。障害の手当金は少ないし、家族で介護している家庭にも非課税関係無しで、家族が仕事出来ない分少しでも支給して欲しいです。」（女性・81歳・身体障害）

「どこに行くにもタクシーか車なので、ガソリンやタクシー代の補助が足りない。外出を控えてしまう。」（女性・50歳・身体障害・知的障害）

第2章 18歳以上の方の調査結果

「私は身体障害者手帳を持っているとはいえ4級です。それに72才です。いくら都で決めたこととはいえ65才以上は手当がもらえないなんて矛盾している。経済的に苦しいのでまだパートで仕事はしています。もう体も大変になってきています。市ではもう少し考えて手当を出して下さい。」(女性・72歳・身体障害)

【将来の不安】

「今は家族で介護し地域のいろいろな方、また、ケアマネジャー等に相談し、いろいろ手助けしてもらっているが、夫婦共に年齢が高くなればなるほど不安である。」

(男性・64歳・身体障害)

「親が元気なうちはいいが、年も取り、親がみられなくなった場合が一番心配です。グループホームや入所施設ができるといいと思っています。」(男性・45歳・知的障害)

「現在は病気を持ちながら、体力向上にジムに通って日常生活に支障なく働いています。身体が動かなくなったら、どうしようと考えてしまいます。5年後になるか、20年もてるか、運しだいかと思います。」(男性・67歳・身体障害)

「本人は親なき後が理解できていません。親はずうっと自分を見ていてくれると思っています。この意識を良く話しますが、なかなか理解ができていないのが現状です。」

(男性・30歳・知的障害)

【雇用・就労】

「昭島市で職の紹介をしてもらえるとありがたいです。立川のハローワークに行くのも大変なので…。」(女性・27歳・身体障害)

「就労継続支援 B 型事業所で働いているが1時間の時給が80円で普通の企業より安すぎて人をバカにしていると思う。最低でも1時間800円以上は欲しい。生活が出来ず親と住むしかない。自立出来ない。」(女性・36歳・精神障害)

「精神障害者の就労について。昭島市内の就労支援施設に精神障害者に向けた窓口がなく、不安を感じた。立川市の就労支援施設に通っているが、交通費もかかり、遠出をするのが難しい日など、昭島にも窓口があれば良いのと思う。」(女性・24歳・精神障害)

「私は61才でポリオにより下肢機能障害2級です。58才で会社を退職してそれから障害者職業訓練校に行き、いざ就職となると年齢もあり、なかなか思った職に付きませんでした。面接は10社、書類で40社位だめでした。結果、訓練校の内容とはまったく関係のない仕事をしています。もっともっと障害者に就職の間口をひろげてほしいです！」

(男性・61歳・身体障害)

【災害対策】

「この度転居したが、高層階のため火災、地震などで又は停電のためエレベーターが使用出来ないの、一緒に住む人が居ないために（介助者）避難の時に困る。」

（男性・78歳・精神障害）

「災害時の障がい者用マニュアルみたいな具体的なものがあれば、少しは安心出来るような…。」（女性・45歳・身体障害）

「人工肛門のため（気管支喘息もある）、災害が起きた時の事が一番心配です。トイレの事。」（女性・82歳・身体障害）

「補聴器がないと生活できず、一人で昼間に何かあった時（火事、水害、じしんなど）、知らないまま取り残され、逃げ遅れるかも？と不安があります。あきらめています。そういう人もいると知ってほしいです（災害時の対応方法はどうしたらいいのか、わかりません）。」（女性・63歳・身体障害）

【その他】

「高齢者にとって、歯の治療が大変です。歯科の訪問医療が充実されると良いのですが。」（女性・100歳・身体障害）

「自分の住んでいる地域には友達がいないので、障害者同士が知り合える場所があるとよい。」（女性・30歳・知的障害）

「障害者自身で再建できる為のリハビリセンターの建設（利用するには指導者、補助者の常設。利用にあたっては市発行の許可証）。」（男性・79歳・身体障害）

「調査項目について、回答するのが難しい感あり（広範囲すぎます）。障害の内容、年齢等に区分して調査すると、もっと具体的な対策、計画に資するのではないか。」

（女性・83歳・身体障害）

「このアンケートのおかげで、“ヘルプカード”を知りました。」

（女性・33歳・精神障害）

「アンケートはマルをつけるところが沢山あって大変だった。私も今は、両親が亡くなり、ちょっと落ち込んでいるので、早く気持ち的にも復活し、アルバイトを見つけ、働けるようになれるといいなと思っています。体はすごく健康なので、いいと思います。」

（女性・40歳・精神障害）

「私の母は、眼の障害に加え認知症を発生してしまい、施設へ入所。今は逆に眼の障害は苦とはなっていません。幸せなのかなと感じます。しかし、その障害のために認知症が進んだのかとも思います。」（女性・92歳・身体障害）

第 3 章

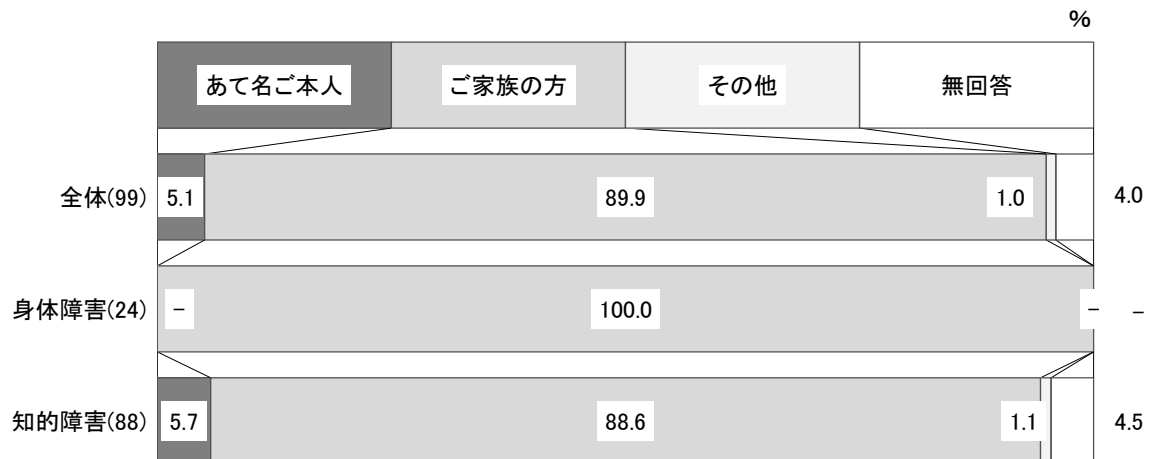
18歳未満の方の調査結果

1 調査票の回答者

(1) 調査票の回答者

問1 この調査票を回答していただく方は誰ですか。(○は1つ)

全体では、「あて名ご本人」が5.1%、「ご家族の方」が89.9%となっています。
障害別の結果に大きな変化はありませんでした。

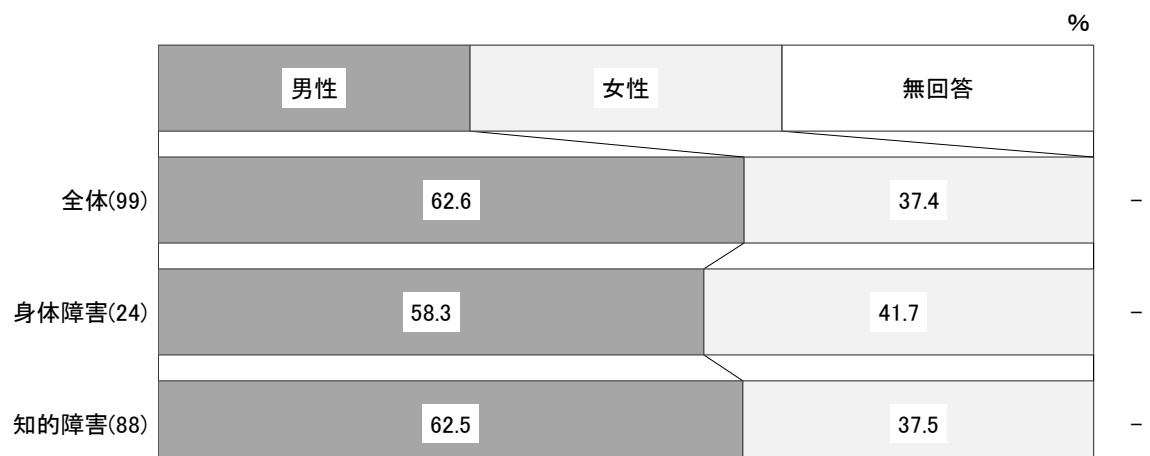


2 ご本人について

(1) 性別

問2 あなたの性別をお聞きます。(○は1つ)

全体では、「男性」が62.6%、「女性」が37.4%となっています。
障害別の結果に大きな変化はありませんでした。

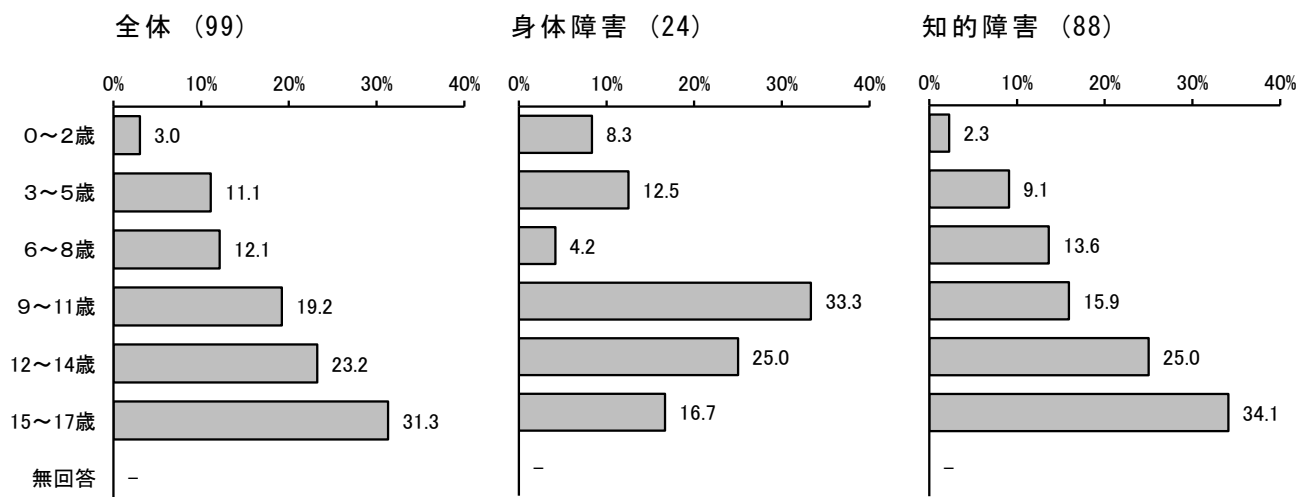


(2) 年齢

問3 あなたの年齢をお聞きします。平成28年11月1日現在の年齢をお書きください。

全体では、「15～17歳」が31.3%と最も多く、次いで「12～14歳」が23.2%、「9～11歳」が19.2%、「6～8歳」が12.1%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「9～11歳」が33.3%で最も多くなっています。

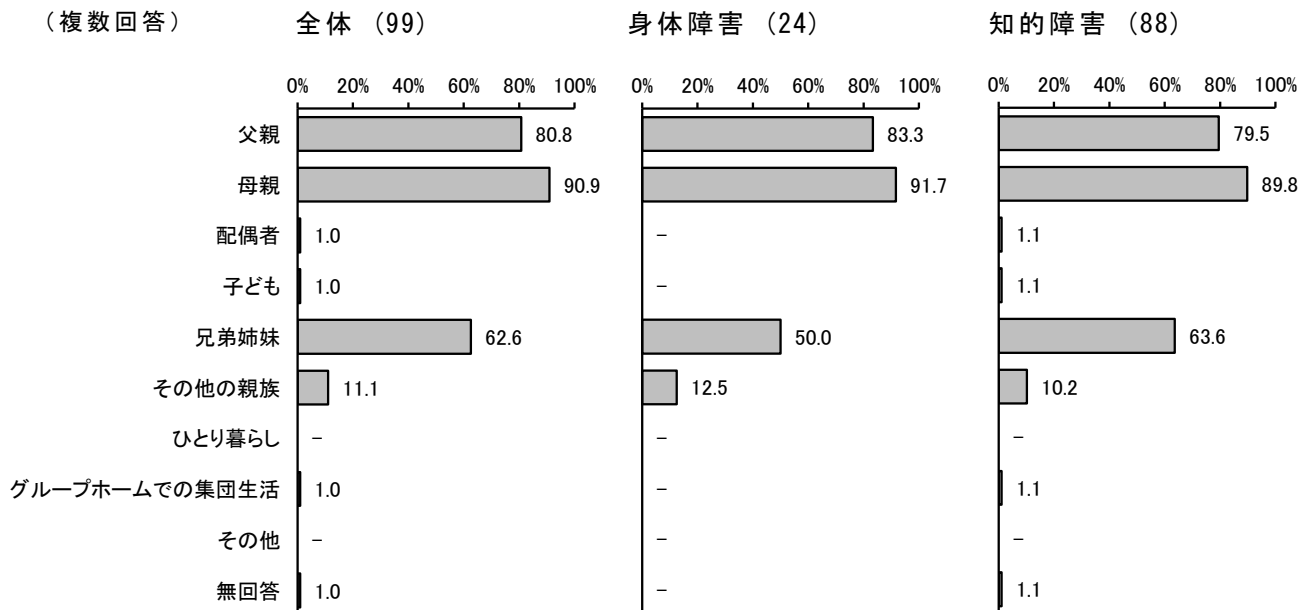


(3) 同居者

問4 あなたと一緒に暮らしている方は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「母親」が90.9%と最も多く、次いで「父親」が80.8%、「兄弟姉妹」が62.6%、「その他の親族」が11.1%と続いています。

障害別の結果に大きな変化はありませんでした。



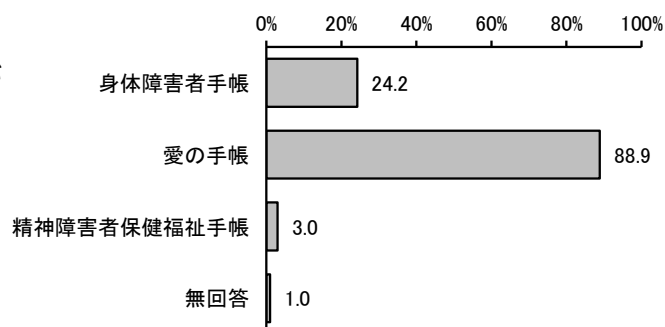
3 障害の状況について

(1) 障害者手帳の種類

問6 あなたが持っている障害者手帳の種類をお聞きます。等級・程度にも○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

「身体障害者手帳」が24.2%、「愛の手帳」が88.9%、「精神障害者保健福祉手帳」が3.0%となっています。

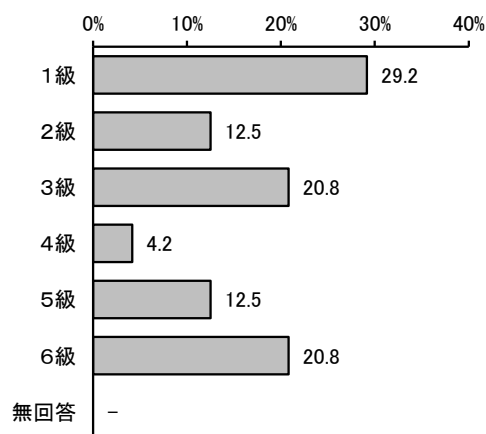
総数=99(複数回答)



① 身体障害者手帳の等級

「1級」が29.2%と最も多く、次いで「3級」と「6級」がそれぞれ20.8%、「2級」と「5級」がそれぞれ12.5%と続いています。

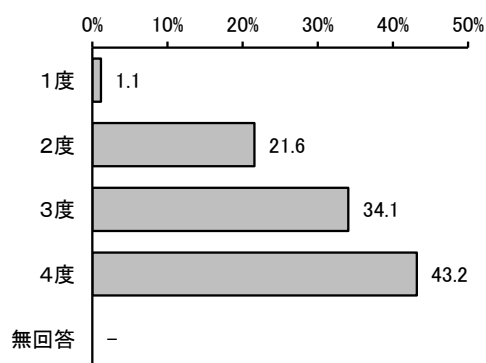
総数=24



② 愛の手帳の程度

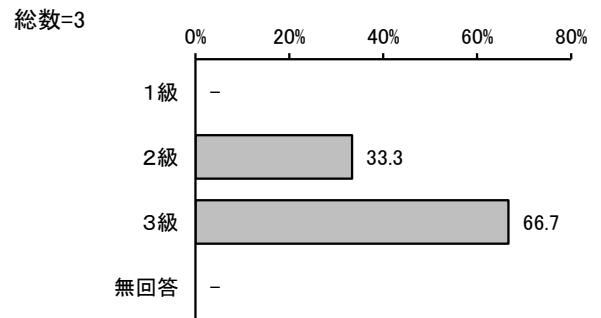
「4度」が43.2%と最も多く、次いで「3度」が34.1%、「2度」が21.6%、「1度」が1.1%と続いています。

総数=88



③精神障害者保健福祉手帳の等級

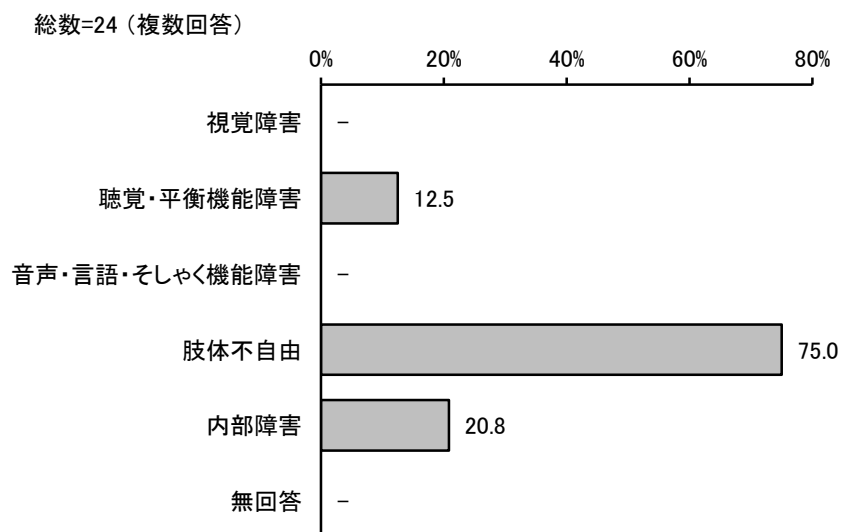
「2級」が33.3%（3人中1人）、「3級」が66.7%（3人中2人）となっています。



(2) 身体障害の部位

問7 「身体障害者手帳」を所持している方にお聞きします。障害の種類は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「肢体不自由（上肢・下肢・体幹等）」が75.0%と最も多く、次いで「内部障害（心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう、直腸、小腸、免疫機能、肝臓）」が20.8%、「聴覚・平衡機能障害」が12.5%と続いています。

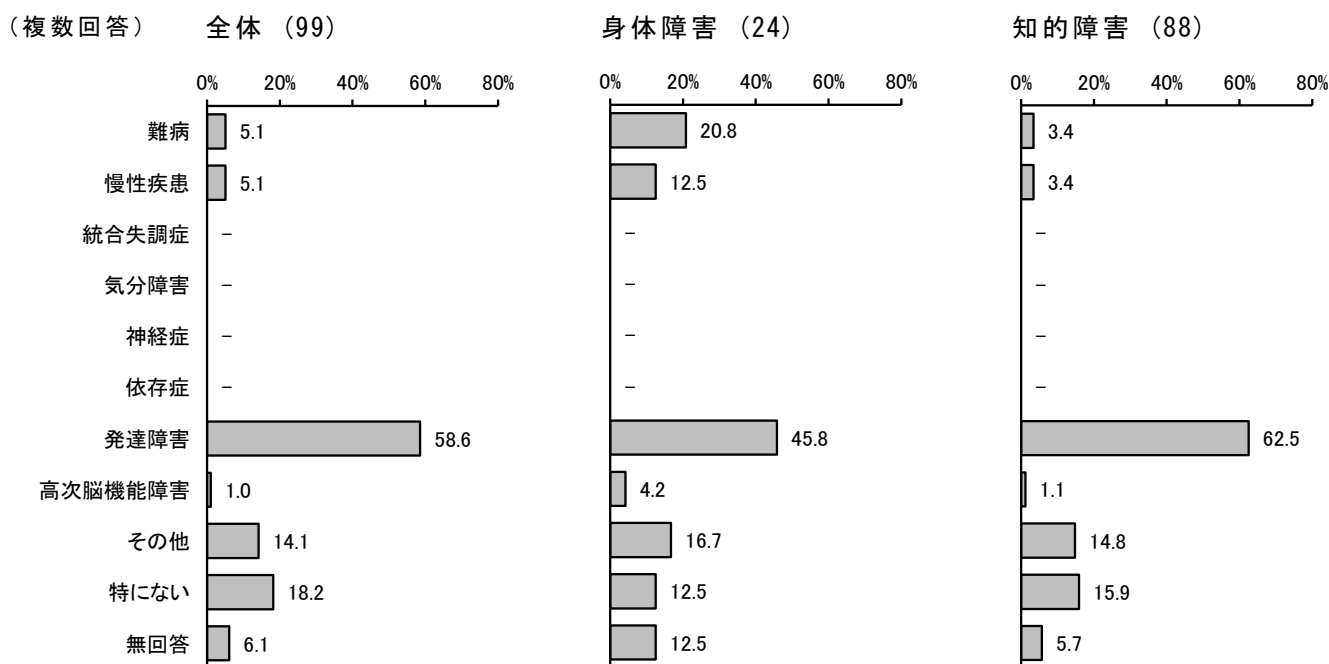


(3) 疾患や障害の有無

問8 あなたは、次の疾患や障害がありますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「発達障害」が58.6%と最も多く、次いで「難病」と「慢性疾患（糖尿病・心臓疾患・脳血管疾患等）」がそれぞれ5.1%、「高次脳機能障害」が1.0%と続いています。なお、「特にない」が18.2%となっています。

障害別に見ると、身体障害では「難病」（20.8%）と「慢性疾患（糖尿病・心臓疾患・脳血管疾患等）」（12.5%）が知的障害に比べて多く、知的障害では「発達障害」が62.5%と身体障害に比べて多くなっています。



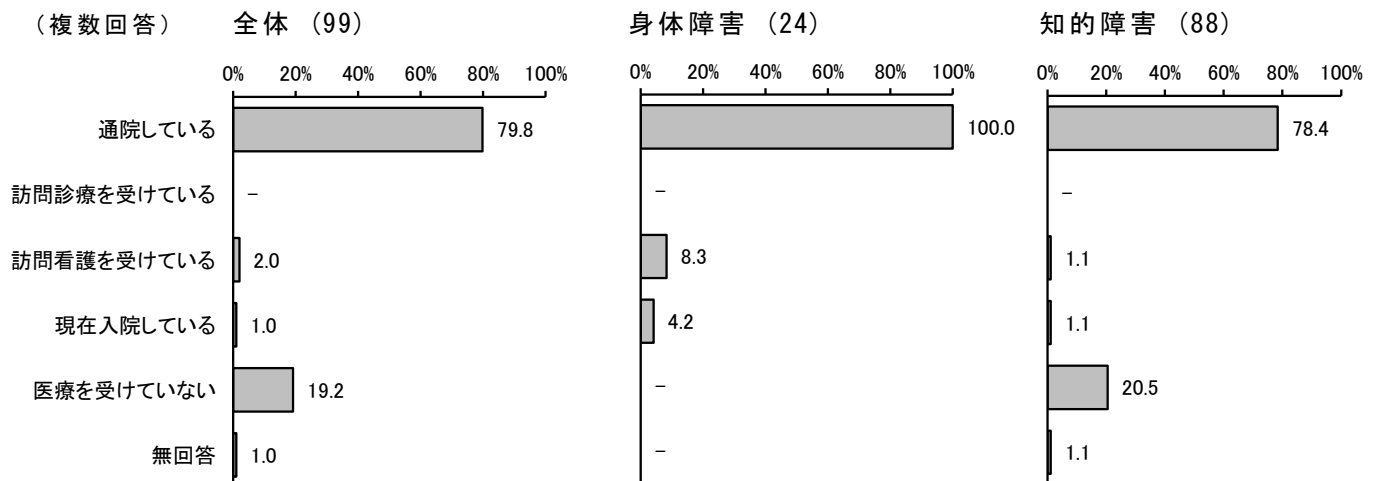
4 医療や介助の状況について

(1) 医療機関の受診状況

問9 現在、あなたはご自身の疾患や障害のために医療（リハビリを含む）を受けていますか。（あてはまるものすべてに○）

全体では、「通院している」が79.8%と最も多く、次いで「医療を受けていない」が19.2%、「訪問看護を受けている」が2.0%、「現在入院している」が1.0%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「通院している」が100%に達しています。



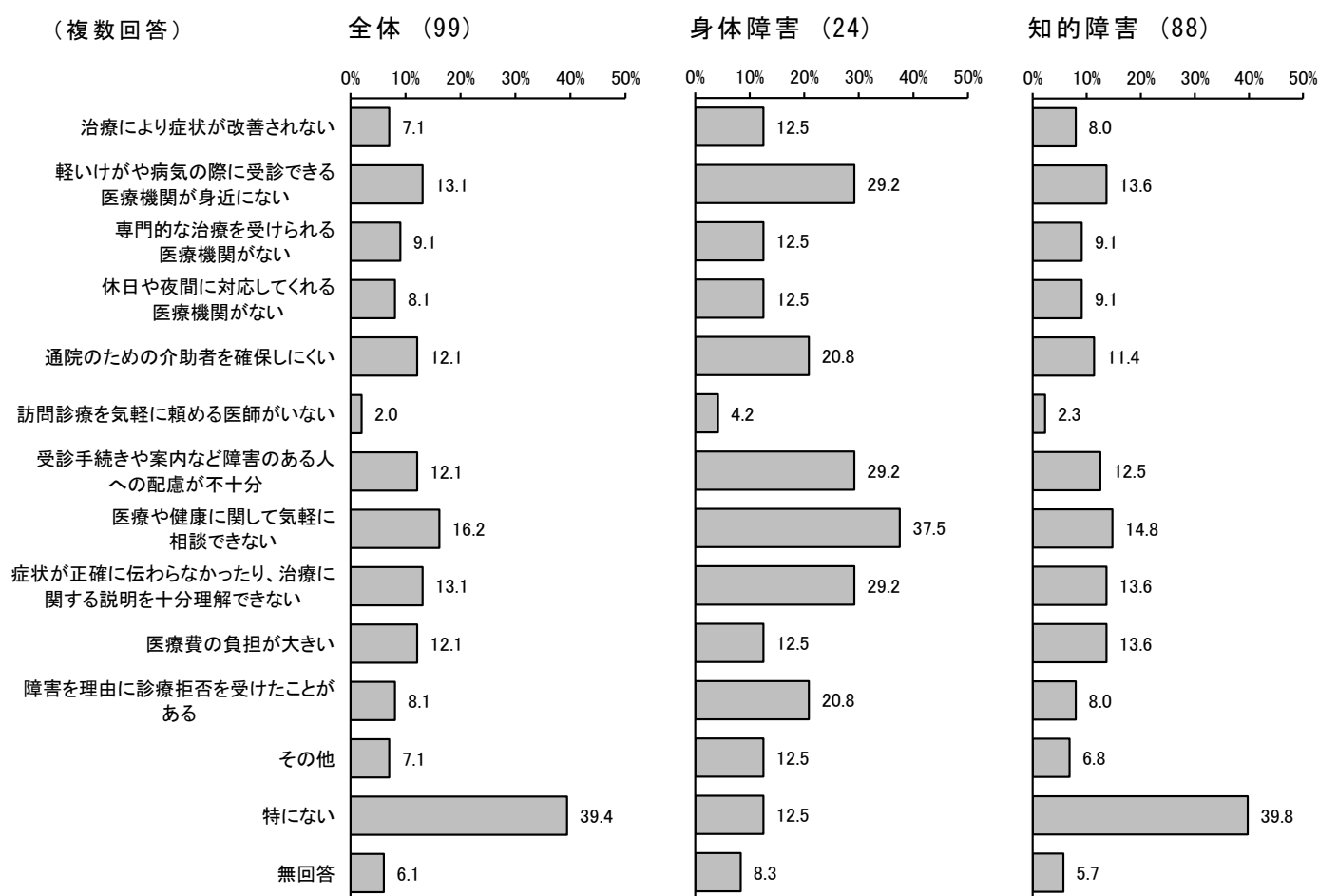
(2) 医療を受ける際に困っていること

問10 あなたが、医療を受ける際に困ることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

全体では、「医療や健康に関して気軽に相談できない」が16.2%と多く、次いで「軽いけがや病気の際に受診できる医療機関が身近にない」と「症状が正確に伝わらなかったり、治療に関する説明を十分理解できない」がそれぞれ13.1%、「通院のための介助者を確保しにくい」と「受診手続きや案内など障害のある人への配慮が不十分」と「医療費の負担が大きい」がそれぞれ12.1%と続いています。なお、「特にない」が39.4%で最も多くなっています。

障害別に見ると、身体障害では「医療や健康に関して気軽に相談できない」が37.5%で最も多くなっているほか、「軽いけがや病気の際に受診できる医療機関が身近にない」(29.2%)、「通院のための介助者を確保しにくい」(20.8%)、「受診手続きや案内など障害のある人への配慮が不十分」(29.2%)、「症状が正確に伝わらなかったり、治療に関する説明を十分理解できない」(29.2%)、「障害を理由に診療拒否を受けたことがある」(20.8%)が知的障害に比べて多くなっています。



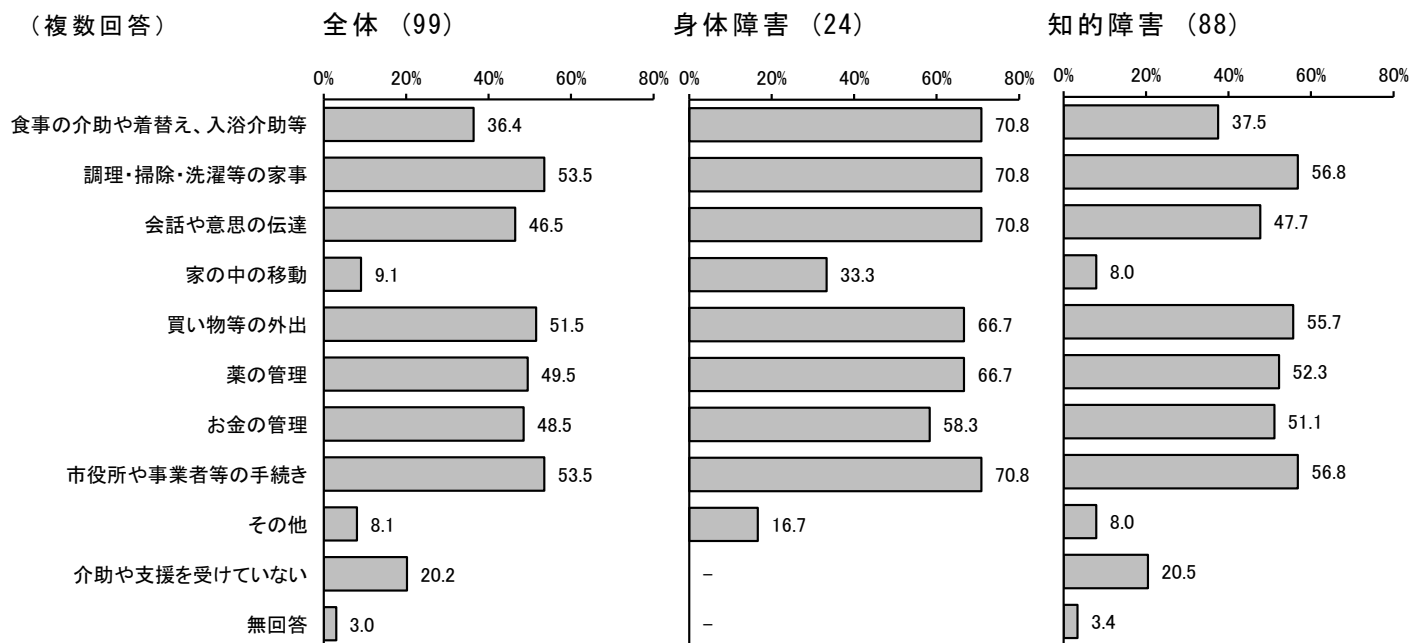
(3) 介助や支援が必要なこと

問 11 あなたは日常生活でどのような介助や支援を受けていますか。

(あてはまるものすべてに○)

全体では、「調理・掃除・洗濯等の家事」と「市役所や事業者等の手続き」がそれぞれ53.5%と最も多く、次いで「買い物等の外出」が51.5%、「薬の管理」が49.5%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では日常生活で受けている介助や支援として挙げたすべての項目で、回答割合が知的障害に比べて多くなっており、「食事の介助や着替え、入浴介助等の身の回りのこと」(70.8%)、「調理・掃除・洗濯等の家事」(70.8%)、「会話や意思の伝達」(70.8%)、「市役所や事業者等の手続き」(70.8%)は70%を超えています。

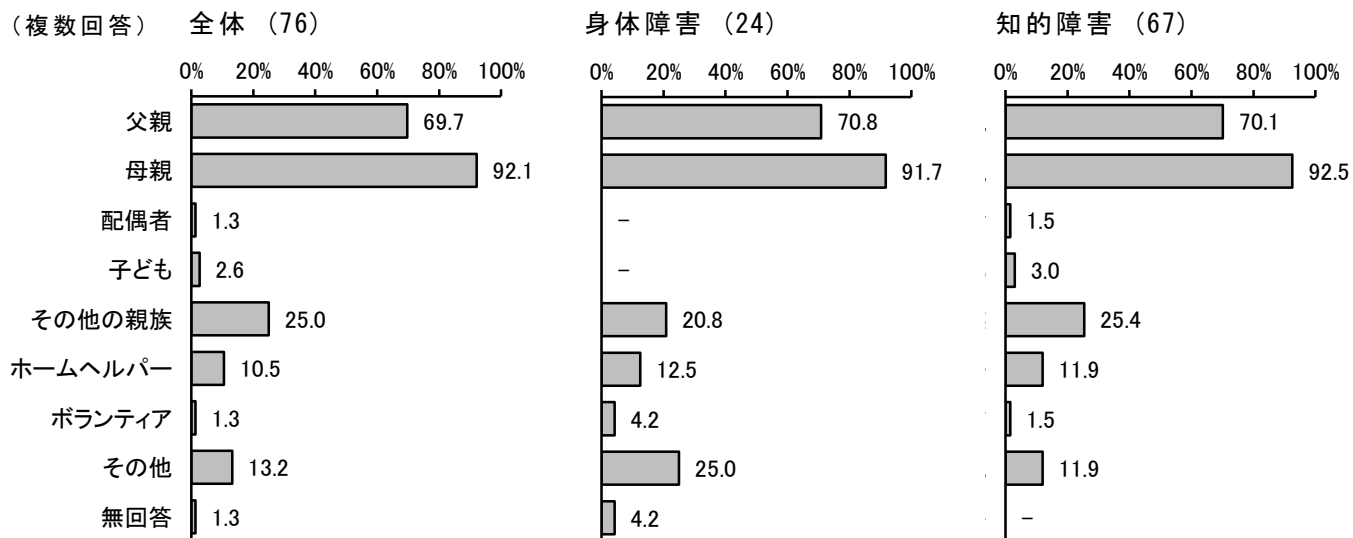


(4) 主な介助者

問12 介助や支援を受けている方にお聞きします。あなたを介助や支援している人は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「母親」が92.1%と最も多く、次いで「父親」が69.7%、「その他の親族」が25.0%、「ホームヘルパー」が10.5%と続いています。

障害別の結果に大きな変化はありませんでした。



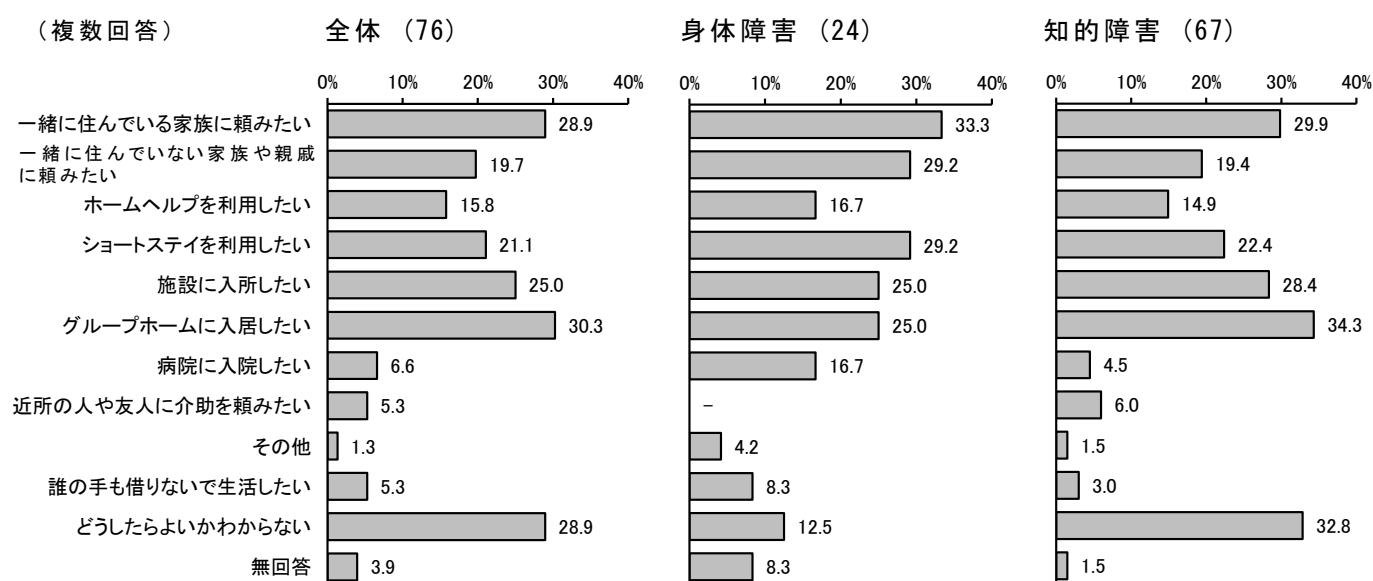
(5) 主な介助者が介助できなくなった場合の希望

問 13 介助や支援を受けている方にお聞きします。介助者があなたを介助や支援できなくなった場合は、あなたはどうしたいですか。
(あてはまるものすべてに○)

全体では、「グループホームに入居したい」が30.3%と最も多く、次いで「一緒に住んでいる家族に頼みたい」が28.9%、「施設に入所したい」が25.0%、「ショートステイを利用したい」が21.1%と続いています。なお、「どうしてもよいかわからない」が28.9%となっています。

障害別に見ると、身体障害では「一緒に住んでいる家族に頼みたい」が33.3%で最も多くなっているほか、「一緒に住んでいない家族や親戚に頼みたい」(29.2%)と「病院に入院したい」(16.7%)が知的障害に比べて多くなっています。

知的障害では「グループホームに入居したい」(34.3%)、「どうしてもよいかわからない」(32.8%)が身体障害に比べて多くなっています。



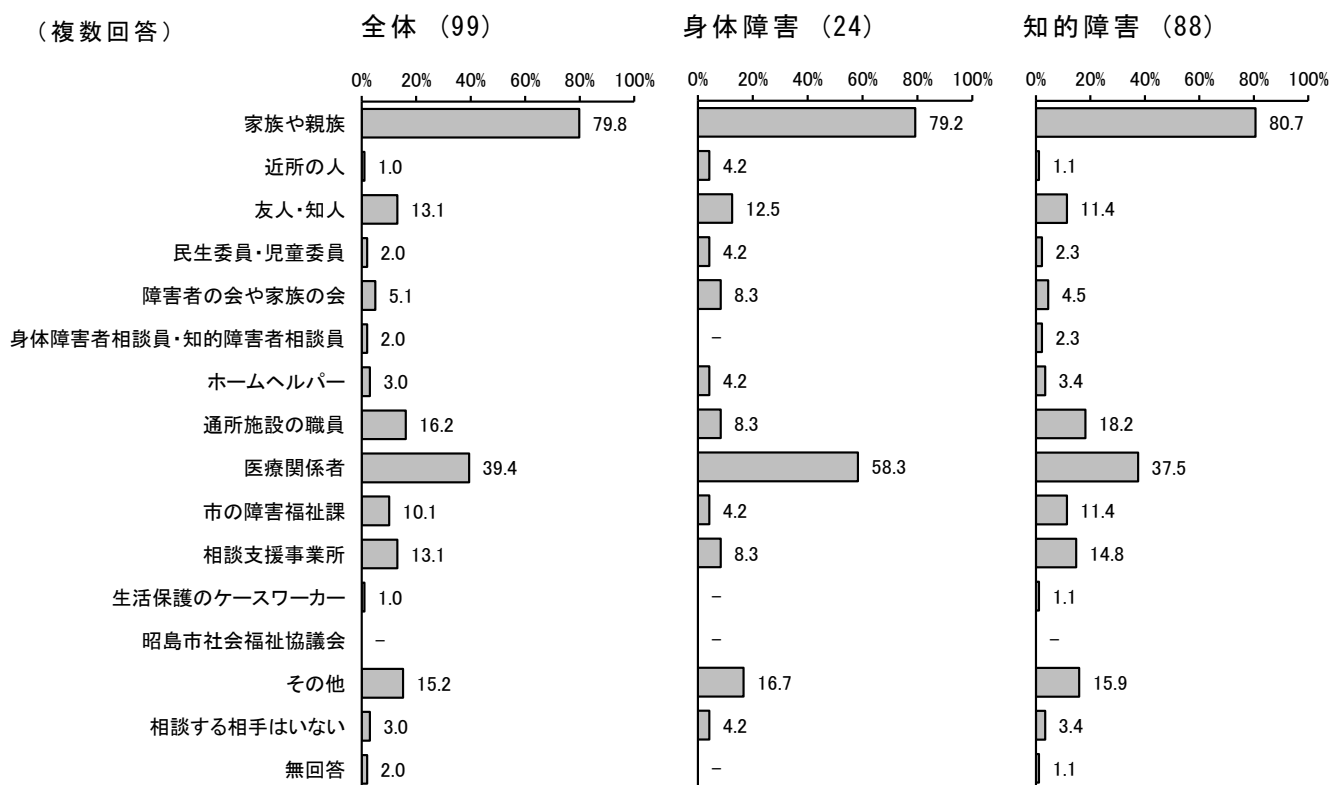
5 相談や福祉情報について

(1) 困ったときに相談できる人や場所

問 14 あなたは、日常生活で困ったことや悩み事について相談している人や場所はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「家族や親族」が79.8%と最も多く、次いで「医療関係者(医師・看護師・ソーシャルワーカー)」が39.4%、「通所施設の職員」が16.2%、「友人・知人」と「相談支援事業所」がそれぞれ13.1%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「医療関係者(医師・看護師・ソーシャルワーカー)」が58.3%と知的障害に比べて多く、知的障害では「通所施設の職員」が18.2%と身体障害に比べて多くなっています。



(2) 相談場所の認知状況

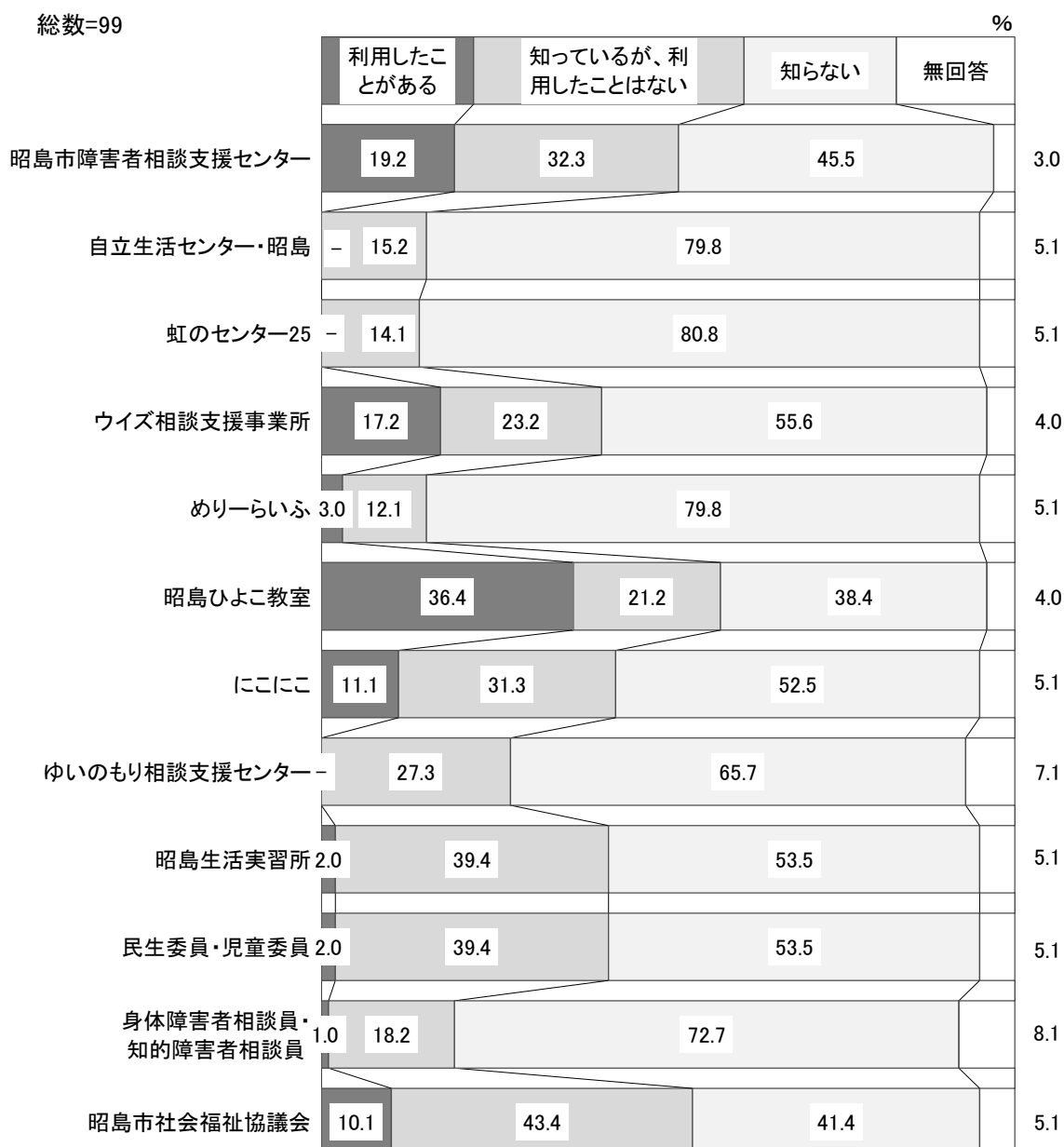
問 15 あなたは、次の相談場所等を知っていますか。
(それぞれあてはまるもの1つに○)

ここでは、「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合わせた割合を『知っている』として計上しています。

市内の相談支援機関等のうち、9つの機関等で「知らない」が半数以上を占めています。

一方、『知っている』は“昭島市障害者相談支援センター”(51.5%)、“昭島ひよこ教室”(57.6%)“昭島市社会福祉協議会”(53.5%)が50%を超えて多くなっています。

なお、「利用したことがある」は“昭島ひよこ教室”が36.4%と最も多く、次いで“昭島市障害者相談支援センター”が19.2%、“ウイズ相談支援事業所”が17.2%と続いています。



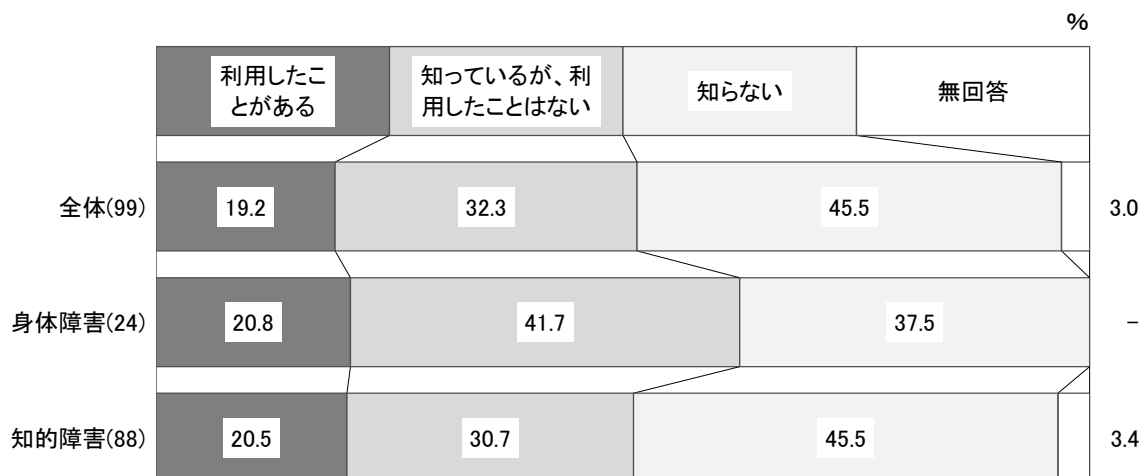
第3章 18歳未満の方の調査結果

①昭島市障害者相談支援センター

（対象者：主に身体・知的・精神障害のある人及びその家族）

全体では、「知らない」が45.5%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が32.3%、「利用したことがある」が19.2%と続いています。

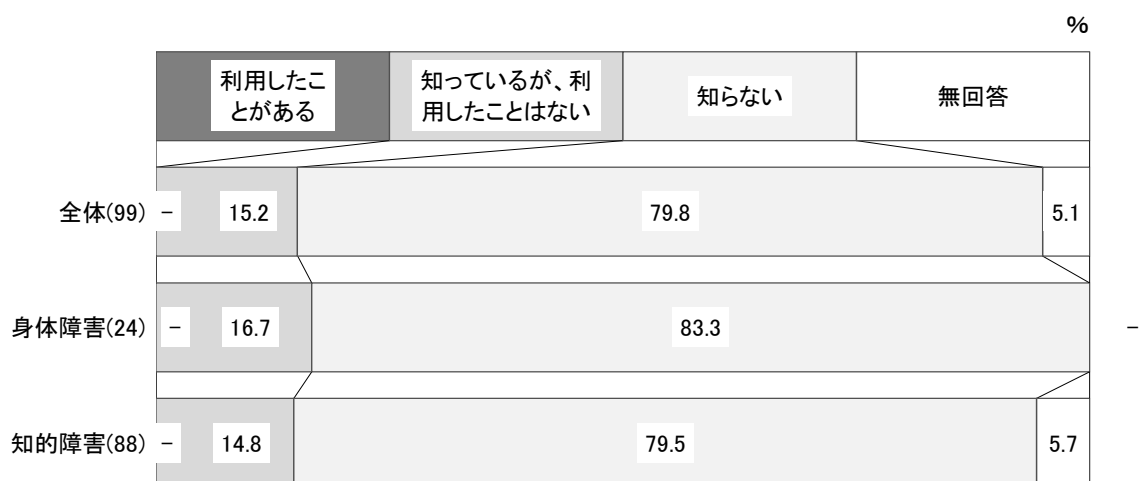
障害別に見ると、身体障害では「知っているが、利用したことはない」が41.7%で最も多くなっています。



②自立生活センター・昭島

（対象者：主に身体障害のある人及びその家族）

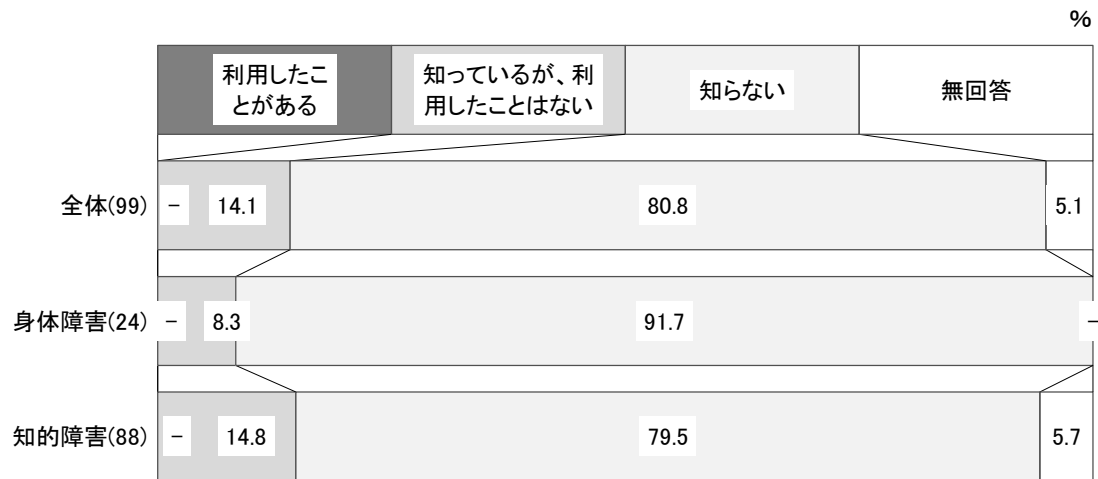
全体では、「知らない」が79.8%、「知っているが、利用したことはない」が15.2%となっています。



③虹のセンター25

(対象者：主に精神障害のある人)

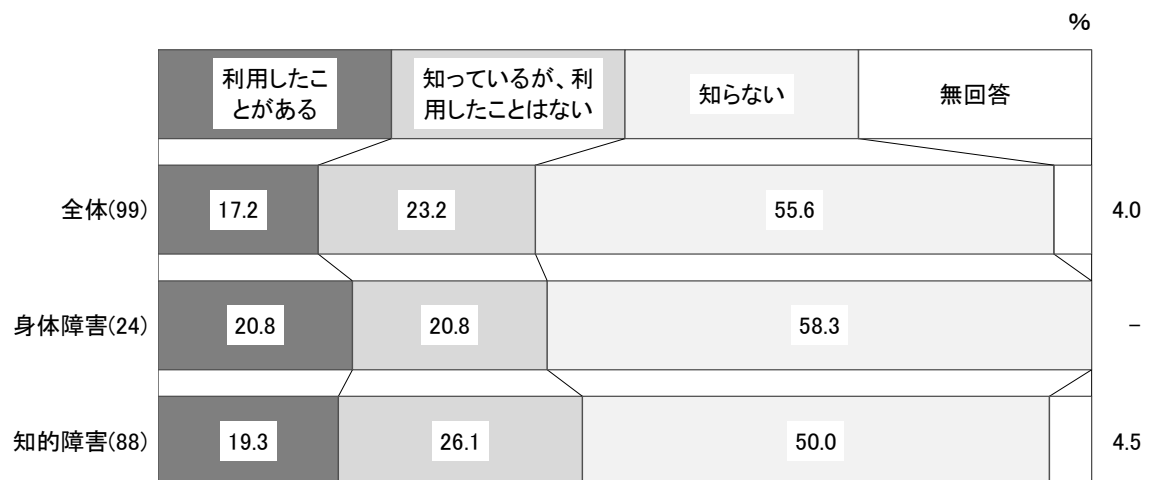
全体では、「知らない」が80.8%、「知っているが、利用したことはない」が14.1%となっています。



④ウイズ相談支援事業所

(対象者：主に知的障害のある人及びその家族)

全体では、「知らない」が55.6%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が23.2%、「利用したことがある」が17.2%と続いています。



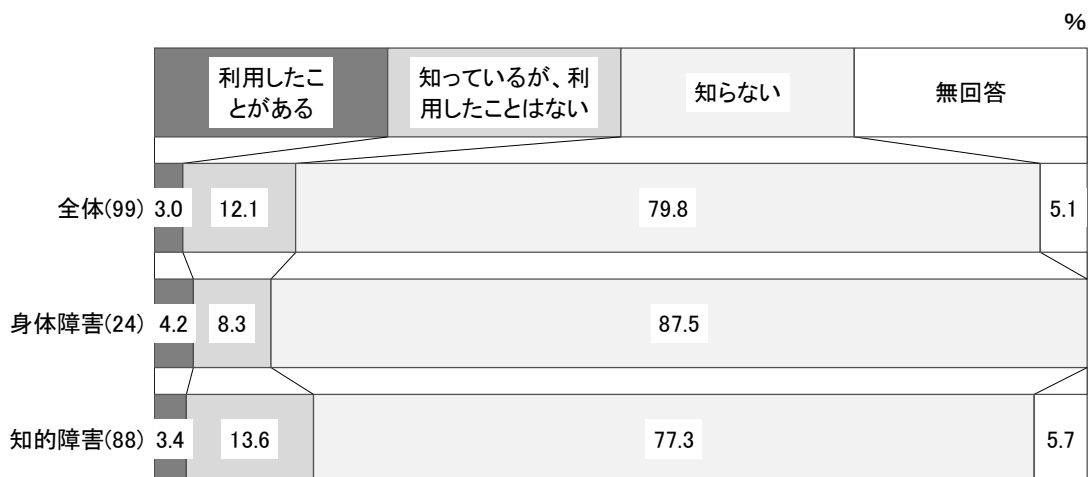
第3章 18歳未満の方の調査結果

⑤ めりーらいふ

（対象者：主に身体・知的・精神障害のある人及びその家族）

全体では、「知らない」が79.8%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が12.1%、「利用したことがある」が3.0%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「知らない」が87.5%と知的障害に比べて多くなっています。

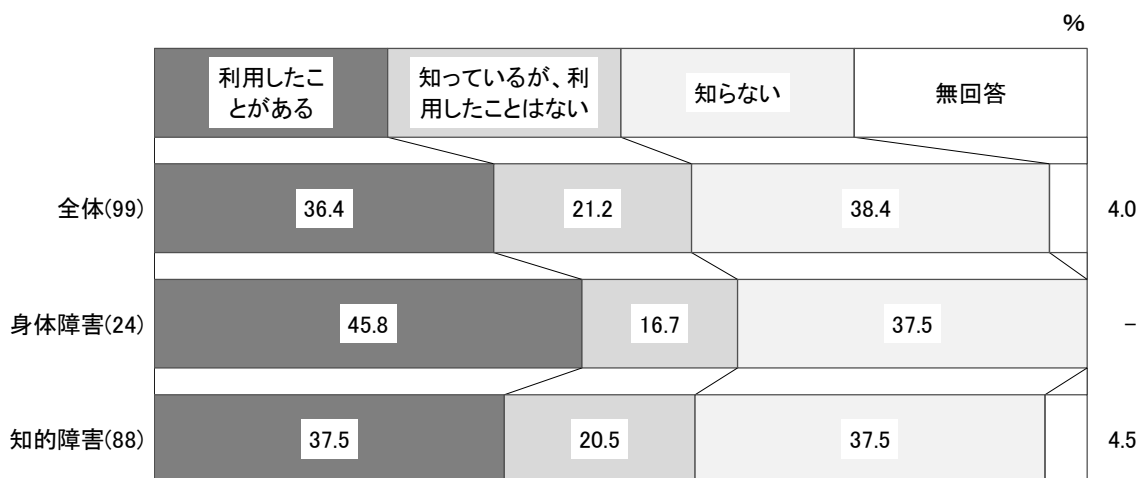


⑥ 昭島ひよこ教室

（対象者：主に児童発達支援のサービスを利用する児童及びその家族）

全体では、「知らない」が38.4%と最も多く、次いで「利用したことがある」が36.4%、「知っているが、利用したことはない」が21.2%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「利用したことがある」が45.8%で最も多く、知的障害でも「利用したことがある」が「知らない」とともに37.5%で最も多くなっています。

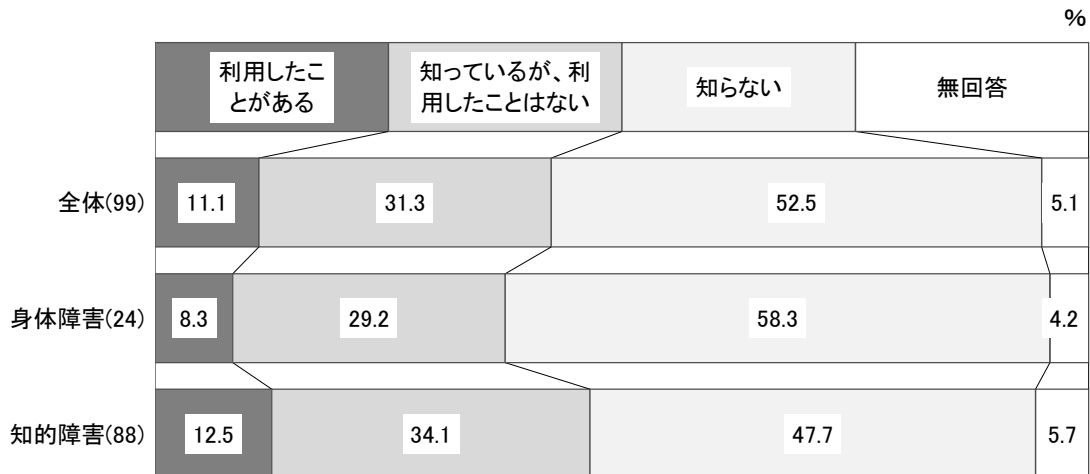


⑦にこにこ

（対象者：主に放課後等デイサービスを利用する児童及びその家族）

全体では、「知らない」が52.5%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が31.3%、「利用したことがある」が11.1%と続いています。

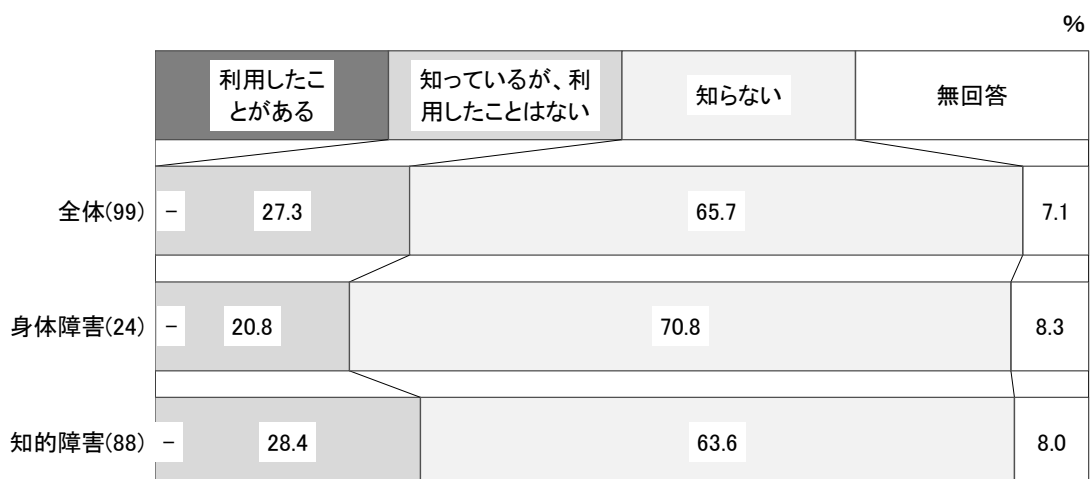
障害別に見ると、身体障害では「知らない」が58.3%と知的障害に比べて多くなっています。



⑧ゆいのもり相談支援センター

（対象者：主に精神障害のある人及びその家族）

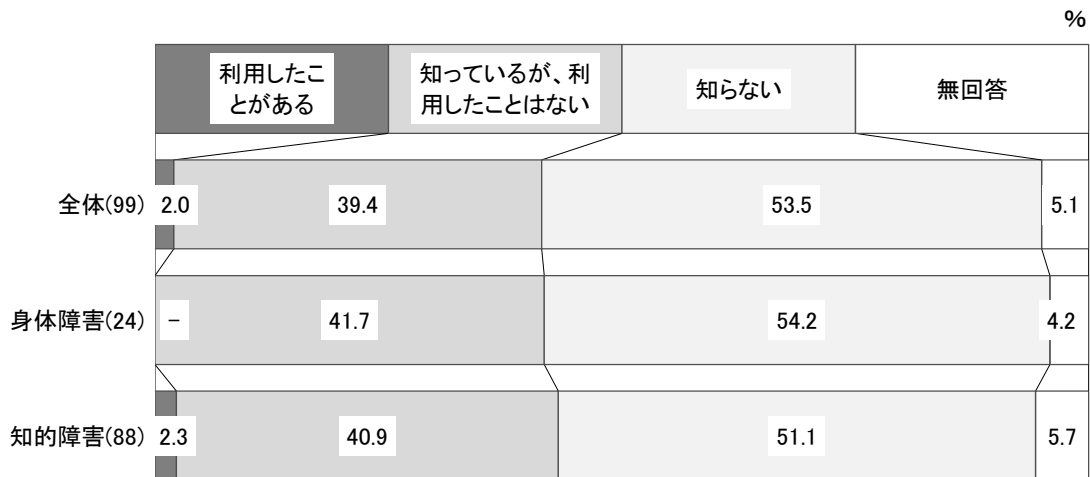
全体では、「知らない」が65.7%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が27.3%と続いています。



⑨昭島生活実習所

（対象者：主に身体・知的・精神障害のある人及びその家族）

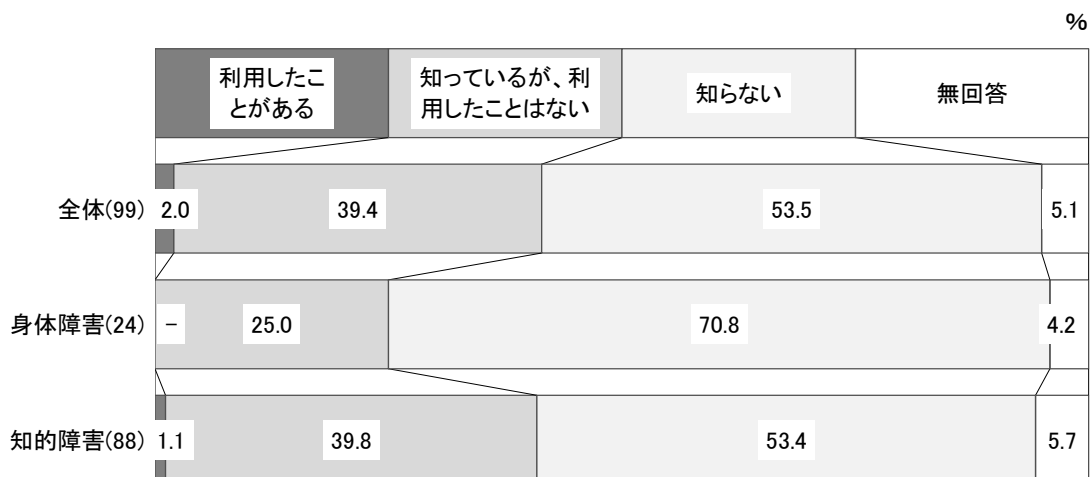
全体では、「知らない」が53.5%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が39.4%、「利用したことがある」が2.0%と続いています。



⑩民生委員・児童委員

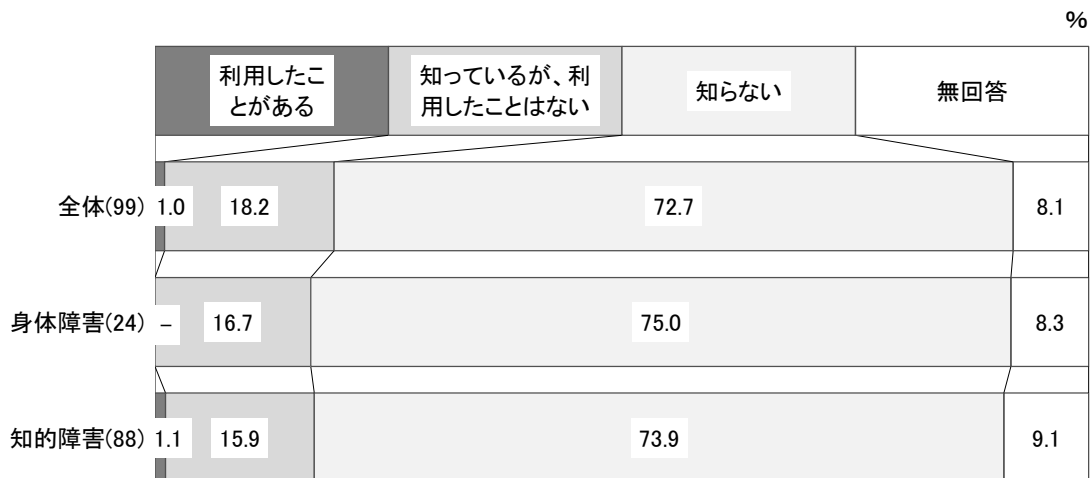
全体では、「知らない」が53.5%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が39.4%、「利用したことがある」が2.0%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「知らない」が70.8%と知的障害に比べて多く、知的障害では「知っているが、利用したことはない」が39.8%と身体障害に比べて多くなっています。



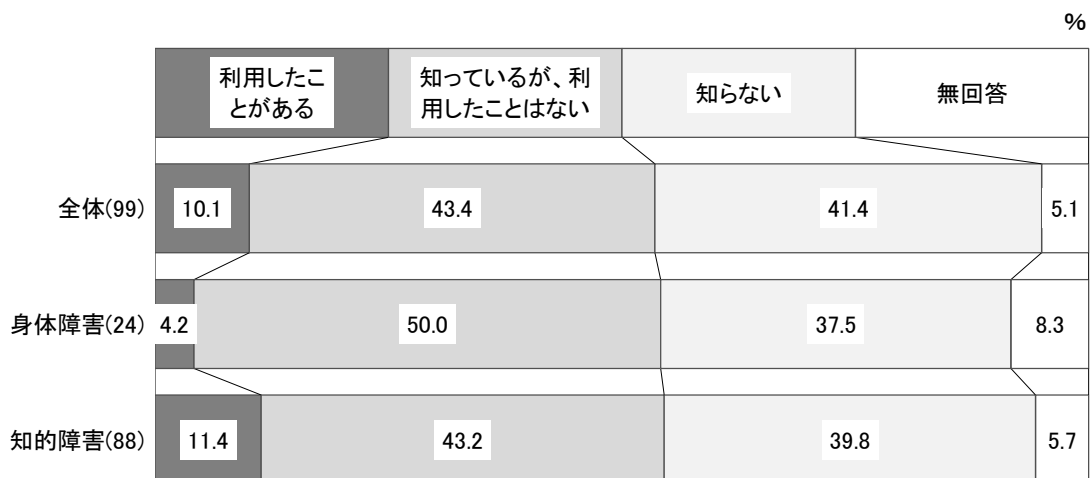
⑪ 身体障害者相談員・知的障害者相談員

全体では、「知らない」が72.7%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が18.2%、「利用したことがある」が1.0%と続いています。



⑫ 昭島市社会福祉協議会

全体では、「知っているが、利用したことはない」が43.4%と最も多く、次いで「知らない」が41.4%、「利用したことがある」が10.1%と続いています。



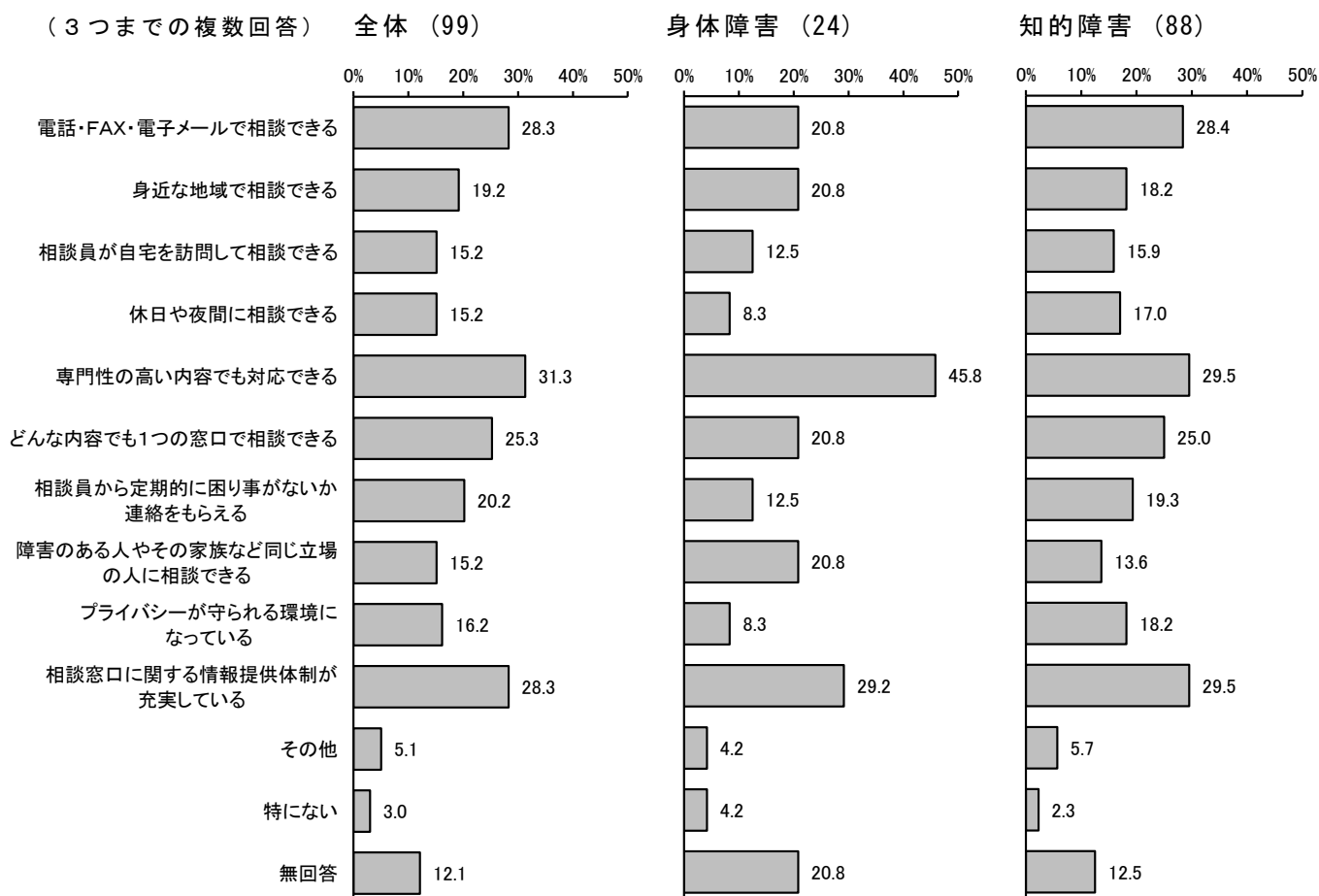
(3) 気軽に相談できるために必要な取組

問16 あなたは、市役所等の公的な相談窓口に気軽に相談するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

全体では、「専門性の高い内容でも対応できる」が31.3%と最も多く、次いで「電話・FAX・電子メールで相談できる」と「相談窓口に関する情報提供体制が充実している」がそれぞれ28.3%、「どんな内容でも1つの窓口で相談できる」が25.3%と続いています。

障害別に見ると、知的障害では「相談窓口に関する情報提供体制が充実している」が「専門性の高い内容でも対応できる」とともに29.5%で最も多くなっているほか、「プライバシーが守られる環境になっている」が18.2%と身体障害に比べて多くなっています。

身体障害では「専門性の高い内容でも対応できる」が45.8%と知的障害に比べて多くなっています。



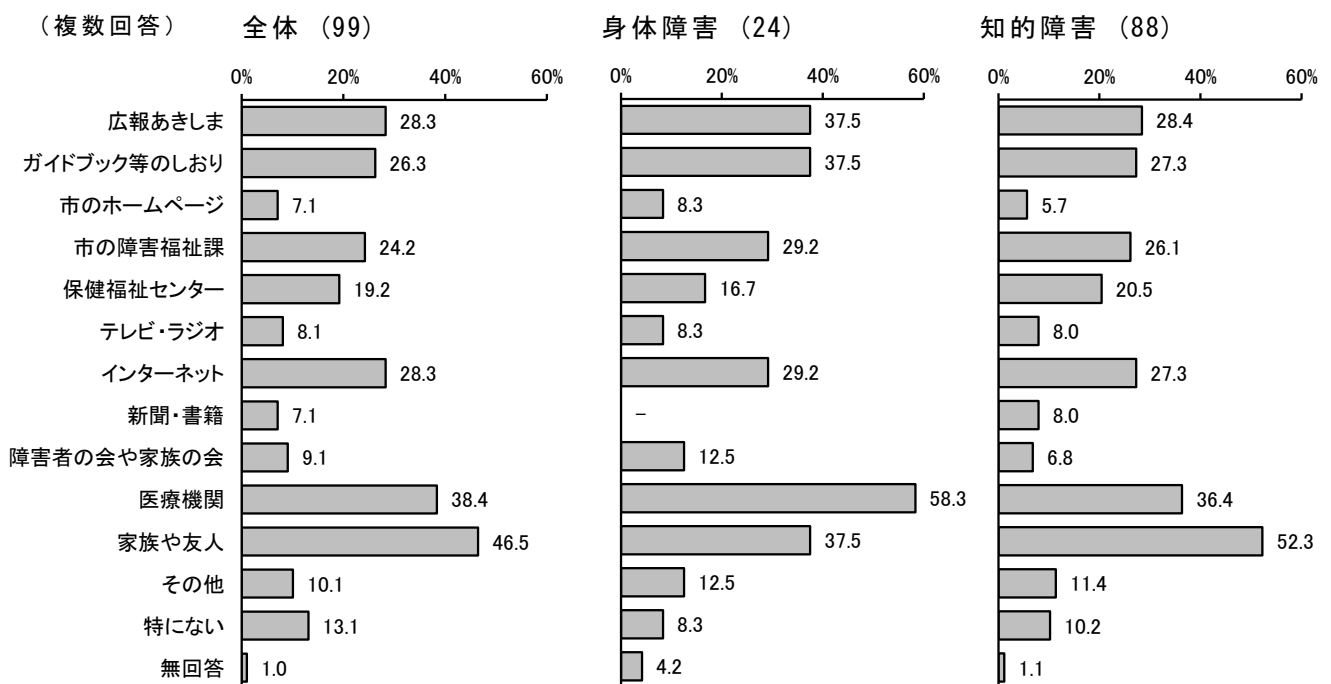
(4) 福祉に関する情報の入手方法

問 17 あなたは、障害のある人のための福祉に関する情報をどこから得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「家族や友人」が46.5%と最も多く、次いで「医療機関」が38.4%、「広報あきしま」と「インターネット」がそれぞれ28.3%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「医療機関」が58.3%で最も多くなっているほか、「身体障害者手帳・愛の手帳福祉ガイド・精神障害者に関するガイドブック等のしおり」が37.5%と知的障害に比べて多くなっています。

知的障害では「家族や友人」が52.3%と身体障害に比べて多くなっています。



6 日中活動や仕事について

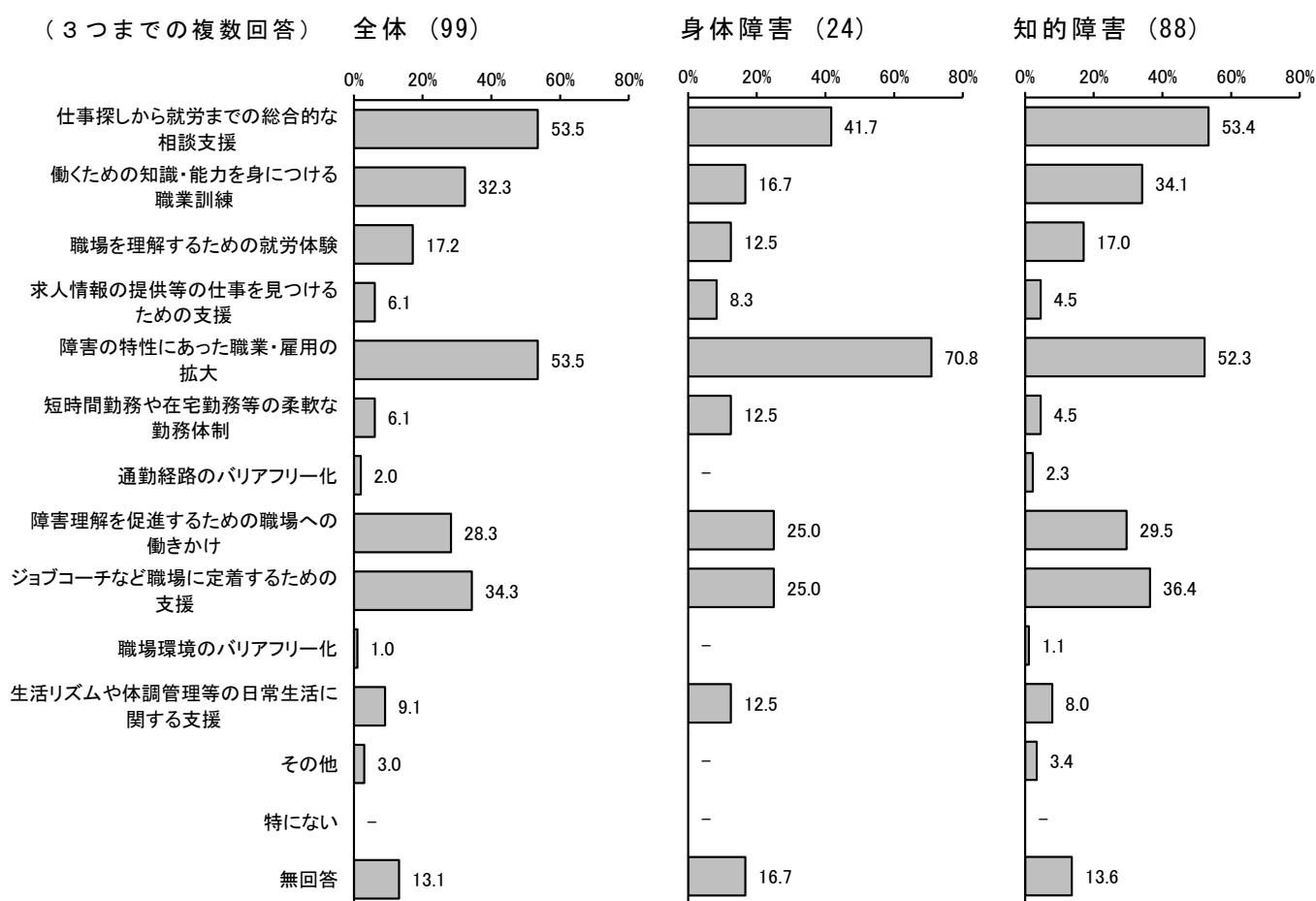
(1) 働くために必要な支援

問 22 あなたは、障害のある人が働くためにはどのような支援が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

全体では、「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」と「障害の特性にあった職業・雇用の拡大」がそれぞれ53.5%と最も多く、次いで「ジョブコーチなど職場に定着するための支援」が34.3%、「働くための知識・能力を身につける職業訓練」が32.3%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「障害の特性にあった職業・雇用の拡大」が70.8%で最も多く、知的障害では「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」が53.4%で最も多くなっています。

また、知的障害では「働くための知識・能力を身につける職業訓練」(34.1%)と「ジョブコーチなど職場に定着するための支援」(36.4%)が身体障害に比べて多くなっています。



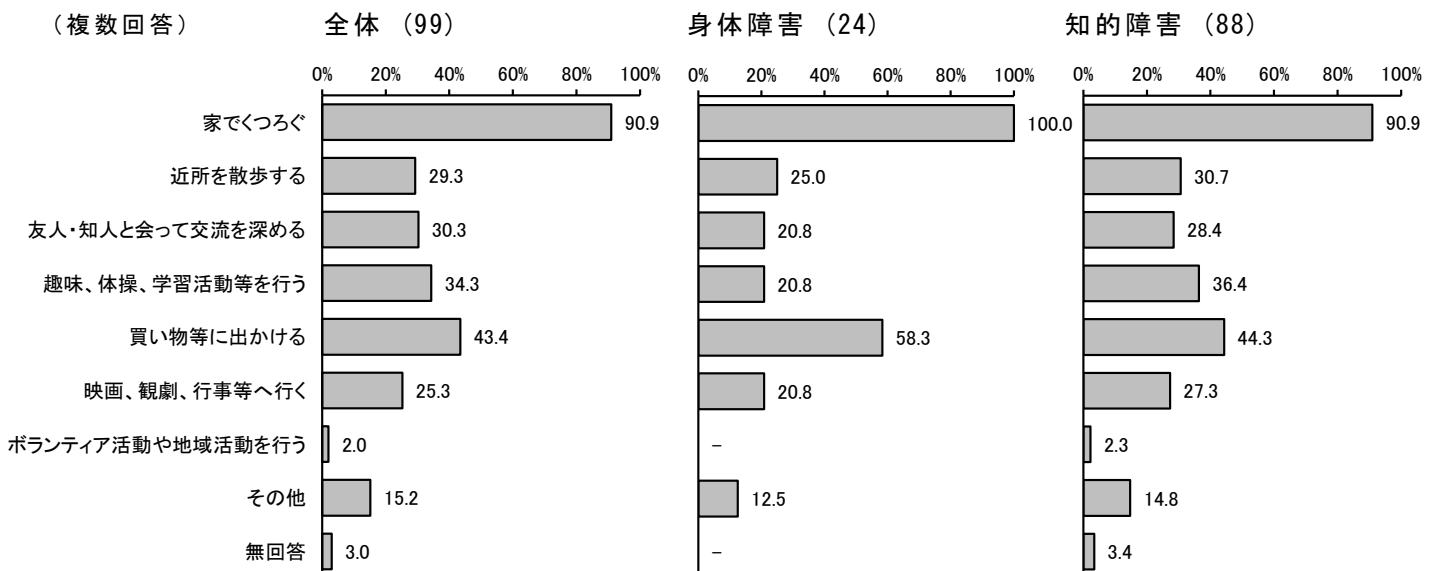
(2) 余暇の過ごし方

問 23 あなたは仕事や学校以外の自由な時間をどのように過ごしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

全体では、「家でくつろぐ」が90.9%と最も多く、次いで「買い物等に出かける」が43.4%、「趣味、体操、学習活動等を行う」が34.3%、「友人・知人と会って交流を深める」が30.3%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「家でくつろぐ」が100%に達しているほか、「買い物等に出かける」が58.3%と知的障害に比べて多くなっています。

知的障害では「趣味、体操、学習活動等を行う」が36.4%と身体障害に比べて多くなっています。



(3) 生活満足度

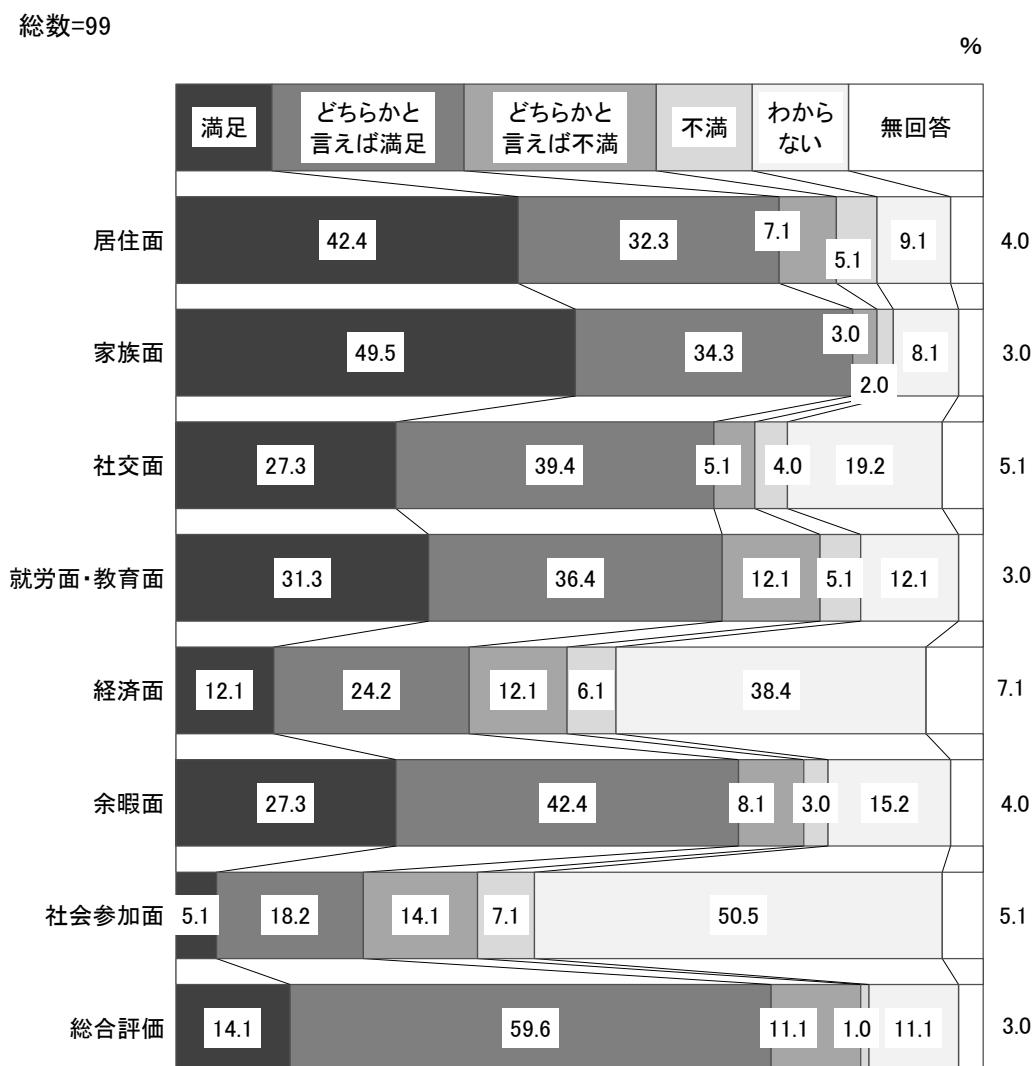
問 24 あなたは、次の日常生活のそれぞれの項目について、どの程度満足していますか。（それぞれあてはまるもの1つに○）

ここでは、「満足」と「どちらかと言えば満足」を合わせた割合を『満足』、「不満」と「どちらかと言えば不満」を合わせた割合を『不満』として計上しています。

総合評価（生活全般について）は『満足』が73.7%、『不満』が12.1%となっています。

日常生活に関するすべての項目で『満足』が『不満』を上回っており、特に家族面（家族との関係について）では『満足』（83.8%）が80%台に達しているほか、居住面（住んでいる家や自室について）（74.7%）でも70%以上を占めています。

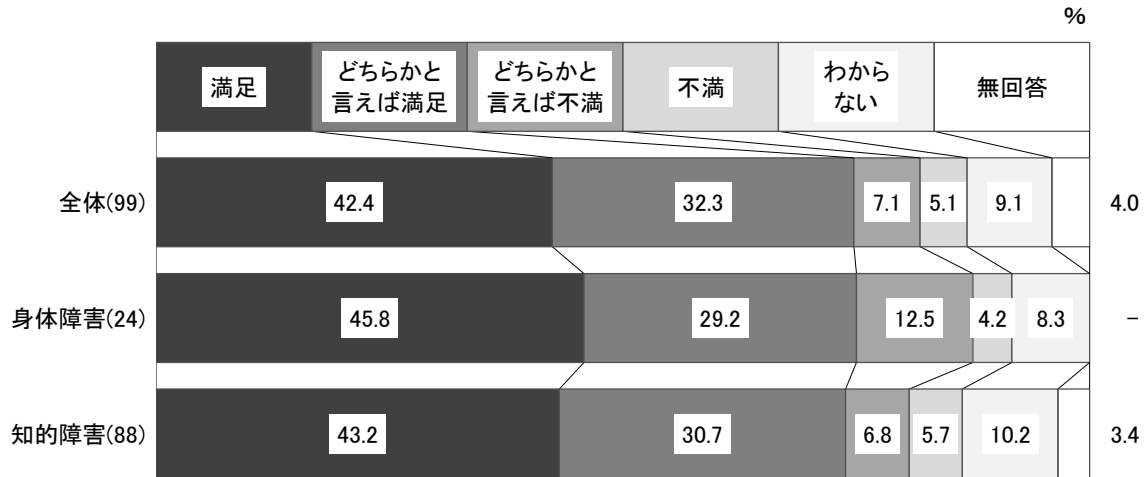
なお、経済面（収入や生計について）と社会参加面（社会活動への参加について）では「わからない」が最も多くなっています。



①居住面（住んでいる家や自室について）

全体では、『満足』が74.7%、『不満』が12.2%、「わからない」が9.1%となっています。

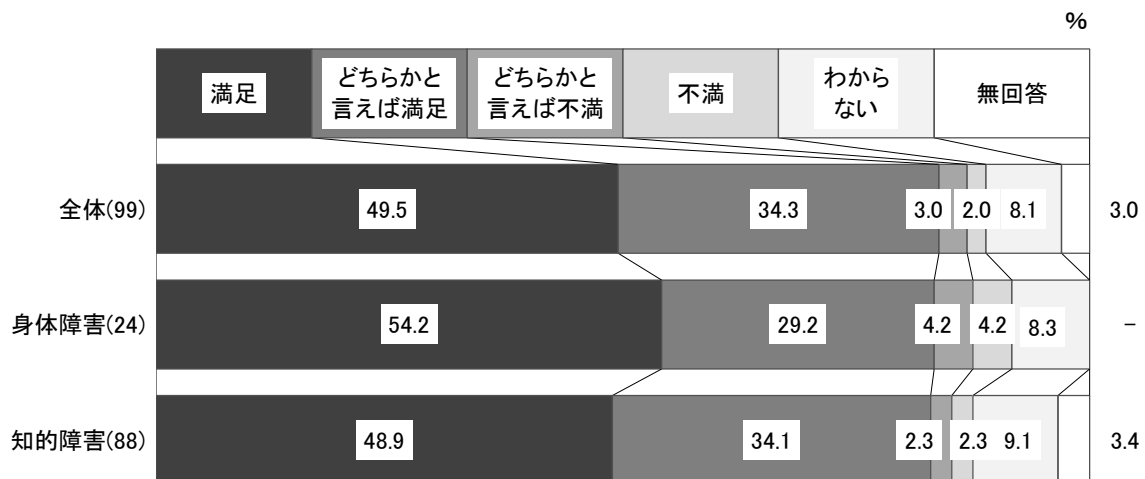
障害別の結果に大きな変化はありませんでした。



②家族面（家族との関係について）

全体では、『満足』が83.8%、『不満』が5.0%、「わからない」が8.1%となっています。

障害別の結果に大きな変化はありませんでした。

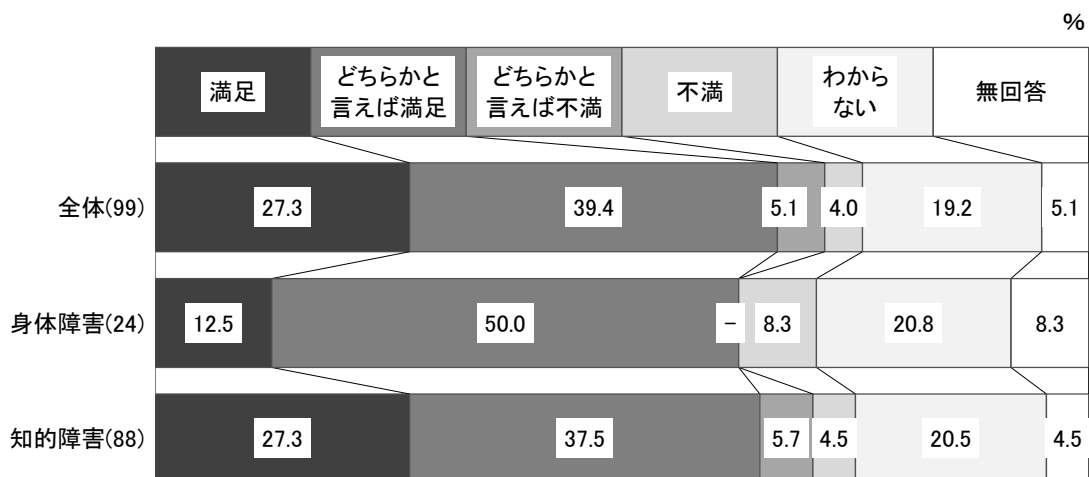


第3章 18歳未満の方の調査結果

③ 社交面（友人等との関係について）

全体では、『満足』が66.7%、『不満』が9.1%、「わからない」が19.2%となっています。

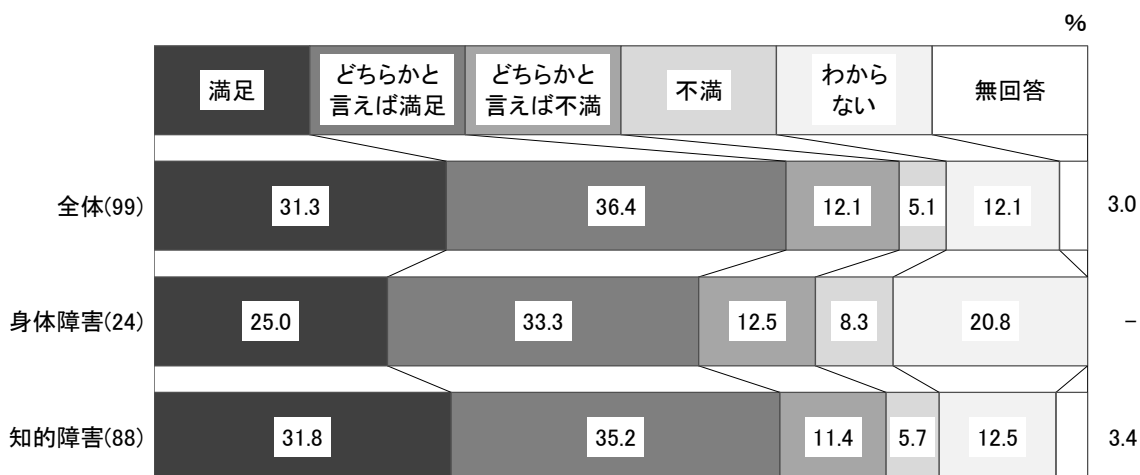
障害別の結果に大きな変化はありませんでした。



④ 就労面・教育面（仕事や学校生活について）

全体では、『満足』が67.7%、『不満』が17.2%、「わからない」が12.1%となっています。

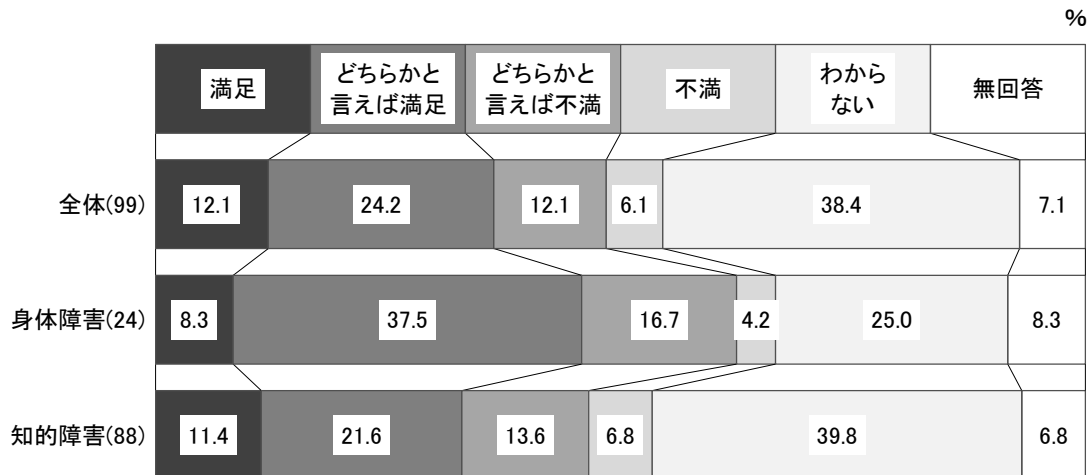
障害別の結果に大きな変化はありませんでした。



⑤経済面（収入や生計について）

全体では、『満足』が36.3%、『不満』が18.2%、「わからない」が38.4%となっています。

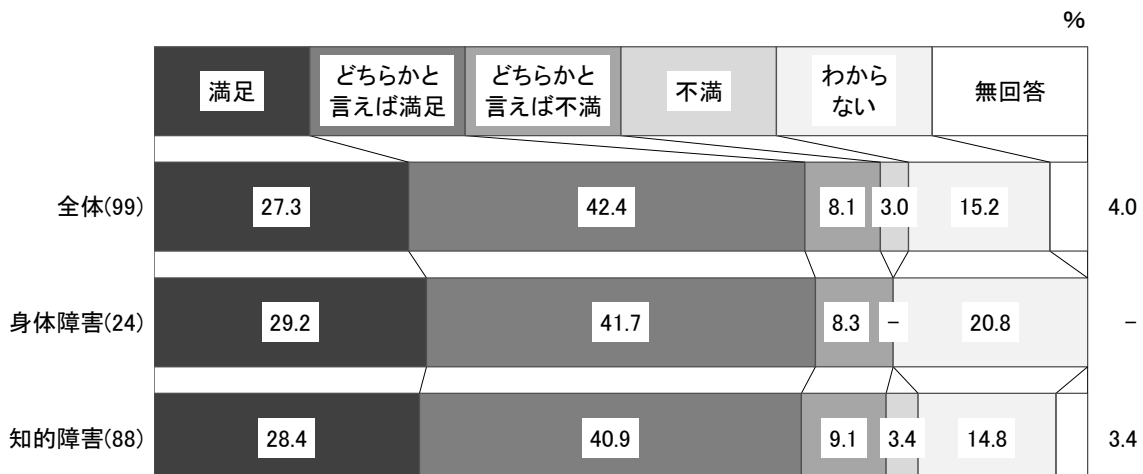
障害別に見ると、身体障害では『満足』が45.8%と知的障害に比べて多くなっています。



⑥余暇面（余暇や趣味について）

全体では、『満足』が69.7%、『不満』が11.1%、「わからない」が15.2%となっています。

障害別の結果に大きな変化はありませんでした。

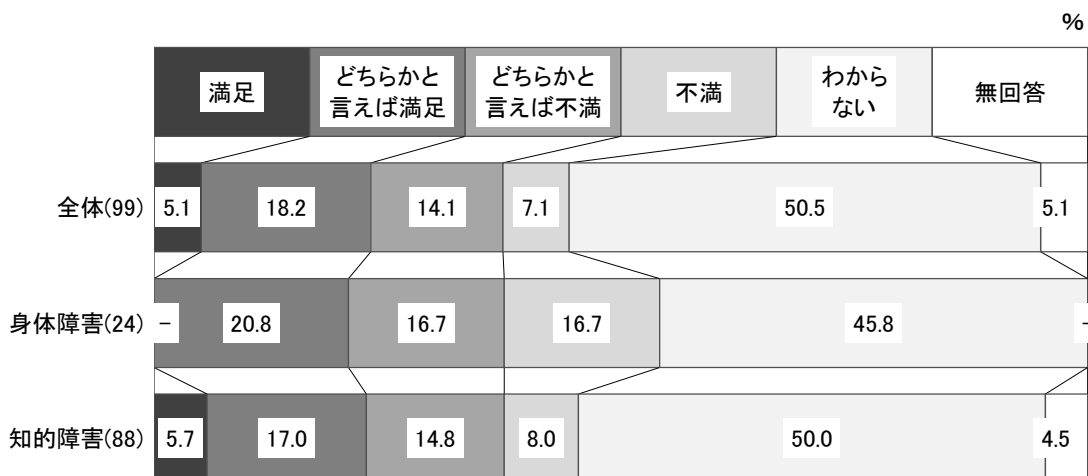


第3章 18歳未満の方の調査結果

⑦社会参加面（社会活動への参加について）

全体では、『満足』が23.3%、『不満』が21.2%、「わからない」が50.5%となっています。

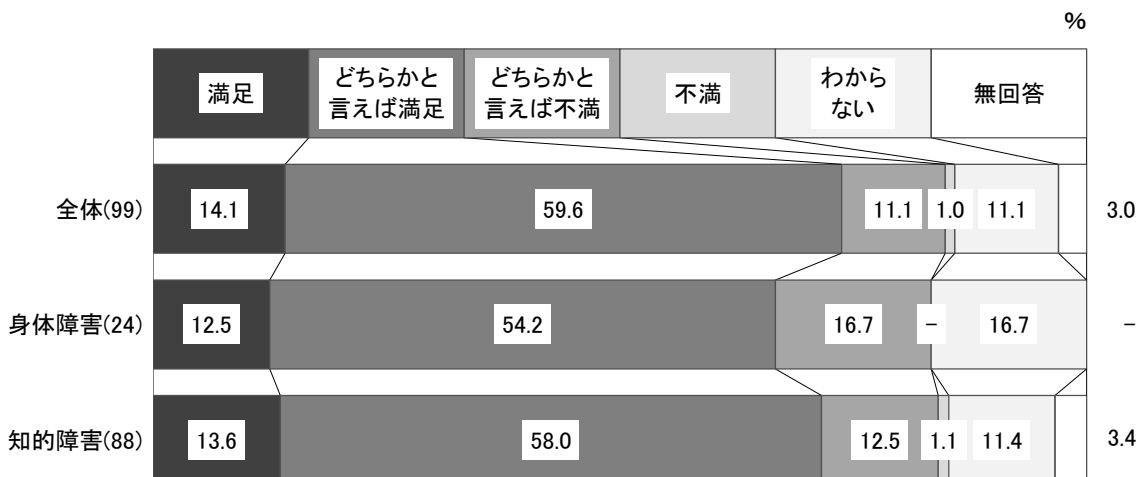
障害別に見ると、身体障害では『不満』が33.4%と知的障害に比べて多くなっています。



⑧総合評価（生活全般について）

全体では、『満足』が73.7%、『不満』が12.1%、「わからない」が11.1%となっています。

障害別の結果に大きな変化はありませんでした。



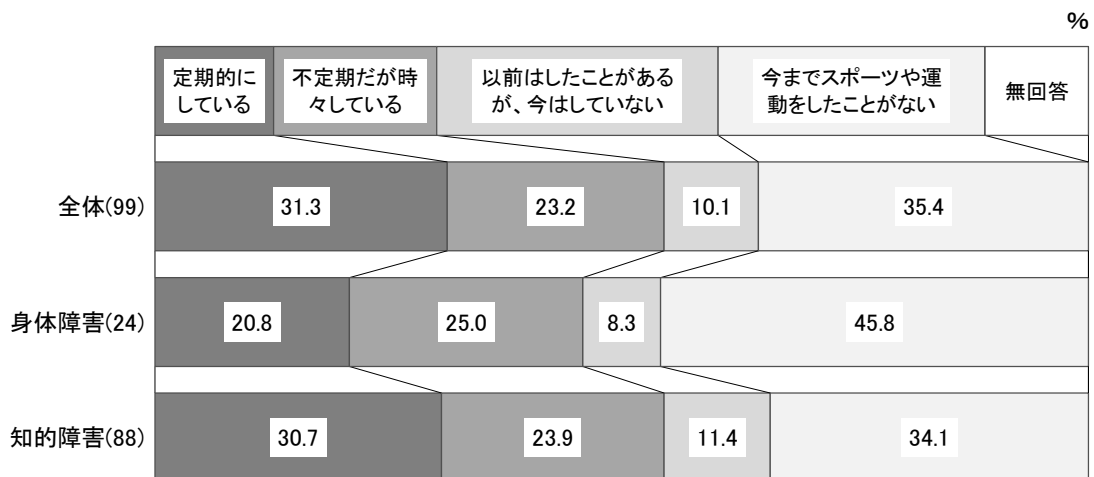
7 スポーツ・運動について

(1) スポーツや運動を行っているか

問 25 あなたは日頃、(学校等での授業を除き) スポーツや運動を行っていますか。
(○は1つ)

全体では、「今までスポーツや運動をしたことがない」が35.4%と最も多く、次いで「定期的に行っている」が31.3%、「不定期だが時々している」が23.2%、「以前はしたことがあるが、今はしていない」が10.1%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「今までスポーツや運動をしたことがない」が45.8%と知的障害に比べて多く、知的障害では「定期的に行っている」が30.7%と身体障害に比べて多くなっています。

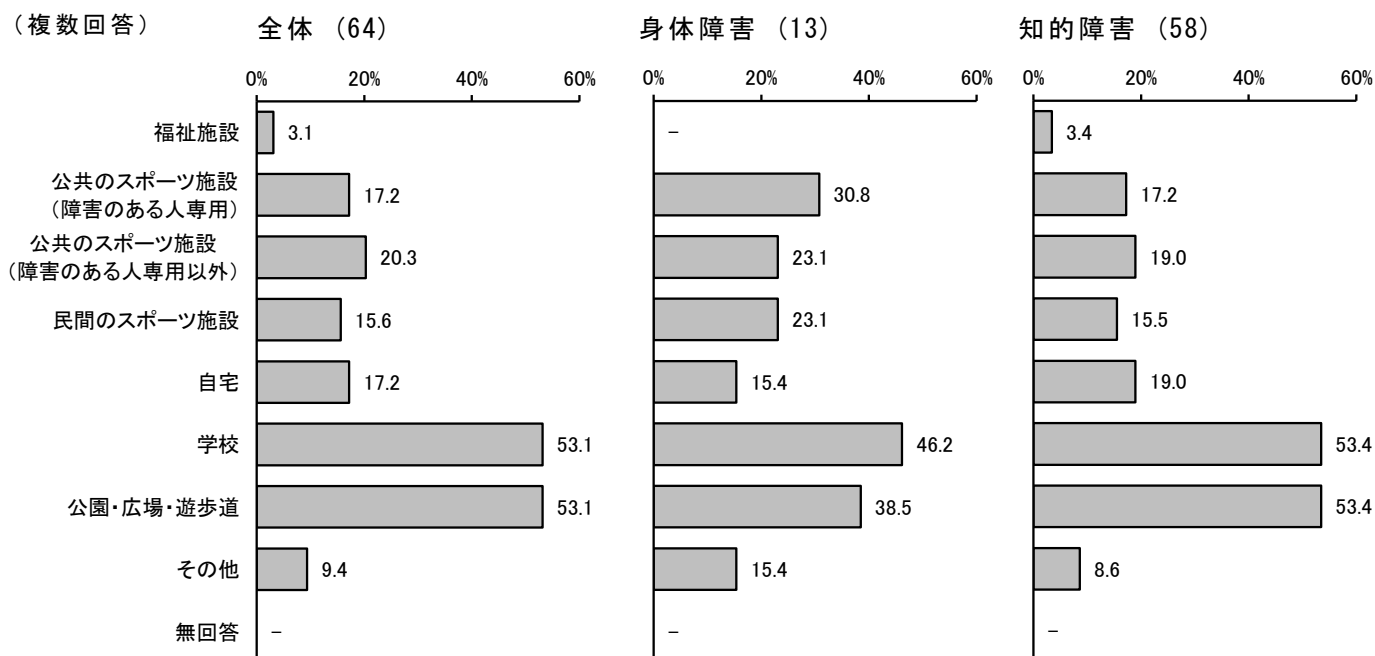


(2) スポーツや運動を行っている場所

問 26 スポーツや運動をしている方、または、したことがある方にお聞きします。
 あなたが、スポーツや運動を行った場所はどこですか。
 (あてはまるものすべてに○)

全体では、「学校」と「公園・広場・遊歩道」がそれぞれ53.1%と最も多く、次いで「公共のスポーツ施設（障害のある人専用以外）」が20.3%、「公共のスポーツ施設（障害のある人専用）」と「自宅」がそれぞれ17.2%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「公共のスポーツ施設（障害のある人専用）」が30.8%と知的障害に比べて多く、知的障害では「公園・広場・遊歩道」が53.4%と身体障害に比べて多くなっています。

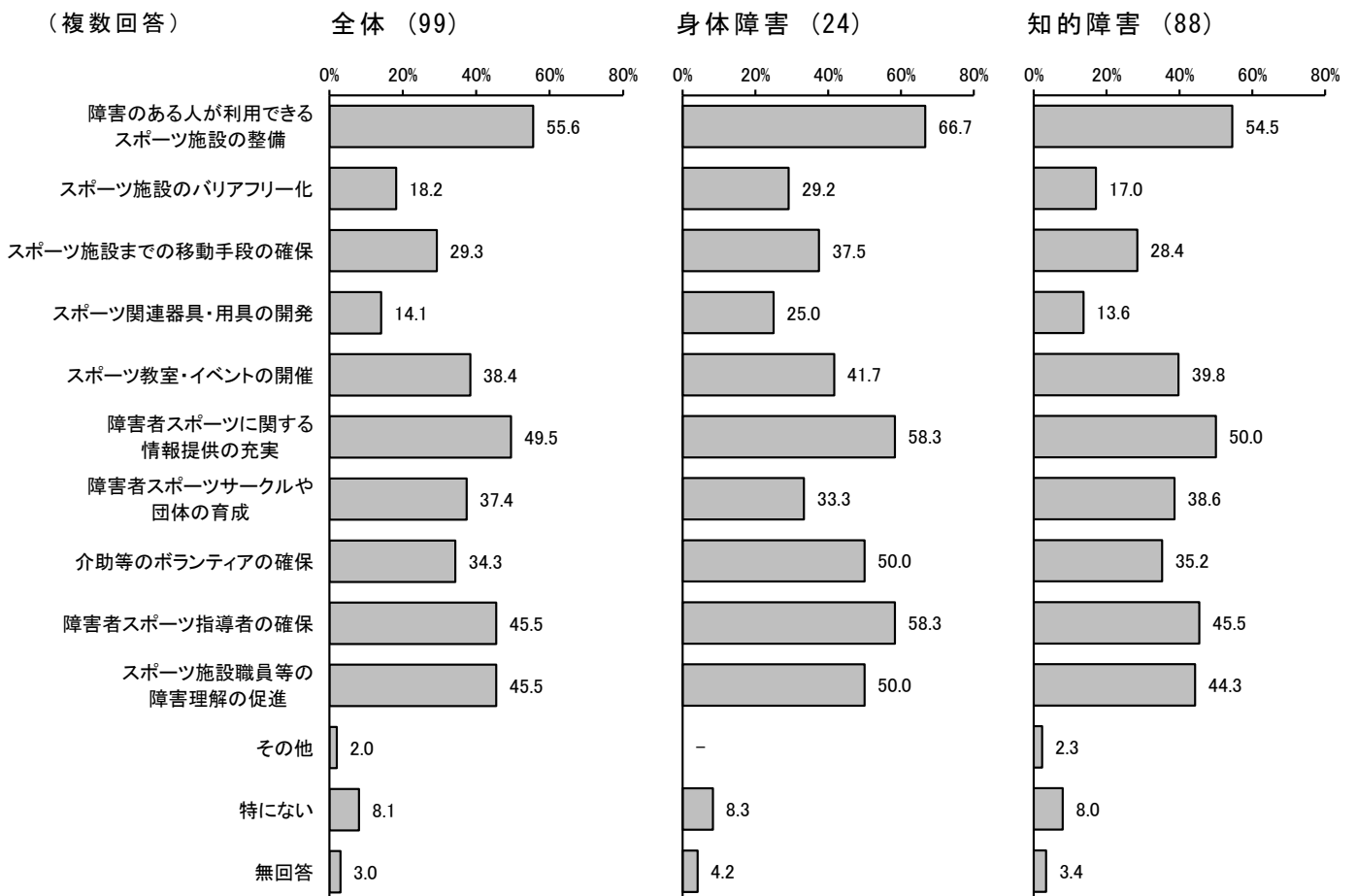


(3) スポーツや運動を行う上で必要なこと

問 27 あなたは、障害のある人がスポーツや運動を行う上でどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「障害のある人が利用できるスポーツ施設の整備」が55.6%と最も多く、次いで「障害者スポーツに関する情報提供の充実」が49.5%、「障害者スポーツ指導者の確保」と「スポーツ施設職員等の障害理解の促進」がそれぞれ45.5%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「障害のある人が利用できるスポーツ施設の整備」(66.7%)、「スポーツ施設のバリアフリー化」(29.2%)、「スポーツ施設までの移動手手段の確保」(37.5%)、「スポーツ関連器具・用具の開発」(25.0%)、「介助等のボランティアの確保」(50.0%)、「障害者スポーツ指導者の確保」(58.3%)が知的障害に比べて多くなっています。



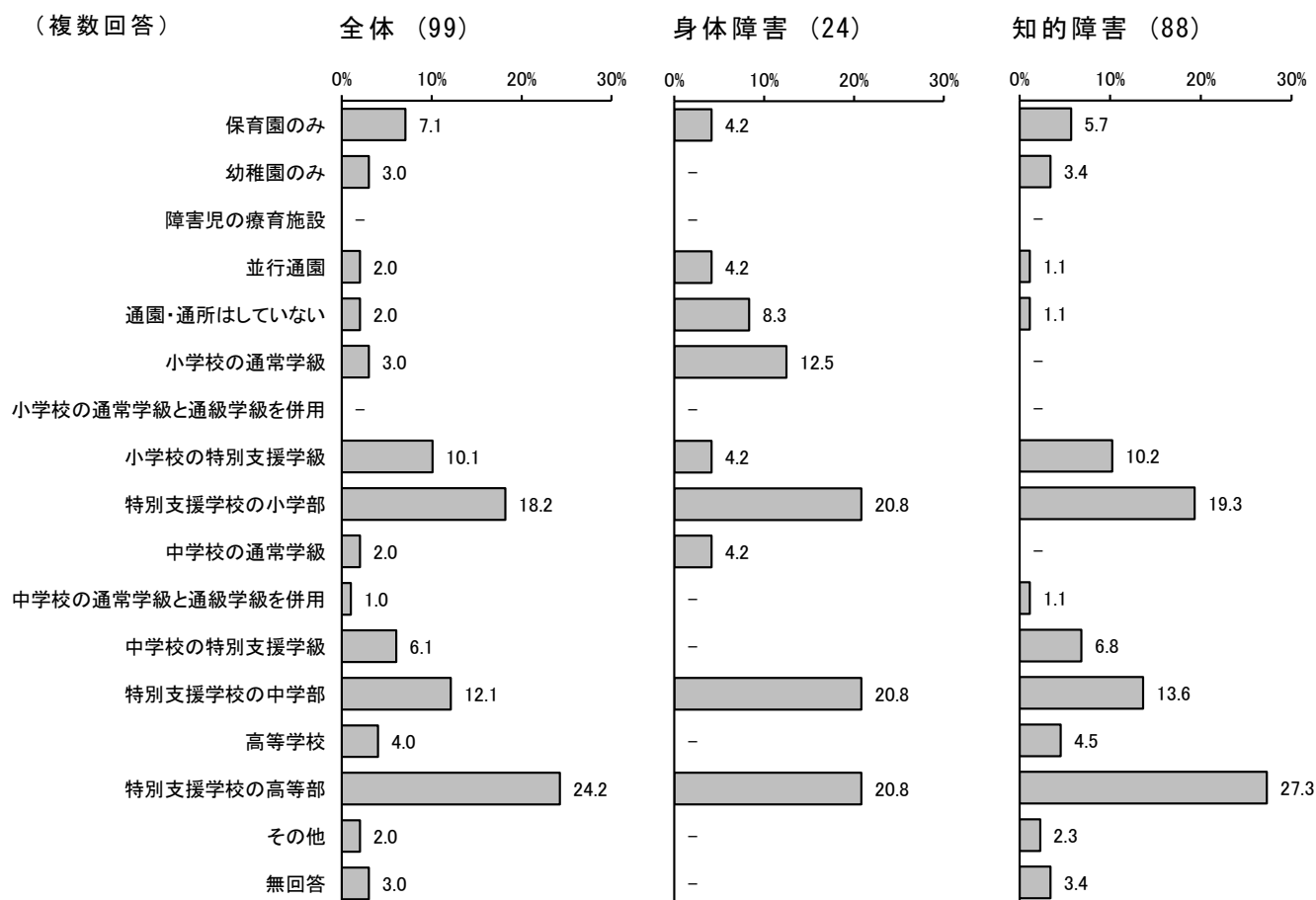
8 保育・教育・療育について

(1) 通園・通学先

問 28 現在、あなたが主に通園・通学をしているところはどこですか。(〇は1つ)

全体では、「特別支援学校の高等部」が24.2%と最も多く、次いで「特別支援学校の小学部」が18.2%、「特別支援学校の中学部」が12.1%、「小学校の特別支援学級（固定）」が10.1%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「特別支援学校の小学部」と「特別支援学校の中学部」が「特別支援学校の高等部」とともに20.8%で最も多くなっています。



(2) 高等学校卒業後の進路希望

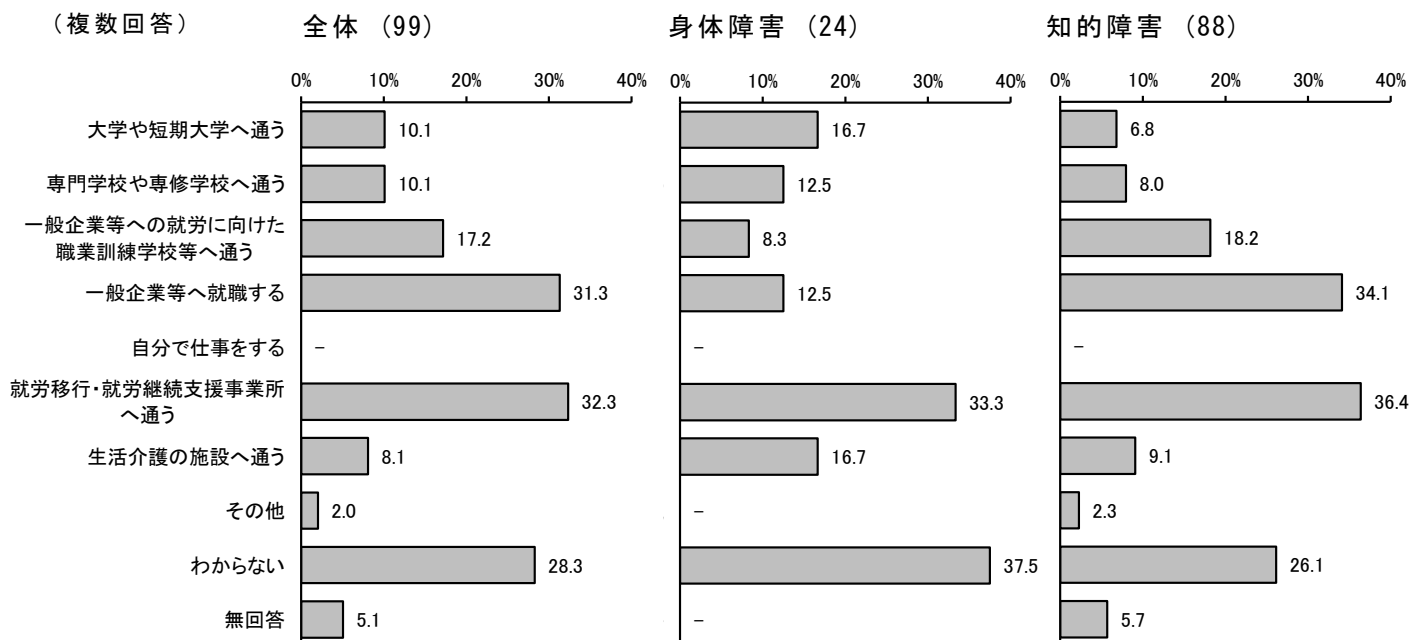
問 29 高等学校卒業後、あなたはどのような進路を希望しますか。

(あてはまるものすべてに○)

全体では、「就労移行・就労継続支援事業所へ通う」が32.3%と最も多く、次いで「一般企業等へ就職する」が31.3%、「一般企業等への就労に向けた職業訓練学校等へ通う」が17.2%、「大学や短期大学へ通う」と「専門学校や専修学校へ通う」がそれぞれ10.1%と続いています。なお、「わからない」が28.3%となっています。

障害別に見ると、身体障害では「わからない」が37.5%で最も多くなっているほか、「大学や短期大学へ通う」が16.7%と知的障害に比べて多くなっています。

知的障害では「一般企業等への就労に向けた職業訓練学校等へ通う」(18.2%)と「一般企業等へ就職する」(34.1%)が身体障害に比べて多くなっています。

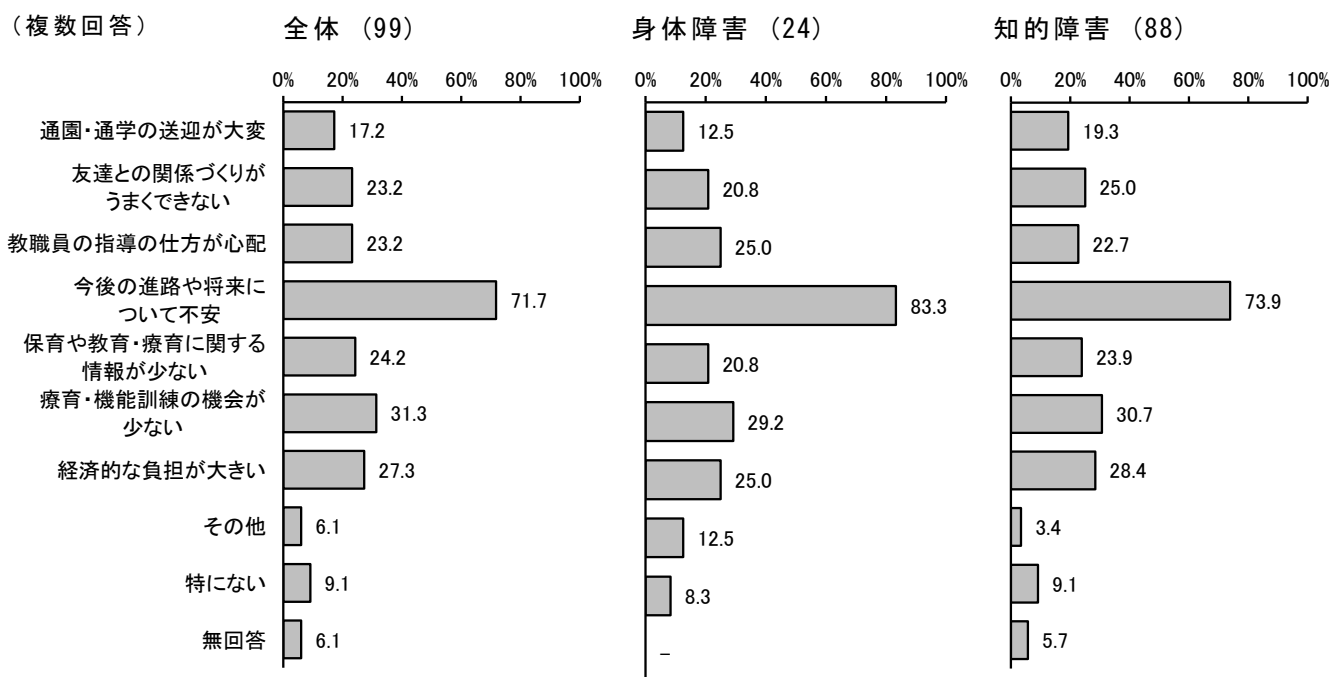


(3) 通園・通学等で困っていること

問 30 ご家族の方にお聞きします。お子さんの通園や通学、また学校生活等で困っていることや心配していることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「今後の進路や将来について不安」が71.7%と最も多く、次いで「療育・機能訓練の機会が少ない」が31.3%、「経済的な負担が大きい」が27.3%、「保育や教育・療育に関する情報が少ない」が24.2%と続いています。

障害別の結果に大きな変化はありませんでした。

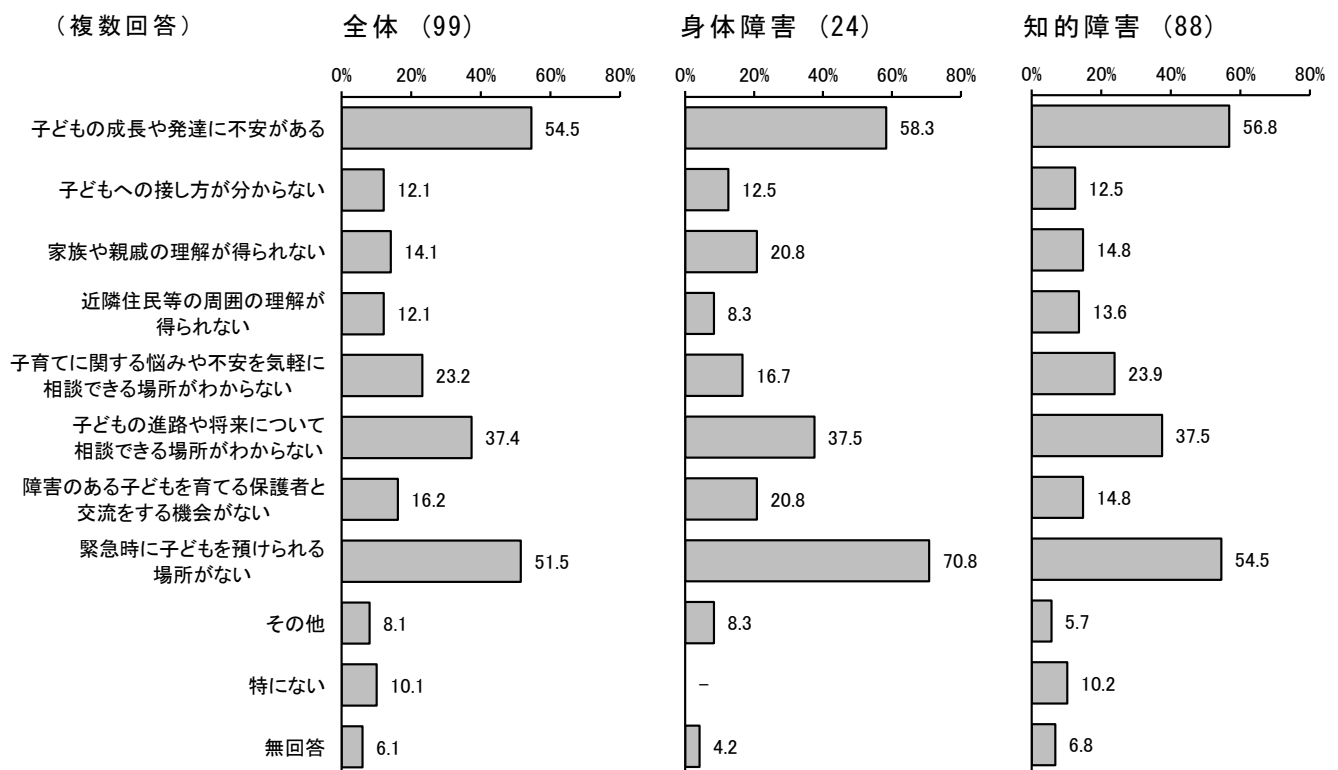


(4) 子育てについて困っていること

問 31 ご家族の方にお聞きします。お子さんを育てるうえで、これまでに困ったことや現在困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「子どもの成長や発達に不安がある」が54.5%と最も多く、次いで「緊急時に子どもを預けられる場所がない」が51.5%、「子どもの進路や将来について相談できる場所がわからない」が37.4%、「子育てに関する悩みや不安を気軽に相談できる場所がわからない」が23.2%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「緊急時に子どもを預けられる場所がない」が70.8%で最も多くなっています。



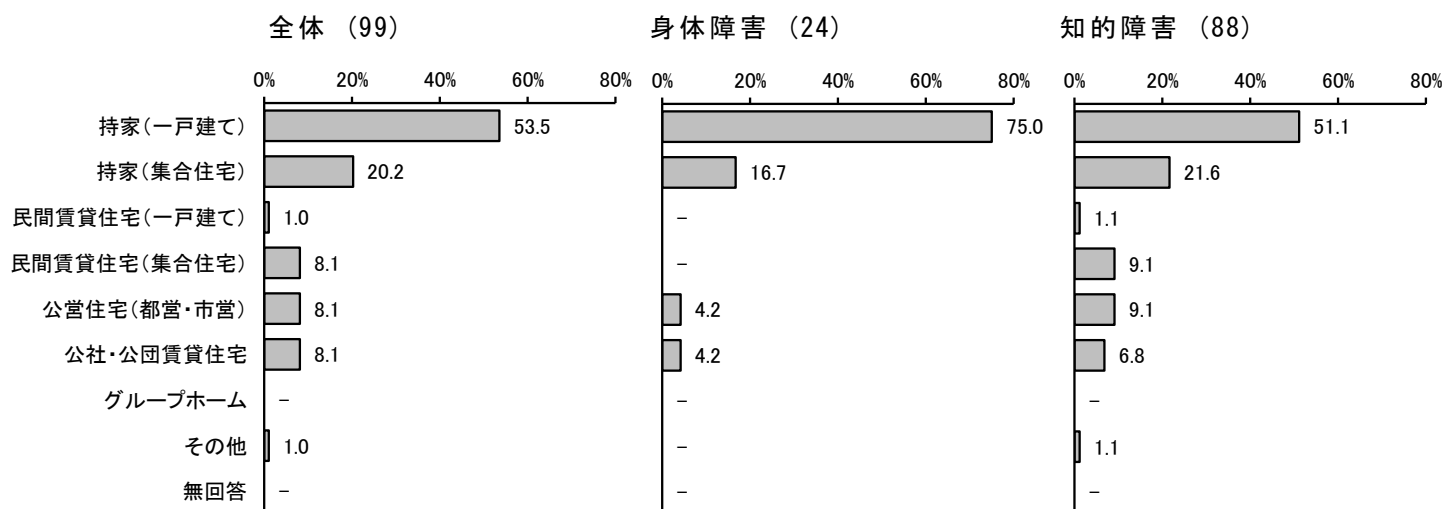
9 住まいについて

(1) 住まいの形態

問 32 現在、あなたはどのようなところにお住まいですか。(〇は1つ)

全体では、「持家（一戸建て）」が53.5%と最も多く、次いで「持家（集合住宅）」が20.2%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」と「公営住宅（都営・市営）」と「公社・公団賃貸住宅」がそれぞれ8.1%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「持家（一戸建て）」が75.0%と知的障害に比べて多くなっています。



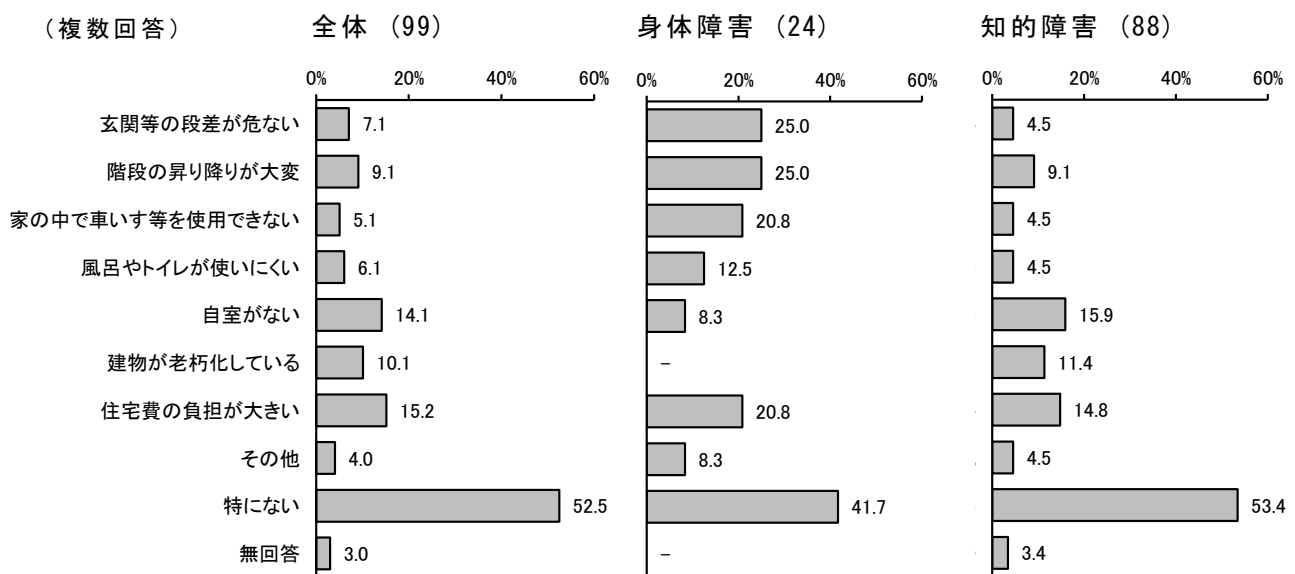
(2) 住まいについて困っていること

問 33 あなたが現在の住まいで困っていることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

全体では、「住宅費の負担が大きい」が15.2%と多く、次いで「自室がない」が14.1%、「建物が老朽化している」が10.1%、「階段の昇り降りが大変」が9.1%と続いています。なお、「特にない」が52.5%と最も多くなっています。

障害別に見ると、身体障害では「玄関等の段差が危ない」(25.0%)、「階段の昇り降りが大変」(25.0%)、「廊下や出入口が狭く、家の中で車いす等を使用できない」(20.8%)が知的障害に比べて多くなっています。

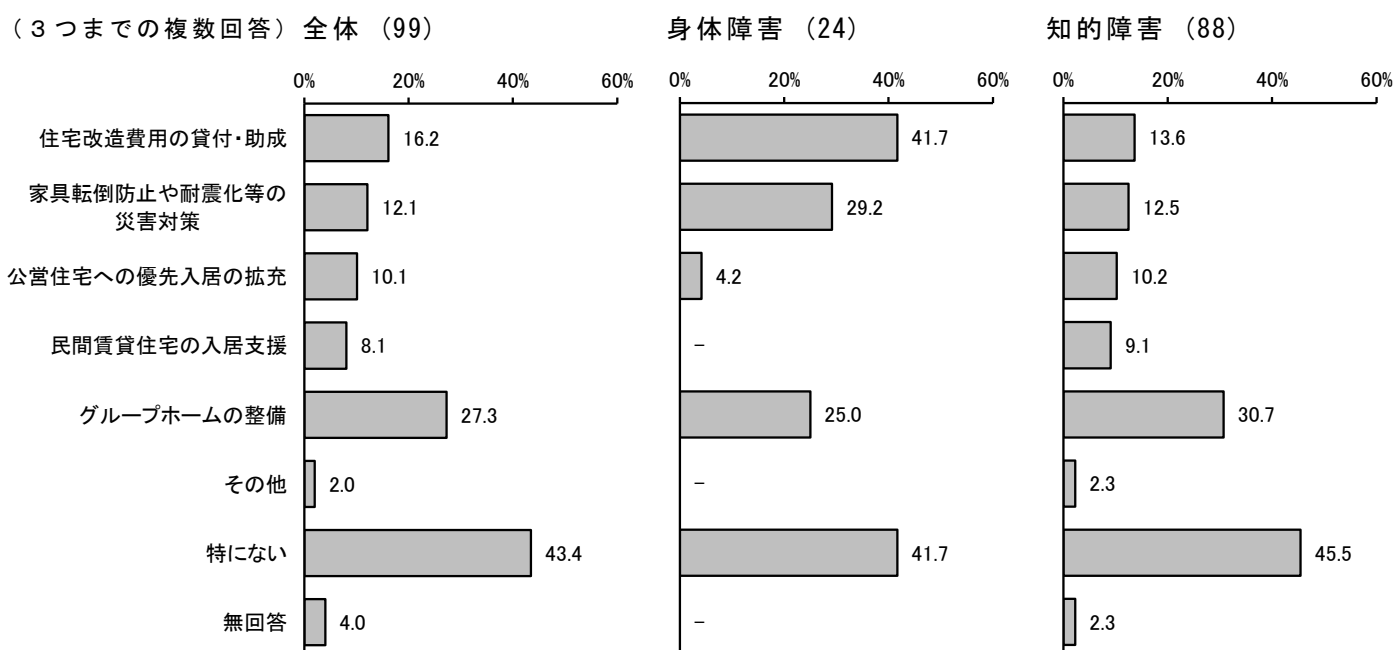


(3) 住まいについて必要な支援

問 34 あなたは、住まいについてどのような支援が必要ですか。(〇は3つまで)

全体では、「グループホームの整備」が27.3%と多く、次いで「住宅改造費用の貸付・助成」が16.2%、「家具転倒防止や耐震化等の災害対策」が12.1%、「公営住宅への優先入居の拡充」が10.1%と続いています。なお、「特にない」が43.4%と最も多くなっています。

障害別に見ると、身体障害では「住宅改造費用の貸付・助成」が「特にない」とともに41.7%で最も多くなっているほか、「家具転倒防止や耐震化等の災害対策」が29.2%と知的障害に比べて多くなっています。

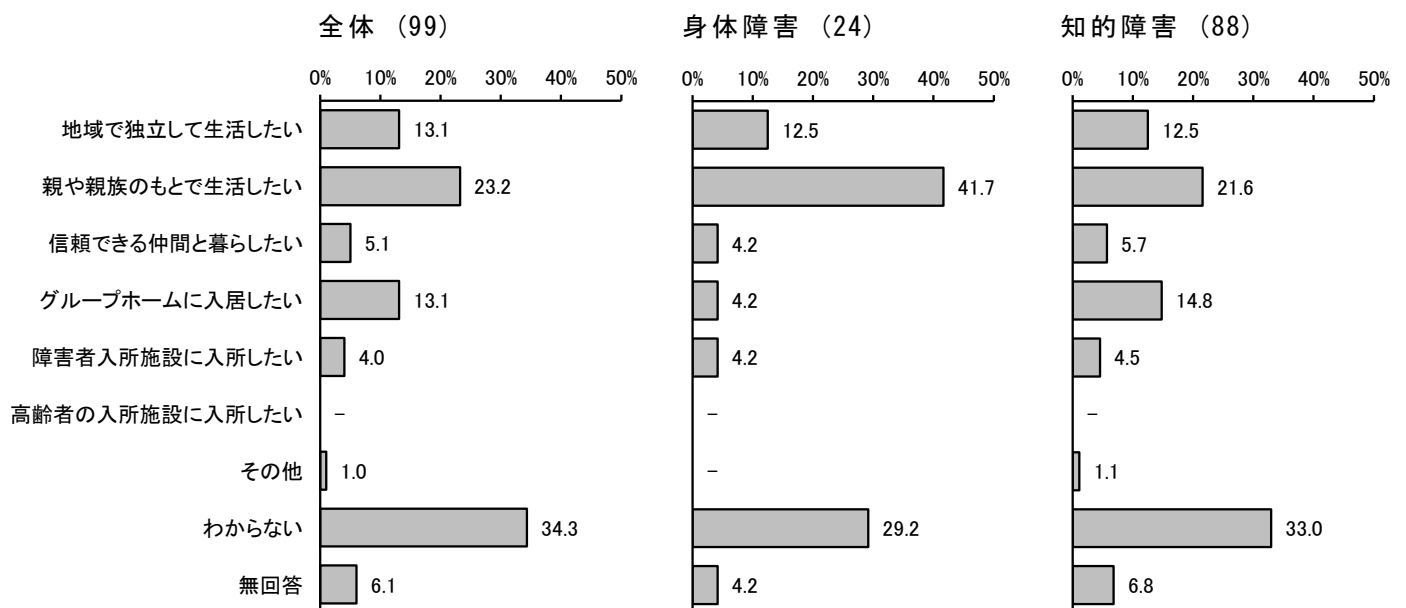


(4) 将来の暮らし方に関する希望

問 35 将来、あなたはどのように暮らしたいですか。(〇は1つ)

全体では、「親や親族のもとで生活したい」が23.2%と多く、次いで「地域で独立して生活したい」と「グループホームに入居したい」がそれぞれ13.1%、「信頼できる仲間とシェアハウスで暮らしたい」が5.1%と続いています。また、「わからない」が34.3%と最も多くなっています。

障害別に見ると、身体障害では「親や親族のもとで生活したい」が41.7%で最も多くなっています。知的障害では「グループホームに入居したい」が14.8%と身体障害に比べて多くなっています。



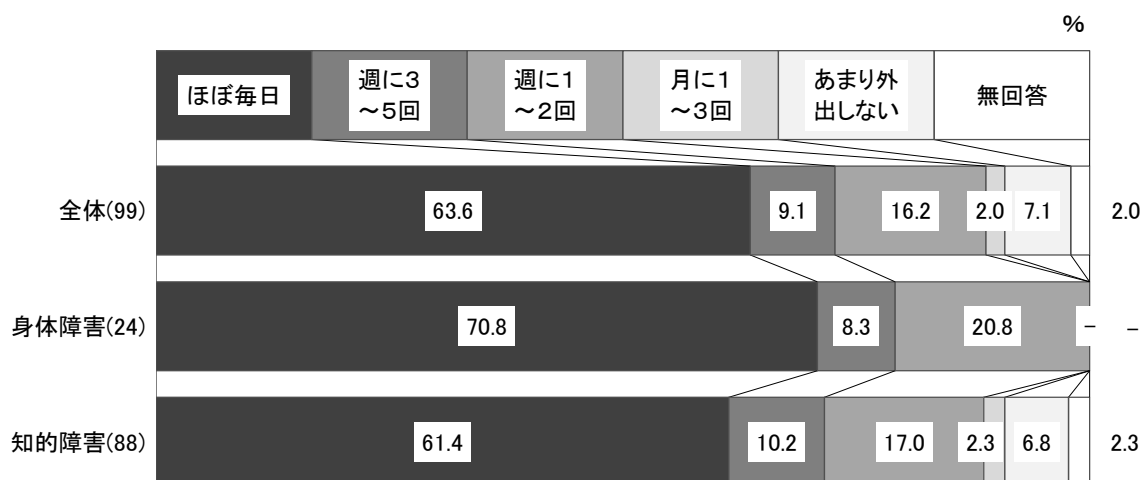
10 外出について

(1) 外出頻度

問 36 普段、あなたはどのくらいの頻度で外出しますか。(○は1つ)

全体では、「ほぼ毎日」が63.6%と最も多く、次いで「週に1～2回」が16.2%、「週に3～5回」が9.1%、「あまり外出しない」が7.1%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「ほぼ毎日」が70.8%と知的障害に比べて多くなっています。



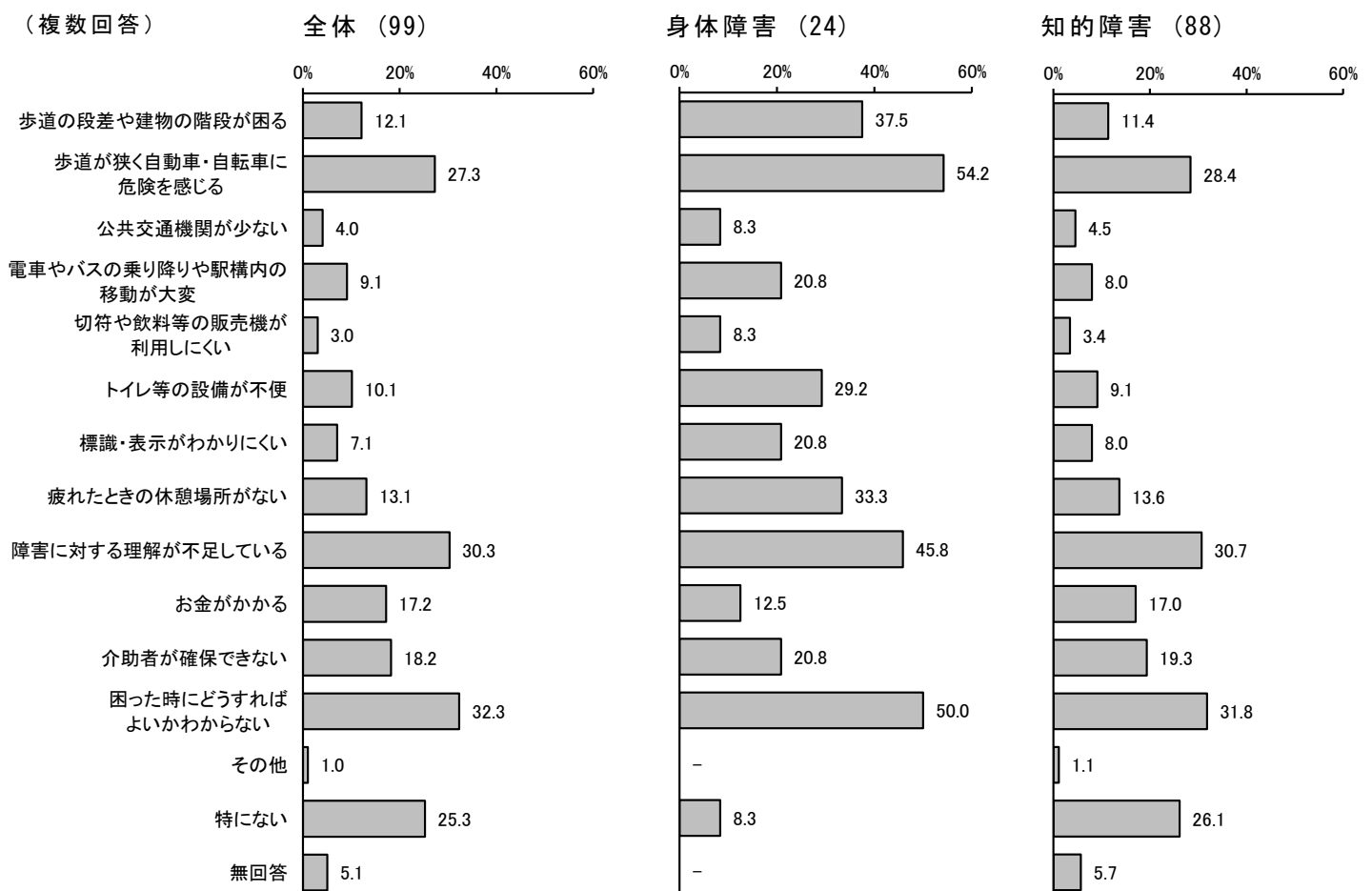
(2) 外出する際に困っていること

問 37 あなたが外出する際、困ったり不便に思うことは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

全体では、「困った時にどうすればよいかわからない」が32.3%と最も多く、次いで「障害に対する理解が不足している」が30.3%、「歩道が狭く自動車・自転車に危険を感じる」が27.3%、「介助者が確保できない」が18.2%と続いています。なお、「特にない」が25.3%となっています。

障害別に見ると、身体障害では「歩道が狭く自動車・自転車に危険を感じる」が54.2%で最も多くなっているほか、外出する際に困っていることとして挙げた12項目のうち、11項目で回答割合が知的障害に比べて多くなっています。



11 福祉サービスの利用について

(1) 福祉サービスの利用状況と利用意向

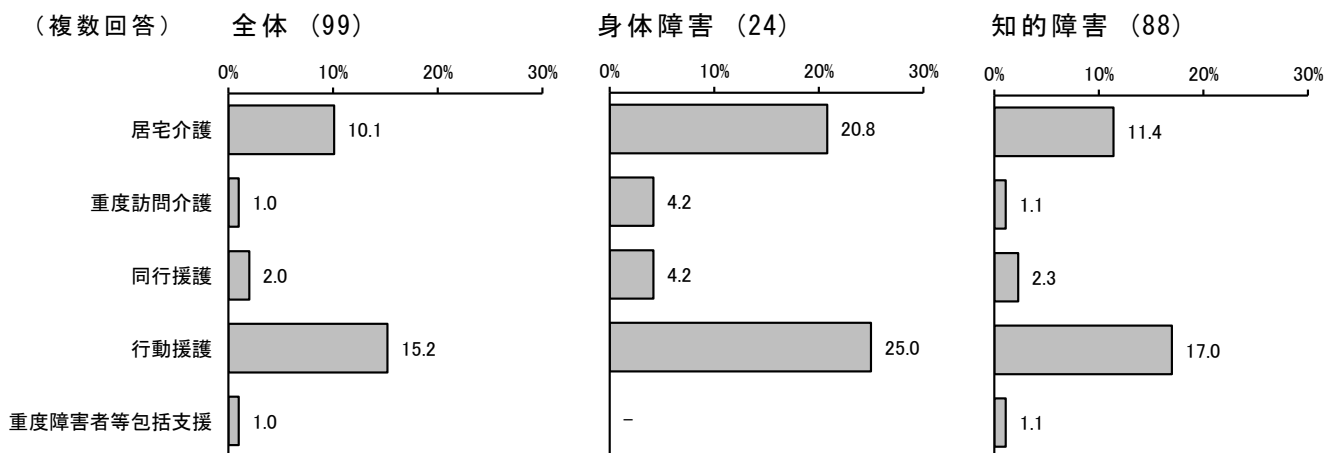
問 38 あなたは、次のサービスを利用していますか。また、今後（2～3年以内に）利用したいと思いますか。既に利用しており、今後も利用したい方は「1」、「2」両方に○をつけてください。
（それぞれあてはまるものすべてに○）

①訪問系サービス

【利用状況】

全体では、「行動援護」が15.2%と最も多く、次いで「居宅介護（ホームヘルプ）」が10.1%、「同行援護」が2.0%、「重度訪問介護」と「重度障害者等包括支援」がそれぞれ1.0%と続いています。

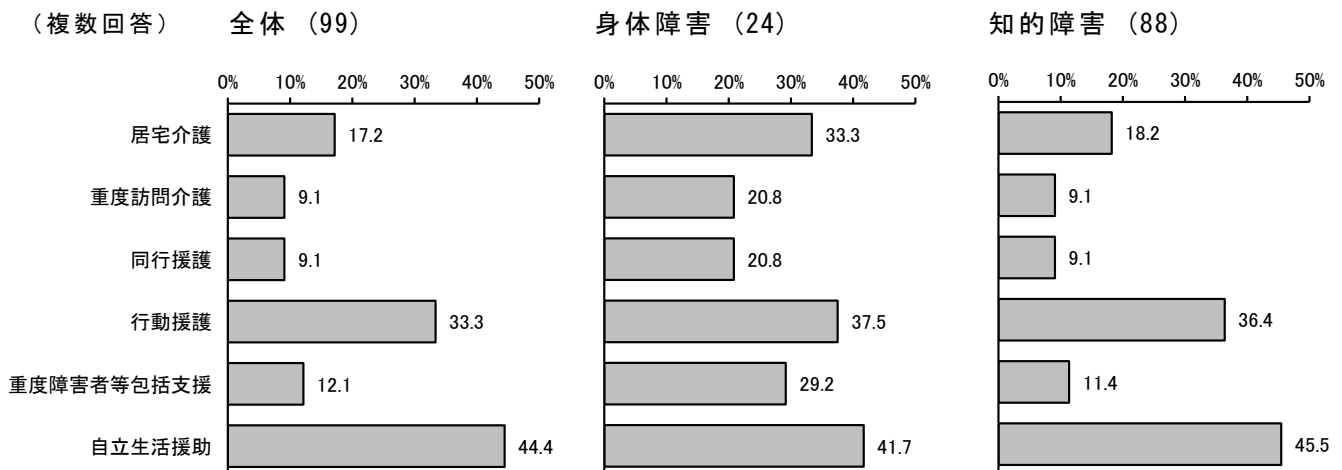
障害別に見ると、身体障害では「居宅介護（ホームヘルプ）」が20.8%と知的障害に比べて多くなっています。



【利用意向】

全体では、「自立生活援助」が44.4%と最も多く、次いで「行動援護」が33.3%、「居宅介護（ホームヘルプ）」が17.2%、「重度障害者等包括支援」が12.1%と続いています。

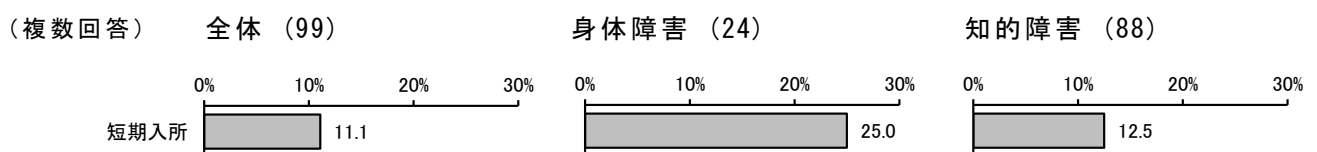
障害別に見ると、身体障害では自立生活援助を除いた5つのサービスで、回答割合が知的障害に比べて多くなっています。



②日中活動系サービス

【利用状況】

短期入所（ショートステイ）を「現在利用している」と回答した人は、全体では11.1%ですが、身体障害（25.0%）では20%を超えています。



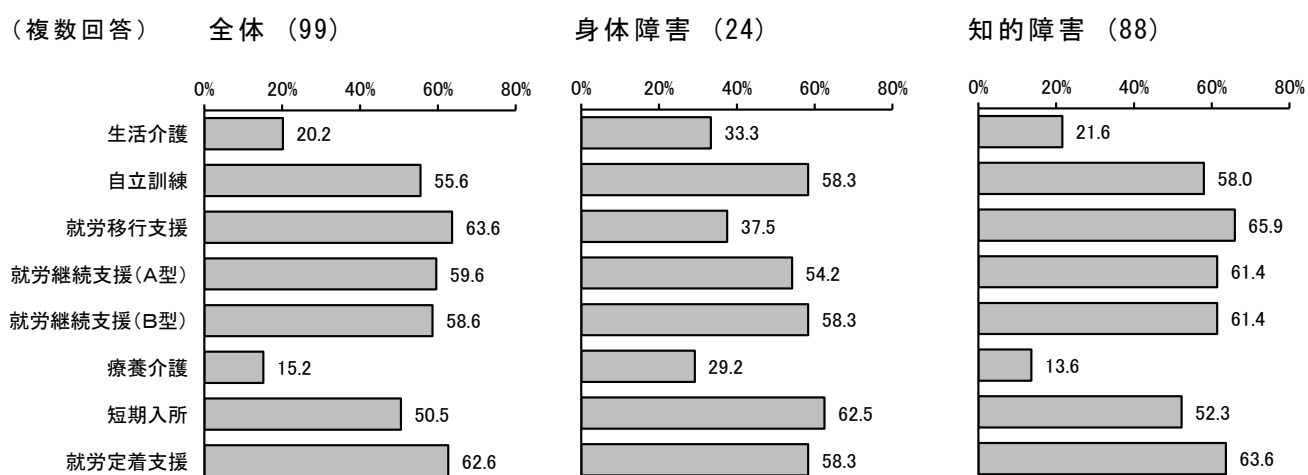
第3章 18歳未満の方の調査結果

【利用意向】

全体では、「就労移行支援」が63.6%と最も多く、次いで「就労定着支援」が62.6%、「就労継続支援（A型・雇用型）」が59.6%、「就労継続支援（B型・非雇用型）」が58.6%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「短期入所（ショートステイ）」が62.5%で最も多くなっているほか、「生活介護」（33.3%）と「療養介護」（29.2%）が知的障害に比べて多くなっています。

知的障害では「就労移行支援」が65.9%と身体障害に比べて多くなっています。

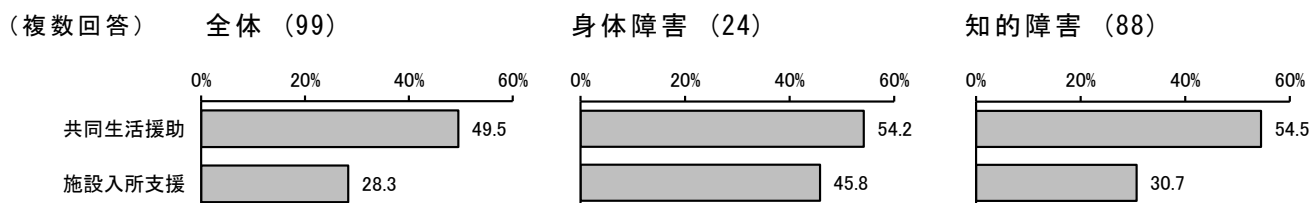


③居住系サービス

【利用意向】

全体では、「共同生活援助（グループホーム）」が49.5%、「施設入所支援」が28.3%となっています。

障害別に見ると、身体障害では「施設入所支援」が45.8%と知的障害に比べて多くなっています。

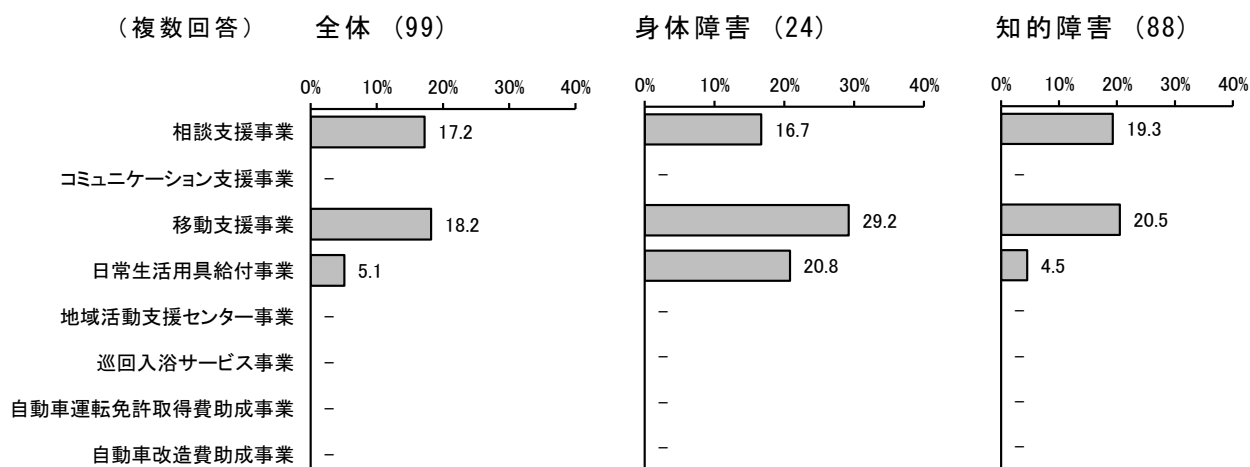


④地域生活支援事業

【利用状況】

全体では、「移動支援事業」が18.2%と最も多く、次いで「相談支援事業」が17.2%、「日常生活用具給付事業」が5.1%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「移動支援事業」（29.2%）と「日常生活用具給付事業」（20.8%）が知的障害に比べて多くなっています。

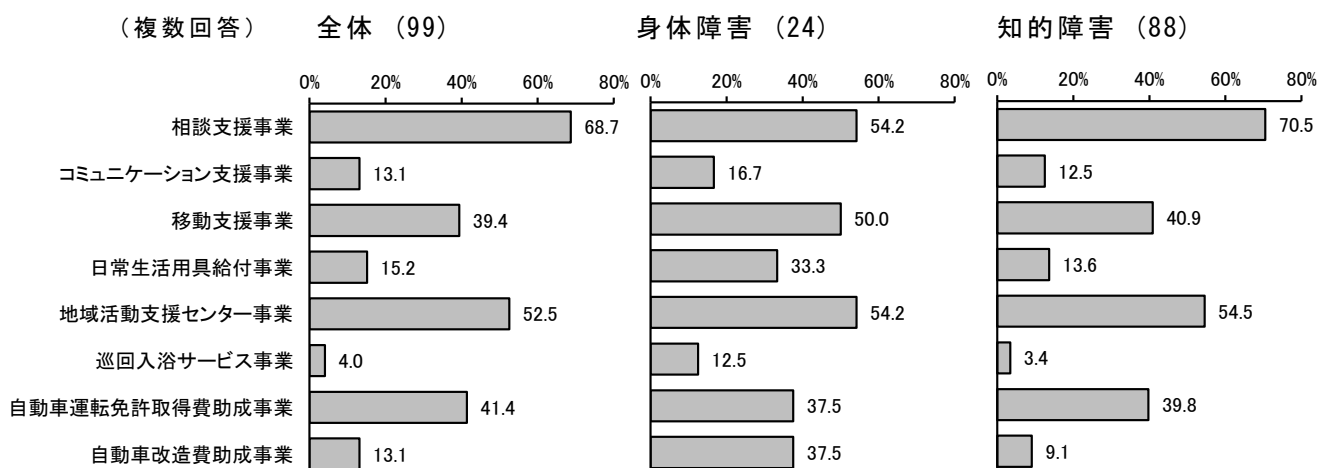


【利用意向】

全体では、「相談支援事業」が68.7%と最も多く、次いで「地域活動支援センター事業」が52.5%、「自動車運転免許取得費助成事業」が41.4%、「移動支援事業」が39.4%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「地域活動支援センター事業」が「相談支援事業」とともに54.2%で最も多くなっているほか、「日常生活用具給付事業」（33.3%）と「自動車改造費助成事業」（37.5%）が知的障害に比べて多くなっています。

知的障害では「相談支援事業」が70.5%と身体障害に比べて多くなっています。



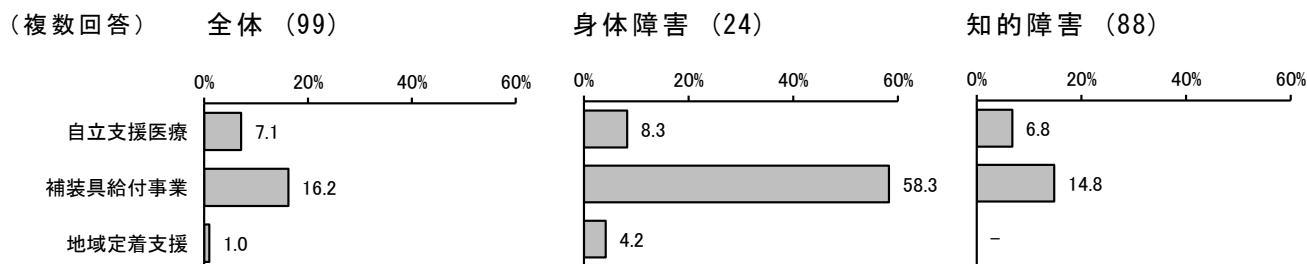
第3章 18歳未満の方の調査結果

⑤その他のサービス

【利用状況】

全体では、「補装具給付事業」が16.2%と最も多く、次いで「自立支援医療」が7.1%、「地域定着支援」が1.0%と続いています。

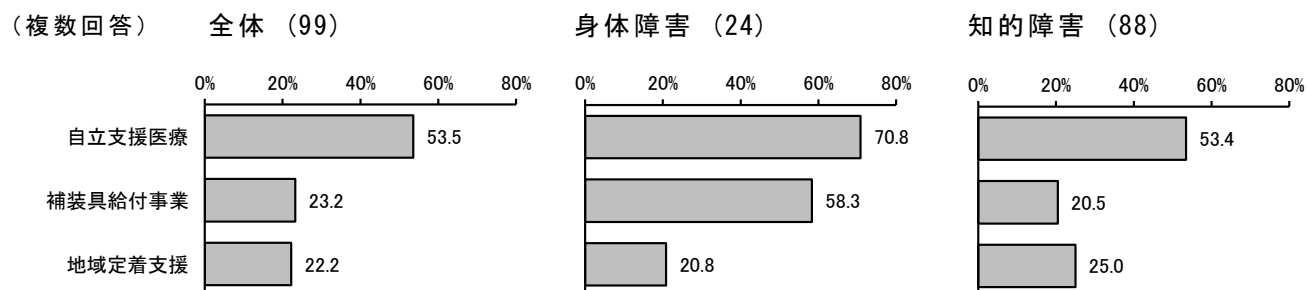
障害別に見ると、身体障害では「補装具給付事業」が58.3%と知的障害に比べて多くなっています。



【利用意向】

全体では、「自立支援医療」が53.5%と最も多く、次いで「補装具給付事業」が23.2%、「地域定着支援」が22.2%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「自立支援医療」(70.8%)と「補装具給付事業」(58.3%)が知的障害に比べて多くなっています。

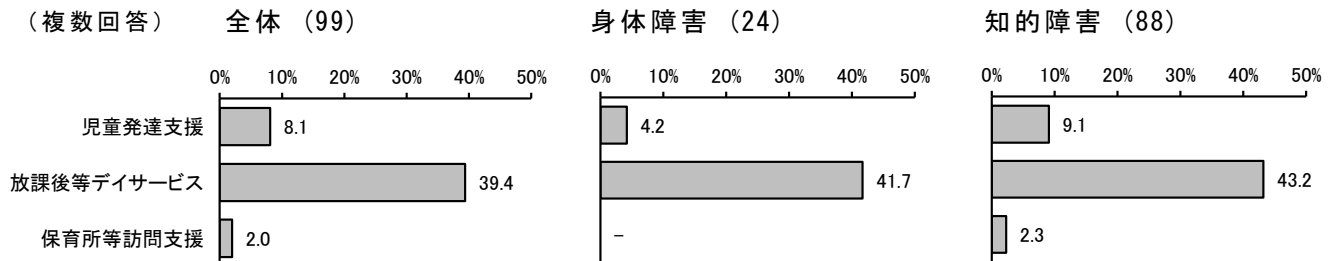


⑥児童に関するサービス

【利用状況】

全体では、「放課後等デイサービス」が39.4%と最も多く、次いで「児童発達支援」が8.1%、「保育所等訪問支援」が2.0%と続いています。

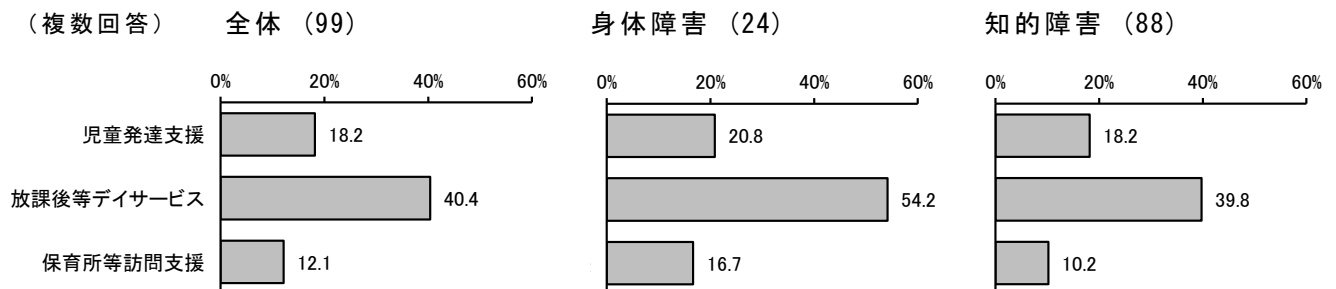
障害別の結果に大きな変化はありませんでした。



【利用意向】

全体では、「放課後等デイサービス」が40.4%と最も多く、次いで「児童発達支援」が18.2%、「保育所等訪問支援」が12.1%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「放課後等デイサービス」が54.2%と知的障害に比べて多くなっています。

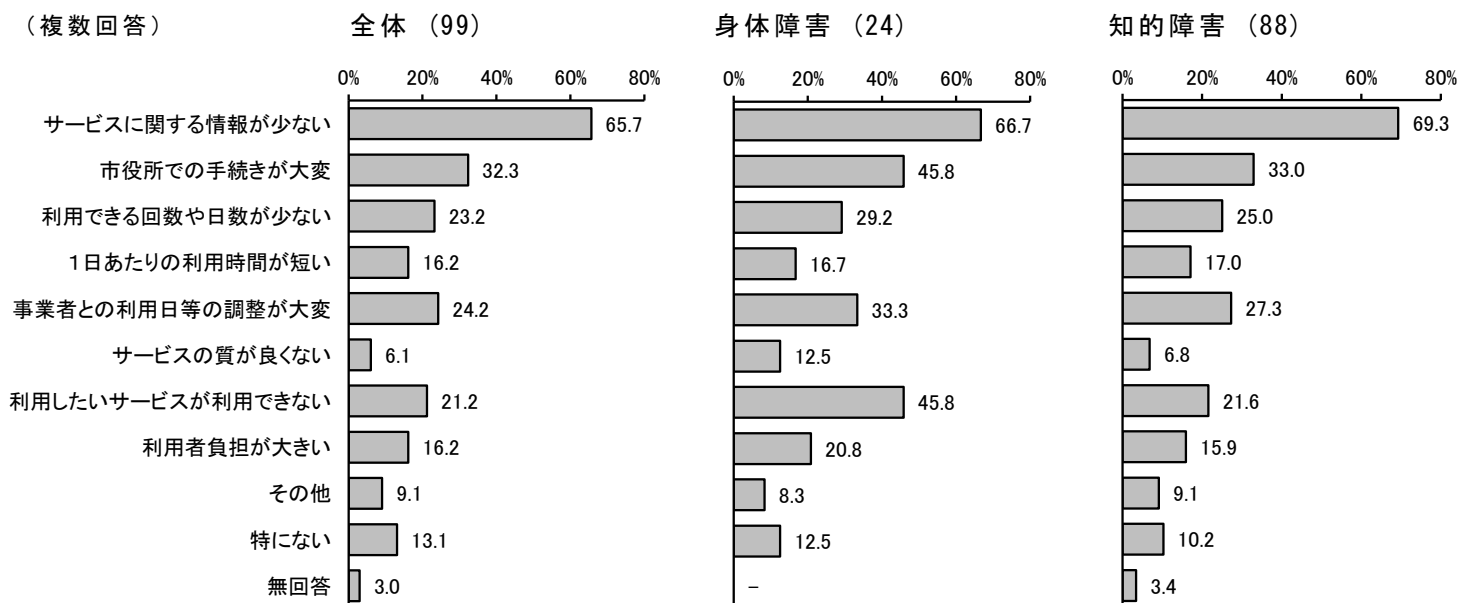


(2) サービスを利用する際に困っていること

問 39 あなたが、サービスを利用するにあたって、困っていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

全体では、「サービスに関する情報が少ない」が65.7%と最も多く、次いで「市役所での手続きが大変」が32.3%、「事業者との利用日等の調整が大変」が24.2%、「利用できる回数や日数が少ない」が23.2%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「市役所での手続きが大変」(45.8%)と「利用したいサービスが利用できない」(45.8%)が知的障害に比べて多くなっています。



12 権利擁護・障害理解について

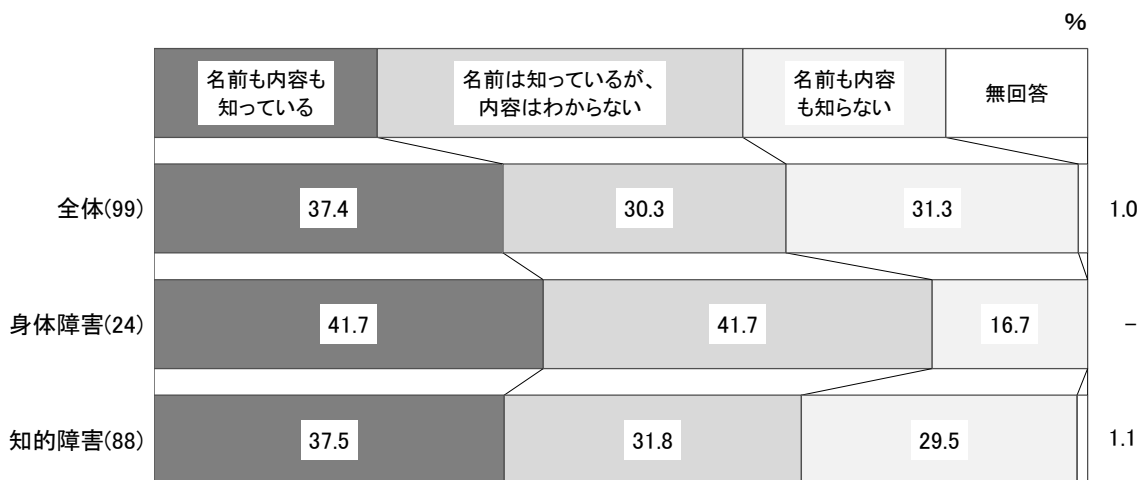
(1) 成年後見制度等の認知状況

問 40 あなたは、次の権利が守られるための取組について知っていますか。
(それぞれあてはまるもの1つに○)

①成年後見制度

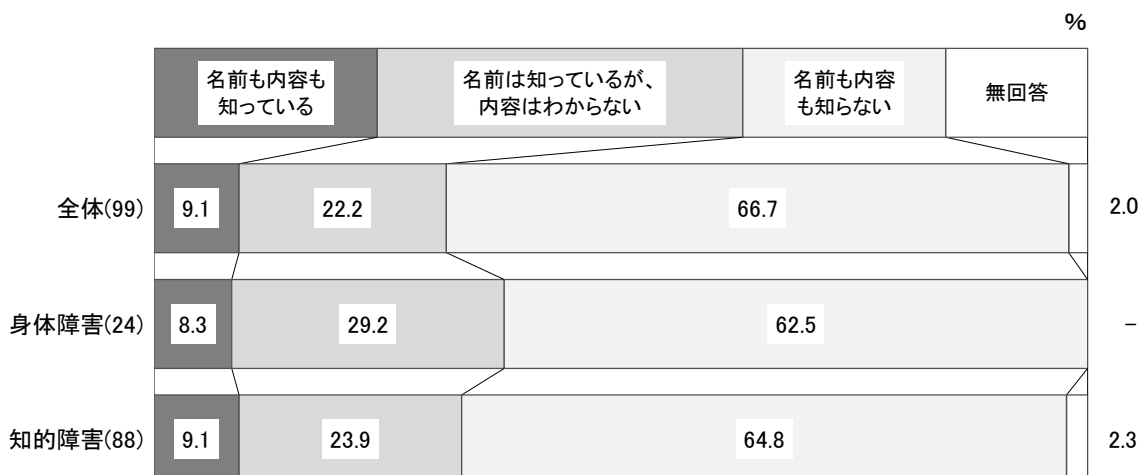
全体では、「名前も内容も知っている」が37.4%と最も多く、次いで「名前も内容も知らない」が31.3%、「名前は知っているが、内容はわからない」が30.3%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「名前は知っているが、内容はわからない」が「名前も内容も知っている」とともに41.7%で最も多くなっています。知的障害では「名前も内容も知らない」が29.5%と身体障害に比べて多くなっています。



②昭島市障害者虐待防止センター

全体では、「名前も内容も知らない」が66.7%と最も多く、次いで「名前は知っているが、内容はわからない」が22.2%、「名前も内容も知っている」が9.1%と続いています。障害別の結果に大きな変化はありませんでした。

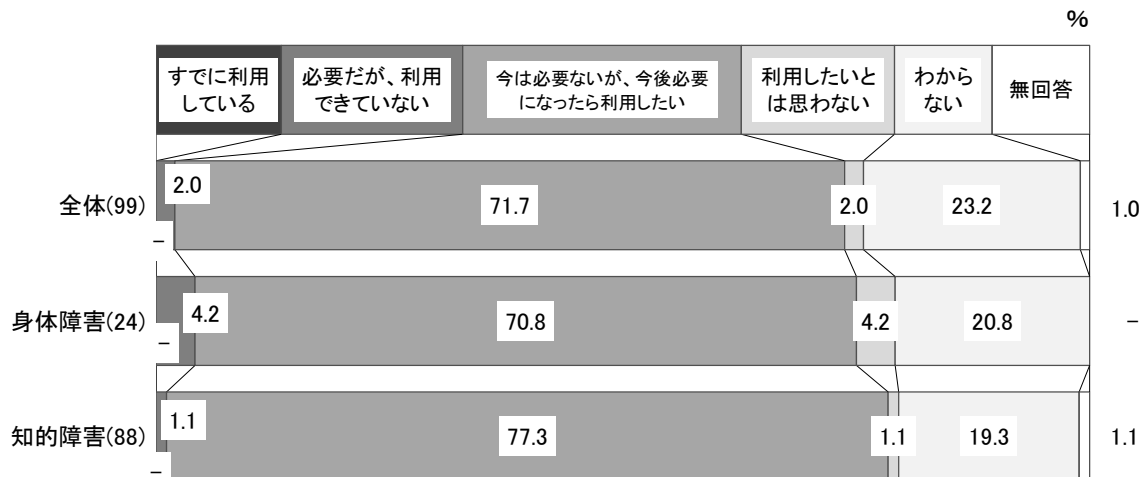


(2) 成年後見制度の利用状況

問 41 あなたは、成年後見制度を利用したいと思いますか。(○は1つ)

全体では、「今は必要ないが、今後必要になったら利用したい」が71.7%と最も多く、次いで「必要だが、利用できていない」と「利用したいとは思わない」がそれぞれ2.0%と続いています。なお、「わからない」が23.2%となっています。

障害別の結果に大きな変化はありませんでした。

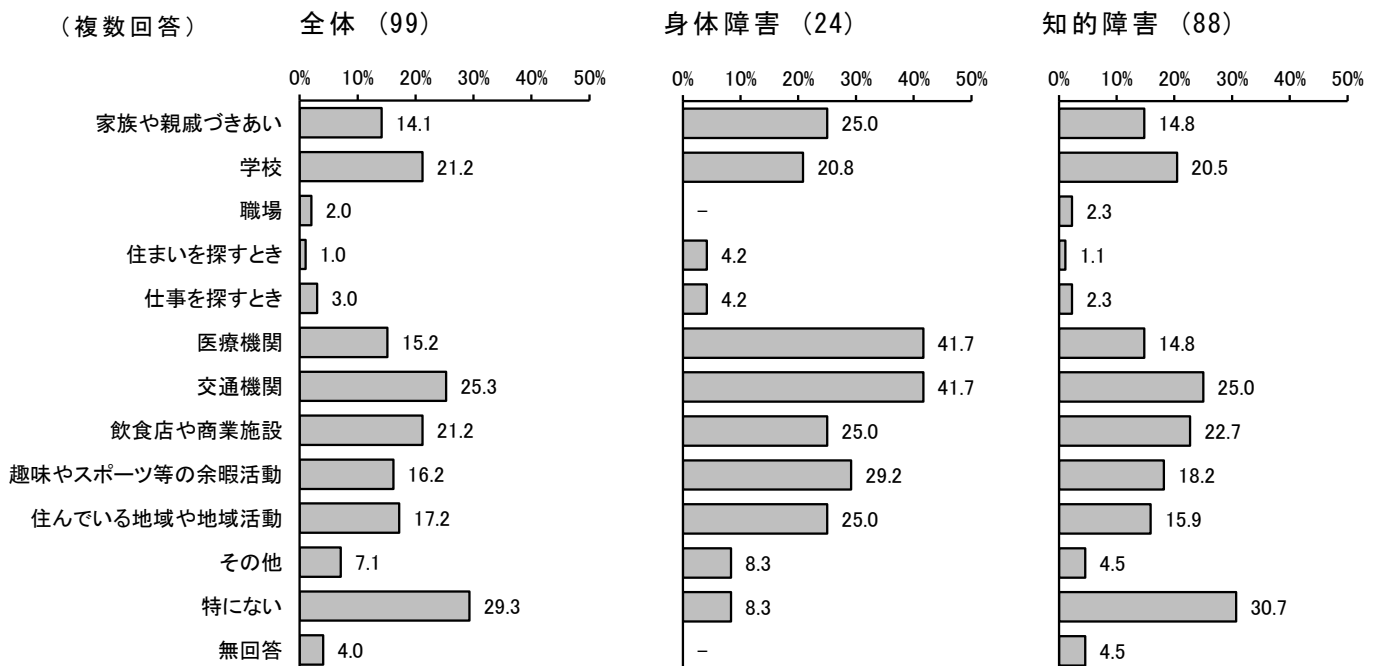


(3) 障害を理由に差別を受けていると感じた場面

問 42 あなたは、障害があることによりどのような場面で差別を受けていると感じたり、嫌な思いをしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「交通機関」が25.3%と多く、次いで「学校」と「飲食店や商業施設」がそれぞれ21.2%、「住んでいる地域や地域活動」が17.2%と続いています。なお、「特にない」が29.3%と最も多くなっています。

障害別に見ると、身体障害では「医療機関」が「交通機関」とともに41.7%で最も多くなっているほか、「家族や親戚づきあい」(25.0%)、「趣味やスポーツ等の余暇活動」(29.2%)、「住んでいる地域や地域活動」(25.0%)が知的障害に比べて多くなっています。



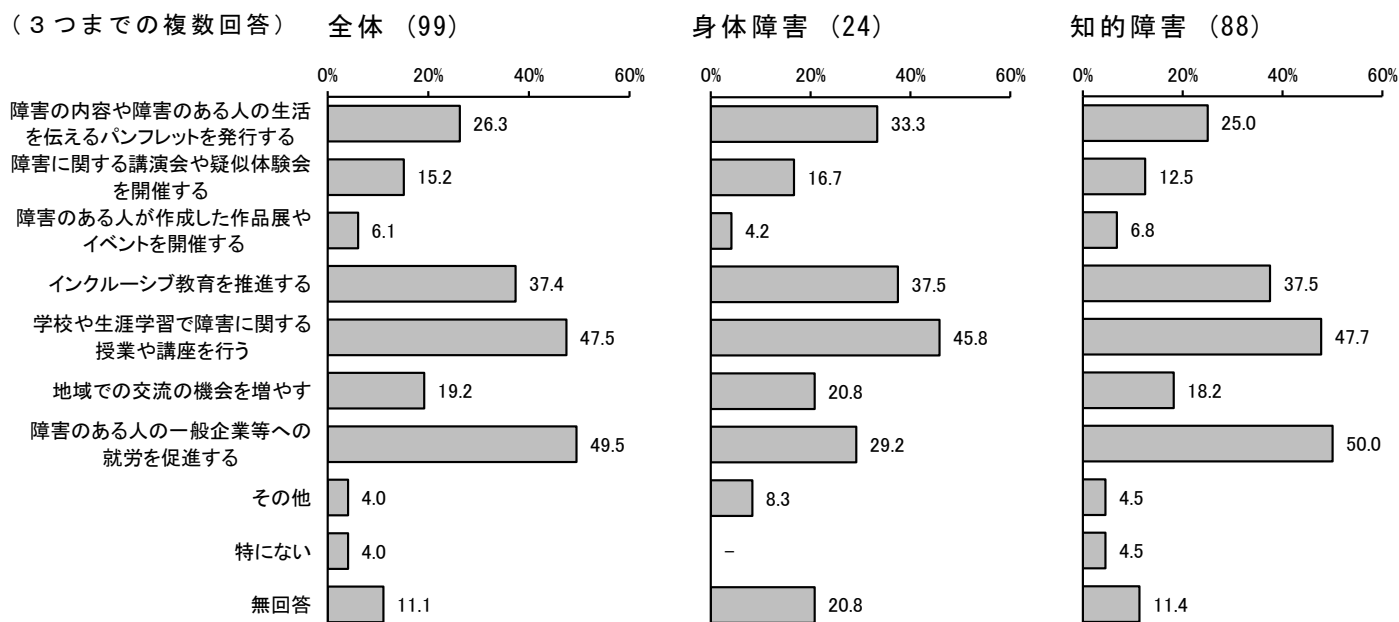
(4) 障害理解を推進するために必要な取組

問 43 あなたは、障害への理解を進めるために昭島市がどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は3つまで)

全体では、「障害のある人の一般企業等への就労を促進する」が49.5%と最も多く、次いで「学校や生涯学習で障害に関する授業や講座を行う」が47.5%、「インクルーシブ教育を推進する」が37.4%、「障害の内容や障害のある人の生活を伝えるパンフレットを発行する」が26.3%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「学校や生涯学習で障害に関する授業や講座を行う」が45.8%で最も多くなっています。

知的障害では「障害のある人の一般企業等への就労を促進する」(50.0%)が身体障害に比べて多くなっています。



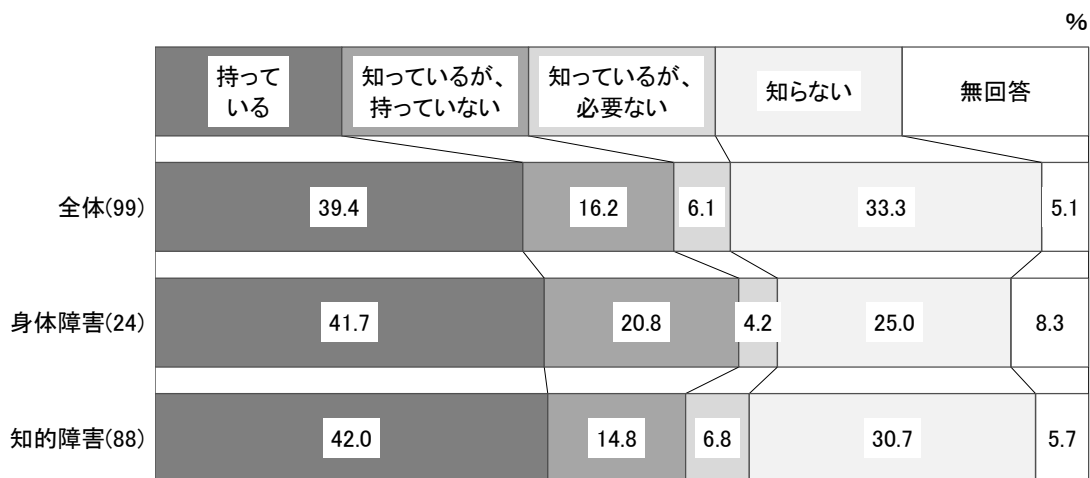
(5) ヘルプカード・ヘルプマークの所持状況

問 44 あなたは、ヘルプカード・ヘルプマークを持っていますか。
(それぞれあてはまるもの1つに○)

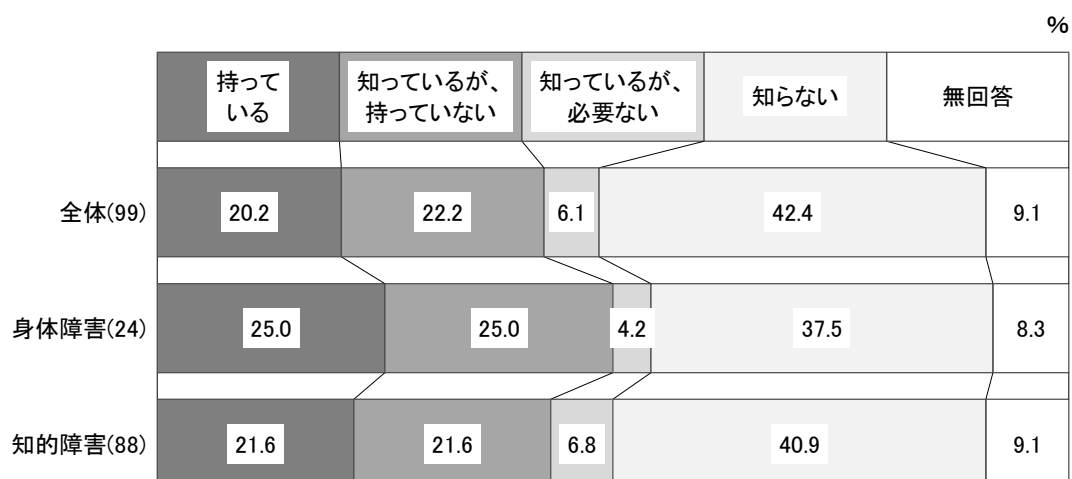
ヘルプカードとヘルプマークの所持状況について、全体では「持っている」はヘルプカードが39.4%、ヘルプマークは20.2%となっています。

なお、「知らない」はヘルプマークが33.3%、ヘルプカードが42.4%となっています。

① ヘルプカード



② ヘルプマーク



13 災害対策について

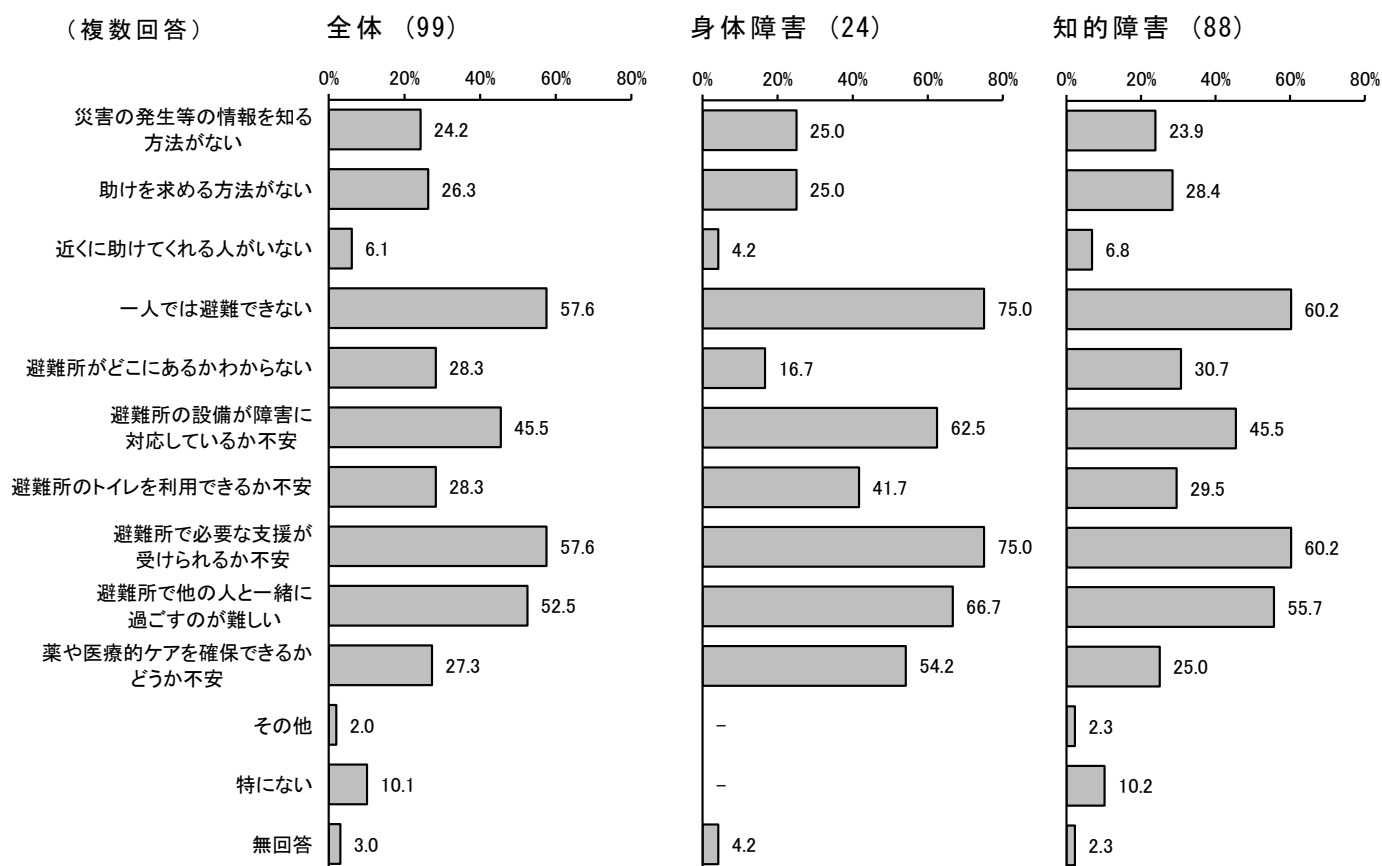
(1) 災害時に不安なこと

問 45 あなたが、地震等の災害が発生した時に困ることや不安なことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

全体では、「一人では避難できない」と「避難所で必要な支援が受けられるか不安」がそれぞれ57.6%と最も多く、次いで「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が52.5%、「避難所の設備が障害に対応しているか不安」が45.5%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では災害時に不安なこととして挙げた10項目のうち、7項目で回答割合が知的障害に比べて多くなっており、「一人では避難できない」(75.0%)と「避難所で必要な支援が受けられるか不安」(75.0%)は70%を超えています。

また、知的障害では「避難所がどこにあるかわからない」が30.7%と身体障害に比べて多くなっていきます。



(2) 災害に対して備えていること

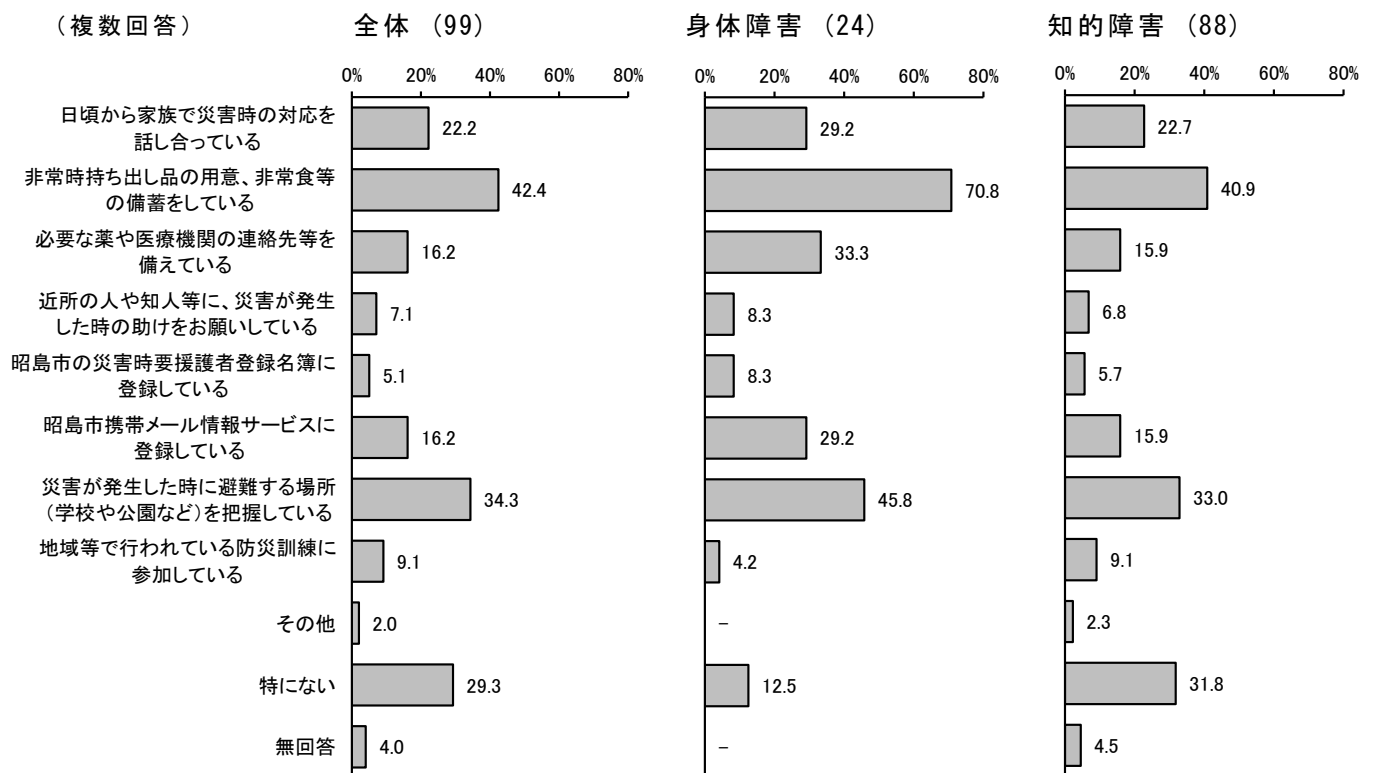
問 46 あなたは、災害に対してどのような備えをしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

全体では、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄をしている」が42.4%と最も多く、次いで「災害が発生した時に避難する場所（学校や公園等）を把握している」が34.3%、「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」が22.2%、「必要な薬や医療機関の連絡先等を備えている」と「昭島市携帯メール情報サービスに登録している」がそれぞれ16.2%と続いています。なお、「特にない」が29.3%となっています。

障害別に見ると、身体障害では「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄をしている」（70.8%）、「必要な薬や医療機関の連絡先等を備えている」（33.3%）、「昭島市携帯メール情報サービスに登録している」（29.2%）、「災害が発生した時に避難する場所（学校や公園等）を把握している」（45.8%）が知的障害に比べて多くなっています。

一方、知的障害では「特にない」が31.8%と身体障害に比べて多くなっています。



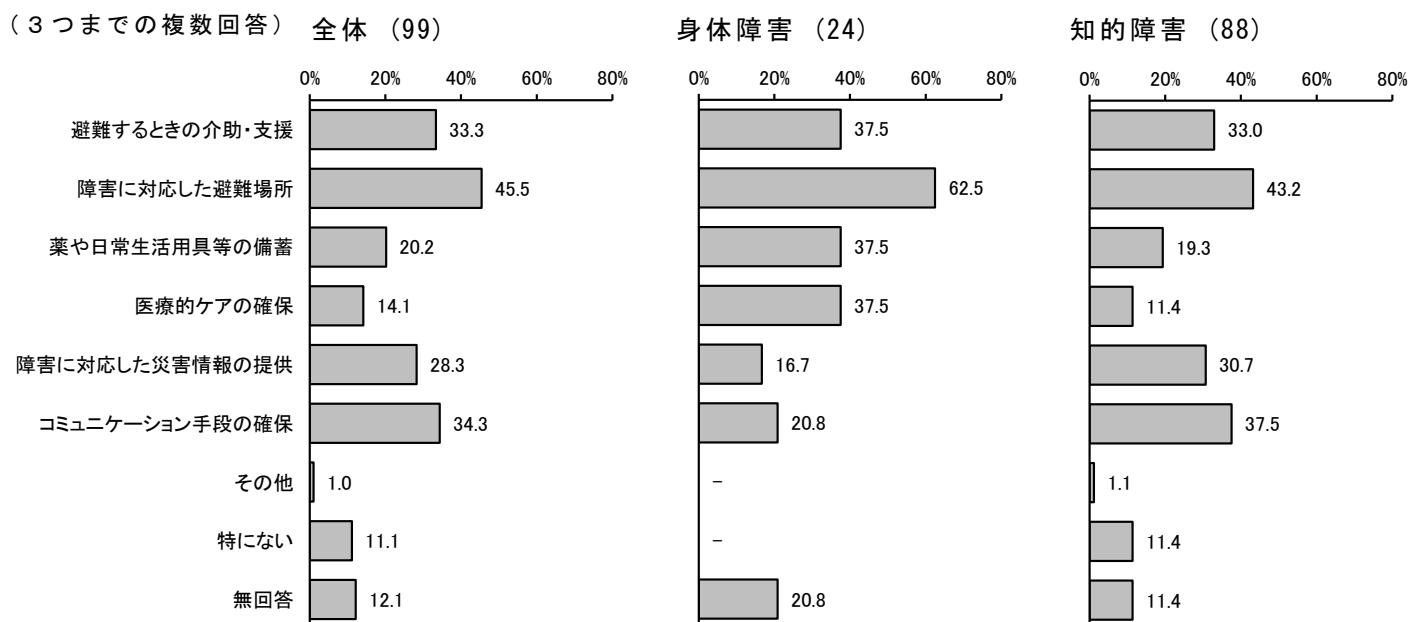
(3) 災害時に必要な支援

問 47 あなたは、災害が発生した時にどのような支援が必要ですか。
(○は3つまで)

全体では、「障害に対応した避難場所」が45.5%と最も多く、次いで「コミュニケーション手段の確保」が34.3%、「避難するときの介助・支援」が33.3%、「障害に対応した災害情報の提供」が28.3%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「障害に対応した避難場所」(62.5%)、「薬や日常生活用具等の備蓄」(37.5%)、「医療的ケアの確保」(37.5%)が知的障害に比べて多くなっています。

知的障害では「障害に対応した災害情報の提供」(30.7%)と「コミュニケーション手段の確保」(37.5%)が身体障害に比べて多くなっています。



14 昭島市の障害者施策について

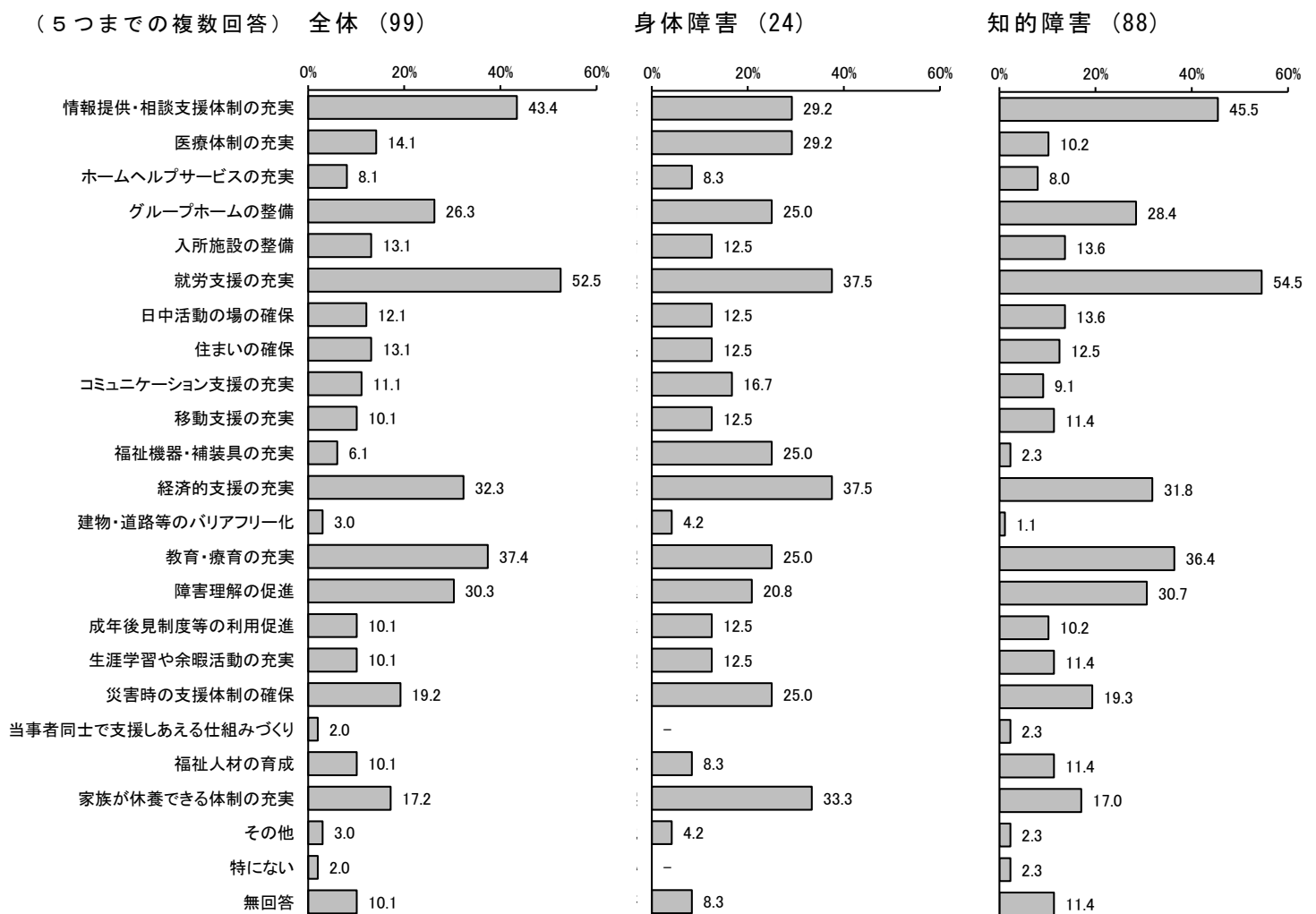
(1) 昭島市が重点的に取り組むべき施策

問 48 あなたは障害のある人が地域で安心して暮らしていくために、昭島市がどのような施策を重点的に行うべきだと思いますか。(〇は5つまで)

全体では、「就労支援の充実」が52.5%と最も多く、次いで「情報提供・相談支援体制の充実」が43.4%、「教育・療育の充実」が37.4%、「経済的支援の充実」が32.3%と続いています。

障害別に見ると、身体障害では「経済的支援の充実」が「就労支援の充実」とともに37.5%で最も多くなっているほか、「医療体制の充実」(29.2%)、「福祉機器・補装具の充実」(25.0%)、「家族が休養できる体制の充実」(33.3%)が知的障害に比べて多くなっています。

知的障害では「情報提供・相談支援体制の充実」(45.5%)、「就労支援の充実」(54.5%)、「教育・療育の充実」(36.4%)、「障害理解の促進」(30.7%)が身体障害に比べて多くなっています。



(2) 昭島市の障害者施策に対する意見・要望等

問 49 昭島市の障害者施策に関して、ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

ここでは、昭島市の障害者施策に関して、ご意見・ご要望等の件数を示します。複数の分野にまたがる意見については、それぞれの分野で計上しています。

「行政（市）の対応・制度・手続き」が12件と最も多く、次いで「福祉サービス」が11件、「保育・教育・療育」が10件、「情報・相談」が8件と続いています。

回答の内容	件数
行政（市）の対応・制度・手続き	12
福祉サービス	11
保育・教育・療育	10
情報・相談	8
障害理解・交流	4
その他	8
回答者数	40

●主な意見

※ここで掲載した回答は、大意を変えずに一部を省略・要約している場合があります。

【行政（市）の対応・制度・手続き】

「市役所だけでなく近くでも手続き等ができるようになるとうれしい。」

（男性・4歳・知的障害）

「窓口にいる人の態度が不愉快。障害児に対するケアが不十分。理解もない。療育を提供する施設や療育園も市になく、他の市に依存しすぎている。他の市に比べて児童に対するサービスが後手後手すぎる。」（男性・5歳・知的障害）

「子どもが小学生のときに、両親が共働きなのに、小4までしか学童に行けず困りました。デイサービスは、夏休みなど、9～16時なので就労時間をフォローしてもらえません。“福祉サービスで補う”だけでなく、“健常な人たちと一緒にだけれど、ちょっと手厚く支援する”というのがほしいです。学校や保育園の加配とか、学童クラブを“小6まで”“障害児の人数制限なし”とか。福祉課と教育委員会の連携が悪いというか。障害福

祉課と子育て支援課もそうだと思います。保健師さんが学校のことを知らないとか…。」
（女性・13歳・知的障害）

「昭島市は障害者支援等々、他の市に比べ、全ての面で遅れていると思います。学校、親の会などでも「昭島は全然ダメ」ということをよく聞きます。立川、あきる野へ引っ越した人（友だち）もいます。早く障害をもった人も住みよい市になってほしいと思っています。」（男性・14歳・知的障害）

「困っている者がいるのに、役所の決まりがこうだからといって何もしてくれない。市民の為に何かをやってやろうという気はない。高い給料もらって流れ作業をやっているようなもの、役所の人材を教育しないと良い施策なんて出来ない。」
（男性・13歳・知的障害）

【福祉サービス】

「現在、放課後等デイサービスを利用しているが、毎日、どこに行っているか情報提供が少なく、子供が安全に過ごしているのか、かなり不安。忘れ物をしたり、たまに怪我をして帰ってくる。」（男性・9歳・知的障害）

「グループホーム、ショートステイの不足。親なき後の不安。」（男性・17歳・知的障害）

「移動支援を希望してもなかなか用意してもらえず、困ることが多いので人材育成と事業所を増やしてほしい。男性の障害者だと同性介助が基本なので特に利用することが難しくなっている（男性のガイドヘルパーを何とか増やしてほしい）。ショートステイの場所を作ってほしい（障害者（児）専用のもの）」（男性・10歳・知的障害）

「あいぽっくにショートステイの施設があると聞きますが、利用できないと聞きました。障害のある子供のショートステイはどこを利用すれば良いのか、パレットは障害のある子はダメとのこと。差別を感じます。」（男性・16歳・知的障害）

「発達障害児の教育をもっとしっかりやってほしい。昭島市は高齢者へのサービス等は力を入れているのに、障害者には優しくないイメージ。18歳以降、仕事に就くまでの外出先、居場所（デイサービスのような場所）がない。作業所等なかなか入れないので、早急に対応してほしい。」（男性・9歳・精神障害）

【保育・教育・療育】

「特別支援学級の先生のスキルが低いので、先生方の研修を充実したり、もともと支援学級を希望する教員を配置するなど、昭島市全体の特別支援学級のレベルアップをはかってほしい。」（女性・5歳・知的障害）

「自宅の近くの道がすべて狭く、特別支援学校のバスが近くまで来られないとのこと。車イスで20～25分かかる所まで行かなくてはならない。体調も入退院をくり返し安定せず、結局、母が送っていくことになり、車の運転ができないため週3回登校するだけで84,000円/月、交通費がかかってしまう。経済的負担が多く、それともムリをさせて遠くのバス停に連れて行きバスに乗せるか悩んでいます。遠くの上にバスに45分乗るため、通学片道1時間以上、体調が不安定のため乗せるのも不安です。市役所にスクールバスが来る許可を出してもらいたい。もしくは、もう少しタクシー代の補助の引上げがあるとよいのですが。」(女性・8歳・身体障害・知的障害)

「つつじヶ丘小の杉の子学級に五年から入り、今年六年なので今度卒業しますが、つつじヶ丘小の子は、ずいぶん中に皆行くのに、ずいぶん中に支援学級がないのはどうしてかと思います(通級はありますが)。慣れた友達がいない中学に行くのは、支援が必要な子達にとって不安だと思います(普通の子だってそうなので)。交流がほとんどなくても、知った友達の多く通う学校へ…との選択肢もあった方が全然いいと思います。」

(女性・1歳・知的障害)

「特別支援学級にいるが、学校・先生の理解がなく、障害に対する知識がない。障害があるから支援級に入学させたのに、「子供が学校に行きたくない」というほど居場所がない。学校に相談しても、子供が悪いと否定され、どこに相談していいかもわからない。特別支援学級とはいったい何のためにあるのか、わからない。」(男性・14歳・知的障害)

【情報・相談】

「入学前の就学相談の場で、手帳の取り方や生活支援について簡単にでも説明する。(A41枚程度にまとめたものを配布して下さるだけで、充分助かります)」

(女性・16歳・知的障害)

「市役所で適確なアドバイスをなかなかもらえず、結局は親の会や施設等で情報を得る事が多い。何かと手続きに時間がかかり、催促するとやっと完了する。異動したばかりで…と言われても困るので、よくわかる人を常に2人位は確保しておいてほしい。」

(女性・7歳・知的障害)

「気軽に相談できたり、1ヶ所で対応してくれたり、あいぽっくなど公共機関ですぐ行ける所に相談所があれば助かります。」(女性・3歳・身体障害)

「定期的な家庭訪問をして本人から直接困っている事の相談援助をして欲しいと思っています。また、障害者に対しての情報が少ないので何かあれば市から直接本人あてに郵送して欲しいです。よろしくお願い致します。」(男性・17歳・知的障害)

【障害理解・交流】

「就職できるか、できてもイジメや嫌がらせをされないか。不遇にあわないか不安。」
（男性・17歳・知的障害）

「私達親子は、学校のお母さんやお子さん達に、障害があることを理解してもらえず、いじめられて、地域にお友達がいません。まず、地域の人達が理解してもらえないとむずかしいです。役所の人達や学校に相談してもむりでした。どこに相談すればよいのでしょうか？」（男性・17歳・知的障害・精神障害）

「私達の子供は、たくさん病気を抱えています。みなさん優しくしてほしいです。障害者、健常者は、みんな平等に生活できる世の中への取り組みをして下さい！」
（男性・1歳・身体障害）

「昭島の知的障がいを持つ児童生徒はあきる野学園に行きます。ほとんどの市民の方はあきる野学園の存在を知らないと思います。子どもが時々パレットを利用するのですが、記入する用紙に市内の小中の校名があっても、あきる野学園の校名はありません。都立、市立のちがいはあるとは思いますが、あきる野学園の校名を加えていただくと、記入したみなさんに、「この学校なに？」とっていただけて、少しは認知度が上がるのではないのでしょうか？」（男性・14歳・身体障害・知的障害）

【その他】

「内容がむずかしすぎてわかりません。と本人が言っていました。」
（男性・13歳・知的障害）

「障害者を取りまく家族についても、支援して頂ける体制づくりをお願いします。」
（女性・14歳・知的障害）

「将来的（恐らくあと5年後）に形成外科手術を受ける必要があるが、その術式が現在の所、保険適応外である為、自費で手術を受けなければならない（だいたい300万位）。そういう場合の負担を軽減出来るシステムがあれば嬉しい。」（男性・4歳・身体障害）

「親が亡くなった後生きて行ける様な社会になって行って欲しいです。」
（男性・10歳・知的障害）

「障害児がいると毎日の生活に追われ、福祉に関する情報収集だけでも大変です。障害児を持つ保護者や家族同士の交流の場を作って欲しいです。また、市内にある親の会や家族の会等の情報提供が充実していればもっと気軽に交流できる機会が増えると思います。」（男性・11歳・知的障害）

資 料
(調 査 票)

あきしまししょうがいふくしけいかくさくてい ちょうさ 昭島市障害福祉計画策定のためのアンケート調査

～ 調査へのご協力のお願い ～

ひごろ あきしまし しょうがいしゃしきく りかい きょうりよく まこと
日頃から昭島市の障害者施策にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。
あきしまし らいねんどよてい しょうがいふくしけいかく さくてい みなさま せいかつじょうきょう
昭島市では、来年度予定されている障害福祉計画の策定にあたって、皆様の生活状況やご
いけん ようぼう はあく こんご しょうがいしゃしきく すいしん やくだ ちょうさ じっし
意見・ご要望を把握し、今後の障害者施策の推進に役立てるためのアンケート調査を実施しま
す。つきましては、お忙しいところ恐縮ですが、調査へのご協力をお願いいたします。

ちょうさ むきめいゆうそうほうしき かいとう かいとう かた とくてい
この調査は、無記名郵送方式でご回答いただきますので、ご回答された方が特定されたり、
こじん かいとうないよう あき かいとう ないよう とうけいてき
個人の回答内容が明らかにされたりすることはありません。ご回答いただいた内容は、統計的に
しより しょうがいしゃしきく すいしん きそしりょう かつよう た もくてき
処理したうえで、障害者施策を推進するための基礎資料としてのみ活用し、その他の目的で
しょう 使用されることは一切ありません。

ちょうさ しゅし りかい きょうりよく ねが
この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

へいせい ねん がつ
平成28年11月

あきしまし ほけんふくしぶ しょうがいふくしか
昭島市 保健福祉部 障害福祉課

きにゅう ご記入にあたって

- ① ふうとう な ほんにん こた ちょうさひょう
封筒のあて名ご本人についてお答えください。（この調査票で「あなた」とあるの
は、あて名ご本人のことです。）
- ② ほんにん じどう びょうき しょうがいとう りゆう かいとう ばあい かぞく
ご本人が児童であったり、病気や障害等の理由で回答できない場合は、ご家族や
かいじょしゃ かた ほんにん たちば た こた
介助者の方がご本人の立場に立ってお答えください。
- ③ かいとう ばんごう ちよくせつ じるし こた た かいとう
回答は、あてはまる番号に直接〇印をつけてお答えください。「その他」に回答す
る場合は、その内容を（ ）内にご記入ください。回答を記入していただく設問もあ
りますので、その場合は設問の指示にしたがってお書きください。
- ④ ちょうさひょう なまえ じゅうしょ でんわばんごうどう か
この調査票には、名前や住所、電話番号等は書かないでください。

きにゅう ちょうさひょう どうふう へんしんようふうとう い
記入した調査票は、同封の「返信用封筒」に入れて、

きって は へいせい ねん がつ にち かようび とうかん
切手を貼らずに平成28年11月22日（火曜日）までに、ポストに投函してください。

とあさき
問い合わせ先

あきしまし ほけんふくしぶ しょうがいふくしか しょうがいふくしがかり
昭島市 保健福祉部 障害福祉課 障害福祉係

でんわ
電話：042-544-5111 F A X：042-546-8855

1. 調査票の回答者

問1 この調査票を回答していただく方は誰ですか。（〇は1つ）

- 1 あて名ご本人 2 ご家族の方 3 その他（ ）

この調査票で、「あなた」とあるのは、「あて名ご本人」のことです。

2. ご本人について

問2 あなたの性別をお聞きます。（〇は1つ）

- 1 男性 2 女性

問3 あなたの年齢をお聞きます。平成28年11月1日現在の年齢をお書きください。

 歳

問4 あなたが一緒に暮らしている方は誰ですか。（あてはまるものすべてに〇）

- 1 父親 4 子ども 7 ひとり暮らし
2 母親 5 兄弟姉妹 8 グループホームでの集団生活
3 配偶者 6 その他の親族 9 その他（ ）

18歳以上の方にお聞きます。

問5 あなたの生活を支える主な収入は何ですか。（〇は1つ）

- 1 給与・賃金 4 生活保護費
2 事業収入（自営業等） 5 ご家族の給与・賃金・年金等
3 年金・手当 6 その他（ ）

3. 障害の状況について

問6 あなたが持っている障害者手帳の種類をお聞きます。等級・程度にも○をつけてください。（あてはまるものすべてに○）

- | | | | |
|---|----------------------------|------|------|
| 1 | 身体障害者手帳（1級 2級 3級 4級 5級 6級） | →問7へ | |
| 2 | 愛の手帳（1度 2度 3度 4度） | | →問8へ |
| 3 | 精神障害者保健福祉手帳（1級 2級 3級） | | |

問7 問6で「身体障害者手帳」を所持していると回答された方にお聞きます。障害の種類は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | | | |
|---|----------------|---|-------------------|
| 1 | 視覚障害 | 4 | 肢体不自由（上肢・下肢・体幹等） |
| 2 | 聴覚・平衡機能障害 | 5 | 内部障害（心臓、呼吸器、腎臓、ぼう |
| 3 | 音声・言語・そしゃく機能障害 | | こう、直腸、小腸、免疫機能、肝臓） |

すべての方にお聞きます。

問8 あなたは、次の疾患や障害がありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | | | |
|---|---------------------------|----|----------------|
| 1 | 難病 | 6 | 依存症（アルコール・薬物等） |
| 2 | 慢性疾患（糖尿病・心臓疾患
・脳血管疾患等） | 7 | 発達障害※ |
| 3 | 統合失調症 | 8 | 高次脳機能障害※ |
| 4 | 気分障害（うつ病・躁うつ病） | 9 | その他（ ） |
| 5 | 神経症 | 10 | 特になし |

※発達障害とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等を言います。

※高次脳機能障害とは、一般に外傷性脳損傷、脳血管障害等により脳に損傷を受け、その後遺症等として生じた記憶障害、注意障害、社会的行動障害等の認知障害等を言います。

4. 医療や介助の状況について

問9 現在、あなたはご自身の疾患や障害のために医療（リハビリを含む）を受けていますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | | | |
|---|------------|---|-----------|
| 1 | 通院している | 4 | 現在入院している |
| 2 | 訪問診療を受けている | 5 | 医療を受けていない |
| 3 | 訪問看護を受けている | | |

資料（調査票）

問10 あなたが、医療を受ける際に困ることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 治療により症状が改善されない
- 2 軽いけがや病気の際に受診できる医療機関が身近にない
- 3 専門的な治療を受けられる医療機関がない
- 4 休日や夜間に対応してくれる医療機関がない
- 5 通院のための介助者を確保しにくい
- 6 訪問診療を気軽に頼める医師がいない
- 7 受診手続きや案内など障害のある人への配慮が不十分
- 8 医療や健康に関して気軽に相談できない
- 9 症状が正確に伝わらなかったり、治療に関する説明を十分理解できない
- 10 医療費の負担が大きい
- 11 障害を理由に診療拒否を受けたことがある
- 12 その他（ ）
- 13 特にない

問11 あなたは日常生活でどのような介助や支援を受けていますか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| 1 食事の介助や着替え、入浴介助等の身の回りのこと | 6 薬の管理 |
| 2 調理・掃除・洗濯等の家事 | 7 お金の管理 |
| 3 会話や意思の伝達 | 8 市役所や事業者等の手続き |
| 4 家の中の移動 | 9 その他（ ） |
| 5 買い物等の外出 | 10 介助や支援を受けていない |

問12 問11で「介助や支援を受けている（1～9）」と回答した方にお聞きします。あなたを介助や支援している人は誰ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|-------|-----------|----------|
| 1 父親 | 4 子ども | 7 ボランティア |
| 2 母親 | 5 その他の親族 | 8 その他（ ） |
| 3 配偶者 | 6 ホームヘルパー | |

問13 問11で「介助や支援を受けている（１～９）」と回答した方にお聞きします。介助者があなたを介助や支援できなくなった場合は、あなたはどうしたいですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------------|--|
| 1 いっしょ す 一緒に住んでいる家族に頼みたい | 7 びょういん にゅういん 病院に入院したい |
| 2 いっしょ す 一緒に住んでいない家族や親戚に頼みたい | 8 きんじょ ひと ゆうじん かいじょ たの 近所の人や友人に介助を頼みたい |
| 3 ホームヘルプを利用したい | 9 その他（ ） |
| 4 ショートステイを利用したい | 10 だれ て か 誰の手も借りないで生活したい |
| 5 しせつ にゅうしょ 施設に入所したい | 11 どうしたらよいかわからない |
| 6 グループホームに入居したい | |

すべての方にお聞きします。

5. 相談や福祉情報について

問14 あなたは、日常生活で困ったことや悩み事について相談している人や場所はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--|-------------------------------------|
| 1 かぞく しんぞく 家族や親族 | 9 いりょうかんけいしゃ い し かんごし 医療関係者（医師・看護師・ |
| 2 きんじょ ひと 近所の人 | ソーシャルワーカー） |
| 3 ゆうじん ちじん 友人・知人 | 10 し しょうがいふくしか 市の障害福祉課 |
| 4 みんせいいいん じどういいん 民生委員・児童委員 | 11 そうだんしえんじぎょうしょ 相談支援事業所 |
| 5 しょうがいしゃ かい かぞく かい 障害者の会や家族の会 | 12 せいかつ ほ こ 生活保護のケースワーカー |
| 6 しんたいしょうがいしゃ そうだんいん ちてきしょうがいしゃ そうだんいん 身体障害者相談員・知的障害者相談員 | 13 あきしまししゃかいふくしきょうぎかい 昭島市社会福祉協議会 |
| 7 ホームヘルパー | 14 その他（ ） |
| 8 つうしょしせつ しょうくいん 通所施設の職員 | 15 そうだん あいて 相談する相手はいない |

問15 あなたは、次の相談場所等を知っていますか。（それぞれあてはまるもの1つに○）

	りよう 利用したことが ある	し 知っているが、利用 したことはない	し 知らない
あきしまししょうがいしゃ そうだんしえん 昭島市障害者相談支援センター	1	2	3
じりつせいかつ あきしま 自立生活センター・昭島	1	2	3
にじ 虹のセンター25	1	2	3
そうだんしえんじぎょうしょ ウイズ相談支援事業所	1	2	3
めりーらいふ	1	2	3
あきしま きょうしつ 昭島ひよこ教室	1	2	3

資料（調査票）

	利用したことが ある	知っているが、利用 したことはない	知らない
にこにこ	1	2	3
ゆいのもり相談支援センター	1	2	3
あきしまいかつじっしゅうじょ 昭島生活実習所	1	2	3
みんせいいいん じどういいん 民生委員・児童委員	1	2	3
しんたいしょうがいしゃそうだんいん ちてきしょうがいしゃそうだんいん 身体障害者相談員・知的障害者相談員	1	2	3
あきしまししゃかいふくしきょうぎかい 昭島市社会福祉協議会	1	2	3

問16 あなたは、市役所等の公的な相談窓口に気軽に相談するために、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

1	電話・FAX・電子メールで相談できる
2	身近な地域で相談できる
3	相談員が自宅を訪問して相談できる
4	休日や夜間に相談できる
5	専門性の高い内容でも対応できる
6	どんな内容でも1つの窓口で相談できる
7	相談員から定期的に困り事がないか連絡をもらえる
8	障害のある人やその家族など同じ立場の人に相談できる
9	プライバシーが守られる環境になっている
10	相談窓口に関する情報提供体制が充実している
11	その他（
12	特になし

問17 あなたは、障害のある人のための福祉に関する情報をどこから得ていますか。（あてはまるものすべてに〇）

1	広報あきしま	7	インターネット
2	身体障害者手帳・愛の手帳福祉ガイド・	8	新聞・書籍
	精神障害者に関するガイドブック等のしおり	9	障害者の会や家族の会
3	市のホームページ	10	医療機関
4	市の障害福祉課	11	家族や友人
5	保健福祉センター（あいぽっく）	12	その他（
6	テレビ・ラジオ	13	特になし

6. 日中活動や仕事について

18歳以上の方にお聞きします。18歳未満の方は問22に進んでください。

問18 あなたは現在、仕事をしていますか。仕事をしている方は働き方についてもお答えください。（〇は1つ）

- | | |
|-------------------------------|---------|
| 1 正規の職員・従業員として働いている | } →問19へ |
| 2 パート・アルバイト等で働いている | |
| 3 自宅で働いている（自営業・内職・家業の手伝い等） | |
| 4 福祉的就労をしている（就労移行・就労継続支援事業所等） | |
| 5 以前働いていたが、現在は働いていない | } →問21へ |
| 6 働いたことはない（在学中を含む） | |

問19 問18で「働いている（1～4）」と回答した方にお聞きします。あなたが仕事をす
る上で困っていることは何ですか。（あてはまるものすべてに〇）

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1 収入が少ない | 7 職場の人間関係がうまくいかない |
| 2 体力的につらい | 8 職場で相談できる人がいない |
| 3 精神的につらい | 9 職場の障害理解が不足している |
| 4 業務内容が合わない | 10 職場の設備が障害に対応していない |
| 5 就業時間が長い | 11 その他（ ） |
| 6 通勤が大変 | 12 特になし |

問20 問18で「働いている（1～4）」と回答した方にお聞きします。あなたが仕事を探
す際、どのような人や場所に相談しましたか。（あてはまるものすべてに〇）

- | | |
|-------------------------------------|--------------------|
| 1 家族や知人 | 7 相談支援事業所 |
| 2 学校 | 8 その他（ ） |
| 3 ハローワーク | 9 相談をしていない |
| 4 求人情報誌やホームページ | 10 障害が生じる以前から働いていた |
| 5 障害者就労・生活支援センター | |
| 6 昭島市障害者就労支援センター（チャレンジド ステーション クジラ） | |

→問22へ

資料（調査票）

問21 問18で「働いていない（5・6）」と回答した方にお聞きします。あなたが働いていない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 障害の程度や症状のため | 7 職場の人間関係に不安があるため |
| 2 高齢のため | 8 職場の障害理解に不安があるため |
| 3 在学中のため | 9 働く自信がないため |
| 4 働く場が見つからないため | 10 働く必要がないため |
| 5 賃金が低いなど労働条件が悪い | 11 その他（ ） |
| 6 通勤が困難なため | |

すべての方にお聞きします。

問22 あなたは、障害のある人が働くためにはどのような支援が必要だと思いますか。（○は3つまで）

- | | |
|---------------------------|---------|
| 1 仕事探しから就労までの総合的な相談支援 | |
| 2 働くための知識・能力を身につける職業訓練 | |
| 3 職場を理解するための就労体験 | |
| 4 求人情報の提供等の仕事を見つけるための支援 | |
| 5 障害の特性にあった職業・雇用の拡大 | |
| 6 短時間勤務や在宅勤務等の柔軟な勤務体制 | |
| 7 通勤経路のバリアフリー化 | |
| 8 障害理解を促進するための職場への働きかけ | |
| 9 ジョブコーチ※など職場に定着するための支援 | |
| 10 職場環境のバリアフリー化 | |
| 11 生活リズムや体調管理等の日常生活に関する支援 | |
| 12 その他（ ） | 13 特にない |

※ジョブコーチとは、障害のある人が就職を目指して実習を行っている場や職場で、仕事に慣れるための支援や同僚への障害理解の促進等を行う人のことです。

問23 あなたは仕事や学校以外の自由な時間をどのように過ごしていますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 家でくつろぐ | 5 買い物等に出かける |
| 2 近所を散歩する | 6 映画、観劇、行事等へ行く |
| 3 友人・知人と会って交流を深める | 7 ボランティア活動や地域活動を行う |
| 4 趣味、体操、学習活動等を行う | 8 その他（ ） |

問24 あなたは、次の日常生活のそれぞれの項目について、どの程度満足していますか。

（それぞれあてはまるもの1つに○）

	満足 まんぞく	どちらかと言え ば満足	どちらかと言え ば不満	不満 ふまん	わからない
居住面（住んでいる家や自室について）	1	2	3	4	5
家族面（家族との関係について）	1	2	3	4	5
社交面（友人等との関係について）	1	2	3	4	5
就労面・教育面（仕事や学校生活について）	1	2	3	4	5
経済面（収入や生計について）	1	2	3	4	5
余暇面（余暇や趣味について）	1	2	3	4	5
社会参加面（社会活動への参加について）	1	2	3	4	5
総合評価（生活全般について）	1	2	3	4	5

7. スポーツ・運動について

問25 あなたは日頃、（学校等での授業を除き）スポーツや運動を行っていますか。

（○は1つ）

- | | |
|---|--|
| 1 定期的 ^{ていきてき} にしている | 3 以前 ^{いぜん} はしたことがあるが、今は ^{いま} していない |
| 2 不定期 ^{ふていき} だが時々 ^{ときどき} している | 4 今までスポーツや運動 ^{うんどう} をしたことがない |

問26 問25で「スポーツや運動^{うんどう}をしている、または、したことがある（1～3）」と回答^{かいとう}した方^{かた}にお聞き^きします。あなたが、スポーツや運動^{うんどう}を行^{おこな}った場所^{ばしょ}はどこですか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--|---|
| 1 福祉 ^{ふくし} 施設 ^{しせつ} | 5 自宅 ^{じたく} |
| 2 公共 ^{こうきょう} のスポーツ施設 ^{しせつ} （障害 ^{しょうがい} のある人 ^{ひと} 専用 ^{せんよう} ）※ | 6 学校 ^{がっこう} |
| 3 公共 ^{こうきょう} のスポーツ施設 ^{しせつ} （障害 ^{しょうがい} のある人 ^{ひと} 専用 ^{せんよう} 以外 ^{いがい} ）※ | 7 公園 ^{こうえん} ・広場 ^{ひろば} ・遊歩道 ^{ゆうぽどう} |
| 4 民間 ^{みんかん} のスポーツ施設 ^{しせつ} | 8 その他 ^た （ ） |

※2は、東京都多摩障害者スポーツセンター（国立市）等の障害のある人の健康増進と社会参加を促進するための障害のある人専用のスポーツ施設のことで。

※3は、昭島市総合スポーツセンター等の市民の心身の健全な発達に寄与することを目的としたスポーツ施設のことで。

資料（調査票）

問27 あなたは、障害のある人がスポーツや運動を行う上でどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 障害のある人が利用できるスポーツ施設の整備
- 2 スポーツ施設のバリアフリー化
- 3 スポーツ施設までの移動手段の確保
- 4 スポーツ関連器具・用具の開発
- 5 スポーツ教室・イベントの開催
- 6 障害者スポーツに関する情報提供の充実
- 7 障害者スポーツサークルや団体の育成
- 8 介助等のボランティアの確保
- 9 障害者スポーツ指導者の確保
- 10 スポーツ施設職員等の障害理解の促進
- 11 その他（
- 12 特にない

*「8. 保育・教育・療育について」は18歳未満の方にお聞きします。18歳以上の方は問32に進んでください。

8. 保育・教育・療育について

問28 現在、あなたが主に通園・通学をしているところはどこですか。（○は1つ）

- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| 1 保育園のみ | 9 特別支援学校の小学部 |
| 2 幼稚園のみ | 10 中学校の通常学級 |
| 3 障害児の療育施設 | 11 中学校の通常学級と通級学級を併用 |
| 4 並行通園（保育園・幼稚園と障害児の療育施設を併用） | 12 中学校の特別支援学級（固定） |
| 5 通園・通所はしていない | 13 特別支援学校の中学部 |
| 6 小学校の通常学級 | 14 高等学校 |
| 7 小学校の通常学級と通級学級を併用 | 15 特別支援学校の高等部 |
| 8 小学校の特別支援学級（固定） | 16 その他（ |

問29 高等学校卒業後、あなたはどのような進路を希望しますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1 大学や短期大学へ通う | 6 就労移行・就労継続支援事業所へ通う |
| 2 専門学校や専修学校へ通う | 7 生活介護の施設へ通う |
| 3 一般企業等への就労に向けた職業訓練学校等へ通う | 8 その他（ ） |
| 4 一般企業等へ就職する | 9 わからない |
| 5 自分で仕事をする（自営業等） | |

ご家族の方にお聞きします。

問30 お子さんの通園や通学、また学校生活等で困っていることや心配していることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1 通園・通学の送迎が大変 | 6 療育・機能訓練の機会が少ない |
| 2 友達との関係づくりがうまくできない | 7 経済的な負担が大きい |
| 3 教職員の指導の仕方が心配 | 8 その他（ ） |
| 4 今後の進路や将来について不安 | 9 特にない |
| 5 保育や教育・療育に関する情報が少ない | |

問31 お子さんを育てるうえで、これまでに困ったことや現在困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------------------|----------------------|
| 1 子どもの成長や発達に不安がある | 8 緊急時に子どもを預けられる場所がない |
| 2 子どもへの接し方がわからない | 9 その他（ ） |
| 3 家族や親戚の理解が得られない | 10 特にない |
| 4 近隣住民等の周囲の理解が得られない | |
| 5 子育てに関する悩みや不安を気軽に相談できる場所がわからない | |
| 6 子どもの進路や将来について相談できる場所がわからない | |
| 7 障害のある子どもを育てる保護者と交流をする機会がない | |

9. 住まいについて

問32 現在、あなたはどのようなところにお住まいですか。（○は1つ）

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 持家（一戸建て） | 5 公営住宅（都営・市営） |
| 2 持家（集合住宅） | 6 公社・公団賃貸住宅 |
| 3 民間賃貸住宅（一戸建て） | 7 グループホーム |
| 4 民間賃貸住宅（集合住宅） | 8 その他（ ） |

資料（調査票）

問33 あなたが現在の住まいで困っていることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------------------|--------------|
| 1 玄関等の段差が危ない | 5 自室がない |
| 2 階段の昇り降りが大変 | 6 建物が老朽化している |
| 3 廊下や出入口が狭く、家の中で
車いす等を使用できない | 7 住宅費の負担が大きい |
| 4 風呂やトイレが使いにくい | 8 その他（ ） |
| | 9 特にない |

問34 あなたは、住まいについてどのような支援が必要ですか。（○は3つまで）

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1 住宅改造費用の貸付・助成 | 5 グループホームの整備 |
| 2 家具転倒防止や耐震化等の災害対策 | 6 その他（ ） |
| 3 公営住宅への優先入居の拡充 | 7 特にない |
| 4 民間賃貸住宅の入居支援 | |

問35 将来、あなたはどのように暮らしたいですか。（○は1つ）

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1 地域で独立して生活したい | 5 障害者入所施設に入所したい |
| 2 親や親族のもとで生活したい | 6 高齢者の入所施設に入所したい |
| 3 信頼できる仲間とシェアハウス
で暮らしたい | 7 その他（ ） |
| 4 グループホームに入居したい | 8 わからない |

10. 外出について

問36 普段、あなたはどのくらいの頻度で外出しますか。（○は1つ）

- | | | |
|----------|----------|------------|
| 1 ほぼ毎日 | 3 週に1～2回 | 5 あまり外出しない |
| 2 週に3～5回 | 4 月に1～3回 | |

問37 あなたが外出する際、困ったり不便に思うことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 歩道の段差や建物の階段が困る | 8 疲れたときの休憩場所がない |
| 2 歩道が狭く自動車・自転車に危険を感じる | 9 障害に対する理解が不足している |
| 3 公共交通機関が少ない | 10 お金がかかる |
| 4 電車やバスの乗り降りや駅構内の移動が大変 | 11 介助者が確保できない |
| 5 切符や飲料等の販売機が利用しにくい | 12 困った時にどうすればよいかわからない |
| 6 トイレ等の設備が不便 | 13 その他（ ） |
| 7 標識・表示がわかりにくい | 14 特にない |

11. 福祉サービスの利用について

問38 あなたは、次のサービスを利用していますか。また、今後（2～3年以内に）利用したいと思いますか。既に利用しており、今後も利用したい方は「1」、「2」両方に○をつけてください。（それぞれあてはまるものすべてに○）

（1）訪問系サービス

回答はこちらに↓

サービス名	サービスの内容	現在利用している	今後利用したい	利用希望はない
①居宅介護 (ホームヘルプ)	障害のある人を対象に、居宅における入浴、排せつ、食事などの介護サービスの提供を行います。	1	2	3
②重度訪問介護	常時介護を必要とする重度障害のある人を対象に、居宅における入浴、排せつ、食事などの介護サービス及び外出時の移動介護サービスを行います。平成30年度からヘルパーによる訪問先が居宅だけではなく、医療機関にも拡大される予定です。	1	2	3
③同行援護	移動に著しい困難のある視覚に障害のある人を対象に、外出時における移動の援護や移動に必要な情報提供を行います。	1	2	3
④行動援護	行動に著しい困難がある知的障害、精神障害のある人を対象に、危険回避のための援護や移動介護サービスを提供します。	1	2	3
⑤重度障害者等 包括支援	常時介護を必要とし、その介護の必要度が著しく高い障害のある人を対象に、居宅介護等複数の障害福祉サービスを包括的に提供します。	1	2	3
⑥自立生活援助 平成30年度から 実施予定	障害者支援施設やグループホーム等から地域で一人暮らしを始めた知的障害、精神障害のある人等の居宅を定期的に訪問し、生活に関する助言や医療機関等との連絡調整を行うほか、利用者からの相談に対応します。		2	3

回答はこちらに↓

（2）日中活動系サービス

※18歳未満の方は、⑦短期入所以外は2か3を選択

サービス名	サービスの内容	現在利用している	今後利用したい	利用希望はない
①生活介護	常に介護を必要とする障害のある人を対象に、通所により、食事や入浴、排せつなどの介護や日常生活上の支援、生産活動などの機会を提供します。	1	2	3

資料（調査票）

サービス名	サービスの内容	現在利用している	今後利用したい	利用希望はない
② 自立訓練（機能訓練・生活訓練）	障害のある人に対して、自立した生活を営むことができるように、身体機能や生活能力向上のための訓練を行います。	1	2	3
③ 就労移行支援	一般企業等への就労を希望する障害のある人に対して、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のための必要な訓練、求職活動に関する支援など、就職後の職場への定着のために必要な相談などの支援を行います。	1	2	3
④ 就労継続支援（A型・雇用型）	一般企業等への就労が困難な障害のある人に対して、雇用契約に基づき、生産活動などの機会の提供、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練などの支援を行います。	1	2	3
⑤ 就労継続支援（B型・非雇用型）	一般企業等への就労が困難な障害のある人に対して、継続的な生産活動などの機会を提供し、就労に必要な知識及び能力の向上や維持のために必要な訓練などの支援を行います。	1	2	3
⑥ 療養介護	医療と常時の介護が必要な障害のある人を対象に、医療機関などで機能訓練、療養上の管理、看護、介護及び日常生活上の支援を行います。	1	2	3
⑦ 短期入所（ショートステイ）	介護者が病気などで介護が困難になった場合などに、短期間、夜間も含め施設で、入浴、排せつ、食事などのサービスを提供します。	1	2	3
⑧ 就労定着支援 平成30年度から 実施予定	就労移行支援等の利用を経て、一般企業等への就労をした障害のある人が、就労に伴う環境変化により、生活リズムの調整や家計の管理などの問題が生じた際に、必要な連絡調整や指導・助言等の支援を行います。		2	3

回答はこちらに↓

（3）居住系サービス

※18歳未満の方は2か3を選択

サービス名	サービスの内容	現在利用している	今後利用したい	利用希望はない
① 共同生活援助（グループホーム）	地域で共同生活を行うことに支障のない障害のある人を対象に、夜間や休日、共同生活を行う住居において、相談、入浴、排せつ、食事の介護などの日常生活上の援助を行います。	1	2	3

サービス名	サービスの内容	現在利用している	今後利用したい	利用希望はない
②施設入所支援	施設に入所している障害のある人を対象に、入浴、排せつ、食事の介護、生活に関する相談・助言などの日常生活上の支援を行います。		2	3

(4) 地域生活支援事業

回答はこちらに↓

サービス名	サービスの内容	現在利用している	今後利用したい	利用希望はない
①相談支援事業	障害のある人が地域において自立した日常生活・社会生活を送れるように、障害のある人やその家族からの相談に應じるとともに、情報提供や権利擁護など必要な支援を行います。	1	2	3
②コミュニケーション支援事業	聴覚、言語機能などの障害のため、意思疎通を図ることに支障がある障害のある人を対象に、コミュニケーションの支援を図る手話通訳者や要約筆記者の派遣を行います。	1	2	3
③移動支援事業	屋外での移動が困難な障害のある人を対象に、外出時の支援を行うため、ガイドヘルパーを派遣します。	1	2	3
④日常生活用具給付事業	重度の障害のある人や難病患者等を対象に、日常生活における自立を支援するため、必要な日常生活用具の給付を行います。	1	2	3
⑤地域活動支援センター事業	創作活動、生産活動及び交流活動などができるオープンスペースを開設し、地域社会と交流できる機会を提供します。	1	2	3
⑥巡回入浴サービス事業	家庭での入浴が困難な心身に重度障害のある人を対象に、身体の清潔保持と心身機能の維持などを図るため、自宅に入浴車を派遣し、入浴サービスを提供します。	1	2	3
⑦自動車運転免許取得費助成事業	身体・知的障害のある人を対象に、日常生活の利便及び生活圏の拡大を図るため、自動車運転免許の取得費用の一部を助成します。	1	2	3
⑧自動車改造費助成事業	重度の身体障害のある人を対象に、就労などのため、自動車を購入する際の改造費用の一部を助成します。	1	2	3

(5) その他のサービス

かいとう
回答はこちらに↓

サービス名	サービスの内容	現在利用 している	今後利用 したい	利用希望 はない
① 自立支援医療	心身の障害を軽減するための医療について、医療費の一部を助成します。（更生医療・育成医療・精神通院医療）	1	2	3
② 補装具給付事業	補装具を必要とする障害のある人や難病患者等を対象に、職業の能率向上やその他日常生活を容易にするため、必要な補装具の給付や修理を行います。	1	2	3
③ 地域定着支援	施設や病院に長期入所等していた人が、地域生活に移行後、安心して地域生活を継続できるよう連絡、相談等の支援を行います。	1	2	3

「(6) 児童に関する支援」は 18歳未満の方にお聞きします。18歳以上の方は問39に進んでください。

(6) 児童に関する支援

かいとう
回答はこちらに↓

サービス名	サービスの内容	現在利用 している	今後利用 したい	利用希望 はない
① 児童発達支援	就学前の障害のある子どもを対象に、施設に通所し、日常生活における基本的動作の指導や集団生活への適応のための訓練などを行う（児童発達支援）とともに、身体の状態により、治療も行います（医療型児童発達支援）。平成30年度から重度の障害等のために外出が著しく困難な障害のある子どもについては、居宅において発達支援を受けられるようになる予定です（居宅訪問型児童発達支援）。	1	2	3
② 放課後等デイサービス	学校就学中の障害のある子どもを対象に、放課後や夏休みなどの長期休暇中において、生活能力向上のための訓練などを行うとともに、居場所を提供します。	1	2	3
③ 保育所等訪問支援	専門職が障害のある子どものいる保育所等の施設を訪問し、集団生活に溶け込めるよう支援を行います。平成30年度から専門職による訪問先が拡大され、乳児院、児童養護施設が追加される予定です。	1	2	3

すべての方にお聞きします。

問39 あなたが、サービスを利用するにあたって、困っていることは何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

1 サービスに関する情報が少ない	6 サービスの質が良くない
2 市役所での手続きが大変	7 利用したいサービスが利用できない
3 利用できる回数や日数が少ない	8 利用者負担が大きい
4 1日あたりの利用時間が短い	9 その他（ ）
5 事業者との利用日等の調整が大変	10 特になし

12. 権利擁護・障害理解について

問40 あなたは、次の権利が守られるための取組について知っていますか。

（それぞれあてはまるもの1つに○）

名称と内容	回答
①成年後見制度 認知症、知的障害、精神障害等により、 判断能力が十分ではない人の権利を守る 制度です。成年後見人等があなたに代わっ て契約手続きを行ったり、誤って結んだ 契約の取消等を行います。	1 名前も内容も知っている 2 名前は知っているが、内容はわからない 3 名前も内容も知らない
②昭島市障害者虐待防止センター あなたが家族や福祉施設の職員、会社の 上司等から、叩かれたり、仲間はずれや無視 等の嫌がらせを受けた場合に相談できる 窓口です。	1 名前も内容も知っている 2 名前は知っているが、内容はわからない 3 名前も内容も知らない

問41 あなたは、成年後見制度を利用したいと思いますか。（○は1つ）

1 すでに利用している	4 利用したいとは思わない
2 必要だが、利用できていない	5 わからない
3 今は必要ないが、今後必要になったら利用したい	

資料（調査票）

問42 あなたは、障害があることによりどのような場面で差別を受けていると感じたり、嫌な思いをしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

1 家族や親戚つきあい	7 交通機関
2 学校	8 飲食店や商業施設
3 職場	9 趣味やスポーツ等の余暇活動
4 住まいを探するとき	10 住んでいる地域や地域活動
5 仕事を探するとき	11 その他（ ）
6 医療機関	12 特にない

問43 あなたは、障害への理解を進めるために昭島市がどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（○は3つまで）

1 障害の内容や障害のある人の生活を伝えるパンフレットを発行する
2 障害に関する講演会や疑似体験会を開催する
3 障害のある人が作成した作品展やイベントを開催する
4 インクルーシブ教育※を推進する
5 学校や生涯学習で障害に関する授業や講座を行う
6 地域での交流の機会を増やす
7 障害のある人の一般企業等への就労を促進する
8 その他（ ）
9 特にない

※インクルーシブ教育とは、障害のある子どもが通常学級において、障害のない子どもと共に学ぶ教育のことです。

問44 あなたは、ヘルプカード・ヘルプマークを持っていますか。

（それぞれあてはまるもの1つに○）

	も 持っている	知っているが、 も 持っていない	知っているが、 ひつよう 必要ない	知らない
ヘルプカード	1	2	3	4
ヘルプマーク	1	2	3	4



あきしまし
（昭島市）



とうきょうと
（東京都）

※ヘルプカード・ヘルプマークは、障害のある人が緊急時や災害時など困ったときに周囲の配慮や手助けをお願いするものです。市役所等で無料で配布しています。

13. 災害対策について

問45 あなたが、地震等の災害が発生した時に困ることや不安なことは何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1 災害の発生等の情報を知る方法がない | 7 避難所のトイレを利用できるか不安 |
| 2 助けを求める方法がない | 8 避難所で必要な支援が受けられるか不安 |
| 3 近くに助けてくれる人がいない | 9 避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい |
| 4 一人では避難できない | 10 薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安 |
| 5 避難所がどこにあるかわからない | 11 その他（ ） |
| 6 避難所の設備が障害に対応して | 12 特にな |
| いるか不安 | |

問46 あなたは、災害に対してどのような備えをしていますか。

（あてはまるものすべてに○）

- | |
|----------------------------------|
| 1 日頃から家族で災害時の対応を話し合っている |
| 2 非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄をしている |
| 3 必要な薬や医療機関の連絡先等を備えている |
| 4 近所の人や知人等に、災害が発生した時の助けをお願いしている |
| 5 昭島市の「災害時要援護者登録名簿」に登録している |
| 6 「昭島市携帯メール情報サービス」に登録している |
| 7 災害が発生した時に避難する場所（学校や公園等）を把握している |
| 8 地域等で行われている防災訓練に参加している |
| 9 その他（ ） |
| 10 特にな |

問47 あなたは、災害が発生した時にどのような支援が必要ですか。（○は3つまで）

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 避難するときの介助・支援 | 5 障害に対応した災害情報の提供 |
| 2 障害に対応した避難場所 | 6 コミュニケーション手段の確保 |
| 3 薬や日常生活用具等の備蓄 | 7 その他（ ） |
| 4 医療的ケアの確保 | 8 特にな |

14. 昭島市の障害者施策について

問48 あなたは障害のある人が地域で安心して暮らしていくために、昭島市がどのような施策を重点的に行うべきだと思いますか。（〇は5つまで）

1 情報提供・相談支援体制の充実	13 建物・道路等のバリアフリー化
2 医療体制の充実	14 教育・療育の充実
3 ホームヘルプサービスの充実	15 障害理解の促進
4 グループホームの整備	16 成年後見制度等の利用促進
5 入所施設の整備	17 生涯学習や余暇活動の充実
6 就労支援の充実	18 災害時の支援体制の確保
7 日中活動の場の確保	19 当事者同士で支援しあえる仕組みづくり
8 住まいの確保	20 福祉人材の育成
9 コミュニケーション支援の充実	21 家族が休養できる体制の充実
10 移動支援の充実	22 その他（ ）
11 福祉機器・補装具の充実	23 特にない
12 経済的支援の充実	

問49 昭島市の障害者施策に関して、ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

※ お書きいただいたご意見等に、個別にお答えするものではありませんのでご了承ください。

お答えいただき、ありがとうございました。

記入した調査票は、同封の「返信用封筒」に入れて、

切手を貼らずに平成28年11月22日（火曜日）までに、ポストに投函してください。

昭島市障害福祉計画策定
のための基礎調査報告書

発行年月 平成 29 年 3 月
発 行 昭島市保健福祉部障害福祉課
〒 1 9 6 - 8 5 1 1 昭島市田中町一丁目 17 番 1 号
電 話 0 4 2 - 5 4 4 - 5 1 1 1
F A X 0 4 2 - 5 4 6 - 8 8 5 5